



Title	現代中国語の感情表現をめぐる構文研究－日本人中国語学習者の誤用を契機として－
Author(s)	黄, 勇
Citation	大阪大学, 2020, 博士論文
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/76610">https://doi.org/10.18910/76610</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# 博士論文

題目 現代中国語の感情表現をめぐる構文研究  
——日本人中国語学習者の誤用を契機として——

提出年月 2019年12月

言語文化研究科言語社会専攻

氏名 黄 勇

## 要 旨

本研究は、日本人中国語学習者による誤用を出発点とし、中国語の感情表現をめぐる構文の全体像解明を目的としている。中国語の構文研究を見渡すと、空間・移動などという視覚で認識できる表現をめぐる構文研究が主流であった。視覚的に捉えにくい感情表現に関連する構文研究は、あまり重要視されてこなかった。

しかしながら、周知のように、学習者の中国語の言語生活において、中国語で自分の感情を表現するのは重要な位置を占める。感情を表現する際に、学習者が最初に直面する課題は、感情語彙をどのような構文に当てはめることだと考えられる。

そこで、本研究では、感情表現に関連する構文を感情構文と呼び、「SVO 型感情構文」と「SPOV 型感情構文」と「SV 型感情構文」との 3 種類の構文について、構文の形式および意味の観点から考察を行った。加えて、在日中国語教育に向けて、日本人学習者の中国語の感情表現の習得状況についてアンケート調査を行い、その調査の分析結果を踏まえて中国語教育への提言も行った。

本論文は、全 7 章から構成される。

第 1 章「はじめに」では、本研究の出発点や目的を明示した上で、論文全体の構成を示す。また、論文で使用する例文の出典についても明記する。

第 2 章「先行研究概観」では、本研究と関連する先行研究を分類し、その知見を概観する。第 1 節では、従来の研究が感情と言語の関係をどのように捉えてきたのかを紹介し、本研究への示唆を示す。第 2 節では、語彙面からの先行研究について、感情動詞と感情形容詞という 2 側面から紹介した上で、本研究の立場を示す。第 3 節では、構文面からの先行研究について、巨視的視点と微視的視点から整理し、本研究の立場を示す。

第 3 章「SVO 型感情構文について」では、SVO 型感情構文について考察を行った。まず、〈感情主〉を主語の位置に限定して論じられてきた従来の研究に対して、SVO 型感情構文を次の 2 タイプに区分すべきだと指摘した。すなわち、〈感情主〉主導の SVO 型感情構文と〈刺激体〉主導の SVO 型感情構文である。その上で、感情述詞に関して、前者の場合は、“喜欢”(好きだ) を典型例とし、“高兴”(嬉しい) を周辺例とした 48 語が得られており、本研究が扱う感情述詞の約 44% を占めている。一方、後者の場合は、“感动”(感動させる) を典型例とし、“乐”(喜ばせる) を周辺例とした 12 語が得られており、約 11% を占めている。さらに、〈刺激体〉に関して、〈感情主〉主導の場合は、感情述詞によって用い得る〈刺

激体) の性質が異なり、多様性を呈しているのに対して、〈刺激体〉主導の場合は、〈刺激体〉の性質が一般的に体言性の成分であり、感情述詞によって変化したりせずに、单一性を示している。ところが、〈刺激体〉主導の場合の内部構造は、〈感情主〉主導のよりも複雑であり、補語や語氣助詞といった付加成分が必要である。また、〈刺激体〉主導の場合、“人”(人)を中心とした普通名詞が話し手指向的なものとして、〈感情主〉に相当するという興味深い現象を指摘した。最後に、両者の構文的意味を明らかにした。

第4章「SPOV型感情構文について」では、SPOV型感情構文について考察を行った。SVO型感情構文と同様に、SPOV型感情構文も〈感情主〉主導のタイプと〈刺激体〉主導のタイプとの2タイプに分けるべきだと指摘した。さらに、この2タイプについて、それぞれ三つの前置詞に絞って考察を行った。具体的には、〈感情主〉主導のタイプは、“对”・“为”・“被”であり、〈刺激体〉主導のタイプは、“让”・“把”・“给”である。また、感情述詞に関して、〈感情主〉主導の“对”構文は、“失望”(がっかりする)を典型例とし、“难过”(悲しい)を周辺例とした76語が得られており、全体の約70%を占めている。次に、“为”構文を2通りのタイプに分けるべきだと指摘した。すなわち、感情を惹起する存在を導く“为<sub>1</sub>”構文と感情移入する先を導く“为<sub>2</sub>”構文である。“为<sub>1</sub>”構文の場合には、“烦恼”(思い煩う)を典型例とし、“害羞”(恥ずかしい)を周辺例とした36語が得られており、全体の約33%を占めている。それに対して、“为<sub>2</sub>”構文の場合には、“高兴”(嬉しい)を典型例とし、“担心”(心配する)を周辺例とした18語が得られており、全体の約17%を占めている。また、“被”構文は、“感动”(感動させる)を典型例とし、“乐”(喜ばせる)を周辺例とした11語が得られており、約10%を占めている。一方、〈刺激体〉主導の“让”構文は、“感动”(感動する)を典型例とし、“爱”(愛する)を周辺例とした96語が得られており、約89%を占めている。また、“把”構文と“给”構文は、両方とも“吓”(驚かす)を典型例とし、“害怕”(怖がる)を周辺例とした40語が得られており、約37%を占めている。

次に、〈感情主〉主導の“对”構文・“为”構文と〈刺激体〉主導の“让”構文における副詞の生起位置を考察した。その結果、“对”構文の場合は、基本的には感情述詞の直前に生起する。“为”構文の場合は、“为<sub>1</sub>”であれ、“为<sub>2</sub>”であれ、基本的には前置詞の直前に生起する。“让”構文の場合は、程度副詞や否定副詞の種類によって生起位置にばらつきが見られるということを明らかにした。さらに、〈感情主〉主導の“被”構文と〈刺激体〉主導の“把”構文・“给”構文における感情述詞に付随する成分について考察を行った。その結果、“被”構文の場合は、感情述詞の直後・直前・前後という三つの位置に立つ付加成分が

存在する。一方、“给”構文と“让”構文の場合は、感情述詞の直後に立つ付加成分しかないということを確認した。最後に、各構文の構文的意味を明らかにした。

第5章「SV型感情構文について」では、SV型感情構文について考察を行った。前述の2種類の感情構文と同様に、従来の研究とは異なり、〈感情主〉主導のSV型感情構文と〈刺激体〉主導のSV型感情構文という2タイプに区分すべきだと指摘した。その上で、感情述詞に関して、前者は、“开心”（嬉しい）を典型例とし、“担心”（心配する）を周辺例とした64語が得られており、全体の約59%を占めている。一方、〈刺激体〉主導のSV型感情構文は、“可怕”（怖い）を典型例とし、“震撼”（心を震わす）を周辺例とした9語が得られており、およそ8%を占めている。

また、感情述詞の直前に立つ程度副詞について考察を行った。大まかに分類すれば、“很”（とても）類と“好”（とても）類があるということを明らかにした。ただし、両構文の間では異なる様相を呈している。〈感情主〉主導のSV型感情構文は、相対的に複雑な様相を呈しており、“很”（とても）類の①改まった場面；②意図的表出；③客観的描写という特徴は、“好”（とても）類の①くだけた場面；②自然的表出；③主観的描写という特徴と対立的であると確認した。一方、〈刺激体〉主導のSV型感情構文は、相対的に単純な様相を呈しており、“很”（とても）類には、客観的評価（感情描写）という特徴があり、“好”（とても）類には、主観的評価（感情表出）という特徴があると確認した。さらに、感情述詞が裸の形で用い得るか否かについて考察を行った。従来の裸の形で成立しないという主張に対して、成り立ち得る場合も存在するということを確認した。とりわけ、〈刺激体〉主導のSV型感情構文に用いられる“讨厌”（嫌だ）や“恶心”（気持ち悪い）や“可恶”（憎い）などの感情述詞がそれである。最後に、両者の構文的意味を明らかにした。

第6章「在日中国語教育に向けて」では、学習者の中国語の感情表現の使用実態を、次の二つの面から考察を行った。まず、中間言語コーパスにおける実例に基づいて、日本人学習者の誤用を「構文の混用」・「“了”的過剰使用」・「程度副詞の欠落」・「程度副詞の位置の誤用」・「程度副詞の種類の誤用」・「感情述詞使用の誤用」という6パターンに整理した。

次に、アンケート調査の回答に基づいて次の4点を明らかにした。すなわち、①日本語の「〈感情主〉ハ〈刺激体〉ニ感情述詞」構文を中国語に訳す際には、対応する構文形式が複雑であるため、学習者にとって訳しにくい；②日本語の「〈感情主〉ハ〈刺激体〉ヲ感情述詞」構文を中国語に訳す際は、もし中国語の「〈感情主〉+感情述詞+〈刺激体〉」構文に対応する場合に、日本語からの正の転移が働くため、訳しやすい；③日本語の1語感情表

出文の影響を受け、中国語も同様な構文を使用するという母語の干渉があると同時に、程度副詞“很”への過度の依存という言語内干渉も見られる；④ 日本語の常用感情述詞に対応する中国語が難易度の高い語彙リストに分類される場合は、学習者にとって想起しにくいということが観察されるという4点である。さらに、考察結果を踏まえて、在日中国語の感情表現教育に向けて、① 感情述詞と感情構文とを結合させた教授法；② 感情描写文と感情表出文とに分けた教授法；③ 日本語の感情表現の特性を踏まえた教授法という3点の提言を行った。

第7章「おわりに」では、第3章から第6章における考察をまとめ、今後取り組むべき課題を提示した。

本研究の基本的姿勢は、在日中国語教育において、中国語の感情表現の誤用例として顕現する理由を学習者の母語すなわち日本語の表現方法に存在するとの観点から考察するものである。本論文は、在日中国語教育に貢献し得ると思量する。また、中国語の構文研究において、無視されがちな感情構文の全体像を明らかにしたことによって、中国語の構文研究の体系化にも一石を投じることができたと言える。

## 摘要

本文以日本汉语学习者产出的偏误案例为切入点，探讨汉语中围绕情感表达方面的构式。综观汉语的构式研究，主要集中在空间移动等这一类可通过视觉感知的构式。而仅靠视觉难以感知的情感方面的构式研究则未受到重视。众所周知，在学习者的汉语言生活中，如何用汉语表达自己的情感占有重要的位置。在表达情感时，我们认为，学习者最先面临的课题，就是采用什么样的构式去匹配情感词汇。

由此，本文将与情感表达相关联的构式称为情感构式，并从形式和意义相结合的角度，对“SVO型情感构式”、“SPOV型情感构式”和“SV型情感构式”进行了考察。此外，面向在日汉语教学，对日本汉语学习者的汉语情感表达的习得情况进行了问卷调查，并在其分析结果的基础上，提出了相应的教学对策。

本文由 7 章构成，各章主要内容如下：

第 1 章为“引言”，主要阐明本研究的出发点和目的，并介绍本文的结构以及语料来源。

第 2 章为“研究综述”，将与本研究相关联的先行研究进行了分类整理，并概括其观点。在第 1 小节中，介绍了前人就情感和语言的关系是如何解释的，并阐述了其对本研究的启示。在第 2 小节中，从情感动词和情感形容词两方面，介绍了词汇层面的相关研究，并明示了本文的立场。在第 3 小节中，从宏观和微观 2 个视角，介绍了构式层面的相关研究，并明示了本文的立场。

第 3 章对 SVO 型情感构式进行了考察。关于此构式，前人一般是将<情感主体>限定在主语的位置上进行论述，而本文指出，我们应将此构式分为 2 种类型，即<情感主体>主导的 SVO 型情感构式和<刺激体>主导的 SVO 型情感构式。在此基础上，对其相匹配的情感情谓词进行了考察，关于前者，我们收集到 48 个情感情谓词，约占考察对象的 44%，其中以“喜欢”为典型例，“高兴”为边缘例。而关于后者，我们收集到 12 个情感情谓词，约占整体的 11%，其中以“感动”为典型例，“乐”为边缘例。此外，我们还对<刺激体>进行了相应的考察，发现在<情感主体>主导的情况下，根据情感情谓词的不同，可带的<刺激体>的性质也会不同，<刺激体>呈现出一种多样性。与之相反，在<刺激体>主导的情况下，<刺激体>的性质则一般为名词性成分，不会随情感情谓词的不同而变化，呈现出一种单一性。但是，<刺激体>主导的情况下，其内部构造要比<情感主体>主导的情况复杂，需要补语或语气助词等附加成分。与此同时，在<刺激体>主导的情况下，我们指出，以“人”为中心的一般名词可指向说话人，并充当<情感主体>这一角色。最后，我们提炼了两者的构式义。

第4章考察的是SPOV型情感构式。与SVO型情感构式一样，我们指出，此构式也应分为<情感主体>主导和<刺激体>主导2类型。此外，针对这2类构式，我们分别选取了3个介词进行了考察。具体为，<情感主体>主导型选取了“对”、“为”、“被”；<刺激体>主导型选取了“让”、“把”、“给”。同样，我们也对能进入各构式的情感谓词进行了考察，结果如下：<情感主体>主导的“对”字构式得到76个情感谓词，约占整体的70%，其中以“失望”为典型例，“难过”为边缘例；关于“为”字构式，我们主张将其分为“为<sub>1</sub>”字构式和“为<sub>2</sub>”字构式，即“为<sub>1</sub>”引导激发情感产生的存在物，而“为<sub>2</sub>”引导移情对象。“为<sub>1</sub>”字构式收集到36个情感谓词，约占整体的33%，其中以“烦恼”为典型例，“害羞”为边缘例；而“为<sub>2</sub>”字构式则收集到18个情感谓词，约占整体的17%，其中以“高兴”为典型例，“担心”为边缘例；另外，关于“被”字构式，我们收集到11个情感谓词，约占整体的10%，其中以“感动”为典型例，“乐”为边缘例。另一方面，<刺激体>主导的“让”字构式则得到96个情感谓词，约占整体的89%，其中以“感动”为典型例，“爱”为边缘例；“把”字构式和“给”字构式得到的情感谓词数量一样，都为40个，约占整体的37%。

此外，我们还对<情感主体>主导的“对”字构式和“为”字构式以及<刺激体>主导的“让”字构式中的副词的位置分布进行了考察。考察结果如下：“对”字构式一般分布在情感谓词前；“为”字构式无论是“为<sub>1</sub>”还是“为<sub>2</sub>”，一般分布在介词前；“让”字构式的分布情况较为复杂，会随程度副词或否定副词的性质不同而发生变化。与此同时，还对<情感主体>主导的“被”字构式和<刺激体>主导的“把”字构式和“给”字构式中的情感谓词前后的附加成分进行了考察。我们发现，“被”字构式中的附加成分可分布在情感谓词前、情感谓词后以及情感谓词前后；而“把”字构式和“给”字构式中的附加成分的分布位置则很单一，只可分布在情感谓词后。最后，我们阐明了本章考察的各构式的构式义。

第5章考察了SV型情感构式。同样，我们指出此类构式也可分为<情感主体>主导型和<刺激体>主导型。关于前者，我们得到64个情感谓词，约占整体的59%，其中以“开心”为典型例，“担心”为边缘例；关于后者，我们得到9个情感谓词，约占整体的8%，其中以“可怕”为典型例，“震撼”为边缘例。此外，我们还对出现在情感谓词前的程度副词进行了考察，发现大致可分为“很”类和“好”类。但2类构式呈现出不同的情况，<情感主体>主导型较复杂，呈现出如下对立特征：“很”类一般用于①正式场合、②有意的情感抒发、③客观的情感描写；而“好”类一般用于①非正式场合、②自然的情感抒发、③主观的情感描写。而<刺激体>主导型则较单一，呈现出如下特征：“很”类表客观评价（情感描写）；“好”类表主观评价（情感抒发）。同时，我们还针对前人研究中情感谓词不可独用这一主张提出了

质疑，通过考察发现，也存在情感谓词独用的现象。特别是，用于<刺激体>主导型构式中的“讨厌”、“恶心”、“可恶”这一类词明显可独立成句。最后，分析得出 2 类构式的构式义。

第 6 章面向在日汉语教学，我们从 2 个角度对学习者的汉语情感表达的使用情况进行了考察。首先，基于中间语言料库，将日本学习者的偏误类型总结为如下 6 种类型：“构式的混用”、“了”的滥用”、“程度副词的遗漏”、“程度副词位置的偏误”、“程度副词种类的偏误”、以及“情感谓词使用的偏误”。

其次，基于问卷调查的结果，我们发现日本学习者具有如下 4 个特征：① 在将日语中的「〈感情主〉  $\wedge$  〈刺激体〉  $\equiv$  感情述詞」构式翻译成汉语时，由于其对应的构式形式较为复杂，对学习者来说较难；② 在将日语中的「〈感情主〉  $\wedge$  〈刺激体〉  $\neq$  感情述詞」构式翻译成汉语时，若其对应于汉语的<情感主体>主导的 SVO 型构式，由于母语正迁移的影响，对学习者来说较为容易；③ 既存在来自母语的干扰，如套用日语中的情感谓词的独用用法，也存在来自目标语言的干扰，如过度依赖程度副词“很”；④ 日语中常用的情感谓词所对应的汉语若属于高难度词汇，对学习者来说较为难输出。同时，基于上述考察结果，面向在日汉语教学，我们提出了如下 3 点教学建议：① 情感谓词和情感构式相结合的教学法；② 情感描写句和情感抒发句相分离的教学法；③ 基于日语情感表达特点的教学法。

第 7 章为“结语”，对第 3 章到第 6 章的考察进行了总结，并提出了我们今后的研究课题。

本文的基本路线是以学习者的母语为参照系，去探索在日汉语教学中有关汉语情感表达的偏误频出的理由。因此，我们认为本研究将对在日汉语教学做出一定的贡献。同时，通过对以往易被忽视的情感构式的考察，于现代汉语构式体系的构建也有一定的参考价值。

# 目 次

第1章 はじめに .....	1
1.1 本研究の目的 .....	1
1.2 本研究の構成 .....	2
1.3 例文の出典と訳文 .....	2
第2章 先行研究概観 .....	4
2.1 感情と言語 .....	4
2.1.1 Rousseau (2016) の言語起源説 .....	4
2.1.2 Kövecses (2000) の感情言語の分類 .....	6
2.1.3 本研究への示唆 .....	10
2.2. 語彙面からの先行研究 .....	11
2.2.1 感情動詞の先行研究 .....	11
2.2.1.1 丰竞 (2003) .....	11
2.2.1.2 黄金金、李天贤、杨艳琴 (2013) .....	13
2.2.1.3 宋成方 (2015) .....	14
2.2.2 感形容詞の先行研究 .....	16
2.2.2.1 卢莹 (2002) .....	16
2.2.2.2 赵春利 (2007) .....	20
2.2.2.3 孔兰若 (2014) .....	22
2.2.3 本研究の立場 .....	26
2.3 構文面からの先行研究 .....	28
2.3.1 巨視的視点 .....	29
2.3.1.1 周有斌、邵敬敏 (1993) .....	29
2.3.1.2 潘震 (2014) .....	31
2.3.1.3 木村 (2017) .....	32
2.3.2 微視的視点 .....	35
2.3.2.1 鄧守信 (1984) .....	35
2.3.2.2 大河内 (1997) .....	37
2.3.2.3 古川 (2003) .....	39

2.3.3 本研究の立場.....	42
第3章 SVO型感情構文について.....	45
3.1 〈感情主〉主導のSVO型感情構文について.....	47
3.1.1 感情述詞の特徴.....	47
3.1.2 〈刺激体〉の性質.....	50
3.1.3 構文的意味.....	60
3.2 〈刺激体〉主導のSVO型感情構文について.....	62
3.2.1 感情述詞の特徴.....	62
3.2.2 〈感情主〉の性質.....	68
3.2.3 構文的意味.....	74
3.3 第3章のまとめ.....	76
第4章 SPOV型感情構文について.....	78
4.1 〈感情主〉主導のSPOV型感情構文について.....	79
4.1.1 “对”を用いる感情構文.....	79
4.1.1.1 “对”的意味.....	79
4.1.1.2 感情述詞の特徴.....	82
4.1.1.3 副詞の生起位置.....	86
4.1.1.4 構文的意味.....	90
4.1.2 “为”を用いる感情構文.....	91
4.1.2.1 “为”的意味.....	91
4.1.2.2 感情述詞の特徴.....	94
4.1.2.3 副詞の生起位置.....	100
4.1.2.4 構文的意味.....	105
4.1.3 “被”を用いる感情構文.....	106
4.1.3.1 “被”的意味.....	106
4.1.3.2 感情述詞の特徴.....	109
4.1.3.3 付加成分の種類.....	112
4.1.3.4 構文的意味.....	116
4.2 〈刺激体〉主導のSPOV型構文について.....	118
4.2.1 “让”を用いる感情構文.....	118

4.2.1.1 “让” の意味.....	118
4.2.1.2 感情述詞の特徴.....	119
4.2.1.3 副詞の生起位置.....	123
4.2.1.4 構文的意味.....	129
4.2.2 “把” を用いる感情構文.....	130
4.2.2.1 “把” の意味.....	130
4.2.2.2 感情述詞の特徴.....	133
4.2.2.3 付加成分の種類.....	136
4.2.2.4 構文的意味.....	139
4.2.3 “给” を用いる感情構文.....	141
4.2.3.1 “给” の意味.....	141
4.2.3.2 感情述詞の特徴.....	142
4.2.3.3 付加成分の種類.....	144
4.2.3.4 構文的意味.....	146
4.3 第4章のまとめ .....	147
第5章 SV型感情構文について .....	150
5.1 〈感情主〉 主導の SV型感情構文について .....	151
5.1.1 感情述詞の特徴.....	151
5.1.2 程度副詞の種類.....	156
5.1.3 裸形式の成立可否.....	160
5.1.4 構文的意味.....	162
5.2 〈刺激体〉 主導の SV型構文について .....	162
5.2.1 感情述詞の特徴.....	162
5.2.2 程度副詞の種類.....	166
5.2.3 裸形式の成立可否.....	168
5.2.4 構文的意味.....	170
5.3 第5章のまとめ .....	171
第6章 在日中国語教育に向けて .....	173
6.1 中間言語コーパスから見る感情表現の難点.....	174
6.1.1 誤用のパターン.....	174

6.1.2 誤用の原因分析.....	178
6.2 日本人中国語学習者による習得状況の調査.....	180
6.2.1 調査概要 .....	180
6.2.1.1 被験者 .....	180
6.2.1.2 質問文 .....	180
6.2.2 結果と分析.....	181
6.2.2.1 第 1 類の質問文について .....	181
6.2.2.2 第 2 類の質問文について .....	185
6.3 在日中国語の感情表現教育に向けての提言.....	192
6.3.1 感情述詞と感情構文とを結合させた教授法.....	192
6.3.2 感情描写文と感情表出文とに分けた教授法.....	193
6.3.3 日本語の感情表現の特性を踏まえた教授法.....	193
6.4 第 6 章のまとめ.....	194
第 7 章 おわりに .....	196
7.1 本研究のまとめ.....	196
7.2 今後の課題 .....	200
参考文献 .....	202
付録 .....	209

# 第1章 はじめに

## 1.1 本研究の目的

筆者が中国語の感情表現をめぐる構文に関心を持ったのは、日本人中国語学習者による次の誤用がきっかけであった。

(1) “\*我很感动他的话。”<sup>1</sup>

[「私は彼の言葉に感動した。」]

上記の誤用が単なる個別事例なのか否かを検証するために、北京語言大学語言科学院が構築した「HSK 动态作文语料库<sup>2</sup>(HSK 動的作文コーパス、以下はこの日本語訳を使う)」を検索してみた。その結果、(1) と似たような誤用例が出てきた。

(2) \*我很感动他的主张。(HSK 動的作文コーパス)

[私は彼の主張に感動した。]

(3) \*我很感动她态度。(HSK 動的作文コーパス)

[私は彼の態度に感動した。]

上記の 3 例は、いずれも “感动” という語彙を SVO 型の構文に当てはめた誤用である。なぜこのような誤用が産出されたのか、という疑問が本研究の出発点である。ところが、学習者による誤用の原因を特定するのは決して容易なことではない。教科書での取り上げ方、教え方、母語の干渉など、さまざまな理由が考えられるからである。

また、現代中国語の構文研究の主流は空間・移動をめぐる研究であった。一方、感情表現研究の主流は、語彙レベルやメタファーの角度にとどまり、感情表現の構文研究は、いまだ数少ない。感情語彙の解明は、困難なだけに、更に一步進んだ構文研究は、容易ではない。

しかし、言語表現の実態は構文にあると考え、構文の形式および意味の観点から感情述詞が用いられる構文の全体像解明を目的とする。そこで得た成果は、生きた中国語教育に反映し得ると思量する。

## 1.2 本研究の構成

本研究の構成は、次の通りである。

第1章「はじめに」では、本研究のきっかけや目的を明らかにした上で、論文全体の構成を示す。また、本論文で使用する例文についても明記する。

第2章「先行研究概観」では、本研究と関連する先行研究を分類し、その知見を概観する。第1節では、従来の研究が感情と言語の関係をどのように捉えてきたのかを紹介し、本研究への示唆を示す。第2節では、語彙面からの先行研究について、感情動詞と感情形容詞という2側面から紹介した上で、本研究の立場を示す。第3節では、構文面からの先行研究について、巨視的視点と微視的視点から整理し、本研究の立場を示す。

第3章「SVO型感情構文について」では、〈感情主〉を主語の位置に限定して論じられた従来の研究について発展的見直しを行う。構文の構成要素としての感情述詞や〈感情主〉や〈刺激体〉の特徴を探ることで、SVO型感情構文の構文的意味を明らかにする。

第4章「SPOV型感情構文について」では、前置詞Pを選定した上で、それらの意味を規定する。また、各前置詞を用いる感情構文について、感情述詞や副詞の生起位置や付加成分などを重点的に論じる。さらに、各構文の構文的意味について検討する。

第5章「SV型感情構文について」では、共起し得る感情述詞の特徴を考察した上で、感情述詞の直前に付隨する程度副詞の種類を論述する。その上で、日本語のように、中国語の感情述詞が裸の形で成立しないと主張してきた従来の研究についても批判的検討を行う。

また、SV型感情構文の構文的意味を明示する。

第6章「在日中国語教育に向けて」では、第3章から第5章までの考察結果を踏まえて、中間言語コーパスと日本人中国語学習者を対象としたアンケート調査から収集した用例について検討を行い、日本人学習者の誤用パターンを整理する。さらに、日本における中国語教育に向けて提言を行う。

第7章「おわりに」では、第3章から第6章における考察について整理し、今後取り組むべき課題を提示する。

## 1.3 例文の出典と訳文

本論文で使用する例文は、主に以下のコーパスから収集した。

- ① 北京大学現代汉语語料庫 (CCL)<sup>3</sup>
- ② 北京語言大学汉语語料庫 (BCC)<sup>4</sup>
- ③ HSK 动态作文語料庫

その上、必要に応じて、中国のソーシャルメディアである“微博”(ウェイボー)から収集した例文もあれば、筆者の内省による作例もある。

また、例文の訳文は、特別注釈がない限り、すべて筆者によるものである。当然のことながら、日本語母語話者の校正を受けたものである。

---

<sup>1</sup> 文頭のアステリスク (\*) は、文法的に成立しないことを示す。

<sup>2</sup> 崔希亮教授の研究グループの構築によるものである。1992年から2005年までの、中国語能力試験に参加した学習者の作文にエラー情報を付与して作られた中間言語コーパスであり、複数の検索機能がついている。URLは<http://hsk.blcu.edu.cn/>である。

<sup>3</sup> 北京大学中国語学研究センターの構築によるものである。現代中国語と古代中国語との2種類のコーパスに分かれている。本研究では、現代中国語のコーパスだけを使用する。URLは[http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl\\_corpus/index.jsp?dir=xiandai](http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/index.jsp?dir=xiandai)である。

<sup>4</sup> 北京語言大学の荀恩東教授の研究グループの構築によるものである。総字数が約150億であり、新聞(20億)、文学(30億)、微博(30億)、科学技術(30億)、総合(10億)、古代中国語(20億)などが含まれている多領域のコーパスである。URLは<http://bcc.blcu.edu.cn/>である。

## 第2章 先行研究概観

第2章では、中国語の感情表現をめぐる構文に関する先行研究を概観する。中国語学における感情表現に関する研究史を見ていくと、構文という視点からの研究が少なく、あまり注目されてこなかったことがわかる。そこで、本研究では、構文面からの研究を紹介すると同時に、感情と言語の関係性に関する研究や、語彙という視点からの研究についても触れておくこととする。したがって、以下は、「感情と言語」、「語彙面からの先行研究」、「構文面からの先行研究」という3節に分けて、主な先行研究を整理する。

### 2.1 感情と言語

感情は人間の内面で感じるものである。それを外的、目に見える形象として客観化するには、多種多様な方法が存在する。そのうちの一つが言語表現である。「感情」と「言語」との間には、密接な関係があると言われている。以下、まず、感情が言語の根源であると主張する Rousseau(2016)<sup>1</sup>を紹介し、次に、言語による感情表現を分類した Kövecses(2000)を紹介し、最後に、これらの研究から得た本研究への示唆を示すこととする。

#### 2.1.1 Rousseau (2016) の言語起源説

古くから現在に至るまで、言語の起源についてさまざまな議論がなされてきた。その中で、Rousseau の言語起源説は、最もロマンチックと言っても過言ではないであろう。Rousseau (2016) は、言語の起源について以下のように述べている。

人間たちから最初の声を引き出したのは、飢えでも渴きでもなく、愛、憎しみ、憐憫の情、怒りである。果物はわれわれの手から逃げず、話さずにそれを食べることができるだろう。人はごちそうにしたい獲物を静かに追う。しかし若い心を感動させたり、不正な攻撃者を追い返したりするためには、自然は抑揚や声や嘆きで語らせる。そうして最初のことばができ、そうして最初の諸言語は簡潔で方法的なものではなく、歌うような情熱的なものとなったのである。(下線は筆者による。以下同様。)

(Rousseau 2016: 24)

以上の記述から、言語の本質は人間の感情表現にあるということがうかがえる。この説は、その後の言語の起源についての研究でも言及されている。例えば、大きなインパクトをもたらした Darwin の進化論でも、Rousseau の言語起源説が支持されている。

Darwin は、「言語はさまざまな自然の音、他の動物の声、そして人間自身の本能的な発声を、記号や身ぶりの助けを借りながら模倣し、変容させることから生じたに違いない」とし、人間の昔の祖先は「音声を、主に真に音楽的な旋律、つまり歌を歌うことに使っていただろう」、「音楽的な発声を音節化された音でまねることから、さまざまな複雑な感情を表現する単語が生まれたのかもしれない」と推測している (Darwin 1999: 58)<sup>2</sup>。

しかし、今でもさまざまな分野から、あるいは、領域横断的に言語の起源へのアプローチが継続的に試みられている中、Rousseau の言語起源説はどれぐらいの信憑性があるのか、本研究では検証できないが、感情が言語の発展過程において、大きな役割を果たしていることは、否めない事実である。このように、感情は、言語の誕生と発達を促進する触媒のような存在と言えよう。

その一方で、感情は決して一方向的な作用として、言語に働きかけているわけではない。言語も、われわれの感情を反映している。例えば、ドイツの哲学者、思想史家である Cassirer (2017)<sup>3</sup>は次のようなことを述べている。

われわれの通常の言葉はたんなる意味論的記号ではない。われわれのふつうの言葉は心像と特定の情緒とをこめられたものである。われわれの共有しているふつうの言葉は悟性に語りかけるだけではなく、われわれの感情と想像力とともに語りかけるのである。

(Cassirer 2017: 180)

上記の内容から、感情と言語との間には、双方向的な関係性があるとわかる。図式でまとめてみれば、下記の図になる。

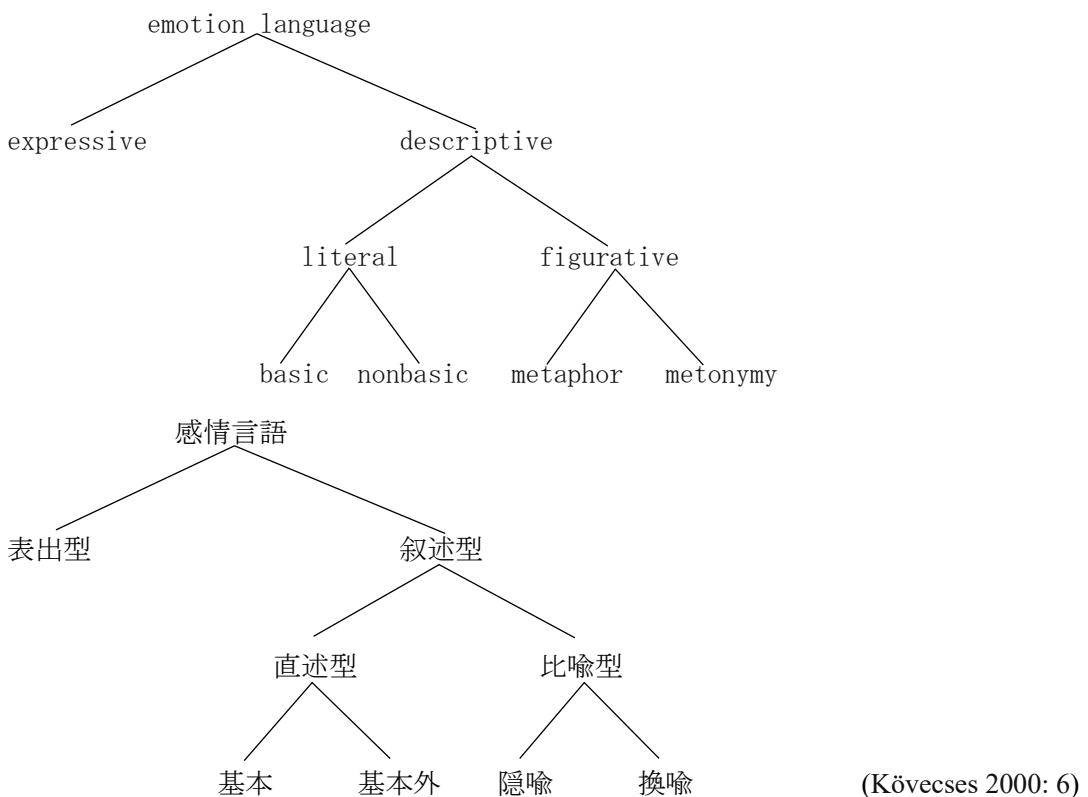
【図 1】感情と言語との双方向的関係性



## 2.1.2 Kövecses (2000) の感情言語の分類

既述したように、言語は感情を反映する手段の一つである。具体的に、Kövecses (2000) は、言語による感情表現のタイプを以下の図でまとめている。

【図 2】 Kövecses (2000) における感情言語 (emotion language) のタイプ<sup>4</sup>



まず、上記の図における「表出型」と「叙述型」を理解しなければならない。Kövecses (2000) は、以下のように言及している。

「表出型」：

Some emotion words can *express* emotions. Examples include *shit!* When angry, *wow!* When enthusiastic or impressed, *yuk!* when disgusted, and many more.

[感情語彙の中には、感情を表出できるものもある。例えば、怒った時の「クソ！」、興奮あるいは感動した時の「ワーオ！」、うんざりした時の「オエッ！」など、他にも色々ある。]

(Kövecses 2000: 2)

「叙述型」：

Other emotion words can *describe* the emotions they signify or that “they are about.” Words Like *anger* and *angry*, *joy* and *happy*, *sadness* and *depressed* are assumed to be used in such a way.

[他の感情語彙は、それらが意味するあるいは関わる感情を叙述できる。怒りと怒る、喜びと喜ぶ、悲しみと落ち込むといった語彙は、そのように使われると思われる。]

(Kövecses 2000: 2)

以上の記述からわかるように、「表出型」は、主に話し手の感情を直接表現する間投詞のことを指す。中国語にもこのような表現が数多く挙げられる。例えば、怒った時に“妈的！”と言い、驚いた時に“妈呀！”と言う。以下に例文を挙げる。

(4) “妈的！吵什么？” (CCL)

[クソ！何騒いでんの？]

(5) “妈呀！你在这里！你怎么不说话呀！” (CCL)

[アッ！ここにいたんだ！なんで黙ってんの！]

その一方で、「叙述型」は、主に感情を描写できる語彙等の表現のことを指す。例えば、中国語には、古くから“喜怒哀乐”という熟語がある。現代中国語で言い換えれば、“高兴”、“愤怒”、“悲哀”、“快乐”と言い表す。こういった感情表現は、「叙述型」である。しかし、注意すべき点は、「叙述型」と言っても、感情表出の文脈に使えないというわけではない。Kövecses (2000) もこの点について次のように言及している。

We should note that under certain circumstances descriptive emotion terms can also “*express*” particular emotions. An example is “*I love you!*” where the descriptive emotion word *love* is used both to describe and express the emotion of love.

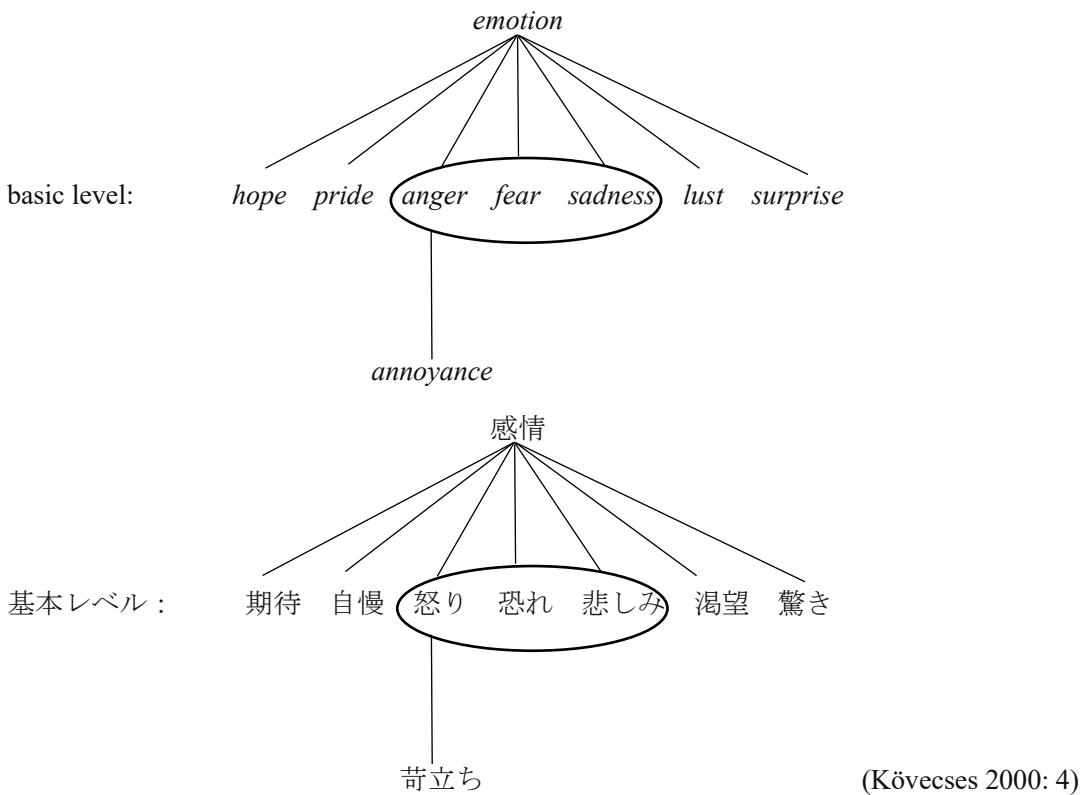
[我々が注意すべきことは、特定の状況下で叙述型感情表現も特定の感情を「表出」できるということである。例えば、「愛している！」という表現における叙述型感情語彙の「愛する」は、愛という感情の叙述と表出との両方に用いられる。]

(Kövecses 2000: 2)

次に、図 2 に示した「叙述型」の下位分類である「直述型」と「比喩型」を理解する必要がある。Kövecses (2000) に基づけば、「直述型」とは、字義通りに感情を描写する言語表現である。例えば、英語においては、“anger”, “sadness”, “fear”, “joy”, “love”などの感情語彙が挙げられる。一方で、「比喩型」とは、感情概念の様々な面（例えば、強烈さ、動機、制御など）を示す言語表現のことである。例えば、“be on cloud nine”という表現は、感情の強烈さを指示し、「とても嬉しい」、「有頂天」を意味する。

最後に、図 2 に示した最下位分類である「基本」と「基本外」、「隠喻」と「換喻」を紹介する。まず、「直述型」の下位分類である「基本」と「基本外」について、Kövecses (2000) は、以下の図で説明している。

【図 3】Kövecses (2000) における「基本」 VS 「基本外」 感情表現



Kövecses (2000) によれば、「基本 (basicness)」には、大まかに言うと二つの意味がある。一つは、概念構造の真ん中にある語彙という意味である。この意味では、図 3 における “anger” は、“annoyance” より基本的である。すなわち、“anger” は、その上位概念である “emotion” と下位概念である “annoyance” の間に位置するということである。

もう一つは、同じレベルにおいても、より「典型的 (prototypical)」な語彙という意味である。例えば、図3で囲まれている語彙 “anger”, “fear”, “sadness” は、囲まれていない語彙 “hope”, “pride”, “lust”, “surprise” と比較すれば、より基本的である。

また、「比喩型」の下位分類である「隠喻」と「換喻」について、Kövecses (2000) は、次のように述べている。

「隠喻」：

The metaphorical expressions are manifestations of conceptual metaphors in the sense of Lakoff and Johnson (1980). Conceptual metaphors bring two distant domains (or concepts) into correspondence with each other. One of the domains is typically more physical or concrete than the other (which is thus more abstract). The correspondence is established for the purpose of understanding the more abstract in terms of the more concrete.

[隠喻表現とは、Lakoff and Johnson (1980) の概念メタファーを明示したものである。概念メタファーは、離れた二つの領域（あるいは概念）を相互に関連づける。その領域の一つは、一般的に他の一つ（より抽象的な方）と比べると、より身体的あるいは具体的なものである。この関連づけは、より具体的な表現によって、より抽象的なものを理解するために行われる。] (Kövecses 2000: 4)

「換喻」：

Conceptual metonymies, unlike conceptual metaphors, provide mental access to a domain through a part of the same domain (or vice versa) or to a part of a domain through another part in the same domain. Thus, metonymy, unlike metaphor, is a “stand-for” relation within a single domain.

[概念メトニミーは、概念メタファーと異なり、ある領域の一部を通して、その領域に認知的アクセスを提供する（あるいはその逆の経路）あるいは、同じ領域における一部を通して、その領域の他の一部に認知的アクセスを提供する。このように、換喻は、隠喻と異なり、単一領域内における「代替」関係である。] (Kövecses 2000: 5)

感情に関する隠喻表現の例としては、英語の “boiling with anger” が挙げられる。これは、Lakoff and Kövecses (1987) が提唱した “ANGER IS A HOT FLUID” という概念メタファーの具体例である。日本語にも「怒りは熱い流体である」という概念メタファーに当てはまる例

が存在する。例えば、「腸が煮えくり返る」という怒り表現はその一つである。その一方で、中国語は、「怒りは熱い流体である」よりも、「怒りは気／火である」という概念メタファーの言語表現が多数見られる。例えば、馴染みのある“惹一肚子气”、“火冒三丈”などの例が挙げられる。

また、換喻表現の例としては、英語の“*have cold feet*”が挙げられる。この表現の意味を字義通りに取ると、「足が冷える」であるが、実際にそれは「**土壤場で怖気づく**」を意味するイディオムとして使われる。これは、Kövecses (1990) における“**DROP IN BODY TEMPERATURE STANDS FOR FEAR**”という概念メトニミーの具体例である。すなわち、「恐れ」という領域内的一部である「体温の低下」を用いて、「恐れ」という感情を表す。日本語と中国語にも似たような表現も見られる。例えば、日本語の「**背筋が凍る**」、中国語の“**后背发凉**”といった表現も、「恐れ」という感情を表すことが可能である。

このように、Kövecses (2000) は、感情言語を「表出型」と「叙述型」に大別し、また、「叙述型」を「直述型」と「比喩型」に分け、さらに、「直述型」の下位分類として、「基本」と「基本外」に細分し、「比喩型」の下位分類として、「隠喻」と「換喻」に細分している。以下に表1として、Kövecses (2000) の分類の各項目に当たる中国語例を例示する。

【表1】Kövecses (2000) における感情言語の分類項目と中国語の具体例

感情言語				
表出型	叙述型			
“妈的” “妈呀”	直述型		比喩型	
	基本	基本外	隠喻	換喻
	“生气”	“愤怒”	“火冒三丈”	“后背发凉”

### 2.1.3 本研究への示唆

まず、Rousseau の言語の本質とは感情の表現にあるという説を通じて、母語はもちろん、第2言語としての感情表現習得の重要性も再確認できた。そして、Kövecses (2000) の感情言語の理論的枠組みに従い、本研究では、中国語の感情言語における「叙述型」の下位分類である「直述型」を中心に考察する。

## 2.2. 語彙面からの先行研究

感情語彙は、われわれの感情を言語化するのに不可欠な材料である。ところが、中国語の感情語彙を取り扱う研究はまだ少ないのが現状である。以下、まず、感情動詞の先行研究を紹介し、次に、感情形容詞の先行研究を紹介し、最後に、本研究の立場を示す。

### 2.2.1 感情動詞の先行研究

#### 2.2.1.1 丰竞 (2003)

中国語学において、感情動詞という用語は、2000 年に入ってから使われ始めたものである<sup>5</sup>。調べた限りでは、この用語は丰竞 (2003) が最初に提唱した。丰竞 (2003) は、胡裕树、范晓 (1995) における心理動詞の意味項目に基づいて、心理動詞を“感觉动词”(知覚動詞)、“情感动词”(感情動詞)、“意愿动词”(願望動詞)、“思维动词”(思考動詞)、“认知动词”(認識動詞)、“判断动词”(判断動詞) という 6 種類に分けています。その 6 種のタイプを丰竞 (2003) から引用して整理したのが表 2 である。

【表 2】丰竞 (2003) における心理動詞の分類のまとめ

心 理 動 詞	知覚動詞	感觉 (到)、感到、觉得 <sub>1</sub> (产生某种感觉)、预感 (到)、感受 (到)
	感情動詞	A. “爱慕”類、 “尊敬”類、 “满意”類、 “思念”類、 “同情”類 B. “留意”類、 “害怕”類、 “发愁”類、 “相信”類、 “怀疑”類、 “担心”類 C. “爱”類、 “喜欢”類、 “羡慕”類、 “欣赏”類、 “感激”類、 “恨”類、 “嫌”類、 “厌恶”類、 “嫉妒”類、 “在意”類、 “鄙视”類 D. “后悔”類、 “遗憾”類、 “奇怪”類、 “得意”類、 “庆幸”類
	願望動詞	希望、想 <sub>4</sub> (希望)、高兴 <sub>2</sub> (带着愉快的心情去做某事)、愿意、乐意
	思考動詞	“思考”類、 “打算”類、 “猜想”類、 “回忆”類、 “想象”類
	認識動詞	“知道”類、 “理解”類、 “悟”類、 “认识 (到)”類
	判断動詞	认为、想 <sub>3</sub> (认为)、以为、当 (当作、认为)、判断、断定、确定

表2から見て取れるように、心理動詞の中においては、感情動詞が最も複雑である。丰竞(2003)は感情動詞を4種類に分けている。一方、感情動詞以外の4種の動詞は分けられていない。また、丰竞(2003)は、心理動詞および感情動詞の判断方法にも言及している。まづ、心理動詞だと見分ける方法としては、以下の構造が提唱されている。

主(人)+在心里+(很)+心理动词+宾语

[主語(人)+在心里+(很)+心理動詞+目的語]

$S: S_{(p)} + IH + (L) + V_{(p)} + (O(N, V))$

$S_{(p)}$ = 主語 (p→person 人)

$IH$ (in heart)= “在心里”類の連用修飾語

$L$ (level)= “很”類の程度副詞

$V_{(p)}$ = 心理動詞 (p→psychology 心理)

$O_{[N, V]}$ = 体言性あるいは用言性の目的語

(丰竞 2003: 107)

従来の“很”が付くか付かないかという判断基準と異なり、丰竞(2003)は“在心里”類の連用修飾語と共にできるか否かを、心理動詞の判断基準としている。その理由としては、従来の判断基準だと、“像”(似ている)、“有”(ある/いる)といった動詞が排除できないからである。

心理動詞の判断基準からさらに一步進んで、丰竞(2003)は、感情動詞の判断基準を下記のように提唱している。

$S_1: NS + VM + S_{(p)} + L + V_{(p)}$

(他所做的一切让我在心里很感激)

[彼が行ったすべてのことが私を心から感謝させる]

$S_2: S_{(p)} + (IH) + TN + L + V_{(p)}$

(我在心里对他所做的一切很感激)

[私は彼が行ったことすべてに対して心から感謝する]

$S_3: S_{(p)} + THN + M + V_{(p)} + (O_{[N, V]})$

(我比你更感激他所做的一切)

[私は彼が行ったことすべてに対してあなたよりさらに感謝する]

NS = 刺激物 (stimulus)

VM = 使役動詞 (make)

TN = “对” (to) で導く介賓構造(前置詞+目的語)

THN = 比較を表す介詞 (than) で導く介賓構造

M = “更” (more)

(丰竞 2003: 108)

上記の感情動詞の判断基準から、丰竞 (2003) は形式の面から感情動詞を定めようとしたとわかる。しかし、表 2 に収められている感情動詞は、必ずしも上記の構造に当てはまるわけではない。例えば、B タイプにおける“相信”という感情動詞を S<sub>1</sub> 構造に当てはめて“他所做的一切让我在心里很相信”という文を作つてみれば、座りが悪い文になる。そこで、形式だけで感情動詞を規定するには極めて困難だと判断できる。

### 2.2.1.2 黄金、李天贤、杨艳琴 (2013)

黄金、李天贤、杨艳琴 (2013) は、感情の状態と程度に基づいて、感情を表す心理動詞を“喜爱”(好む) 類、“怀恋”(懷かしむ) 類、“珍惜”(惜しむ) 類、“同情”(同情する) 類、“关切”(気遣う) 類、“欣赏”(評価する) 類、“害怕”(怖がる) 類、“怨恨”(恨む) 類、“其他”(その他) 類という 9 種類に分けている。各分類の具体例は、下記のように挙げられている。

喜爱类：爱抚、爱恋、爱怜、倾慕、钟爱等；

怀恋类：怀念、怀恋、留恋、缅怀、思念等；

珍惜类：爱惜、抚爱、怜惜、吝惜、珍惜等；

同情类：哀怜、同情、可怜、悲悯、体恤等；

关切类：关心、关怀、关切、担心、体贴等；

欣赏类：欣赏、赏识、入迷、迷醉、着迷等；

害怕类：害怕、畏惧、畏怯、恐惧等；

怨恨类：仇恨、痛恨、怨恨、憎恨、厌烦、厌倦等；

其他类：尊敬、满意、感激、遗憾、庆幸、鄙视等。

(黄金、李天贤、杨艳琴 2013: 40)

また、黄金金、李天贤、杨艳琴 (2013) は、各カテゴリーについても詳細に分析している。表 3 にまとめる。

【表 3】黄金金、李天贤、杨艳琴 (2013) における感情類心理動詞の意味内容

分類	意味内容
“喜爱”類	人間が物事に対して好感を抱くようなポジティブな感情体験
“怀恋”類	人間が過去の人物や物事に対して懐かしさをいだく感情体験
“珍惜”類	人間がある人物や物事に対して大切にしたいという感情体験
“同情”類	人間が他人や他物の不幸に対して共感を持つという感情体験
“关切”類	人間がある人物や物事に対して心配りをするという感情体験
“欣赏”類	人間がある人物や物事を気に入った際に嬉しくなる感情体験
“害怕”類	人間が危険や困難に遭った際に不安や恐怖をいだく感情体験
“怨恨”類	人間が物事に対して不満を抱くようなネガティブな感情体験
“其他”類	

表 3 から見て取れるように、黄金金、李天贤、杨艳琴 (2013) は、丰竞 (2003) と異なり、意味の角度から感情類心理動詞に対する分類を試みた。ところが、その分類の根拠については言及されていない。

#### 2.2.1.3 宋成方 (2015)

宋成方 (2015) は、語義分類辞典とアンケートによる調査を通じて、442 個の感情動詞の候補リストを作成している（付録 1 参照）。

また、宋成方 (2015) は、収集した感情動詞のデータ数が膨大であることを考慮し、そのデータの中から、感情動詞の文法の特徴に基づきながら、クラスター分析<sup>6</sup>の手法を用いて、71 個の典型的な感情動詞を精選している。

さらに、宋成方 (2015) は、文法の特徴により、その 71 個の感情動詞を下記の 3 種類に大別している。

**第一类** (35 个): 懊悔、懊恼、抱歉、不怕、不畏、惭愧、诧异、吃惊、担心、担忧、反感、顾忌、顾虑、害怕、后悔、欢喜、悔恨、惊奇、惊讶、惊异、满意、气愤、气恼、庆幸、生气、讨厌、痛心、惋惜、无愧、欣慰、兴奋、厌烦、遗憾、忧虑、中意;

**第二类** (28 个): 爱、爱慕、爱惜、恻隐、崇拜、嫉妒、妒忌、感激、恨、怀念、嫉妒、忌妒、敬畏、敬仰、可怜、怜悯、怜惜、疼爱、同情、痛恨、喜爱、羡慕、心疼、怨恨、憎恨、喜欢、厌恶、仇恨;

**第三类** (5 个): 打动、感动、伤害、委屈、振奋;

**其他** (3 个): 纠结、恋恋不舍、难割难舍。 (宋成方 2015: 44)

宋成方 (2015) によれば、上記の 3 類の共通の特徴は、以下の五つになる。

- 1) 「很 +        + 目的語」構造に当てはめることができる ; 2) “着”と共起できる ;
  - 3) 単独で使われる場合に“了”を必要としない ; 4) 後ろに語氣詞を直接付けることができる ; 5) “不”で否定できる。
- (宋成方 2015: 40)

上記の共通の特徴以外に、第 1 類の感情動詞には、下記の六つの特徴が挙げられる。

- 1) 主語は人である ; 2) 主語は物にすることができない ; 3) 空目的語が取れる ;
  - 4) 前置詞で導く原因フレーズが取れる ; 5) “受到/得到”の目的語になることができない ; 6) 裸の形で使役構造に当てはめることができる。
- (宋成方 2015: 42)

また、第 2 類の感情動詞には、さらに下記の八つの特徴が挙げられる。

- 1) 主語は人である ; 2) 主語は物とすることができない ;
  - 3) 人を体言目的語に取れる ; 4) 前置詞の目的語が取れる ;
  - 5) “被”構文に用いることができる ; 6) “受到/得到”の目的語になりうる ;
  - 7) 裸の形で使役構造に当てはめることができる ; 8) “肯/值得”の目的語になりうる。
- (同上)

最後に、第 3 類の感情動詞には、さらに下記の七つの特徴が挙げられる。

- 1) 物を主語にできる；2) 人を体言目的語にできる；
- 3) “被”構文に用いられる；4) “受到/得到”の目的語になりうる；
- 5) “没”で否定できる；6) “加以”などの語彙の目的語になりうる；
- 7) “肯/值得”の目的語になりうる。 (同上)

以上の整理によって、宋成方 (2015) は、感情動詞の各分類の特徴を極めて詳細に説明していることがわかる。それは本研究にも、大変示唆に富んだ記述だと言っても過言ではない。ところが、第 2 言語としての中国語教育の視点から考えれば、その結論を応用する際に欠点が生じると思われる。例えば、感情動詞の共通する特徴の 1) である「很 + \_\_\_\_\_ + 目的語」構造に当てはめることができるを例として説明する。学習者は、第 1 類に分類されている“吃惊”(驚く) という語彙をその構造に当てはめ、“我很吃惊这件事”という座りの悪い文を作ってしまう恐れがあると思われる。とは言うものの、“吃惊”の後に目的語が取れないというわけではない。例えば、“我很吃惊你知道这件事”という文はごく自然な文になる。このように、感情動詞の後に来る目的語の性質を学習者に提示する重要性がわかる。これに関しては、まだ一考の余地があると考えられる。

## 2.2.2 感情形容詞の先行研究

### 2.2.2.1 卢莹 (2002)

感情動詞と同様に、中国語学における感情形容詞という用語も 2000 年に入ってから使用され始めた<sup>7</sup>。中国国内の研究においては、卢莹 (2002) が最初に中国語の感情形容詞について研究を行ったのである。卢莹 (2002) は、まず意味の観点から感情形容詞を下記のように定義している。

理性意义上表达人的内心情感的形容词，称为情感形容词。

[概念的意味で人間の内心の感情を表す形容詞を感情形容詞と呼ぶ。] (卢莹 2002: 4)

また、卢莹 (2002) は、形式の観点からも感情形容詞の定義を行っている。具体的には、下記の四つの基準を満たせば、感情形容詞としている。

(1)  $S_1$  に当てはまる：“NP+很+\_\_。”

$S_2$  に当てはまらない：“NP<sub>1</sub>+很+\_\_+NP<sub>2</sub>。”

この基準により、感情形容詞か、感情を表す心理動詞かの判別ができる。

(2)  $S_1$  に当てはまる：“NP<sub>1</sub> 比 NP<sub>2</sub> 更+\_\_。”

$S_2$  に当てはまらない：“NP<sub>1</sub> 比 NP<sub>2</sub>+\_\_。”

この基準により、絶対形容詞に属する感情形容詞か、相対形容詞かの判別ができる。

(3)  $S$  に当てはまらない：“我<sub>认为</sub> NP 很+\_\_。”

この基準により、絶対形容詞として人間の客観的な属性を表す感情形容詞か、人間の主観的な評価を表す絶対形容詞かの判別ができる。

(4)  $S$  に当てはまる：“\_\_+了+时量成分。”

この基準により、絶対形容詞として人間の客観的な属性を表す動的な属性の強い感情形容詞か、客観的な属性を表す静的な絶対形容詞／動的な属性の弱い絶対形容詞かの判別ができる。

(卢莹 2002: 8)

上記の (1) に関しては、“讨厌”(嫌いだ) という心理動詞と “痛苦”(辛い) という形容詞が挙げられている。

(6) 我很讨厌他。(卢莹 2002: 4)

[私は彼がとても嫌いだ。]

(7) 我没有文化，我很痛苦。(同上)

[私は読み書きができなくて、とても辛い。]

(6) における “讨厌”(嫌いだ) は、一般的に “NP+很+\_\_。” という構造に当てはまらず、“NP<sub>1</sub>+很+\_\_+NP<sub>2</sub>。” という構造に当てはまる。つまり、“我很讨厌。”(私は嫌いだ。) という文は、特殊な文脈がない限り、成立しない。

一方、(7) における “痛苦”(辛い) は、その直後に名詞性の成分が取れない。つまり、“NP<sub>1</sub>+很+\_\_+NP<sub>2</sub>。” という構造に当てはまらず、“NP+很+\_\_。” という構造にしか当てはまらない。この方法により、感情形容詞か、感情を表す心理動詞かの判別ができる。

次に、判断基準の (2) に関しては、“简单”(簡単だ) という形容詞と “高兴”(嬉しい)

という形容詞が挙げられている。

(8) 这个问题比那个问题简单。(卢莹 2002: 5)

[この問題はその問題より簡単だ。]

(9) 他比我更高兴。(同上)

[彼は私よりさらに喜んでいる。]

卢莹 (2002) は、(8) における“简单”(簡単だ) という形容詞を相対形容詞としている。なぜなら、(8) の比較文は、同じ次元(難易度)での比較であるが、同じ次元における同じ属性(簡単)という範囲内での比較ではないからである。つまり、“这个问题”(この問題)と“那个问题”(その問題)は、二つとも複雑である可能性があると考えられる。一方で、(9) における“高兴”(嬉しい)は絶対形容詞となっている。なぜなら、(9) における“他”(彼)と“我”(私)は、同じ次元(愉快)における同じ属性(嬉しい)という範囲内での比較であるからである。つまり、“更高兴”(さらに嬉しい)という属性を持っている“他”(彼)と比較しても、“我”(私)は、“痛苦”(辛い)、“伤心”(悲しい)といった属性を持つことがなく、依然として“高兴”(嬉しい)という属性を持っているはずであると考えられる。そこで、“简单”(簡単だ)と比べて、“高兴”(嬉しい)という属性は絶対的で安定的である。このような形容詞は、比較文に入る際に、“更”(さらに)、“还”(もっと)といった相対性を表す程度副詞が必要となってくる。故に、この方法により、絶対形容詞に属する感情形容詞か、相対形容詞かの判別ができる。

また、判断基準の (3) に関しては、“认真”(真面目だ)という形容詞と“痛苦”(辛い)という形容詞が挙げられている。

(10) 我认为他很认真。(卢莹 2002: 6)

[私は彼がとても真面目だと思う。]

(11) \*我认为他很痛苦。(同上)

[私は彼がとても辛いと思う。]

上記の (10) における“认真”(真面目だ)と (11) における“痛苦”(辛い)は、両方とも絶対形容詞の範疇に入るが、主観的な評価を表す構文に当てはまるか否かという点で分か

れている。なぜなら、感情形容詞である“痛苦”（辛い）は、人間の感情を如実に反映し、話者の個人的な観点を表すことができず、客観的な属性を表す絶対形容詞であるのに対して、“认真”（真面目だ）は、人の主観的な評価を表す絶対形容詞であるからである。そこで、“我认为 NP 很+\_\_。”という個人的な観点を表す構造に入るか否かという方法により、人間の客観的な属性を表す感情形容詞か、人間の主観的な評価を表す絶対形容詞かの判別ができる。

最後に、判断基準の (4) に関しては、“暴躁”（短気だ）という形容詞と“高兴”（嬉しい）という形容詞が挙げられている。

(12) \*暴躁了三天（卢莹 2002: 7）

[\*三日間短気だった]

(13) 高兴了三天（同上）

[三日間喜んだ]

卢莹（2002）によれば、上記の (12) における“暴躁”（短気だ）と (13) における“高兴”（嬉しい）は、両方とも客観的属性を表す絶対形容詞となるが、静的なのか、動的なのかという点で分かれている。“暴躁”（短気だ）は、人の性格を表す形容詞である。性格というのは、一般的に人が生まれつき持っている感情や意志などの傾向であり、容易に変化したりするものではない。そのため、このような形容詞には、時間的起点や幅や終点がなく、均質的な時間構造を持っている。こういった形容詞の後ろには、時間幅を表す成分が基本取れない。

その一方で、“高兴”（嬉しい）は、一時的な感情状態を表すため、動的属性の強い形容詞に属する。こういった形容詞の後ろには、時間幅を表す成分が取れる。

このように、形容詞の後ろに時間幅を表す成分が取れるか否かという基準により、絶対形容詞として人間の客観的な属性を表す動的属性の強い感情形容詞か、客観的な属性を表す静的絶対形容詞／動的属性の弱い絶対形容詞かの判別ができる。

上述により、卢莹（2002）は、意味と形式の両面から中国語の感情形容詞を定義しているとわかる。これは、本研究の考察対象である感情語彙の選出に大きな示唆を与えるものだと言えよう。しかし、上記の判断基準の (4) において、“暴躁”（短気だ）のような性格を表す形容詞を、客観的な属性を持つ形容詞の範疇に入れていることには、議論の余地がまだある。

なぜなら、客観的な属性を持つか否かを検証する判断基準の (3) における構造に“暴躁”

(短気だ) を当てはめてみれば、非文にならないからである。つまり、“**我认为他的性格很暴躁**”という文は非文にならず、ごく自然な文になるからである。また、卢莹 (2002) は、感情形容詞の定義づけにとどまっており、感情形容詞の収集を行っていない。しかし、第2外国語教育の視点からすれば、学習者に役立つデータ収集が重要であるため、研究する余地はまだ残っていると考えられる。

### 2.2.2.2 赵春利 (2007)

赵春利 (2007) は感情形容詞の意味特徴について分析している。具体的には、以下の五つの特徴が提唱されている。

まず、第1に、[亲验性]が挙げられている。赵春利 (2007) によれば、感情形容詞は、主に主体の感情状態を描写し、その感情状態は、主体が自分自身の感覚器官による体験を通して得たものであるという。そこで、この内在的体験は、他人と共有することも、他人に複写されることもできない。これにより、みずから体験するという性質、つまり[亲验性]が感情形容詞の意味特徴の一つになる。また、統語的振る舞いから見れば、主体が自分自身の感情状態を表現している際に、一般的に、他人に否定されることができない(鈴木 2000 を参照)。赵春利 (2007) は、その結論に基づいて、感情形容詞と知能形容詞 (例えば、聰明 (賢い)、愚蠢 (愚かだ)) との比較を通じて、[亲验性]という意味特徴を裏付けている。

a. 我很高兴。——\*不, 你不高兴。

[私はとても嬉しい。——\*いいえ、あなたは嬉しい。]

b. 我很聪明。——不, 你不聪明。

[私はとても賢い。——いいえ、あなたは賢くない。]

(赵春利 2007: 125)

第2に、[自明性]が挙げられている。赵春利 (2007) によれば、感情は主体の内在する感覚器官による[自明性]を持つ心理的体験、つまり、それは、ある基準に基づいて測ることにより、得られるものではないと指摘する。そのため、主体の感情状態は、他人と相談したり、意見を求めたりする必要がない。この点については、評価形容詞 (例えば、漂亮 (綺麗だ)、丑陋 (醜い)) との比較からわかる。例えば、以下の例を示している。

a. \*我难过不难过？——\*你不难过。

[\*私は悲しいですか？——\*あなたは悲しくないです。]

b. 我漂亮不漂亮？——你很漂亮。

[私は綺麗ですか？——あなたはとても綺麗です。]

(赵春利 2007: 126)

第3に、[变动性]が挙げられている。赵春利 (2007) によれば、感情は動的な性質が強く、恒常性に欠け、そのため、主体の心理状態には、時間的な変動が存在するという。例えば、性格形容詞（例えば、开朗（朗らかだ）、倔强（強情だ）、内向（内向的だ）、外向（外向的だ））との比較により、感情形容詞には恒常性に欠けていることがあると理解しうる。

a. \*他是一個激动的人。

[\*彼は興奮する人だ。]

b. 他是一個开朗的人。

[彼は朗らかな人だ。]

(赵春利 2007: 126)

第4に、[有因性]が挙げられている。赵春利 (2007) によれば、感情も事態の一つである。主体は、ある人物あるいは事物によって感情体験が引き起こされたり、ある感情状態に置かれたりする。そのため、感情は、常に一定の因果の鎖にある。これは、「使役動詞（令/让/叫/使）+人+A」という構造によって検証することができる。感情形容詞は、一般的にこの構造に当てはまるが、評価形容詞は、一般的にこの構造に当てはまらない。例えば、以下の“高兴（嬉しい）”と“聪明（賢い）”との比較からわかる。

a. 这是件令人高兴的事情。

[これは喜ばしいことだ。]

b. \*这是件令人聪明的事情。

[\*これは人を賢くさせることだ。]

(赵春利 2007: 126)

第5に、[倾向性]が挙げられている。赵春利 (2007) によれば、この[倾向性]は、主体による主観的な感情の志向から由来しているという。つまり、ポジティブな志向性を持つ感情体験もあれば、ネガティブな志向性を持つ感情体験もある。例えば、以下のような例を列挙

している。

- a. ポジティブな志向性を持つ感情：得意、高兴、激动、快乐、乐观、满意、兴奋、幸福、愉快、自豪等
- b. ネガティブな志向性を持つ感情：悲哀、悲伤、悲痛、惭愧、烦躁、愤怒、后悔、焦急、紧张、沮丧、绝望、苦恼、难过、内疚、伤心、生气、失望、痛苦、痛心、忧伤等

(赵春利 2007: 126)

さらに、赵春利 (2007) は以上の五つの意味特徴を踏まえて、感情の定義を下記のように述べている。

情感是主体通过自身感官体验所感受到的由一定的人、事、物刺激而引发的具有某种倾向性的心理状态。

[感情は、主体が自分自身の感覺器官を通じて感じた一定の人、事、物の刺激により、引き起こされたある志向性を持つ心理状態である。] (同上)

このように、赵春利 (2007) は、感情形容詞の意味特徴を分析したうえで、感情の定義を行っている。

しかし、感情形容詞の機能については言及されていない。また、最後の意味特徴[倾向性]のところで、感情形容詞を選んだ基準については述べていない。例えば、ポジティブな志向性を持つ感情のところに“乐观”（樂觀的だ）という形容詞が挙げられているが、三つ目の意味特徴[变动性]があるか否かを判断する「他是一個+A+的+人」という構造を用いて検証してみれば、“他是一個乐观的人”という文は明らかに自然な文になる。そのため、“乐观”（樂觀的だ）という形容詞が感情形容詞なのか、开朗（朗らかだ）と同様に、性格形容詞なのかに関しては、まだ検討する必要がある。

### 2.2.2.3 孔兰若 (2014)

孔兰若 (2014) は、感情形容詞なのか否かを判断する方法について分析している。具体的には、下記の構造を用いて、感情形容詞を選出している。

- I a S 指人+很+\_\_\_\_\_。
- b S 指人+对+ O 体+很+\_\_\_\_\_。
- II \*S 指人+是+\_\_\_\_\_+的+人。
- III S 指人+\_\_\_\_\_+{着、了、起来}。
- IV S+使役动词（令/让/叫/使）+ O<sub>i</sub> 指人+感到/觉得+ Ø<sub>i</sub>+\_\_\_\_\_。
- V \*{身体部位、感官}+感到/觉得+ Ø<sub>i</sub>+\_\_\_\_\_。 (孔兰若 2014: 17-18)

孔兰若 (2014) によれば、構造 I を用いて心理動詞を排除することができる。“恨”(恨む) と “兴奋”(興奮する) という例が挙げられている。

- (14) a \*我很恨。/我对这件事很恨。

[私はとても恨んでいる。／私はこの事に対してとても恨んでいる。]

- b 我很兴奋。/我对这件事很兴奋。(孔兰若 2014: 18)

[私はとても興奮している。／私はこの事に対してとても興奮している。]

(14 a) からわかるように、“恨”(恨む) は構造 Ib に当てはまるが、構造 Ia に当てはまらない。そのため、“恨”(恨む) は、心理動詞である。

次に、構造 II を用いて性質形容詞を排除することができる。例えば、“悲观”(悲観的だ) と “兴奋”(興奮する) との比較が述べられている。

- (15) a 他是悲观的人。

[彼は悲観的な人だ。]

- b \*他是兴奋的人。(同上)

[\*彼は興奮する人だ。]

上記の例文により、“悲观”(悲観的だ) は構造 II に当てはまるため、感情形容詞になる資格がなくなると判断できる。それに対して、“兴奋”(興奮する) は構造 II に当てはまらないため、感情形容詞である可能性が残っている。

その次に、構造 III と IV に “兴奋”(興奮する) を当てはめて、二つの構造にも当てはまるという。下記の (16) と (17) を例示している。

(16) 他兴奋起来。(同上)

[彼は興奮し始める。]

(17) 这件事使他感到(他)很兴奋。(同上)

[この事は彼を興奮させている。]

構造 I から構造 IV までの検証により、“兴奋”(興奮する)を感情形容詞だと判断することができる。それ以外に、生理現象や感覚を表す形容詞は、構造 I から構造 IV までの条件も満たすのである。例えば、“饿”(空腹だ)を例として、検証している。

(18) a 他很饿。

[彼はとても空腹だ。]

b \*他是饿的人。

[\*彼はお腹を空かせている人だ。]

c 他饿了。

[彼はお腹が空いた。]

d 没吃饭使他感到(他)很饿。(同上)

[ご飯を食べなかつたことは彼にとても空腹を感じさせている。]

(18) からわかるように、構造 IV までの検証だけでは、生理現象や感覚を表す形容詞を排除することができない。そのため、構造 V が必要となってくる。構造 V に当てはまるものは、生理現象や感覚を表す形容詞であり、当てはまらないものは、感情形容詞である。例えば、感覚を表す形容詞“疼”(痛い)と、感情を表す形容詞“兴奋”(興奮する)を構造 V に当てはめて検証している。

(19) a 我的手感到很疼。

[私は手がとても痛いと感じている。]

b \*我的手感到很兴奋。(同上)

[\*私は手がとても興奮していると感じている。]

上記の例からわかるように、(19a) は、中国語の文として成立するのに対し、(19b) は成

立しない。そのため、I から V までの構造を用いて、感情形容詞か否かを検証しているのである。

孔兰若 (2014) は、前述のような感情形容詞の判断方法を提唱しただけではなく、239 個の感情形容詞を含む語彙表もまとめている<sup>8</sup>。

- A 哀愁 哀伤 哀痛 哀怨 安然 安慰 安心 安逸 黯然 懊悔 懊恼 懊丧
- B 败兴 抱歉 卑怯 悲哀 悲怆 悲愤 悲苦 悲凉 悲戚 悲切 悲伤 悲恸 悲痛 憋气 憋屈  
憋闷 别扭 不安<sub>1</sub> 不安<sub>2</sub> 不快 不满 不平 不振
- C 忏愧<sub>1</sub> 忏愧<sub>2</sub> 惨痛 诧异 敞亮 怅然 怅惘 畅快 沉痛<sub>1</sub> 沉痛<sub>2</sub> 沉重 沉郁 称心 惆怅  
愁苦 愁闷 踌躇
- D 淡然 得意 低沉 低落
- E 恶心
- F 烦<sub>1</sub> 烦<sub>2</sub> 烦乱 烦闷 烦恼 烦躁 反感 愤慨 愤恨 愤激 愤懑 愤怒 愤然 疯狂<sub>2</sub>
- G 尴尬 感动 感伤 高兴 孤单<sub>2</sub> 孤独<sub>2</sub> 孤寂
- H 害臊 害羞<sub>2</sub> 寒心 好受 后悔 欢畅 欢乐 欢喜 欢欣 欢愉 欢悦 慌<sub>1</sub> 慌<sub>2</sub> 慌乱 慌张  
惶惑 惶恐 灰心
- J 激动 激奋 激愤 急 急躁<sub>2</sub> 寂寞<sub>2</sub> 骄傲<sub>1</sub> 骄傲<sub>2</sub> 焦急 焦虑 焦躁 焦灼 紧张 惊诧 惊  
愕 惊骇 惊慌 惊悸 惊惧 惊惶 惊恐 惊奇 惊喜 惊讶 惊疑 惊异 窘 窘迫 局促 沮  
丧 绝望
- K 开心 亢奋 可心 空虚 恐怖 恐慌 恐惧 苦 苦楚 苦闷 苦恼 苦涩 苦痛 快活 快乐  
快慰 快意 宽慰 狂怒 狂热 狂喜 愧疚 困惑 困窘
- L 乱 落莫
- M 闷 迷茫 迷惘
- N 恼火 耐烦 难熬 难过 难堪 难受 恼怒 内疚 宁静
- P 平静
- Q 凄惨 凄楚 凄苦 凄凉 凄然 凄婉 气愤 气恼 气馁 愧疚 惬意
- R 如意
- S 扫兴 伤感 伤心 生气 失望<sub>1</sub> 失望<sub>2</sub> 失意 舒畅 舒服 舒心 顺心 酸楚
- T 踏实<sub>2</sub> 泰然 坦然 志忑 甜蜜 痛楚 痛快 痛苦 痛切 痛心
- W 为难 委屈 窝心 窝囊

X 喜兴 喜悦 心烦 心寒 心慌 心急 心焦 心静 心酸 心虚<sub>1</sub> 心虚<sub>2</sub> 欣然 欣慰 欣喜 兴  
 奋 幸福<sub>2</sub> 羞耻 羞愧 羞怯  
 Y 忧愁 忧虑 忧伤 悠然 犹豫<sub>2</sub> 遗憾 愉快 愉悦 郁闷  
 Z 着慌 着急 振奋 震惊 自得 自豪

(孔兰若 2014: 59-60)

孔兰若 (2014) における感情形容詞の判断方法および感情形容詞語彙表は、現代中国語の感情形容詞の研究に大きな一石を投じたと言っても過言ではないであろう。

しかし、疑問に思われる点がまだ存在する。例えば、感情形容詞か否かを検証するための構造 I において、すべての感情形容詞が構造 Ib に当てはまるとは限らない。一つの例を挙げれば、孔兰若 (2014) の感情形容詞語彙表における K 行の “开心” (楽しい／嬉しい) は構造 Ib に当てはまることが困難である。つまり、“开心” (楽しい／嬉しい) は、“对” で目的語を導く構造に当てはまらない。したがって、“**我对这件事很开心**” という文は、言語生活において基本存在しない。

また、孔兰若 (2014) は、大量のデータを含む感情形容詞語彙表を得ているが、具体的な選出方法は言及されていない。その語彙表における “悲切” (痛ましい) や “凄然” (悲しい) といった語彙が使用頻度の低い文語に属するため、このような語彙を研究対象とすべきか否かは、検討する必要がある。

### 2.2.3 本研究の立場

上記の先行研究からわかるように、感情語彙について、これまでの研究は、動詞と形容詞に分けて行ったものである。

しかし、実際には、動詞と形容詞の機能を両方兼ねている感情語彙が多数見られる。例えば、“感动” (感動する) という感情語彙を例に挙げると、下記のような二種類の用いられ方が見られる。

(20) a. 我被你感动了！ (動詞的用法)

[私はあなたに感動した！]

b. 我好感动！ (形容詞的用法)

[私はとても感動した！]

(20a) において、“感动”は受身を表す“被”構文に用いられており、動詞的な機能を果たしている。一方で、(20b) において、程度副詞である“好”を“感动”的前に取っており、形容詞的な機能を果たしている。

且つ、本研究は、考察対象が感情語彙を述語とする構文であり、純粋な語彙研究ではないため、品詞分類の問題を追究する必要がないと考える。そのため、本研究では、感情動詞や感情形容詞という用語を使用せずに、感情述詞という用語を使用する。

また、感情動詞や感情形容詞の判断方法に関しては、上述したように研究者によって基準が異なるということがうかがえる。言い換えれば、感情語彙を定義するのは、決して容易ではないということであろう。そして、先行研究の多くは、形式の角度から感情語彙の判断基準を探ろうとしている。もちろん、それが重要であることは否めないが、本研究は、意味の角度から感情語彙を定義するのがより重要だと考える。とは言うものの、本研究は、明確な定義を与えることができない。なぜなら、Shaver, Wu & Schwartz (1992) が述べたように、広く受け入れられる感情の定義は未だに存在しないからである。

Despite an enormous increase in research on emotions in recent years, there is still no widely accepted definition of *emotion*. As Fehr and Russell (1984, p. 464) observed, “Everyone knows what an emotion is, until asked to give a definition.” Despite this lack of consensus, subjects in Fehr and Russell’s studies (and in subsequent studies conducted in other countries; see references in Shaver et al., 1987) largely agreed on which of a long list of psychological states are, and which are not, good examples of the category.

[近年、感情に関する研究が盛んに行われているにもかかわらず、広く受け入れられる感情の定義は未だに存在しない。Fehr and Russell (1984, p. 464) が観察したように、「定義を与えるように頼まれるまでは、誰でも感情とは何かを知っている。」この合意の欠如にも関わらず、Fehr and Russell の研究（および他の国々で行われたその後の研究；Shaver et al., 1987 を参照）対象は、心理状態に関する長いリストの中で、どれがそのカテゴリーの良い例なのか、どれがそうでないのかについて、大体合意している。]

Shaver, Wu & Schwartz (1992:177)

上記の論述からわかるように、感情の定義を与えるのは難しいものの、母語話者の間には、どのような語彙が典型的な感情を表せるのかについて、大体合意している。

以上を踏まえて、本研究は内省という方法によって感情述詞を収集することとする。また、既述したように、本研究は、中国語教育への応用をも目的とするため、収集源を《新汉语水平考试大纲》における語彙リストとする。その結果、96語の感情述詞が得られた。

その上、筆者自身の内省判断により、《新汉语水平考试大纲》に収録されていない使用頻度が比較的高い感情述詞 12 語も追加した。

したがって、本研究で扱う感情述詞は、下記の表 4 に示した 108 語とする。

【表 4】本研究で扱う感情述詞リスト

新 汉 语 水 平 考 试 大 纲	一級	爱、高兴、喜欢
	二級	快乐
	三級	担心、放心、关心、害怕、难过、生气、着急
	四級	抱歉、吃惊、烦恼、感动、害羞、后悔、激动、骄傲、紧张、开心、可怜、可惜、伤心、失望、讨厌、同情、羡慕、兴奋、幸福、尊重
	五級	爱惜、不安、惭愧、发愁、恨、怀念、慌张、灰心、寂寞、可怕、满足、佩服、热爱、荣幸、疼爱、痛苦、痛快、委屈、无奈、吓、想念、遗憾、自豪、尊敬
	六級	爱戴、悲哀、崇拜、崇敬、恶心、反感、愤怒、尴尬、甘心、感慨、孤独、关怀、光荣、欢乐、悔恨、急躁、嫉妒、焦急、惊奇、惊讶、沮丧、绝望、可恶、空虚、恐惧、留恋、茫然、藐视、蔑视、难堪、恼火、思念、惋惜、嫌、心疼、欣慰、着迷、震撼、震惊、着想、自满
	筆者内省	愁、烦、烦躁、急、惊、乐、满意、怕、气、嫌弃、心痛、郁闷

### 2.3 構文面からの先行研究

以上、語彙面からの先行研究を整理してきた。次に、本研究の焦点である構文面に関する先行研究を整理する。ところが、構文論の観点から中国語の感情表現を研究する先行研究はまだ少ないのが現状である。

以下、中国語の感情表現をめぐる構文に関連する先行研究を、巨視的視点からの 3 件と、微視的視点からの 3 件とに分けて整理し、本研究の立場を示す。

### 2.3.1 巨視的視点

#### 2.3.1.1 周有斌、邵敬敏 (1993)

周有斌、邵敬敏 (1993) は、現代中国語の心理動詞およびその構文について言及している。これは、感情表現をめぐる構文研究と直接関連しないが、心理動詞が感情動詞の一部の上位カテゴリーであるため、ここで紹介しておくこととする。

周有斌、邵敬敏 (1993) によれば、以下の形式に入る動詞であれば、それが心理動詞だと見なす。

“主（人）+{很+動詞}+宾語”

「主語（人）+{很+動詞}+目的語」 (周有斌、邵敬敏 1993: 32)

この判断基準により、孟琮ら編の《動詞用法词典》に基づいて、周有斌、邵敬敏 (1993) は、以下の 73 個の心理動詞を得ている。

【表 5】周有斌、邵敬敏 (1993) の心理動詞表

爱(愛する)	忌妒(嫉妬する)	熟悉(熟知する)	信任(信頼する)
爱好(愛好する)	坚持(堅持する)	贪(貪る)	需要(必要とする)
爱护(愛護する)	了解(知る)	讨厌(嫌う)	压制(抑圧する)
爱惜(惜しむ)	留心(心に留める)	疼(可愛がる)	怨(責める)
担心(心配する)	埋怨(咎める)	提倡(提唱する)	赞成(賛成する)
懂(わかる)	满意(満足する)	体谅(察する)	拥护(擁護する)
惦记(気にかける)	迷信(迷信する)	体贴(思いやる)	赞美(賛美する)
反对(反対する)	明白(理解する)	听从(従う)	照顾(配慮する)
防备(備える)	怕(恐れる)	同情(同情する)	支持(支持する)
服从(服従する)	佩服(敬服する)	同意(同意する)	指望(期待する)
感谢(感謝する)	气(怒る)	希望(希望する)	重视(重視する)
害怕(怖がる)	迁就(妥協する)	喜欢(好む)	注意(注意する)
恨(恨む)	强调(強調する)	嫌(嫌がる)	尊敬(尊敬する)

后悔(後悔する)	轻视(軽視する)	羨慕(羨む)	尊重(尊重する)
忽视(無視する)	热爱(熱愛する)	相信(信用する)	关心(気にかける)
怀疑(疑う)	伤心(悲しむ)	想(思う)	讲究(こだわる)
怀念(懷かしむ)	舍得(惜しまない)	想念(懷かしがる)	
欢迎(歓迎する)	适合(似合う)	欣赏(気に入る)	
计较(気にする)	适应(適応する)	信(信じる)	

上記の心理動詞の用法に基づいて、周有斌、邵敬敏 (1993) は、心理動詞構文を以下の四種類に分けている。

1. 主語 (人) + 很 + 心理動詞 + 目的語

祥子很喜欢这个事。(《骆驼祥子》)

[祥子はこのことがとても好きだ。]

2. 主語 (人) + 对 + O + 很 + 心理動詞

大家对我很关心。(《动词用法词典》)

[皆は私のことをとても気にかけてくれている。]

3. 主語 (人) + 心理動詞 + 目的語

他怕大家看他的赤身。(《骆驼祥子》)

[彼は皆が彼の裸を見ることを怖がっている。]

4. 主語 (人) + 比 + O + 更 + 心理動詞 + 目的語

我比他更喜欢吃大米饭!

[私は彼よりもご飯を食べることがもっと好きだ。] (周有斌、邵敬敏 1993: 36)

表 5 の心理動詞表から、感情にまつわる心理動詞は大半を占めると判断する。そのため、上記の四種類の構文の一部も本研究の考察対象に入ると推測できよう。

しかし、構文 1 と構文 3 を異なる構文だと扱っても良いか否かは、疑問に思われる。なぜなら、上記の例文を見る限り、“很”が付いても付かなくても文として成り立つからである。

したがって、以上の分析を踏まえて、本研究では、構文 1 と構文 3 を区別せず、同じ構文だと見なすこととする。

### 2.3.1.2 潘震 (2014)

潘震 (2014) は、中国語の感情表現に関する構文を大きく二種類に分けている。具体的には、下記のようになる。

- 1) 情感本体構式 该类构式本身已包含情感词汇, 如情感名词、情感动词、情感形容等等。  
情感词汇的意义基本上决定了该构式的情感义。
- 2) 情感固化構式 该类构式经历了数次演变, 已经词汇化或语法化, 无法从其内部成分推导出其构式情感义; 或者说构式内并无情感词汇, 而是由整体构式表达特定的情感, 或赋予构式内部词汇相应的情感色彩。
  - [1) 感情本体構文 この類の構文自身には、すでに感情語彙が含まれている。例えば、感情名詞、感情動詞、感情形容詞などがある。感情語彙の意味は、基本的に構文の感情の意味を規定している。
  - 2) 感情固定化構文 この類の構文は、数回の変化を経て、すでに語彙化あるいは文法化されており、内部成分から構文の感情の意味を推定できなくなったものか、または、構文内部に感情語彙が含まれておらず、構文全体により特定の感情が表されたり、構文内部の語彙に感情の意味合いが付与されたりするものである。]

(潘震 2014: 18)

さらに、1) の感情本体構文は、感情名詞本体構文や感情動詞本体構文や感情形容詞本体構文という三種類に分けられている。そのうち、感情名詞本体構文については、呼称詞感情構文や「程度副詞+名詞」構文や「一+量詞+感情名詞」構文を下位分類としている。それぞれの構文には、“令尊”(令尊)、“甚是贞节”(とても貞節だ)、“一肚子气恼”(腹いっぱいの怒り) といった例が挙げられている。

次に、感情動詞本体構文は、「感情動詞+得+結果動詞」構文や「V+个+VP」構文、動詞の重ね型構文や“把”構文を下位分類としている。それぞれの構文には、“哭得出声不得”(声が出ないほど泣く)、“哭个死去活来”(身も世もないほど泣く)、“哭哭喊喊”(泣いたり叫んだりする)、“把儿子痛骂一顿”(息子をこっぴどく罵る) といった例が挙げられている。

最後に、感情形容詞本体構文については、「N1+感情形容詞+得+N2+V」構文や「主語+感情形容詞+目的語」構文、形容詞の重ね型構文や「(主語) +形容詞+死+ (目的語)」

構文を下位分類としている。それぞれの構文には、“急得他手忙脚乱”（てんてこ舞いするほど焦る）、“自慚失言”（自分の失言を恥ずかしく思う）、“冷冷清清地坐在一边”（ひっそりと隅に座る）、“休罔死我也”（私を死ぬほど鬱陶しい気分にさせないでください）といった例が挙げられている。

また、2) の感情固定化構文は、「都是+NP/VP」構文や「你看你」構文、「你那 X」構文や「不 A 不 B」構文、さらに「愛 V 不 V」構文などの例が挙げられている。これらの構文には、いずれも感情語彙が入っておらず、特定の感情が付与されている。例えば、「不 A 不 B」構文には、一般的に皮肉や軽蔑といった感情が入っている。“不三不四”（ろくでもない）を例とすると、“三”と“四”自体は感情の意味がなく、単なる数字であるが、「不 A 不 B」構文に入つてはじめて軽蔑の感情が生まれる。

上述からわかるように、潘震（2014）は感情を非常に広い意味で捉えている。例えば、感情動詞本体構文を述べる際に、“哭”（泣く）という動詞を感情動詞としている。一方、先行研究の多くは、“哭”（泣く）、“笑”（笑う）といった動詞を感情語彙として扱っていない。本研究もこのような動詞を扱わない立場を取る。また、前述したように、本研究は、2) の感情固定化構文を考察対象としない。

### 2.3.1.3 木村（2017）

木村（2017）は、構文論的な観点から、中国語の感情表現を以下の三つの型の構文に当てはめることができるという。

A型：SVOの語順で並び、〈刺激体〉がOの位置に置かれるかたちの構文

B型：〈刺激体〉が前置詞に導かれるかたちの構文

C型：〈刺激体〉が文に取り込めないかたちの構文 (木村 2017: 154)

また、木村（2017）は、各タイプの感情詞の意味および構文機能をも分析している。その結論を下記のように整理しておく。

#### 【A型の構文】

感情詞の意味特徴：

「好惡・畏怖」

感情詞の例：

“喜欢” [好む]、“讨厌” [嫌う]、“想” [恋い慕う]、“怕” [恐れる]、“恨” [恨む]

構文の使用例：

他不喜欢足球。[彼はサッカーが好きではない。]

不抽烟的一般讨厌烟味儿。[タバコを吸わない人は一般にタバコの匂いを嫌う。]

構文の機能：

心の営みであるが、対他的な活動の一種、すなわち、対他的な心的振る舞いとして捉えられているものもある。

### 【B型の構文】

感情詞の意味特徴：

「失望・驚嘆」（〈刺激体〉が“对”で導かれる）

「焦燥・不安」（〈刺激体〉が“为”で導かれる）

感情詞の例：

「失望・驚嘆」

“失望” [がっかりする; 落胆する]、“吃惊” [びっくりする]、

“惊讶” [驚く]、“灰心” [気落ちする]

「焦燥・不安」

“焦急” [苛立つ]、“不安” [不安である]、

“难过” [つらい]、“伤心” [悲しい]

構文の使用例：

「失望・驚嘆」

我爸爸对国家队的战绩十分失望。

[父は代表チームの戦績にずいぶんがっかりしている。]

「焦燥・不安」

她为这种情况很焦急。

[彼女はこの状況にとても苛立っている。]

構文の機能：

「失望・驚嘆」

〈経験者〉がある対象に向き合い、それに対してなんらかの心理的反応を示すものと

して捉えられる。(active)

「焦燥・不安」

〈経験者〉がある存在のためになんらかの心理状態に置かれているものとして捉えられる。(passive)

### 【A型とB型の構文にまたがる構文】

感情詞の意味特徴：

「満足・羨望」

感情詞の例：

“満意”[満足する]、“羨慕”[羨む]、“感激”[ありがたく思う]、

“后悔”[悔やむ]、“担心”[(心配で)気に掛かる]、

“怀念”[懐かしむ]、“膩烦”[飽きる; うんざりする]

構文の使用例：

他很滿意你的回答。

[彼はあなたの回答にとても満足している。]

他对你的回答十分满意。

[彼はあなたの回答に対して大いに満足している。]

構文の機能：

他者に向けての活動的な体験として捉え得る側面と、内向きの非対格的な体験として捉え得る側面の両方が具わっている。

### 【C型の構文】

感情詞の意味特徴：

「愉悦・煩憂」

感情詞の例：

“高兴”[うれしい; 機嫌がいい; 喜ぶ]、“痛快”[胸がすく; 気持ちが晴れ晴れする]、

“愉快”[楽しい]、“轻松”[気持ちが軽やかである; リラックスしている]、

“烦躁”[煩わしい]、“忧闷”[(心配で)気がふさぐ]

構文の使用例：

他很高兴。

[彼はとてもうれしい。]

他心里很高兴。

[彼は(心が)とてもうれしい。]

構文の機能：

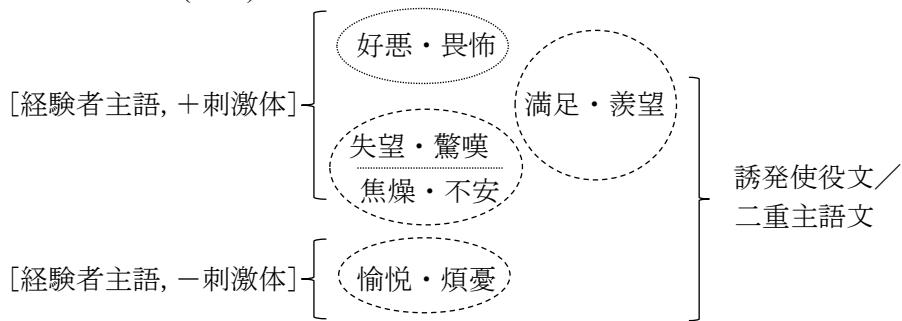
外界の事物の属性を表す一般の形容詞の特徴と何ら変わるものではない。

このように、感情詞および、それらが述語になって構成される文表現は、A型とB型とA、B型とC型との四つのタイプに分けられる。

そのうち、〈刺激体〉が前置詞で導かれるB型は、〈刺激体〉が“对”で導かれるタイプと〈刺激体〉が“为”で導かれるタイプとの2類に分類されている。

そこで、五つのタイプそれぞれの構造的な対立と相互の関係を、木村(2017)は、以下の図で示している。

【図4】木村(2017)における感情詞およびその構文間の連関図



上述により、木村(2017)は、中国語の感情表現にまつわる構文を大きくA、B、Cの三種類に分けるのである。

本研究は、基本的にその分類法に賛成する。しかし、木村(2017)は、構文的な形に着目し、感情表現のカテゴライズの状況を考察したものにとどまっており、感情表現の構文内の各成分についての考察に踏み込んでいない。

### 2.3.2 微視的視点

#### 2.3.2.1 鄧守信(1984)

鄧守信(1984)は、他動性の観点から感情表現の構文論的考察を行っている。以下の例が挙げられている。

- (21) a. 我很疼小孩儿。(私は子供をとてもかわいがっている。)  
 b. 他很喜欢跑车。(彼はスポーツカーがとても好きである。)  
 c. 他很怕明天的考试。(彼は明日の試験をとても怖がっている。)  
 d. 我很后悔这件事。(私はこの事をとても後悔している。) (鄧守信 1984: 177-178)

(21) の四つの例文においては、同じ構文が用いられているが、感情を表す状態動詞の間には、相違点が見受けられる。鄧守信 (1984) は、(21a) における“疼”(かわいがる) と (21b) における“喜欢”(好きだ) という動詞を“主动状态”(主動的狀態) と呼び、(21c) における“怕”(怖がる) と (21d) における“后悔”(後悔する) という動詞を“被动状态”(受動的狀態) と呼んでいる。

また、鄧守信 (1984) は、主動的状態を被動作主による自発的な感情だと解釈し、それに対して、受動的状態を外部要因によって引き起こされた感情だと解釈している。その記述は、以下の例文によって裏付けられている。

- (22) a. \*小孩儿叫他很疼。(\*子供は彼をとてもかわいがらせている。)  
 b. \*跑车叫他很喜欢。(\*スポーツカーは彼をとても好きにさせている。)  
 c. 明天的考试叫他很害怕。(明日の試験は彼をとても怖がらせている。)  
 d. 这件事叫我很后悔。(この事は私をとても後悔させている。) (鄧守信 1984: 178)

(22a) と (22b) が非文になるということは、主動的状態である (21a) と (21b) における“小孩儿”(子供) と“跑车”(スポーツカー) が「惹起者」と見なせないことを示している。一方、(22c) と (22d) が成立する。受動的状態である (21c) と (21d) における“明天的考试”(明日の試験) と“这件事”(この事) は目的語でありながら、「惹起者」としての働きも、果たしている。その他に、鄧守信 (1984) は「惹起者」としてしか現れない動詞も存在すると指摘している。例えば、以下の例文が挙げられている。

- (23) a. 我的成绩叫他很失望。(私の成績は彼をとても失望させている。)  
 b. \*他很失望我的成绩。(\*彼は私の成績をとても失望している。)  
 c. \*他很骄傲他的成绩。(彼は彼の成績をとても自慢している。) (鄧守信 1984: 179)

上記の例文からわかるように、中国語の“失望”（失望する）と“骄傲”（自慢する）は、他動詞として使うことができない。

ここで、興味深いことに、日本語の場合、失望するという動詞は、他動詞として使えないのに対し、自慢するという動詞は、他動詞として用いることができる。

さらに、鄧守信（1984）は非文である（23b）と（23c）の修正法も述べている。以下のような文である。

- (24) a. 他对我的成绩很失望。（彼は私の成績にとても失望している。）  
b. 他对他的成绩很骄傲。（\*彼は彼の成績にとても自慢している。） (同上)

上記の修正法から、“失望”（失望する）と“骄傲”（自慢する）といった動詞は、“介詞”（前置詞）で導くことが必要だとわかる。このように、鄧守信（1984）は感情動詞の他動性によって、当てはまる構文が異なると指摘している。

ところが、具体的にどのような動詞が他動詞文に当てはまるかについては、言及されていない。また、（22d）における“我很后悔这件事”（私はこの事をとても後悔している）と（22d）における“他对他的成绩很骄傲”（\*彼は彼の成績にとても自慢している）について、鄧守信（1984）は、自然な文だとしているが、筆者の内省および他の母語話者への聞き取り調査によれば、自然体と感じにくいとの結果がある<sup>9</sup>。

### 2.3.2.2 大河内（1997）

大河内（1997）は、中国語の感情表現と使役構文について言及している。例えば、以下のような例文が挙げられ、日本語訳が添えられている。

- (25) 你带病坚持辛勤工作的情况，使我非常感动和钦佩。

[あなたが病をおして一生けん命仕事をされている様子に私は大変感動し感心しております。]

- (26) 每次都看到日新月异的发展，真使人感叹不已。

[日進月歩の発展を目にする本当に感嘆させられます。]

- (27) 艾滋病如今已成了地球上令人头痛的一大问题。

[エイズは今ではすでに地球的な厄介な問題になっている。] (大河内 1997: 149)

大河内 (1997) は、日本語と比較しながら、上記の例を次のように分析している。

これらの例はいずれも何かを見て感動したり心配したりすることを述べているが、直接に感動シタ、感嘆シタ、頭ガ痛イと言わないで、“使、令”の使役構文を介して、私ヲ感動サセタ、人ヲ感嘆サセル、人ニ頭ヲ痛メサセルのように表現している。

(同上)

また、大河内 (1997) は、上述の鄧守信 (1984) が指摘する例 (21) における“疼”(かわいがる) と“喜欢”(好きだ)、“怕”(怖がる) と“后悔”(後悔する) という動詞について、異なる知見を述べている。つまり、“怕”(怖がる) と“后悔”(後悔する) のような動詞は、感情動詞と考えるべきであり、また、一方で、“疼”(かわいがる) と“喜欢”(好きだ) のような動詞は、心理活動動詞であって、感情動詞ではないと考えるべきである。なぜなら、それぞれの類の後に取る目的語の性格が大きく違うからだと述べている。

つまり、使役構文が成立する (21c) と (21d) の“明天的考试”(明日の試験) と“这件事”(この事) は、目的語の位置に置かれていてもなお「惹起者」としての性質があると考えられる。言い換えれば、そのような目的語は、彼や私に働きかけて、彼や私の心に発生させたものという性格があり、彼と私は、主語の位置にあっても、積極的な働きかけはしていないということである。

しかし、使役構文が成立しない (21a) と (21b) の“小孩儿”(子供) と“跑车”(スポーツカー) は単に私や彼が心を寄せる対象にすぎず、私や彼の心情の「惹起者」になっていないということである。

上述から、大河内 (1997) は目的語の性質を、感情動詞だと判断する重要な要素だとしていることがうかがえる。それは従来の研究と異なり、新たな視点を提供したと言っても過言ではないであろう。

しかし、目的語の意味だけで、「惹起者」になれるか否かを判断するのは、困難な場合も存在する。例えば、大河内 (1997) は“小孩儿”(子供) が「惹起者」にならないとしているが、感情動詞を変えれば、「惹起者」になれる場合もある。下記の例がそうである。

(28) a. 我很讨厌小孩儿。((21a) による改編)

[彼は子供が嫌いである。]

b. 小孩儿叫我很讨厌。((22a) による改編)

[子供は私を嫌いにさせている。]

上記の例から、目的語が「惹起者」になれるか否かについては、感情動詞の性質も考慮に入れるべきだとわかる。また、本研究は、“疼”(かわいがる)と“喜欢”(好きだ)のような動詞を感情動詞から排除しないこととする。

なぜなら、「惹起者」の性質には程度の差があり、「惹起者」であると「惹起者」ではないという二つのカテゴリーに分けることができないからである。例えば、“我喜欢你”(あなたが好きである)という文においても、“你”(あなた)という目的語は「惹起者」の働きを全く果たしていないとは言えないであろう。

### 2.3.2.3 古川 (2003)

古川 (2003) は、感情という用語を使用せず、“感受”(感受)という用語を使用し、“感受谓语句”(感受述語文)の構文的特徴を分析している。とりわけ、“叫/让/使/令”と“为”との間のボイスの変換について詳細に論じられている。例えば、下記の例が挙げられている。

(29) 这个好消息叫我们感到很高兴。(この朗報は私たちを喜ばせている。)

(30) 我们为这个好消息感到很高兴。(私たちはこの朗報に喜んでいる。)

(古川 2003: 31)

古川 (2003) によれば、上記の例における“感到很高兴”(嬉しく思う)は、“感受谓语”(感情の述語)であり、“这个好消息”(この朗報)は、“感受起因”(感情の原因)であり、“我们”(私たち)は、“感受主体”(感情の主体)である。

上記の二つの例を比較すれば、(29) は、原因が主語になっており、(30) は、主体が主語になっていることがわかる。

そのため、古川 (2003) は、(29) のような“叫”が用いられる文を“{感受起因}主题句”(感情の原因)主题文と呼び、(30) のような“为”が用いられる文を“{感受主体}主题

句”（{感情の主体} 主題文）と呼んでいる。さらに、この二種類の構文は下記のように対称関係を成していると主張している。

“叫”字句句式：感受起因+叫+感受主体+感受谓语

“为”字句句式：感受主体+为+感受起因+感受谓语

（同上）

また、古川（2003）は、“人”（人）を使役感受述語文における主体に取ることが最もよく見られるという現象を指摘している。

さらに、古川（2003）は、主体の後ろに一般的に 2 音節の感受述語を取ることによって、四字構造が形成されることも言及している。その例として、“叫”あるいは“令”で始まる例を示している。

叫人喜欢、叫人难忘、叫人喝采、叫人迷惑、叫人腻味、叫人向往、叫人沮丧、叫人烦恼、叫人动心、叫人着急、叫人兴奋、叫人不安、叫人窒息、叫人悔改、叫人揪心、叫人难解、叫人难受、叫人难过、叫人为难、叫人胆寒、叫人恶心，等。

令人陶醉、令人满意、令人向往、令人不安、令人羡慕、令人渴慕、令人恐怖、令人遗憾、令人愕然、令人迷惑、令人困惑、令人期待、令人关注、令人费解、令人瞩目、令人侧目、令人心乱、令人心惊、令人心寒、令人心碎、令人心动、令人揪心、令人忧心、令人生厌、令人讨厌、令人厌烦、令人尴尬、令人发怵、令人发毛、令人扼腕、令人敬畏、令人起敬、令人无奈 令人气愤、令人怀疑、令人质疑、令人深思、令人悲哀、令人悲痛、令人烦恼、令人骄傲、令人高兴、令人喜爱、令人难过、令人欢欣鼓舞、令人望洋兴叹、令人想入非非、令人爱不释手、 令人胆战心惊、令人无法忍受、令人无法想象，等

（古川 2003: 34）

その上、古川（2003）は、使役感受述語文を下記のように「感情の原因+感情の述語」構文に置き換えることができると指摘している。具体的には、下記の 3 組の例が挙げられている。

- (31) 这样的事真叫人生气。 → 这样的事真气人。  
 [このような事は本当に腹を立てさせる。] [このような事は本当に腹立たしい。]
- (32) 刚才的声音使人感到很害怕。 → 刚才的声音很怕人。  
 [さっきの音はとても人を怖く感じさせる。] [さっきの音はとても怖い。]
- (33) 自然灾害让人感到很害怕。 → 自然灾害很可怕。  
 [自然灾害はとても人を怖く感じさせる。] [自然灾害はとても恐ろしい。]  
 (同上)

上記の現象を踏まえて、古川 (2003) は、動詞句である使役感受成分 V を “V 人” あるいは “可 V” という形容詞に変換できると結論付け、それぞれには数多くの実例を挙げている。

“V 人” 型には、“怕人” (怖い)、“动人” (感動する)、“惊人” (驚く)、“吓人” (怖い)、“迷人” (人を魅了する)、“累人” (疲れる)、“醉人” (うつとりする)、“恼人” (恼ましい)、“宜人” (好ましい)、“恶心人” (胸くそが悪い) といった例がある。

一方、“可 V” 型には、“可恶” (憎らしい)、“可怕” (恐ろしい)、“可耻” (恥ずかしい)、“可佩” (感心する)、“可憎” (忌々しい)、“可怜” (かわいそうだ)、“可疑” (疑わしい)、“可惜” (惜しい)、“可喜” (喜ばしい)、“可笑” (おかしい) といった例がある。

上述からわかるように、古川 (2003) は、“叫” などが用いられる使役感受述語文と “为” が用いられる感受述語文との変換および使役感受述語動詞句と “V 人” あるいは “可 V” という形容詞との変換について詳細に論じている。

しかし、使役感受述語文と置き換えられる構文は “为” 構文だけでなく、“对” 構文なども存在する。例えば、下記の例である。

- (34) a. 这个坏消息真让我们感到失望。(この悲報は本当に私たちを失望させている。)  
 b. 我们真对这个坏消息感到失望。(私たちは本当にこの悲報に失望している。)

((29)、(30) による改編)

上記の例から、主体が主語になる構文の場合、“为” という前置詞以外に、“对” といった他の前置詞も存在するとわかる。したがって、これについてまだ研究の余地が残っていると言えよう。

### 2.3.3 本研究の立場

これまで、巨視的視点と微視的視点に分けて、中国語の感情表現をめぐる構文についての先行研究を整理した。巨視的視点からの研究においては、研究者によってカテゴライズされた構文のタイプが異なる。一方、微視的視点からの研究においては、使役構文に重点があり、他の構文に言及されない傾向がある。

本研究では、このような先行研究を踏まえ、中国語教育への応用も視野に入れて、構文としては、下記の3種類の構文を研究対象とし、感情表現をめぐる構文を感情構文と呼ぶ<sup>10</sup>。

#### i SVO型感情構文

#### ii SPOV型感情構文

#### iii SV型感情構文

i の SVO型感情構文とは、〈感情主〉<sup>11</sup>と〈刺激体〉<sup>12</sup>が感情述詞によって結び付けられるものである。また、主語の位置に〈感情主〉が付くのか、〈刺激体〉が付くのかについては、感情述詞の性質によって決まる。それぞれに一つずつ例を挙げれば、下記の例がある。

(35) a. 我喜欢你。 (作例)

[私はあなたが好きだ。]

b. 你气死我了。 (作例)

[あなたは私をひどく怒らせた。]

ii の SPOV型感情構文とは、〈感情主〉と〈刺激体〉が前置詞であるPによって結び付けられており、感情述詞が文末に置かれるというものである。また、主語の位置に〈感情主〉が付くのか、〈刺激体〉が付くのかについては、前置詞と感情述詞の性質によって決まる。

(36) a. 我对你很失望。 (作例)

[私はあなたに失望している。]

b. 你把我气死了。 (作例)

[あなたは私にひどく腹を立たせた。]

iiiのSV型感情構文とは、SVの語順で並び、〈感情主〉と〈刺激体〉のどちらか一方が文中に現れるものである。また、主語の位置に〈感情主〉が付くのか、〈刺激体〉が付くのかについては、感情述詞の性質によって決まる。

(37) a. (我) 好开心! (作例)

[嬉しつ!]

b. 地震好可怕! (作例)

[地震ってこわいなあ!]

以上を踏まえて、本研究で対象とする構文タイプを下記の表にまとめる。

【表6】本研究で扱う現代中国語の感情構文タイプ

i SVO型感情構文	〈感情主〉 + 感情述詞 + 〈刺激体〉
	〈刺激体〉 + 感情述詞 + 〈感情主〉
ii SPOV型感情構文	〈感情主〉 + 前置詞 + 〈刺激体〉 + 感情述詞
	〈刺激体〉 + 前置詞 + 〈感情主〉 + 感情述詞
iii SV型感情構文	〈感情主〉 + 感情述詞
	〈刺激体〉 + 感情述詞

<sup>1</sup> ルソー（増田真訳）『言語起源論一旋律と音楽的模様について』（東京：岩波書店, 2016）による。底本は *Oeuvres complètes, sous la direction de Bernard Gagnebin et Marcel Raymond, Bibliothèque de la Pléiade, 5 vol., Gallimard, 1959-1995* である。

<sup>2</sup> チャールズ・R.ダーウィン（長谷川眞理子訳）『人間の進化と性淘汰 I』（東京：文一総合出版, 1999）による。原書は *The descent of man and selection in relation to sex* (London : John Murray, 1871) である。

<sup>3</sup> エルンスト・カッシーラー（篠木芳夫、高野敏行訳）『シンボル・技術・言語』（東京：法政大学出版局 2017）による。本書は、ドイツの哲学者エルンスト・カッシーラー (Ernst Cassirer) が書いたシンボル・技術・言語・神話・心理学に関する5本の論文と、それをめぐる当時の議論を収めたものである。

- 
- <sup>4</sup> 引用文の日本語訳はすべて筆者による。また、その訳は、ネイティブチェックを受けたものである。以下も同様である。
- <sup>5</sup> ここでは中国国内の研究の場合だけを指す。日本の研究者の場合、2000年以前にも後述の大河内(1997)のように、感情動詞という用語に言及した研究が見られる。
- <sup>6</sup> クラスター分析とは、統計学で、異なる性質のものが集まっているデータを、互いに似た性質をもつグループに分類する分析手法である。(『小学館デジタル大辞泉』参照)
- <sup>7</sup> ここでは上述の感情動詞と同様に、中国国内の研究の場合だけを指す。日本の研究者の場合、大河内(1997)は感情形容詞に言及している。
- <sup>8</sup> 語彙表は感情形容詞のピンインの頭文字のアルファベット順に並べられている。
- <sup>9</sup> “我很后悔这件事”は、不自然に感じられるが、“我很后悔做了这件事”は自然である。また、“他对他的成绩很骄傲”は不自然であるが、“他对他的成绩感到很骄傲”は、中国語として自然に感じられる。
- <sup>10</sup> 感情構文という用語の中国語訳は“情感构式”である。潘震(2014)は“情感构式”という用語を使用している。
- <sup>11</sup> 〈感情主〉とは、感情を経験する主体である。
- <sup>12</sup> 〈刺激体〉とは、感情を惹起する存在である。

## 第3章 SVO型感情構文について<sup>1</sup>

第3章では、中国語の感情表現をめぐる構文の一つであるSVO型感情構文を考察する。

2.3.1.3節で示したように、木村(2017)は、中国語の感情構文を三つの型に分けている。

A型：SVOの語順で並び、〈刺激体〉がOの位置に置かれるかたちの構文

B型：〈刺激体〉が前置詞に導かれるかたちの構文

C型：〈刺激体〉が文に取り込めないかたちの構文

(木村 2017: 154)

それぞれに当てはまる例文が、以下のように挙げられており、日本語訳が添えられている。

### 【A型】

(38) 他不喜欢足球。

[彼はサッカーが好きではない。] (木村 2017: 155)

### 【B型】

(39) 我爸爸对国家队的战绩十分失望。

[父は代表チームの戦績にずいぶんがっかりしている。] (木村 2017: 157)

### 【C型】

(40) 他很高兴。

[彼はとてもうれしい。] (木村 2017: 162)

上記の三つの型の中で、A型は、本章で考察する対象の一つである。しかし、木村(2017)は、〈刺激体〉の配置をOの位置に限定しており、Sの位置にもできることに言及していない。例えば、〈刺激体〉をSの位置に配置した例文を以下に示す。

(41) 女孩纯朴的理想深深感动了我。 (CCL)

[女の子の素朴な夢は私を深く感動させた。]

(41) のSの位置に置かれている“女孩纯朴的”(女の子の純粋な夢)は、〈感情主〉ではなく、〈刺激体〉である。そのため、形式的には、(41)は、(38)と同様にSVOの語順

で並んでいるが、意味的には、(41) は、「刺激体+感情述詞+感情主」という構成であるのに対し、(38) は、「感情主+感情述詞+刺激体」という構成である。

本章では、(38) のような構文を〈感情主〉主導の SVO 型感情構文と呼び、(41) のような構文を〈刺激体〉主導の SVO 型感情構文と呼ぶ。

また、木村 (2017) は、O の位置に置かれている〈刺激体〉を体言性の成分に限定しており、用言性の成分および節を考察の範囲外にしている。しかし、周知のように、中国語の SVO 構文においては、O の位置には体言性の成分だけでなく、用言性の成分なども取れる。

例えば、上記の (38) の O の位置に置かれている“足球”(サッカー) を“踢足球”(サッカーをする) という用言性の成分に置き換えて成立する。それに対して、日本語や英語の場合には、“踢足球”(サッカーをする) を名詞化するためのマーカーが必要である。

(42) a. 他不喜欢踢足球。((38) による改編)

- b. 彼はサッカーをすることが好きではない。
- c. He does not like playing soccer.

さらに、仮に、“足球”(サッカー) を“儿子踢足球”(息子がサッカーをする) という節に置き換えてごく自然な中国語として成立する。この場合は、(42) と同様に、日本語や英語なら、“儿子踢足球”(息子がサッカーをする) に何らかのマーカーを付け加えなければならない。

(43) a. 他不喜欢儿子踢足球。((38) による改編)

- b. 彼は息子がサッカーをすることが好きではない。
- c. He does not like that his son plays soccer.

(42) と (43) からわかるように、中国語において、用言性の成分および節が形式を変えることなく目的語となりうる。これは、中国語の特徴として大変興味深いことであり、無視してはならない。

そこで、本研究では、SVO 型感情構文における O を体言性の成分に限定せず、用言性の成分および節も考察の範囲に入れる。そうすると、木村 (2017) が主張する SVO 型構文に用いられない感情述詞の一部も、この構文に当てはめることができる。例えば、「彼がこの

ニュースに喜んでいる」と述べたい際に、木村（2017）は、下記の文を非文としているが、「このニュース」を「このニュースを聞く」という用言性の成分に変えれば、成立する。

(44) \*他很高兴这消息。（木村 2017: 162）

(45) 他很高兴听到这消息。((44) による改編)

〔彼はこのニュースを聞いて喜んでいる。〕

(44) と(45)との比較を通じて、“高兴”（嬉しい／喜ぶ）という感情述詞は体言性の成分を目的語にできないのに対して、用言性の成分を目的語にできることがわかる。そのため、新たな問題が生まれる。つまり、〈刺激体〉がOの位置に置かれている場合に、感情述詞が取れる目的語の種類は、それぞれどのようにになっているのかという問題である。

以下は、上述のような問題点を踏まえ、「〈感情主〉主導のSVO型感情構文について」、「〈刺激体〉主導のSVO型感情構文について」、「第3章のまとめ」という3節に分けて、詳細な考察を行う。

### 3.1 〈感情主〉主導のSVO型感情構文について

木村（2017）は、〈感情主〉主導のSVO型感情構文に当てはまる感情述詞の特徴を「好惡・畏怖」とまとめしており、さらに、このタイプのものは少数派に属すると述べている。しかし、上述のように、目的語の性質範囲を広げれば、この構文に当てはまる感情述詞の数も増える。したがって、以下、まず、感情述詞の特徴を整理し、次に、〈刺激体〉の性質を分析し、最後に、構文的意味を示す。

#### 3.1.1 感情述詞の特徴

まず、筆者の内省およびコーパス調査に基づいて、2.2.3節の表4に示した108語の感情述詞を検証したところ、そのうちの48語が〈感情主〉主導のSVO型感情構文に当てはまるという結果を得た。パーセンテージで表示すれば、およそ本研究で扱う感情述詞の全体の44%を占めている。したがって、このタイプの感情述詞は、少数派に属すると言いかねるであろう。

次に、その 48 語の感情述詞について、意味に基づく分類を試みた。その結果、14 項目が得られており、それを下記の表 8 にまとめる。

【表 8】〈感情主〉主導の SVO 型感情構文に当てはまる感情述詞

意味特徴	感情述詞
「愛好」	爱、爱戴、爱惜、热爱、疼爱、喜欢
「嫌惡」	反感、恨、嫉妒、藐视、蔑视、讨厌、嫌、嫌弃
「畏怖」	恐惧、害怕、怕
「敬慕」	崇拜、崇敬、佩服、羡慕、尊敬、尊重
「憐憫」	关怀、关心、可怜、同情、心疼
「懷古」	怀念、留恋、思念、想念
「不安」	担心
「焦躁」	愁、烦
「安堵」	放心
「悔恨」	甘心、后悔、悔恨、惋惜、遗憾
「憤怒」	气
「感激」	感动
「羞恥」	抱歉、惭愧
「愉悦」	高兴、开心、荣幸

表 8 から、木村 (2017) で取り上げた「好惡・畏怖」タイプ以外に、「敬慕」や「憐憫」といったタイプの感情述詞も〈感情主〉主導の SVO 型感情構文に当てはまることがわかる。例えば、以下のような例が挙げられる。

(46) 志摩说：“我羡慕你们！既做着自己喜欢做的事，又踏了青，访了古，还是贤伉俪结伴同行，真不知是几世修得的福分！”(CCL)

[志摩は「あなたたちが羨ましい！自分の好きなことをやっているし、野遊びもして、旧跡も訪れて、しかも素敵なお嬢様も同行していて、これ以上ない幸運でしょう！」と言った。]

(47) 这次事件，有官员落马，有官员外逃，讲句心里话，我同情他们。(CCL)

[今回の事件で、落馬した官僚もいれば、高跳びした官僚もいて、実を言えば、私は彼らに同情する。]

(46) では、「敬慕」の意味特徴を持つ“羨慕”(羨む)の後ろに、“你们”(あなたたち)という体言性の成分を取っている。また、(47) では、「憐憫」の意味特徴を持つ“同情”(同情する)の後ろに、“他们”(彼ら)という体言性の成分を取っている。これは、一見“喜欢”(好きだ)といった「愛好」の意味特徴を持つ感情述詞と同じように見えるが、実は、動詞的性質の強さにおいて、異なるように思える。なぜなら、“羨慕”(羨む)や“同情”(同情する)の直後に連用修飾語マーカー“地”を付けることができるのに対し、“喜欢”(好きだ)の直後に“地”を付けると、不自然に感じられるからである。例えば、下記の例がある。

(48) 邻居们羡慕地说：“杨秀珍很幸福啊！”(CCL)

[隣人たちは、「楊秀珍さんはとても幸せだね」と羨ましそうに言った。]

(49) 她同情地望着他，想不出安慰的语言。(CCL)

[彼女は同情の目で彼を見て、慰めの言葉が思いつかなかった。]

(48) と (49) のよう 2 例は、自然な中国語として成立する。一方、“喜欢”(好きだ)と“地”を組み合わせた下記の例は、容認度が非常に低く感じる。

(50) ?她喜欢地望着他，可说不出想说的话<sup>2</sup>。((49) による改編)

[彼女は好きそうに彼を見ていたが、話したいことが話せなかった。]

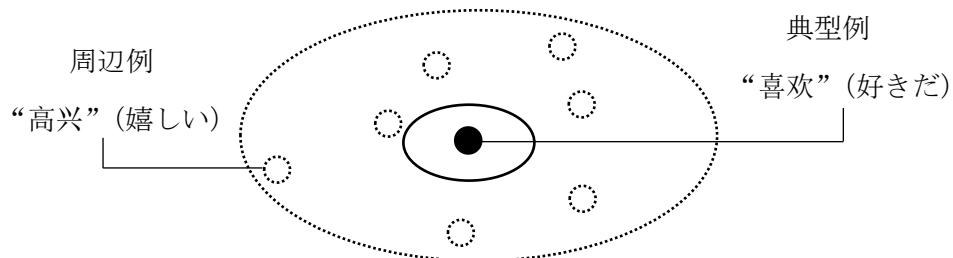
上記の比較を通じて、“喜欢”(好きだ)は、“羨慕”(羨む)や“同情”(同情する)より、動詞的性質が強いと見て取れる。言い換えれば、“羨慕”(羨む)や“同情”(同情する)は、“喜欢”(好きだ)より形容詞的性質が強いと言える。

また、“羨慕”(羨む)や“同情”(同情する)よりも、動詞的性質が弱い感情述詞も表 8 に存在する。例えば、「愉悦」の意味特徴を持つ“高兴”(嬉しい)や“开心”(嬉しい)などが挙げられる。なぜなら、一つは、既述したように、このような感情述詞は、体言性の成分を表す目的語が取れないからである。もう一つは、連用修飾語マーカー“地”と共に起できる

以外に、一般的形容詞と同様に、“高高兴兴”や“开开心心”的ように重ね型ができるからである。一方で、“喜欢”(好きだ)や“羨慕”(羨む)や“同情”(同情する)といった感情述詞は、重ね型ができない。すなわち、“喜喜欢欢”や“羨羨慕慕”や“同同情情”という表現が存在しない。木村(2017)は、“高兴”(嬉しい)といった「愉悦」の意味特徴を持つ感情述詞が重ね型が成立するため、「好惡・畏怖」の意味特徴を持つ感情述詞と明確に一線を課すと主張しているが、本研究では、各意味特徴を持つ感情述詞の間に境界線が存在せず、それらが連続体を成しているとする。なぜなら、表8に入っている“荣幸”(光栄)という感情述詞は、“高兴”(嬉しい)と同様に、「愉悦」の項目に属し、形容詞的性質が強いが、“荣荣幸幸”という重ね型の形式が存在しないからである。

このように、〈感情主〉主導のSVO型感情構文に当てはまる感情述詞においては、構文との相性が良いものもあれば、悪いものもある。動詞的性質が強ければ、その構文との相性は良くなる。以上のようなコーパス調査と内省によって、〈感情主〉主導のSVO型感情構文に当てはまる感情述詞のカテゴリーを下記の図で示す。

【図5】〈感情主〉主導のSVO感情構文に当てはまる感情述詞のカテゴリー



### 3.1.2 〈刺激体〉の性質

既述したように、〈感情主〉主導のSVO型感情構文において、〈刺激体〉になれるものは、体言性の成分のみならず、用言性の成分や節もある。また、感情述詞によって、用いられる〈刺激体〉の性質は異なる。形式的に見れば、体言性の成分・用言性の成分・節が全部用いられる感情述詞もあれば、その三つの中の一つしか用いられない感情述詞もある。組み合わせてみれば、理論上は7通りのタイプがある。下記の表9にまとめる。

【表 9】感情述詞が用いられる〈刺激体〉の理論上のタイプ

タイプ	体言性の成分	用言性の成分	節
①	○	○	○
②	○	○	×
③	○	×	○
④	×	○	○
⑤	○	×	×
⑥	×	○	×
⑦	×	×	○

ここからは、上記の 7 通りのタイプが実在するか否かを、実例に基づいて検証する。

まず、第 1 に、タイプ①（体言性の成分・用言性の成分・節と全部共起できる）は、実在する。例えば、“喜欢”（好きだ）を感情述詞とした例文を、以下に示す。

(51) a. 我喜欢大海。 (CCL)

[私は海が好きだ。]

b. 闲暇时，她喜欢唱歌，也喜欢跳舞，还喜欢读书。 (CCL)

[暇な時、彼女は歌を歌うことが好きで、踊ることや読書することも好きだ。]

c. 他端详着她，微微一笑，并且说，他喜欢她唱歌，就像他喜欢她所作的一切事情。

(CCL)

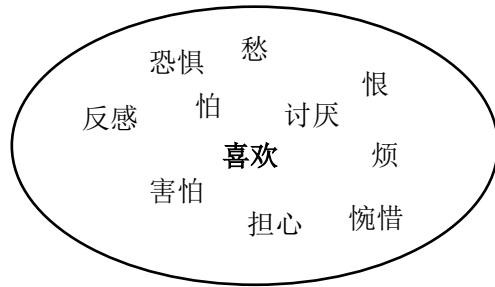
[彼女をしげしげと見て、微笑みながら、彼女が歌を歌うことも好きだし、彼女がするすべてのことが好きだと彼は言った。]

(51a) における〈刺激体〉は、“大海”（海）である。言うまでもなく、これは、典型的な体言性の成分であり、モノを表す。それ以外にも、ヒトを表す体言性の成分もある。例えば、“爸爸”（父親），“妈妈”（母親）が挙げられる。

また、(51b) における〈刺激体〉は、“唱歌”（歌を歌う），“跳舞”（踊る），“读书”（読書する）である。これは、用言性の成分であり、コトを表す。ここでのコトには、ヒトが参与していない。次に、(51c) における〈刺激体〉は、“她唱歌”（彼女が歌を歌う）である。これは、主語と述語との結合で節を成しており、ヒト参与のコトを表す。

タイプ①に当てはまる感情述詞は、“喜欢”(好きだ) 以外にも、“讨厌”(嫌いだ)、“害怕”(怖がる) などのものが挙げられる。それらを下記の図 6 にまとめる。

【図 6】タイプ①に当てはまる感情述詞 (“喜欢”を中心いて、他は適宜配置した)



ところが、図 6 に入っている感情述詞は、タイプ①というカテゴリーにおいて、典型度が異なる。(51) における “喜欢” (好きだ) は、典型度が高いと言えるであろう。

一方、その反対語である “恨” (恨む) は、コーパス事例の観察により、典型度が相対的に低いと見て取れる。“恨” (恨む) と共に起できる〈刺激体〉は、ヒトを表す体言性の成分の例が圧倒的に多く、用言性の成分や節の例が稀であることがわかる。例えば、以下の例文が見られる。

(52) a. 我恨他们。 (CCL)

[私は彼らを恨んでいる。]

b. 儿子最恨下雨。小学的同学几乎全部在下雨天都穿了胶鞋来上学，只有他穿了还是他父亲穿过的钉鞋。 (CCL)

[息子は雨が降るのが最も恨めしい。小学校のクラスメートは、みんなほとんど雨が降る日にゴム製の雨靴を履いて学校に来ているが、彼だけは、まだ父親が履いていた昔の雨靴を履いている。]

c. 那女郎冷冷的道：“钟灵是我朋友，我本来要去救她。可是我最恨人家求我。你求我去救钟灵，我就偏偏不去救了。” (CCL)

[その女郎は、「鐘靈さんが私の友達だから、私はもともと助けに行こうと思っていた。しかし、私は人が私に頼むのを最も嫌う。あなたが私に鐘靈さんを助けに行ってくれと頼むから、私はあえて助けに行かないと思った。」]

(52a) における〈刺激体〉は、“他们”（彼ら）であり、ヒトを表す体言性の成分である。コーパスの観察を通じて、それは、“恨”（恨む）が用いられる典型的な〈刺激体〉だと見て取れる。特殊な文脈がない限り、モノを表す体言性の成分が“恨”（恨む）の〈刺激体〉に用いられるのは困難である。

次に、(52b) における〈刺激体〉である“下雨”（雨が降る）と (52c) における〈刺激体〉である“人家求我”（人が私に頼む）は、ヒト非参与のコトと、ヒト参与のコトを表すが、こういった例は、コーパス事例の観察により、圧倒的に少ないとわかる。さらに、この 2 例における“恨”（恨む）の直前に両方とも程度副詞“最”（最も）が付いており、もし、それをなくすと、容認度は下がる。それに対して、(52a) のような例文には程度副詞が付かないのが一般的である。また、意味的に見れば、(52a) と比べると、(52b) と (52c) は、「恨む」という意味が薄れて、「嫌う」という意味に近い。

このように、同じく体言性の成分・用言性の成分・節と全部共起できるタイプ①に当てはまる感情述詞の中においても、典型度にばらつきが存在し、他のタイプとの間には連続性が見られる。

第 2 に、タイプ②（体言性の成分・用言性の成分としか共起できない）は、少ないながらも実在する。例えば、“热爱”（心から愛する）を感情述詞とした例文を、以下に示す。

(53) a. 他热爱祖国。 (CCL)

[彼は祖国を心から愛している。]

b. 女性比男性更热爱阅读杂志。 (CCL)

[女性は男性よりも雑誌を読むのが好きだ。]

(53a) における感情述詞“热爱”（心から愛する）の後ろに“祖国”（祖国）という体言性の成分が来ている。しかし、コーパスの実例を観察してみると、タイプ①の典型例“喜欢”（好きだ）と比較すれば、用いられる体言性の成分の範囲は、一段と狭くなることがわかる。“热爱”（心から愛する）の後ろに、抽象度の高い体言性の成分が来るのが、大半である。例えば、“祖国”（祖国）以外にも、“人民”（国民）や“生命”（命）や“和平”（平和）などが挙げられる。この中には、“和平”（平和）のような抽象的なモノを指示するものもあれば、“人民”（国民）のような抽象的なヒトを指示するものもある。もし、具体的な個体を指すような体言性の成分が来れば、例えば、“热爱他”は、明らかに容認しにくいと思われる。

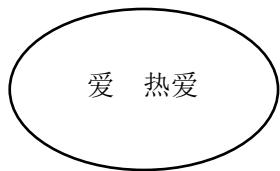
また、(53b) では、〈刺激体〉である“阅读杂志”（雑誌を読む）が用言性の成分であり、ヒト非参与のコトを表す。

ところが、“热爱”（心から愛する）の後ろに節が付くことは困難である。例えば、(51c) における“他喜欢她唱歌”（彼は彼女が歌を歌うことが好きだ）の中の“喜欢”（好きだ）を、“热爱”（心から愛する）に置き換えると、中国語として非常に不自然だと感じる。そこで、感情述詞“热爱”（心から愛する）は、ヒト参与のコトを表す〈刺激体〉と共に起きできないと言えよう。

“热爱”（心から愛する）以外に、“爱”（愛する）という感情述詞も、ヒト参与のコトを表す〈刺激体〉と共に起きできない。なぜなら、“他爱她唱歌”（彼は彼女が歌を歌うことを愛している）は、非文となるからである。このことから、同じく「愛好」という意味特徴を持つ感情述詞の中においても、共起できる〈刺激体〉の成分が異なることがわかる。

このように、タイプ②に当てはまる感情述詞は、タイプ①と比べると少ないが、下記の図7にまとめる。

【図7】タイプ②に当てはまる感情述詞



第3に、タイプ③（体言性の成分・節としか共起できない）は実在する。例えば、“羡慕”（羨む）を感情述詞とした例文を、以下に示す。

(54) a. 志摩说：“我羡慕你们！既做着自己喜欢做的事，又踏了青，访了古，还是贤伉俪结伴同行，真不知是几世修得的福分！” ((46) の再掲)

[志摩は「あなたたちが羨ましい！自分の好きなことをやっているし、野遊びもして、旧跡も訪れて、しかも素敵なお嬢様も同行していて、これ以上ない幸運でしょう！」と言った。]

b. “大家都羡慕你会说话，” 汤阿英说，“别人想学也学不会哩。” (CCL)  
[「あなたが口がうまいことをみんな羨んでいて、他の人は学びたくても身に付かないよ」と湯阿英は言った。]

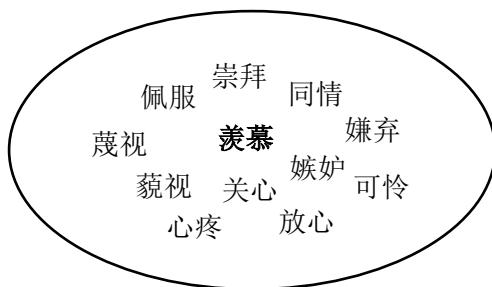
(54a) では、感情述詞“羨慕”(羨む)の後ろに、ヒトを表す体言性の成分である“你们”(あなたたち)という〈刺激体〉を取っている。だが、モノを表す体言性の成分と直接的に共起するのは、基本的に不可能である。

例えば、“羨慕身材”(スタイルを羨む)は、中国語として成立しない。それを容認できる中国語に修正するには、ヒトを表す修飾語が必要である。つまり、“羨慕你的身材”(あなたのスタイルを羨む)にすれば、中国語として容認できる。とはいっても、このような例は、非常に限られており、モノを表す典型例でもない。そのため、タイプ③に当てはまる感情述詞と共起する体言性の成分とする〈刺激体〉は、基本的には、ヒトを表すものである。

また、(54b) では、“你会说话”(あなたは口がうまい)というヒト参与のコトを表す節を感情述詞“羨慕”(羨む)の後ろに取っている。ここで、もし、この節におけるある“你”(あなた)を落とし、“会说话”(口がうまい)にすると、明らかに文として不成立となる。つまり、ヒト不参与のコトを表す〈刺激体〉であると、“羨慕”(羨む)といった感情述詞と共起しにくい。

上記の分析から、感情述詞“羨慕”(羨む)の後ろに取れる〈刺激体〉は、体言性の成分であれ、節であれ、基本的にはヒト参与が必須である。このような感情述詞は、タイプ①とタイプ②に当てはまる感情述詞と比べると、多数見られる。下記の図8の表にまとめる。

【図8】タイプ③に当てはまる感情述詞(“羨慕”を中心に、他は適宜配置した)



第4に、タイプ④(用言性の成分・節としか共起できない)は実在する。例えば、“高兴”(嬉しい)を感情述詞とした例文を、以下に示す。

(55) a. 他说, “我很高兴再次来到北京, 我来得也是时候”。(CCL)

[彼は、「私はまた北京に来れて嬉しいです。しかも、良い時期に来ました」と言った。]

- b. 李斯特给了拉拉半个小时，单独和她聊了聊她上任后几个月的情况，拉拉说，玫瑰教给她很多东西，感到工作得非常充实。李斯特频频点头说：“玫瑰的专业经验非常丰富。我很高兴你能在这个岗位上有满足感。”(CCL)

[李斯特さんは、拉拉さんに三十分をあげて、二人きりで彼女が着任後の数ヶ月の状況を話し合った。拉拉さんは、玫瑰さんが自分にたくさんのこと教えてくれて、仕事が非常に充実していると感じていると言った。李斯特さんは、何度も頷いて、「玫瑰さんの実務経験はとても豊富だ。あなたがこの部署で満足感を持つことができて、私は嬉しい。」

(55a) では、感情述詞“高兴”(嬉しい)の後ろに、“再次来到北京”(再度北京に来た)という用言性の成分を取っている。この用言性の成分は、ヒト非参与のコトを表すが、タイプ①やタイプ②の用言性の成分と異なるところがある。

タイプ①の“喜欢唱歌”(歌を歌うことが好きだ)とタイプ②の“热爱阅读杂志”(雑誌を読むことが好きだ)における用言性の成分はいずれも概念レベルのコトを指示し、すなわち、非現実的コトを指示する。一方、(55a)における用言性の成分は、非現実的コトではなく、現実的コトを指示する。

伊藤(2007)は、“高兴”(嬉しい)を“叙实谓词”(叙実的述詞)<sup>3</sup>と呼んでいる。このことから、“高兴”(嬉しい)と共に起する〈刺激体〉は、現実的コトを表すことが裏付けられる。

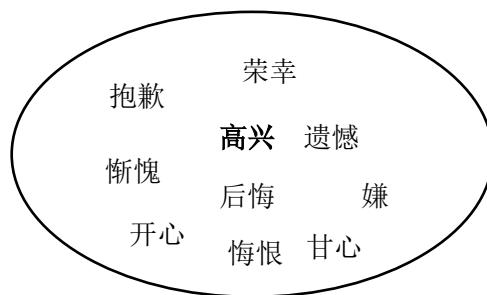
また、(55b)では、感情述詞“高兴”(嬉しい)の後ろに、“你能在这个岗位上有满足感”(あなたがこの部署で満足感を持つことができている)という節を取っている。もちろん、これは、ヒト参与の現実的コトを指示する。ここでのヒトは、〈感情主〉である一人称の“我”(私)と一致せず、二人称の“你”(あなた)を取っている。

もし、節における主語が〈感情主〉の人称と一致していれば、節における主語は、言語化しないことが一般的である。

そのため、(55a)は、〈刺激体〉である“再次来到北京”(再度北京に来た)を、節としての“我再次来到北京”(私が再度北京に来た)における主語を非言語化させた形式と見なしでも良い。

このように、感情述詞“高兴”(嬉しい)と共に起する〈刺激体〉には、現実的コトという性質が必要不可欠である。“高兴”(嬉しい)以外に、図9にまとめた感情述詞もある。

【図 9】タイプ④に当たる感情述詞（“高兴”を中心に、他は適宜配置した）



上記の図 9 に入っている感情述詞の大多数は、形容詞的性質が強く、〈刺激体〉が言語化されない SV 型感情構文にも用いられる。例えば、“我很高兴”（私は嬉しい）や“我很惭愧”（私は恥ずかしい）などが挙げられる。

ところが、一つの例外が存在する。それは、单音節の感情述詞 “嫌”（嫌がる）である。なぜなら、“我很嫌”（私は嫌がる）は自然な中国語として成立し難いからである。とはいえ、体言性の成分と共に起し難いところは、図 9 に入っている他の感情述詞と共通している。

例えば、“我嫌你”（私はあなたを嫌がる）は、言わないのに対して、用言性の成分が用いられる“我嫌脏”（私は汚いのを嫌がる）や、節が用いられる“我嫌你脏”（私はあなたが汚いのを嫌がる）は、普通に使用される。

ここで、注意すべきなのは、“嫌”（嫌がる）の場合、程度副詞が付かないのが普通である。では、「あなたを嫌がる」という意味で述べたい場合は、どうすれば良いであろう。体言性の成分・節としか共起できないタイプ③に入っている“嫌弃”（嫌がる）を使えば、問題を解決することができる。つまり、“我嫌弃你”（私はあなたを嫌がる）と言えば、問題はなくなる。

上記の分析から、タイプ④に当たる感情述詞のカテゴリーにおいて、個性の強い感情述詞が存在することがうかがえる。このような感情述詞の存在は、中国語教育における一つの難点と言って過言ではないであろう。

第 5 に、タイプ⑤（体言性の成分としか共起できない）は、実在する。例えば、“怀念”（懐かしむ）を感情述詞とした例文を、以下に示す。

(56) 郁闷时，她更怀念大学生活，感叹好日子已一去不复返。 (CCL)

[落ち込んでいる時、彼女はいつも以上に大学の生活を懐かしみ、良い日が過ぎ去って二度と戻ってこないと嘆く。]

(56) では、感情述詞“怀念”(懷かしむ)の後ろに、“大学生活”(大学生活)という体言性の成分を取っている。これは、体言性の成分であるが、モノやヒトを表す典型的な体言性の成分ではなく、コト的内容を表す非典型的な体言性の成分である。

とはいものの、もし、完全にコトを表す用言性の成分にすると、成立し難い。例えば、“怀念上大学”(大学に通ったことを懷かしむ)は、容認できにくく、“怀念上大学的日子”(大学に通った日々を懷かしむ)のように、体言性の被修飾語を付け加えなければならない。

もちろん、“怀念”(懷かしむ)の後ろに、“生活”(生活)のようなコト的内容を表す非典型的な体言性の成分以外に、モノやヒトを表す典型的な体言性の成分をも取れる。例えば、モノを取る“怀念北京烤鸭”(北京ダックを懷かしむ)や、ヒトを取る“怀念故人”(故人を懷かしむ)が挙げられる。

このような感情述詞は、以下の図 10 にまとめることができる。

【図 10】タイプ⑤に当たる感情述詞(“怀念”を中心に、他は適宜配置した)

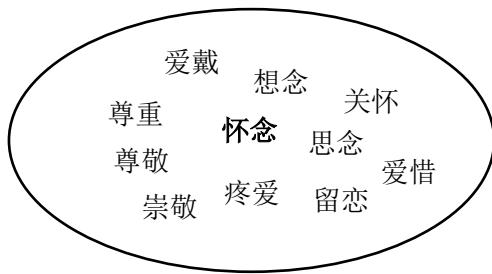


図 10 における感情述詞は、体言性の成分としか共起できないものであるが、個々の感情述詞の意味によって、取れる体言性の成分の性質も異なる。例えば、“怀念”(懷かしむ)は、既述したように、モノやヒトを表す典型的な体言性の成分を取ることもできれば、コト的内容を表す非典型的な体言性の成分を取ることもできる。一方、“疼爱”(可愛がる)は、ヒトを表す体言性の成分しか取れない。

第 6 に、タイプ⑥(用言の成分としか共起できない)はコーパスの事例観察により、実在しないと判断した。この事実から〈感情主〉主導の SVO 型感情構文において、ヒトが参与する〈刺激体〉を排斥する感情述詞は基本的に存在しないことが見て取れる。

第 7 に、タイプ⑦(節としか共起できない)は、2 語しか見つからなかつたが、実在する。その 2 語は、“气”(怒る)と“感动”(感動する)である。それを用いた例を以下に示す。

(57) 我气你没把我当你老婆。 (CCL)

[私はあなたが私のことを妻だと思っていないことに怒っている。]

(58) 1995 年, 泰安市授予我荣誉市民称号, 我很感动他们能够原谅我。 (CCL)

[1995 年に泰安市名誉市民称号を授与された。 私は、彼らが私を許してくださいました  
ことに感動した。]

(57) では、“气”(怒る)と共起している〈刺激体〉は、“你没把我当你老婆”(あなたが私のことを妻だと思っていない)という節であり、ヒト参与のコトを表す。

もし、ヒトを表す体言性の成分を〈刺激体〉とすると、3.4 節で述べる〈刺激体〉主導の SVO 型構文になる。つまり、“我气你”は、「私はあなたに怒る」ではなく、「私はあなたを怒らせる」という使役の意味を表す。言い換えれば、怒るのは、“我”(私)ではなく、“你”(あなた)である。

では、「私はあなたに怒る」と述べたい場合は、どうすれば良いであろう。“气”(怒る)を使用せずに、離合詞<sup>4</sup>である“生气”(怒る)を用いて、“我生你的气”と表現すれば良いのである。このような離合詞の存在も、中国語学習者には大きな難点と言っても過言ではないであろう。

このように、同じく「怒る」の意味を表す“气”と“生气”が用いられる構文には相違点が見られる。また、ヒト非参与のコトを表す用言性の成分を〈刺激体〉とする際も、成立し難い。例えば、“我气没考上大学”(私は大学に受からなかったことに怒る)は、容認度が極めて低いと言えよう。

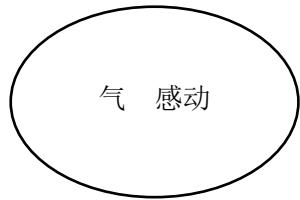
また、(58) では、“感动”(感動する)と共起している〈刺激体〉は、“他们能够原谅我”(彼らが私を許してくださいました)という節であり、ヒト参与のコトを表す。

“气”(怒る)と同様に、ヒトを表す体言性の成分を〈刺激体〉とすることは困難である。例えば、“我很感动他们”(彼らに感動した)は座りが悪い文である。この場合は、基本的に受身文を用いて表現する。すなわち、“我被他们感动了”(彼らに感動した)という受身文で表現する。

ただし、この場合の“感动”(感動する)は、程度副詞“很”(とても)が付いている (58) の“感动”(感動する)と比べると、動詞的な性格がより強いと言えよう。また、用言性の成分だけが〈刺激体〉になる場合も容認度が下がる。例えば、“我很感动原谅我”(私は私を許すことに感動した)は、明らかに座りが悪い文である。

このように、“气”（怒る）と“感动”（感動する）という感情述詞の〈刺激体〉に対する要求は、非常に高く、節であることが必須条件だとわかる。この高い要求だからこそ、このタイプに当てはまる感情述詞は稀だと考えられる。それを下記の図 11 で示す。

【図 11】タイプ⑦に当てはまる感情述詞



以上の考察により、〈感情主〉主導の SVO 型感情構文における〈刺激体〉のタイプには、実際 6 通りあることがわかった。語彙例を示しながら、それを下記の表 10 にまとめる。

【表 10】感情述詞が用いられる〈刺激体〉のタイプおよび語彙例

タイプ	体言性の成分	用言性の成分	節	語彙例
①	○	○	○	喜欢
②	○	○	×	热爱
③	○	×	○	羨慕
④	×	○	○	高兴
⑤	○	×	×	怀念
⑥	×	○	×	
⑦	×	×	○	气

### 3.1.3 構文的意味

〈感情主〉主導の SVO 型感情構文は、その名の通り、SVO の語順で並び、〈感情主〉が主語の位置に立つ構文である。SVO の語順である以上、その V を二項述語と称するのも、当然のことである。二項述語階層に関して、角田 (1991) は下記の表 11 で示す分類を提案している。

【表 11】二項述語階層（角田 1991: 95）

類	1	2	3	4	5	6	7		
意味	直接影響	知覚	追及	知識	感情	感覚	能力		
下位類	1A	1B	2A	2B					
意味	変化	無変化							
例	殺す	たたく	see	look	探す	知る	愛する	持つ	できる
	壊す	蹴る	hear	listen	待つ	分かる	嫌う	ある	得意
	温める	触る	find			覚える	惚れる	似る	capable
						忘れる	要る	欠ける	good
						怒る	対応する		
						恐れる	含む		
日本語	「が+を」							「に+が」	

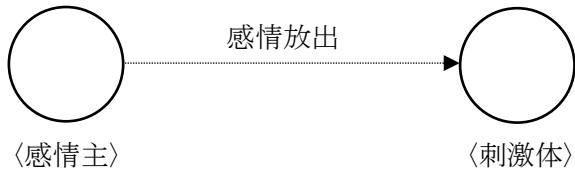
さらに、角田（1991）は、① 表 11 の左の方ほど動作的で右の方ほど状態的、② 左の方ほど対象に影響の及ぶ度合いが大きい、③ 左の方ほど品詞は動詞で現れやすく右の方ほど形容詞その他で現れやすいとしている。

上記の二項述語階層は、角田（1991）が言語類型論の観点から、諸言語における格枠組みに基づいて立てたものである。当然のことながら、約 6000 もある世界の言語の格枠組みに対する検討を経て設定されたものではないが、ある程度普遍性を持つと言って良いだろう。

中国語の場合、完全にそれに当てはまるか否かはともかく、感情の意味を表す二項述語の位置づけは、中国語もほぼ一致すると考える。なぜなら、既述したように、中国語の大多数の感情述詞は、程度副詞の“很”（とても）や“非常”（非常に）の修飾を受けることができ、対他者的な行為を表す典型的な二項述語と異なり、いくぶん形容詞寄りの性格を持つからである。

形容詞寄りの性格を持ちながらも、典型的な二項述語構文と同様に、SVO の形で構文化されるという事実から見て取れるように、〈感情主〉主導の SVO 型感情構文の構文的意味は、〈感情主〉が〈刺激体〉に向かって、能動的に感情を放出することである。それを図式で示すと、下記のようになる。

【図 12】〈感情主〉 主導の SVO 型感情構文の構文的意味の図式化



ここで注意すべきは、能動的というのがこのタイプの感情放出の大きな特徴であることである。例えば、周知のように、初対面の挨拶として、中国語には、2通りの決まり文句が存在する。すなわち、“我很高兴认识你”と“认识你我很高兴”的2文である。この2文は、両方とも「私はあなたと知り合えてとても嬉しいです」の意味を表すが、実は前者のほうが後者より能動的に感じられることは否めない。

### 3.2 〈刺激体〉 主導の SVO 型感情構文について

既述したように、SVO の語順で並ぶ感情構文には、〈感情主〉が主語の位置に立つタイプ以外に、〈刺激体〉が主語の位置に立つタイプもある。しかし、後者は、従来あまり重要視されてこなかった。そこで、この節では、〈刺激体〉主導の SVO 型感情構文を考察する。

以下、まず、感情述詞の特徴を整理し、次に、〈感情主〉の性質を分析し、最後に、構文的意味を示す。

#### 3.2.1 感情述詞の特徴

まず、これまでと同じ方法により、2.2.3 節の表 4 に示した 108 語の感情述詞を検証し、12 語が〈刺激体〉主導の SVO 型感情構文に当てはまると判断した。パーセンテージで示すと、およそ本研究で扱う感情述詞の全体の 11% を占めている。そのため、このタイプの感情述詞は、前述した〈感情主〉主導の SVO 型感情構文に当てはまる感情述詞と異なり、少數派に属すると言えるであろう。

次に、その 12 語の感情述詞について、意味に基づく分類を試みた。その結果、7 項目が得られており、それを下記の表 12 にまとめる。

【表 12】〈刺激体〉主導の SVO 型感情構文に当てはまる感情述詞

意味特徴	語彙例
「感激」	感动
「悔恨」	委屈
「嫌惡」	恶心
「憤怒」	气
「驚嘆」	惊、吓、震撼、震惊
「焦燥」	愁、烦、急
「愉悦」	乐

表 12 から見て取れるように、单音節の感情述詞が大多数を占めている。例えば、“吓”(驚かす) や “烦”(いらいらさせる) や “气”(怒らせる) といった单音節の感情述詞は、日常会話でよく使用されており、口語体的な色彩が非常に強いのである。以下の例文が挙げられる。

(59) 海藻因为惊吓而尖叫一声：“啊！”然后说：“大半夜的，你怎么招呼不打就冲进来了？你吓死我了，我一个人在家耶！”(CCL)

[海藻さんは驚いて「ああ！」と叫んだ。それから、「真夜中なのに、あなたはなんで声を掛けずに飛び込んできたの？あなたのせいで、私はびっくりしたよ、私一人で家にいるんだから！」と言った。]

(60) 他说：“行，行，你回去吧，你小子烦死我了。”(CCL)

[彼は、「もういい、お前帰ってくれ、お前のせいで俺はめっちゃいらいらする。」と言った。]

(61) 当时我气得什么都顾不上了，把担子一放，冲进教室对准有庆的脸就是一巴掌。有庆挨了一巴掌才看到我，他吓得脸都白了，我说：“你气死我啦。”(CCL)

[その時、他のことを考える暇もないほど腹立っていて、荷物を降ろして、教室に突進して有慶さんの顔をめがけてびんたした。有慶さんは、びんたされてやっと私に気づいて、顔が真っ白になるほど驚いた。私は、「あなたのせいで私はめっちゃ腹を立てている。」と言った。]

上記の 3 例からわかるように、感情述詞が裸の形式ではなく、その直後に“死”（死ぬ）という程度補語<sup>5</sup>が付いており、さらに、文末に“了 / 啦”という語氣助詞<sup>6</sup>が付いている。もし、程度補語や語氣助詞といった付帯成分を除くと、基本的に単独の文として成立し難い。そのため、下記の文は容認度が非常に低いと言えよう。

(59') ?你吓我。

[あなたは私を驚かす。]

(60') ?你小子烦我。

[お前は俺をいらいらさせる。]

(61') ?你气我。

[あなたは私を腹立たせる。]

しかし、(59') と (60') と (61') は、容認度が低いと言っても、特殊な文脈が備われば、成立する時もある。例えば、“吓”（驚かす）を使った例がある。

(62) 那少女死而复活，室中诸人无不惊喜交集。那中年人笑道：“原来你吓我……”那美妇人破涕为笑，叫道：“我苦命的孩儿！”张开双臂，便向她抱去。（CCL）

[その少女が死から蘇生して、室内の人々はみんな驚きと喜びがこもごも至った。その中年の方は「あなたは私を驚かすつもりだった……」と笑いながら言った。その美しい女性は泣くのをやめて笑い出して、「可哀そうな我が子！」と叫んで言って、両腕を広げて、彼女を抱きに行った。]

(62) における“你吓我”（あなたは私を驚かす）は、〈感情主〉である“我”（私）の驚きの感情を表すというよりも、〈刺激体〉である“你”（あなた）の驚かす行為に対しての不満を表すと考えられる。加えて、このような事例が極めて稀であるため、本研究では、それを考察対象としない。

このように、上述から見て取れるように、〈刺激体〉主導の SVO 型感情構文は、〈感情主〉主導の SVO 型感情構文と異なり、付帯成分がなければ、〈感情主〉の感情状態を表し難い。以下に 1 組の例を挙げる。

(63) a. 我爱你。 (○)

[私はあなたを愛している。]

b. 你吓我。 (△)

[あなたは私を驚かす。]

(作例)

(63a) は、付帯成分が何一つもなく、最もシンプルな形式で成立し得る。一方、(63b) は (63a) と同じ形式だと、独立の文として成立し難い。独立の文として成立し得るパターンは下記のようなものが挙げられる。

(64) a. 你吓死我了。

b. 你吓到我了。

c. 你吓（了）我一跳。

(作例)

上記の 3 例は、いずれもびっくりしたという感情を表すが、構文の生産性から見れば、(64a) は最も高く、(64c) は最も低いのである。

ここで、一つ興味深いことは、生産性の最も高い程度補語“死”（死ぬ）を用いた構文においては、〈感情主〉が一人称である場合に、その一人称である“我”（私）を総称としての“人”（人）で置き換えられる感情述詞が多数あることである。例えば、以下の例がある。

(65) 外面的大风吓死人了。 (BCC)

[外の強風に死ぬほど驚いた。]

(66) 庄之蝶一拍沙发吼道：你不要说了好不好，你烦死人了！ (BCC)

[庄之蝶さんはソファーを叩いて「黙ってくれる？あなたに死ぬほどうんざりだよ！」と叫んだ。]

(65) と (66) における“人”（人）は、両方とも話し手自身を指し、“我”（私）に置換することが可能である。同時に、こういった類の単音節の語彙は、直接“人”（人）と結合し、形容詞となり得る。この点に関しては、古川（2005）は、使役を表す“叫”構文からボイス変換によって得られた文において、“V 人”が述語となることができ、それを派生形容詞だとしている。そのため、下記のような例を SVO 型ではなく、SV 型構文だとする。

(67) “啊，这梦可真吓人……” (CCL)

[「ああ、この夢本当に怖かったなあ……」]

(68) “你真烦人！” (CCL)

[「あなた本当にうるさいなあ！」]

(67) と (68) における“人”(人)は、話し手自身を指すだけではなく、総称的色彩を帶びている。なぜなら、この2例は、“人”(人)を“我”(私)に置換できないからである。

(67') \* “啊，这梦可真吓我……”

(68') \* “你真烦我！”

(67') と (68') が成立し得ないことは〈刺激体〉主導のSVO型感情構文が〈感情主〉主導のSVO型感情構文のように、最もシンプルな形式で出現できないことの間接的な証左にもなるであろう。しかし、表12に入っている単音節の感情述詞においては、“乐”(喜ばせる)だけが“人”(人)と結合して形容詞になることができない。つまり、“乐人”という派生形容詞は存在しない。

また、既述したように、最もシンプルな形式である“你吓我”(あなたは私を驚かす)のような文は独立の文として成立し難い。

しかし、否定命令文なら、独立の文として成立する。例えば、(59')と(60')と(61')における感情述詞の直前に否定命令のマーカー“别”を付ければ、成立し得る。

(59'') 你别吓我。

[あなたは私を驚かすな。]

(60'') 你小子别烦我。

[お前は俺をいらいらさせるな。]

(61'') 你别气我。

[あなたは私を腹立たせるな。]

一方、“乐”(喜ばせる)は、(59'')と(60'')と(61'')との3例のように、否定命令文にすることができない。例えば、下記の例は成立しない。

(69) \*你别乐我。(作例)

[あなたは私を喜ばせるな。]

このように、“乐”（喜ばせる）は、“吓”（驚かす）などの感情述詞と比べると、“V 人”型の派生形容詞と否定命令文にできないため、周辺的事例だと考えられる。

ここまででは単音節の感情述詞を述べてきた。以下は、2 音節の感情述詞を述べる。2 音節の感情述詞を用いた例文は、以下にある。

(70) 悅莹，你感动我了。(BCC)

[悦瑩さん、あなたは私を感動させた。]

(71) 我委屈你了。(BCC)

[私はあなたに辛い思いをさせた。]

(72) 你恶心到我了，叫我小名干吗？(BCC)

[あなたは私をむかむかさせた。私の幼名を呼んでどうするんだ？]

(73) 这造型真心震撼到我了！(BCC)

[このデザインは本当に私を震撼させた。]

(74) 海底捞的外卖震惊到我了。(BCC)

[海底捞の出前は私をびっくり仰天させた。]

(70) と (71) においては、感情述詞“感动”（感動させる）と“委屈”（辛い思いをさせる）の直後に付加成分が付いておらず、文末に語氣助詞が付いているだけである。

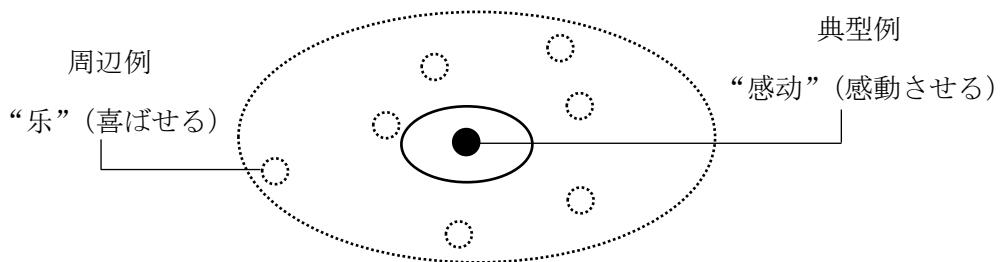
一方、(72) と (73) と (74) においては、感情述詞“恶心”（むかむかさせる）と“震撼”（震撼させる）と“震惊”（びっくり仰天させる）の直後に、いずれも、結果補語“到”という付加成分が付いており、さらに文末に文末助詞が付いている。これは、単音節の“吓”（驚かす）などの感情述詞と同様に、感情述詞の直後と文末に両方付加成分が必要だということである。

このように、〈刺激体〉主導の SVO 型感情構文に当てはまる感情述詞において、“感动”（感動させる）と“委屈”（辛い思いをさせる）が必要とする付加成分は、最も少ない。

また、使用頻度で言えば、言うまでもなく、“感动”（感動させる）のほうが高い。そこで、“感动”（感動させる）をこの構文に当てはまる感情述詞の典型例とする。

さらに、既述したように、“乐”（喜ばせる）は、单音節の感情述詞において、周辺的事例である。それを“感动”（感動させる）と“委屈”（辛い思いをさせる）以外の2音節の感情述詞と比べると、形容詞的属性が強い。なぜなら、それらの2音節の感情述詞と比べると、“乐”（喜ばせる）の直後には結果補語が付きにくく、基本的に程度補語“死”が付くからである。そのため、“乐”（喜ばせる）を周辺例とする。そのカテゴリーを下記の図で示す。

【図 13】〈刺激体〉主導の SVO 型感情構文に当てはまる感情述詞のカテゴリー



### 3.2.2 〈感情主〉の性質

〈感情主〉主導の SVO 型感情構文について、〈刺激体〉の性質を考察してきたが、一方、〈刺激体〉主導の SVO 型感情構文の場合、〈刺激体〉が主語の位置に立っており、且つ口語によく用いられるため、〈刺激体〉の成分はそれほど複雑ではない。さらに、主語としての〈刺激体〉が構文に現れず、文脈に依存することもよく見られる。例えば、以下の例がある。

(75) 差点手机就丢进洗衣机洗了, 吓死我了!。 (BCC)

[もう少しで携帯を洗濯機で洗うところだった。びっくりした!]

(75) では感情述詞の直前に〈刺激体〉が付いておらず、空主語<sup>7</sup>になっている。代わりに、文脈を用いて〈刺激体〉を明示している。つまり、「もう少しで携帯を洗濯機で洗うところだった」ことが〈刺激体〉である。では、それを主語にできないのかという疑問が出てくる。

(75') ?差点手机就丢进洗衣机洗了这件事吓死我了!。 ( (75) による改編)

[もう少しで携帯を洗濯機で洗うところだったことは私をびっくりさせた!]

(75') は、主語が肥大なため、中国語として明らかに不自然に感じられる。この事実からも、〈刺激体〉主導の SVO 型感情構文における〈刺激体〉には、形式的に単純であることが必要だとわかる。

一方、目的語の位置に立っている〈感情主〉は形式的には単純であるが、意味的には複雑である。例えば、既述したように、総称の“人”(人)で一人称を指示する場合がよくある。これは、中国語学習者にとって一つの難点と言えよう。

したがって、以下、〈感情主〉に焦点を当てて考察する。〈感情主〉の成分を大まかに人称代名詞と人を表す普通名詞との2種類に分ける。さらに、人称代名詞を一人称代名詞と二人称代名詞と三人称代名詞との3種類に分ける。そのため、全部で4種類に分けて考察する。

まず、第1に、一人称代名詞の場合は、言うまでもなく、最も見られるパターンである。例えば、下記の例が挙げられる。

(76) 悅瑩，你感动我了。（(70) の再掲）

[悦瑩さん、あなたは私を感動させた。]

(77) 海藻因为惊吓而尖叫一声：“啊！”然后说：“大半夜的，你怎么招呼不打就冲进来了？你吓死我了，我一个人在家耶！”（(59) の再掲）

[海藻さんは驚いて「ああ！」と叫んだ。それから、「真夜中なのに、あなたはなんで声を掛けずに飛び込んできたの？あなたのせいで、私はびっくりしたよ、私一人で家にいるんだから！」と言った。]

(76) と (77) は、いずれも、〈感情主〉が一人称代名詞の“我”(私)であり、話し手自身の感情表出を示す。既述したように、このタイプの構文は、口語に用いられることが一般的である。

また、口語体における感情表現の場合は、基本的に話し手自身の感情を直接的に表出することが大多数である。そのため、一人称がよくこのタイプの構文における〈感情主〉に使用されるのは容易に理解し得る。

第2に、二人称代名詞の場合は、少ないながらも下記の例が挙げられる。

(78) 我委屈你了。（(71) の再掲）

[私はあなたに辛い思いをさせた。]

(79) 第一次碰到她，是去年 12 月的有天晚上，下班时，我走过她身边，她对着大街嚷：

我还告诉你们，我就不生气，我气死你们！ 声调特别高，吓我一哆嗦。(BCC)

[初めて彼女と出会ったのは、去年の 12 月のある日の夜だった。仕事が終わって、彼女のそばを通った時に、彼女は大通りに向かって、「またあなたたちに教えてやろう。私は絶対に怒らない。あなたたちを怒らせてやる」と怒鳴った。声がとても大きくて、私は震えるほどびっくりした。]

(78) においては、感情述詞“委屈”（辛い思いをさせる）の直後に二人称代名詞の“你”（あなた）が来ており、あなたに辛い思いをさせたという意味を表す。この場合は、“你”（あなた）が目的語の位置に立っており、〈感情主〉の役割を果たしているのに対して、一人称代名詞の“我”（私）が主語の位置に立っており、〈刺激体〉の役割を果たすと同時に、いくぶん〈動作主〉の色彩も帶びている。

一方、(79) においては、感情述詞“气”（怒らせる）の直後に二人称複数形である“你们”（あなたたち）が直接的に来ておらず、程度補語の“死”がその間に挟まれており、あなたたちを怒らせてやるという意味を表す。この場合、二人称複数形の“你们”（あなたたち）が目的語の位置に立っており、〈感情主〉の役割を果たしているが、怒るという感情の発生が未実現である。

それに対して、一人称代名詞の“我”（私）は、(78) と同様に主語の位置に立っており、〈刺激体〉の役割を果たしながら、〈動作主〉の色彩も帶びている。言い換えれば、〈刺激体〉としての“我”（私）は、主体的に〈感情主〉としての“你们”（あなたたち）を怒らせるという感情行為を行うものもある。

また、ここで、興味深いことに、一人称代名詞が“气死”（死ぬほど怒らせる）の直後に来る場合、文末に語氣助詞の“了”が付くのは慣例であるが、(79) のような二人称代名詞が来ている文の場合、文末に語氣助詞の“了”を付けると、逆に座りの悪い文になる。下記の2組の例文を比較してみよう。

(80) a. 你们气死我了。

[あなたたちは私を死ぬほど怒らせている。]

b. \*我气死你们了。（(79) による改編）

[私はをあなたたち死ぬほど怒らせている。]

上記の比較から、〈刺激体〉主導の SVO 型感情構文において、程度補語“死”が付加成分として出現し、且つ感情変化が実現した場合、聞き手としての二人称代名詞は〈感情主〉に充当し得ないと見て取れる。

第3に、三人称代名詞の場合は、二人称代名詞と同様に、少ないながら下記の例がある。

(81) 父亲这双友善的手感动了他。 (CCL)

[父親のこの優しい手は彼を感動させた。]

(82) 唐僧念起了紧箍咒，不料这时一个清脆的女声吓到了他。 (BCC)

[三蔵法師は緊箍呪を唱え出したのに、この時ある女性の軽快な声は彼を驚かせた。]

(81) においては、感情述詞“感动”(感動させる)と三人称代名詞の〈感情主〉“他”(彼)の間にアスペクト助詞“了”を挟んでおり、彼を感動させたという事実を客観的に叙述している。これは、“了”が文末に来ている(76)の“悦莹，你感动我了”(悦瑩さん、あなたは私を感動させた)と比べると、明らかに述べ立て文<sup>8</sup>の性質を帶びている。もし、(81)を(76)のように、“了”が文末に来ている文にすると、許容できかねる文になる。

(81') ?父亲这双友善的手感动他了。 (CCL)

[父親のこの優しい手は彼を感動させた。]

このように、(81)のような述べ立て文は、“了”が基本的に感情述詞の直後に来ており、(76)のような表出文<sup>9</sup>は、“了”が基本的に文末に来る。

また、(82)においては、感情述詞“吓”(驚かす)と結果補語の“到”との結合によってできた動補構造“吓到”と〈感情主〉“他”(彼)の間にアスペクト助詞“了”を挟んでおり、彼を驚かせたという事実を客観的に叙述している。“了”的位置も文末に移動し難い。

(82') ?唐僧念起了紧箍咒，不料这时一个清脆的女声吓到他了。 (BCC)

[三蔵法師は緊箍呪を唱え出したのに、この時ある女性の軽快な声は彼を驚かせた。]

さらに、ここで注意すべきは、(82)に用いられた補語が程度補語“死”ではなく、結果補語“到”である。もし、結果補語“到”を程度補語“死”に置き換えると、不自然になる。

(82") ?唐僧念起了紧箍咒，不料这时一个清脆的女声吓死了他。(BCC)

[三蔵法師は緊箍呪を唱え出したのに、この時ある女性の軽快な声は彼を驚かせた。]

(82") の容認度が低い原因として、次のようなことが考えられる。つまり、主観性<sup>10</sup>の高い程度補語“死”が客観的な述べ立てのムード<sup>11</sup>と合わないことがある。一方で、単純に結果を表す補語“到”なら、問題は生じない。

このように、三人称代名詞が〈感情主〉に相当する場合は、表出文よりも、述べ立て文に用いられるのが一般的である。また、文末の語氣助詞“了”と主観性の高い程度補語“死”を文に取り込むことは、基本的に不可能である。

第4に、人を表す普通名詞の場合は、コーパスにおいて多くの事例が見られる。意味的には、第三者指向的なものと話し手指向的なものの2パターンに分かれている。まず、第三者指向的な例を見てみよう。

(83) 女儿的帮助深深地感动了这位同学。(CCL)

[娘の助けはこの同級生を深く感動させた。]

(84) 第一次上课，他的出众才华便震惊了导师。(CCL)

[初回の授業で、彼のすば抜けた才能は既に指導教官をびっくり仰天させた。]

(83) における“这位同学”(この同級生)と(84)における“导师”(指導教官)は、両方とも人を指す普通名詞であり、意味的に話し手と聞き手以外の第三者を指示する。これは、普通名詞の本来の機能であるため、容易に理解し得る。また、この2例は、三人称代名詞が用いられた(81)と(82)と同様に、客観的な述べ立て文である。

一方、話し手指向的なものも見られる。例えば、3.2.1で述べたように、“人”(人)という普通名詞は、〈感情主〉に相当する場合、意味的に話し手のことを指示する。(65)に示した事例を(85)として再掲する。

(85) 外面的大风吓死人了。( (65) の再掲)

[外の強風に死ぬほど驚いた。]

“人”(人)以外に、“老子”(おやじ)、“老娘”(おふくろ)、“姐”(姉)、“哥”(兄)など

もよく見られる。例えば、下記の例が挙げられる。

(86) 鬼屋吓死老子了。(BCC)

[お化け屋敷は俺を死ぬほどビビらせた。]

(87) 拔个牙吓死老娘了。(BCC)

[歯を抜くことはあたしを死ぬほどビビらせた。]

(88) 神秘巫术吓死姐了。(BCC)

[神秘的な呪術はあたしを死ぬほどビビらせた。]

(89) 这娃娃吓死哥了。(BCC)

[この人形は俺を死ぬほどビビらせた。]

上記の4例における〈感情主〉に相当するものは、いずれも親族呼称を表す名詞である。これらは、本来の機能として第三者のことを指すが、ここでは話し手のことを指す。これは、中国語の独特的な用法ではなく、日本語にも見られる。例えば、父親が自分の子供に対して、自分を指して「お父さん」と言う場合がある。

また、話し手を指し得る普通名詞には生産性がある。例えば、2015年度のネット流行語の一つである“吓死宝宝了”（びっくりした）における“宝宝”（赤ちゃん）は、本来小児に対する愛称であるが、ここで話し手のことを指す。これは、若い女子を中心に流行語的に用いられており、可愛らしく「驚いた」という感情を表出するための言葉である。もちろん、“宝宝”（赤ちゃん）は、“吓”（驚かせる）以外の感情述詞とも共起可能である。例えば、“气死宝宝了”（腹立つ），“乐死宝宝了”（楽しかった）なども見つかる。

上記の考察から、人を表す普通名詞が〈感情主〉に相当する場合は、話し手指向的なものが少くないと見て取れる。また、話し手指向的な意味で用いられる場合は、一人称代名詞が〈感情主〉に相当する場合と同様に、話し手自身の感情を直接的に表出することが多い。

このように、〈刺激体〉主導のSVO型感情構文における〈感情主〉は、意味的に2通りのタイプに分けられる。一つは、話し手指向的なものであり、もう一つは、話し手以外指向的なものである。前者は数多く見られるが、後者は少数である。

さらに、話し手指向的なものは、一人称代名詞と、人を指す普通名詞の2種類に分けられており、話し手以外指向的なものは、二人称代名詞と、三人称代名詞と、人を指す普通名詞の3種類に分けられる。

以上の考察結果を表にまとめると、下記の表 13 である。

【表 13】〈刺激体〉主導の SVO 型感情構文における〈感情主〉のタイプ

意味	話し手指向		話し手以外指向		
種類	一人称 代名詞	人を指す 普通名詞	二人称 代名詞	三人称 代名詞	人を指す 普通名詞
語彙例	我	人	你	他、她	同学、导师

### 3.2.3 構文的意味

〈刺激体〉主導の SVO 型感情構文は、その名の通り、SVO の語順で並び、〈刺激体〉が主語の位置に立つ構文である。その V は、〈感情主〉主導の SVO 型感情構文における V と同様に二項述語であるが、形容詞寄りの性格が薄く、むしろ典型的な二項動詞の性格に近い。なぜなら、次の二つの裏付けがあるからである。

一つ目は、〈刺激体〉主導の SVO 型感情構文に当てはまる感情述詞が、基本的に“很”（とても）といった程度副詞と共に起し得ないことである。例えば、以下の作例は、容認できかねる文であろう。

(90) ?你很感动我。 (作例)

[あなたは私をとても感動させている。]

(91) \*你很吓我。 (作例)

[あなたは私をとても驚かせている。]

一方で、既述したように、〈感情主〉主導の SVO 型感情構文は、基本的に“很”（とても）といった程度副詞と共に起することが可能である。例えば、下記の例が挙げられる。

(92) 女儿很喜欢旅游。 (CCL)

[娘は旅行をとても好んでいる。]

(93) 我很讨厌生病。 (CCL)

[私は病気になるのがとても嫌いだ。]

二つ目は、〈刺激体〉主導の SVO 型感情構文が基本的に“把”構文や“被”構文に変換し得ることである。例えば、上に挙げた (83) の“女儿的帮助深深地感动了这位同学”（娘の助けはこの同級生を深く感動させた）は、下記のように“把”構文と“被”構文に変換することが可能である。

(94) 女儿的帮助深深地**把**这位同学感动了。（(83) による改編）

[娘の助けはこの同級生を深く感動させた。]

(95) 这位同学深深地**被**女儿的帮助感动了。（(83) による改編）

[この同級生は娘の助けに深く感動させられた。]

一方、〈感情主〉主導の SVO 型感情構文は、基本的に“把”構文や“被”構文に変換することが困難である。例えば、(51a) の“我喜欢大海”（私は海が好きだ）を“把”構文と“被”構文に変換すると、座りが悪い文になる。

(96) \***我把大海喜欢了。**（(51a) による改編）

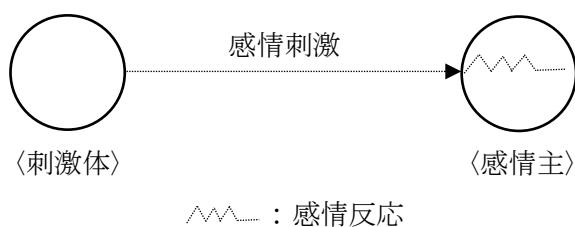
[私は海を好いた。]

(97) \***大海被我喜欢了。**（(51a) による改編）

[海は私に好かれた。]

上記の比較から、〈刺激体〉主導の SVO 型感情構文は、〈感情主〉主導の SVO 型感情構文と比べると、状態性が弱く、変化性が強いと見て取れる。そのため、〈刺激体〉主導の SVO 型感情構文の構文的意味は、〈感情主〉が〈刺激体〉から感情的刺激を受け、受動的に感情反応することである。それを図式で示すと、下記のようになる。

【図 14】〈刺激体〉主導の SVO 型感情構文の構文的意味の図式化



### 3.3 第3章のまとめ

第3章では、SVO型感情構文について考察を行った。〈感情主〉を主語の位置に限定して論じられてきた従来の研究と異なり、本章は、SVO型感情構文を下記の2タイプに分けるべきだと結論付けた。

#### I 〈感情主〉主導のSVO型感情構文

我 (S) 喜欢 (V) 你 (O)

機能： 主語 述語 目的語

意味：感情主 感情述詞 刺激体

構文的意味：〈感情主〉が〈刺激体〉に向かって、能動的に感情を放出する。

#### II 〈刺激体〉主導のSVO型感情構文

你 (S) 感动了 (V) 我 (O)

機能： 主語 述語 目的語

意味： 刺激体 感情述詞 感情主

構文的意味：〈感情主〉が〈刺激体〉から感情的刺激を受け、受動的に感情反応する。

また、教育への応用の可能性をも想定することを趣旨とする研究であるため、第2章で収集した感情述詞をSVO型感情構文に当てはめることができるか否かについてのマッチングテストを行った。その結果、上記の構文Iに当てはまる感情述詞は、48語が得られており、およそ本研究が扱う感情述詞の44%を占めている。その一方、構文IIに当てはまる感情述詞は、12語が得られており、およそ11%を占めている。

その上、構文Iは、感情述詞によって用いられる〈刺激体〉の性質が異なり、多様性を呈している。それに対して、構文IIは、〈刺激体〉の性質が一般的に体言性の成分であり、感情述詞によって変化したりせずに、单一性を示している。

しかしながら、構文IIの内部構造は、構文Iよりも複雑であり、補語や語氣助詞といった付加成分が必要である。また、構文IIにおいては、“人”（人）を中心とした普通名詞が話し手指向的なものとして〈感情主〉に相当するのも興味深い現象である。

---

<sup>1</sup> 第3章は、『中国語文法研究』第8巻に掲載されている“现代汉语 SVO型情感构式研究”（黄勇 2019: 132-146）に加筆修正を加えたものである。

<sup>2</sup> 文頭の「？」はややおかしい文を意味する。

<sup>3</sup> “叙実谓词”（叙実的述詞）を使った文においては、目的語の内容が真であるということが話し手にとって前提とされている。辛斌（1997）と郭昭军（2004）参照。

<sup>4</sup> 離合詞とは、2音節で成り立っており、語と語の間に他の成分が挿入できるものである。

<sup>5</sup> 程度補語とは、述語が表す動作や状態の程度を述語の後ろから補足して説明する成分である。マーカー“得”を使うものと“得”を使わないものとの2種類に分かれている。

<sup>6</sup> 語氣助詞とは、話し手の気持ちや感情を表す語である。

<sup>7</sup> 空主語とは、主語が欠如していることを指す。

<sup>8</sup> 述べ立て文とは、客観的に捉えた発話内容を述べ、聞き手に伝え述べる文である。日本語学の東（1999）参照。

<sup>9</sup> 表出文とは、話し手の発話時の感情を直接的に表現する文である。日本語学の東（1999）参照。

<sup>10</sup> 主観性とは、言語の一種の特性であり、すなわち、話し手の発話の中には、多かれ少なかれ発話者の「自分」を表す成分が入っており、話し手は、話す際にその発話に対する対立場や態度や感情をも同時に表しており、それによって発話の中に自分のイメージを残すということである。（Lyons (1977: 739)、沈家煊 (2001: 268) 参照）

<sup>11</sup> 文のムードとは、話し手が文を述べる際、どのような「つもり」であるのかを示す概念である。中国語学では、“语气”と訳されることが多い。温锁林（2001）や魯川（2003）参照。

## 第4章 SPOV型感情構文について<sup>1</sup>

第4章では、前置詞が用いられるSPOV型感情構文について考察する。木村（2017）は〈刺激体〉が前置詞に導かれる形の構文を二つのタイプに分けられるとしている。その一つは、(98)の“失望”（がっかりする）のように〈刺激体〉が“对”で導かれるタイプであり、もう一つは(99)の“焦急”（苛立つ）のように〈刺激体〉が“为”で導かれるタイプである。

(98) 我爸爸对国家队的战绩十分失望。

〔父は代表チームの戦績にずいぶんがっかりしている。〕（木村2017: 157）

(99) 她为这种情况很焦急。

〔彼女はこの状況にとても苛立っている。〕（同上）

上記の〈刺激体〉が“对”や“为”という前置詞に導かれる形の構文以外に、他の前置詞に導かれる形の構文も存在する。例えば、1.1節で挙げた学習者の誤用例を自然な中国語に直してみれば、〈刺激体〉が“被”という前置詞に導かれる形の構文にできる。

(100) “\*我很感动他的话。”

〔私は彼の言葉に感動した。〕（(1)の再掲）

(101) “我被他的话感动了。”

〔私は彼の言葉に感動させられた。〕

また、木村（2017）は、前置詞に導かれる成分を〈刺激体〉に限定しているが、〈感情主〉が前置詞に導かれる場合も存在する。例えば、大河内（1997）、古川（2003）などの先行研究で取り上げられた使役構文が挙げられる。

(102) 中国足球不能总让人失望<sup>2</sup>。（CCL）

〔中国サッカーはいつも人を失望させるわけにはいかない。〕

〈感情主〉を導くことができる前置詞には、使役マーカーの“让”だけではなく、“把”、“给”などの前置詞もある。例えば、以下のような例文が挙げられる。

(103) 一句话把妈妈激动得直掉眼泪。(CCL)

[その一言は涙がポロポロと落ちるほど母を感激させた。]

(104) 刚才, 不知道为什么让我们全下车了! 这给我气的! (BCC)

[さっき、なぜか知らないけど、全員バスから降ろされた! めっちゃ腹立つ! ]

このように、SPOV 型感情構文も、前章の SVO 型感情構文と同じように、〈感情主〉主導のタイプと〈刺激体〉主導のタイプに分けられる。

本章では、主に以下の構文を中心に考察する。

#### 【〈感情主〉主導の SPOV 型感情構文】

- ① “对”を用いる感情構文
- ② “为”を用いる感情構文
- ③ “被”を用いる感情構文

#### 【〈刺激体〉主導の SPOV 型感情構文】

- ① “让”を用いる感情構文
- ② “把”を用いる感情構文
- ③ “给”を用いる感情構文

### 4.1 〈感情主〉主導の SPOV 型感情構文について

本節では、〈感情主〉が主語の位置に立ち、〈刺激体〉が前置詞で導かれる感情構文を考察する。以下、前置詞“对”、“为”、“被”で導かれる感情構文を中心に見ていく。

#### 4.1.1 “对”を用いる感情構文

##### 4.1.1.1 “对”的意味

“对”には、量詞や形容詞や動詞や前置詞の用法がある。前置詞としての“对”的意味について、《现代汉语八百词》<sup>3</sup>は、以下のように述べている。

1. 指示动作的对象；朝；向。

小黄～我笑了笑～决不～困难低头～他～你说了些什么？

2. 表示对待。用法大致同‘对于’。用‘对于’的句子都能换用‘对’；但用‘对’的句子，有些不能换用‘对于’。

a) 表示人与人之间的关系，只能用‘对’。

大家～我都很热情～我们～你完全信任～我～老张有一点意见

b) ‘对…’可用在助动词、副词的前或后，也可用在主语前（有停顿），意思相同。

我们会～这件事作出安排的～我们～这件事会作出安排的～～这件事，我们会作出安排的～大家都～这个问题很感兴趣～大家～这个问题都很感兴趣～～这个问题，大家都很感兴趣

‘对于…’不能用在助动词、副词之后，只能用在另两个位置。

c) 对…来说。表示从某人、某事的角度来看。有时候也说‘对…说来’。

～我们的文艺创作来说，题材是很广泛的～～我们说来，没有克服不了的困难

[1. 動作の対象を示す；…に向かって；…の方に。]

黄くんは私に笑いかけた～決して困難に屈しない～彼は君にどんなことを話したんだい？

2. …に対して。用法はだいたい‘对于’に同じ。‘对于’はすべて‘对’に置き換えられる；しかし‘对’は‘对于’に置き換えられないときもある。

a) 人間関係を示すときに用いるのは‘对’のみ。

みんなは私に親切だ～私たちはあなたを全面的に信頼している～ぼくは張さんにちょっと文句がある

b) ‘对…’は助動詞・副詞の前後どちらに用いてもよく、主語より前に用いてもよい（ポーズを置く）。意味は同じ。

我々はこの件についてはとりはからうことができます～みんなはこの問題にたいへん興味を持っている

‘对于…’を助動詞・副詞の後ろに用いることができない。（上記の3例中）第2・3例の位置でのみ用いる。

c) …にとってみれば。ある人・事物の角度や位置から見ることを表す。‘对…说来’とも言う。

我々の文艺創作について言えば、題材の範囲は極めて広い～我々にとって克服できない困難はない]

（吕叔湘 1999: 182-183）

上述のように、前置詞としての“対”には、二つの意味項目がある。一つは動作の対象を示す。もう一つは対処関係を表す。前者の場合には、動作動詞（“笑”（笑う），“说”（話す）など）と共に起ることが多いのに対して、後者の場合には、状態動詞（“信任”（信頼する）など）や形容詞（“热情”（親切だ）など）と共に起ることが多い。

また、この二つの意味項目の関係について、周芍、邵敬敏（2006）は、後者の意味は前者の文法化を経て生じたものだと主張している。言い換えれば、具体的な意味を持つ前者が、抽象的意味を持つ後者へと変化したのである。

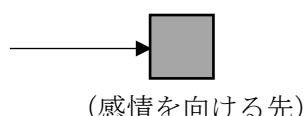
本研究で扱う“対”的意味は、言うまでもなく、後者のほうに属する。だが、上記のように対処関係を表すと規定した場合は、漠然としすぎると考えたため、本研究では、“対”を用いる感情構文における“対”的意味を下記のように規定する。

### 【本研究で扱う“対”的意味】

感情を向ける先を導く。

図式で示すと、下記の図15である。

### 【図15】感情表現における“対”的イメージ図



感情を向ける先には、具体的にヒト・モノ・コトがある。例えば、“失望”（がっかりする）を例とすれば、下記のように三つのパターンが挙げられる。

(105) a. 我对他很失望。（ヒト）

[私は彼にがっかりした。]

b. 我对这部电影很失望。（モノ）

[私はこの映画にがっかりした。]

c. 我对他出演这部电影很失望。（コト）

[私は彼がこの映画に出演したことにがっかりした。]

(作例)

#### 4.1.1.2 感情述詞の特徴

木村 (2017) は、〈刺激体〉が“対”で導かれる感情述詞を「失望・驚嘆」タイプと呼んでいる。その例として、“失望”(がっかりする)、“吃惊”(びっくりする)、“惊讶”(驚く)、“灰心”(気落ちする)の4語が挙げられている。しかし、他にも多数挙げられる。第2章の表4に示した108語の感情述詞を内省し検討した結果、76語の感情述詞が当てはまると判断した。おおよそ全体の70%を占めている。詳細は下記の表14にまとめる。

【表14】“対”を用いる感情構文に当てはまる感情述詞

意味特徴	語彙例
「失望」	灰心、绝望、失望
「驚嘆」	吃惊、惊奇、惊讶、震惊
「満足」	满意、满足、欣慰
「悔恨」	甘心、后悔、悔恨、惋惜、无奈、遗憾
「安堵」	放心
「羞恥」	抱歉、惭愧、害羞
「憤怒」	愤怒、生气
「不安」	不安、担心、紧张
「感激」	感动、感慨、激动
「自慢」	骄傲、自豪、自满
「焦燥」	发愁、烦、烦恼、烦躁、焦急、恼火、郁闷、着急
「憐憫」	关怀、关心、可怜、同情、心疼
「懷古」	怀念、留恋、思念、想念
「敬慕」	崇拜、崇敬、佩服、羡慕、尊重、尊敬
「愛好」	爱、爱戴、爱惜、热爱、疼爱、喜欢、着迷
「嫌惡」	反感、恨、嫉妒、藐视、蔑视、讨厌、嫌弃
「畏怖」	害怕、恐惧、怕
「愉悦」	高兴、开心、兴奋
「悲痛」	沮丧、难过

表 14 から、木村 (2017) で取り上げた「失望・驚嘆」タイプ以外に、「満足」や「悔恨」といったタイプの感情述詞も“对”を用いる感情構文に当てはまると言える。例えば、以下のような例文が見られる。

(106) 我爸爸对这个待遇很满足。 (CCL)

[私の父親はこの待遇にとても満足している。]

(107) 如今, 陈道明对此非常后悔。 (CCL)

[今にして、陳道明さんはこのことを非常に後悔している。]

(106) において、感情述詞“満足”(満足する)の直前に程度副詞“很”(とても)を取っており、(107) において、感情述詞“后悔”(後悔する)の直前に程度副詞“非常”(非常に)を取っている。もし、この程度副詞を取り除くと、かなり座りが悪いように感じられる。

(106') ?我爸爸对这个待遇满足。

[私の父親はこの待遇に満足している。]

(107') ?如今, 陈道明对此后悔。

[今にして、陳道明さんはこのことを後悔している。]

上記の 2 組の例の比較から、“对”を用いる感情構文に当てはまる感情述詞は、第 3 章で論じた SVO 型感情構文における感情述詞より、全体的に形容詞的性質が強いと言えよう。なぜなら、SVO 型感情構文における典型的な感情述詞であれば、程度副詞を義務的に付けなければならないことがないからである。例えば、“喜欢”(好きだ) は程度副詞を付けないのは一般的である。中国語で好きな人に告白するとすれば、“我喜欢你”(君のことが好きだ) は、“我很喜欢你”(君のことがとても好きだ) よりも伝わると感じられる。

ところが、表 14 に“喜欢”(好きだ) といった動詞的性質が強い感情述詞も入っている。例えば、以下の例が挙げられる。

(108) 他对这个绰号很喜欢。 (CCL)

[彼はこのあだ名がとても好きだ。]

(108) は、“満足”(満足する)を用いた(106)と同様に、感情述詞の直前に程度副詞“很”(とても)を取っている。この場合にも、程度副詞“很”(とても)を取り除くと、容認度が下がる。

(108') ?他对这个绰号喜欢。

[彼はこのあだ名が好きだ。]

(108) と (108')との比較を通じて、動詞的性質が相対的に強い感情述詞“喜欢”(好きだ)であっても、“对”を用いる感情構文に当てはめる際に、程度副詞が付くのが一般的であることはわかる。一方、既述したように、“喜欢”(好きだ)を SVO型感情構文に当てはめる際に、程度副詞が付かないのが一般的である。

また、程度副詞が付くパターン以外に、“喜欢”(好きだ)の後に“得”を介して程度補語が来るパターンも見られる。例えば、下記の例がある。

(109) 她对圣卢喜欢得不得了。(CCL)

[彼女は聖盧さんが好きでたまらない。]

(109) は、“喜欢”(好きだ)の後に“得”が来ており、さらにその後ろに「たまらない」を表す程度補語“不得了”が来ている。むろん、ここでも程度補語を取り除いてはいけない。

程度副詞を付けたり、程度補語を付けたりするのは、いずれにしても“对”が用いられる感情構文に“喜欢”(好きだ)を当てはめる際に、その述語の状態性を強めるためである。

ここで、一つ興味深いのは、“喜欢”(好きだ)が“对”を含む感情構文に用いられる際に、程度副詞を付けるよりも、程度補語を付けるほうが母語話者にとってより自然である。

さらに、もう一つ興味深いのは、単音節の感情述詞の場合、程度副詞を付けるパターンがCCLコーパスの中で見つからず、程度補語を付けるパターンしか見つけられなかった。

(110) 诗人艾青写道：为什么我的眼里常含着泪水，因为我对这块土地爱得深沉。(CCL)

[詩人の艾青さんは、どうして私の目には常に涙が浮かんでいるのか。この土地を  
深く愛しているからだと書いた。]

(111) 这帮人平日里输得七窍生烟，对赌场恨得要死，巴不得有人替他们报仇雪恨。(CCL)

[こいつらは、普段頭から湯気を立てるほど負けていて、赌博場を死ぬほど恨んでいる。彼らの代わりに敵を討ち、恨みを晴らしてくれる人がいてほしくてたまらない。]

上記の 2 例では、いずれも单音節の感情述詞の後ろに程度を表す程度補語を取っている。もし、この 2 例における程度補語を程度副詞に置き換えると、自然な中国語として成り立にくくなる。つまり、“我对这块土地很爱”（私は、この土地に対してとても愛している）と“这帮人对赌场非常恨”（こいつらは、賭博場に対して非常に恨んでいる）という 2 文は、容認度が非常に低くなる。これにより、音節は、“对”を用いる感情構文の構成パターンに影響を与えると言えるであろう。

“喜欢”（好きだ）や“爱”（愛する）といった動詞的性質が強い感情述詞以外に、それと正反対の“高兴”（嬉しい）や“难过”（悲しい）といった形容詞的性質が強い感情述詞を“对”が用いられる感情構文に当てはめる例も見られる。例えば、以下のような例がある。

(112) 谢非对此十分高兴。 (CCL)

[謝非さんはこれに対してとても喜んでいる。]

(113) 在 1990 年世界杯时, 我的父亲对我的处境非常难过。 (CCL)

[1990 年ワールドカップの時に、父親は私の境遇に対して非常に悲しんでいた。]

上記の 2 例における感情述詞“高兴”（嬉しい）と“难过”（悲しい）は、“失望”（失望する）や“吃惊”（驚く）と比べると、“对”を用いる感情構文との相性が良くない。その理由は、コーパスを調べてみると、“高兴”（嬉しい）と“难过”（悲しい）は、直接的に述語として用いられるよりも、“感到”（感じる）という動詞の目的語として用いられるほうが圧倒的多数を占めると観察できるからである。例えば、下記の例が挙げられる。

(114) 他对此感到很高兴。 (CCL)

[彼はこれに対してとても嬉しく感じている。]

(115) 我对此感到十分难过。 (CCL)

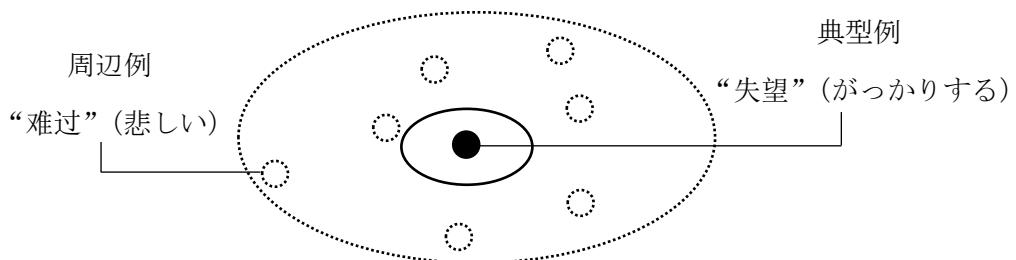
[私はこれに対してとても悲しく感じている。]

(114) と (115) は、(112) と (113) の 2 例と比べると、より自然に感じられる。このことから、“高兴”(嬉しい) と “难过”(悲しい) といった形容詞的性質が強い感情述詞は、“对”を用いる感情構文に当てはめる際に単独で述語として使用しにくく、“感到”(感じる) などの動詞の補助が必要だと推測できる。

一方、木村 (2017) で取り上げた「失望・驚嘆」タイプや前述した「満足・悔恨」タイプは、言うまでもなく、感情述詞の前に “感到”(感じる) を付け加えても成り立つが、ないほうが一般的である。なぜなら、「失望・驚嘆」タイプや「満足・悔恨」タイプは、形容詞的性質を帶びながらも、動詞的性質もある程度持っており、述語にできるからである。

このように、“对”を用いる感情構文に当てはまる感情述詞においては、構文との相性が良いものもあれば、悪いものもある。本研究では、コーパス調査と内省により、“对”を用いる感情構文に当てはまる感情述詞のカテゴリーを下記の図で示す。

【図 16】“对”を用いる感情構文に当てはまる感情述詞のカテゴリー



#### 4.1.1.3 副詞の生起位置

先述のように、感情述詞を“对”が用いられる感情構文に当てはめる際、裸の形ではなく、程度副詞が付くのが一般的である。例えば、“失望”(がっかりする)を使用した例文がある。

(116) 我对他很失望。 (CCL)

[私は彼にとてもがっかりしている。]

(116) は、程度副詞 “很”(とても) が感情述詞の直前に来ており、前置詞 “对” の直前に移動できない。すなわち、下記の文は非文となる。

(116') \*我很对他失望。

[私はとても彼にがっかりしている。]

“很”(とても)の他に、“非常”(非常に)、“十分”(大変)、“有点”(少し)などの程度副詞もよく見られる。それぞれに当たる例文は以下のようである。

(117) 刘红梅对这个结果非常失望。(CCL)

[劉紅梅さんはこの結果に非常にがっかりしている。]

(118) 但是一年之后, 他们对占领军十分失望, 美军没有为萨德尔城的居民提供改善生活条件的物质帮助, 相反, 他们带来了混乱, 城内没有治安, 居民没有安全感。(CCL)

[しかし一年後、彼らは占領軍に大変がっかりした。米軍はサダルシティの住民に生活環境を改善するための物資的な援助を提供しておらず、逆に、混乱をもたらした。シティ内では治安が悪化し、住民には安心感がなかった。]

(119) 虽然我对长城的状态有点失望, 但能沿着它走, 并不时用手摸摸它, 仍使我深感兴奋。(CCL)

[私は万里の長城の状態に少しがっかりしたが、そこを歩いていて、そして時々手で触ることができて、とても興奮した。]

程度副詞以外に、否定副詞もよく見られる。周知のように、中国語には、使用頻度の高い否定副詞が二つある。それは、“不”と“没(有)”である。この二つの否定副詞は、両方とも“对”を用いる感情構文に当てはめることができる。例えば、“满足”(満足する)という感情述詞を使用した以下の例文がある。

(120) 常柴厂的产品在国内是第一流的, 但沈铁平对此并不满足。(CCL)

[常柴工場の製品は国内で一流だが、沈鉄平さんはこれに決して満足しない。]

(121) 河北制药厂的领导们对成绩没有满足, 又开始着眼于让职工更加主动地参与工厂管理。(CCL)

[河北製薬所の役員たちは成績に満足していない。それだけではなく職員にもっと積極的に工場の管理に参加させることに取り組み始めた。]

上記の 2 例は、いずれも程度副詞と同様に、否定副詞は感情述詞の直前に来ている。(120) は、“不”を用いて主観的意志を否定し、一方で、(121) は、“没有”を用いて客観的事実を否定する。

もちろん、否定副詞が感情述詞の直前に来るのは、よく見られるパターンであるが、前置詞の直前に来るパターンも存在する。例えば、以下の例がある。

(122) 产品用户遍及国内外 1500 多家，市场覆盖全国 29 个省、市、自治区，部分产品出口到美国、日本、印尼、新加坡、菲律宾、孟加拉等十几个国家和地区。宁耐厂没有对此满足，而是于 1992 年，花了近百万元进行市场技术调查和技术改造论证，然后投资 9000 万元，实施了全省乡镇企业投资规模最大的炼钢、轧钢、轧球技改项目，并引进了日本 VRH 自动化生产线。(CCL)

[製品のユーザーは、国内外の 1500 余りに及んでおり、市場は、全国 29 省、市、自治区をカバーしており、一部の製品は、アメリカ、日本、インドネシア、シンガポール、フィリピン、バングラデシュなど十数か国や地区に輸出されている。  
寧耐工場はこれに満足せず、1992 年に、百万元近くを使って市場技術の調査と技術改造の論証を行って、その後 9000 万元を投資し、全省郷鎮企業の中で投資規模が最大の製鋼や圧延鋼材や圧延鋼球の技術改造のプロジェクトを実施して、そして日本の VRH 自動化生産ラインを導入した。】

(122) は、“没有”は前置詞“对”的直前に来ているが、前置詞句“对此”(これに対して)を否定するのではなく、(121) における“对成绩没有满足”(成績に満足していない) と同様に、述語の“满足”(満足する)を否定する。言い換えれば、この 2 文は否定の焦点が同じである。むろん、否定副詞が感情述詞の直前に来ている (121) は、通常のパターンである。では、なぜ言語事実には、(122) のような例が存在するであろうか。

この現象について、李双剑、陈振宇 (2018) は、主観性の観点から解釈している。つまり、否定副詞を述語の直前から前置詞の直前に移動させるのは、“主观性跃升”(主観性アップ；subjective raising) であり、“反预期”(予期に反する) もしくは“反常理”(常識に反する) という主観的感情を示すためである。

本研究は、李双剑、陈振宇 (2018) の解釈に賛成する。(122) における“宁耐厂没有对此满足”(寧耐工場はこれに満足していない) の前後の文脈から、あれだけ成功している企業

は、常識で考えれば、満足するはずだという予期に反しているという感情は、難なく読み取れるであろう。

ところが、コーパスを調べてみれば、否定副詞“没（有）”が前置詞“对”的直前に来るパターンはごく稀にあることがわかる。また、否定副詞“不”に関しては、前置詞“对”的直前に来る例が見つけられなかった。

ただ、特殊な文脈が備われば、成立する例も存在する。例えば、李双剑、陈振宇（2018）は、下記の例を挙げている。

(123) 我并不对他怎么满意。/别着急啊，我还没对他满意呢！(李双剑、陈振宇 2018: 101)

[私は別に彼をそれほど気に入っていない。／焦るなよ。私はまだ彼を気に入っていない。]

(124) 你还不对他满意吗？（同上）

[あなたはまだ彼を気に入らないか？]

(125) 假如我不对他满意，就不会答应他了。（同上）

[もし、私が彼を気に入らなかったら、私は彼に承諾していなかっただろう。]

李双剑、陈振宇（2018）によれば、(123) のような語氣副詞“并”（別に）や“还”（まだ）が用いられて、予期に反することを表す場合だったり、(124) のような疑問（主に反語）を表す場合だったり、(125) のような仮定を表す場合だったりするのであれば、否定副詞は、前置詞“对”的直前に移動するのが可能だという。

このように、“对”を用いる感情構文において、否定副詞の位置は、感情述詞の前に来るのが主流であるが、特殊な文脈があれば、“对”的直前に移動するのも可能である。

この小節は、“对”を用いる感情構文において、程度副詞と否定副詞を中心とした副詞の生起位置について分析した。その結果を下記の表 15 にまとめる。

【表 15】“对”を用いる感情構文における程度副詞と否定副詞の生起位置

種類 位置	感情述詞の直前	前置詞“对”的直前
程度副詞	可	不可
否定副詞	可	特殊な文脈があれば可

#### 4.1.1.4 構文的意味

“对”を用いる感情構文は、〈感情主〉が主語の位置に立っており、〈刺激体〉が“对”で導かれる構文である。既述のように、本研究で扱う“对”的意味は、感情を向ける先を導くことである。ここでの「感情を向ける先」は、すなわち、“对”的直後に来ている〈刺激体〉のことである。そのため、この構文の構文的意味は、〈感情主〉が〈刺激体〉に向かい、感情反応を示すことである。

【図 17】“对”を用いる感情構文の構文的意味の図式化

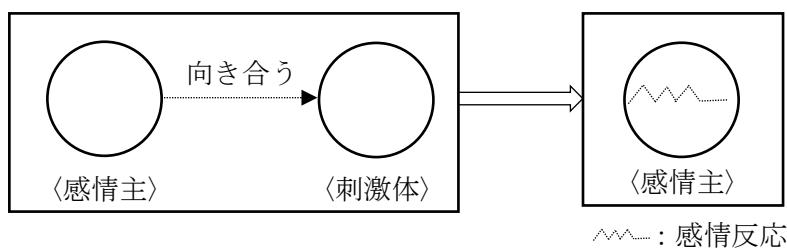


図 17 に示すように、“对”を用いる感情構文は、二つの事態に分けられると考えられる。つまり、一つ目の事態は、〈感情主〉が〈刺激体〉に向き合うことであり、二つ目の事態は、〈感情主〉が感情反応することである。

周知のように、中国語の多くの前置詞は、動詞から変化してきたものである。もちろん、“对”も例外なく、動詞から変化してきたものである。これについて、周芍、邵敬敏 (2006) は“对”が最初に動詞として存在していたと結論付けている。そこで、“对”を用いる感情構文における“对”も、いくぶん動詞的な色彩を帶びていると言っても過言ではないだろう。

このように、“对”を用いる感情構文が成立する過程として、まず、〈感情主〉が〈刺激体〉に向き合う事態と〈感情主〉が感情反応する事態が結合し、さらに、二つ目の事態の主語の脱落を経過して生まれたものと想定し得る<sup>4</sup>。以下の例を見られたい。

(126) 我对他 + 我很失望	私は彼に向き合う + 私はがっかりしている
↓	↓
我对他很失望	私は彼にがっかりしている
我: 脱落	私: 脱落

## 4.1.2 “为”を用いる感情構文

### 4.1.2.1 “为” の意味

“为”には、前置詞の用法しかない。その意味について、《现代汉语八百词》は、以下のように述べている。

#### 1. 引进动作的受益者；给。

##### a) 为+名。

～人民服务 | ～报社写文章 | 我在这儿一切都好，不用～我担心 | 请～我向主人表示谢意

##### b) 为+动/小句。

这次试验～新产品的研制找到了新的途径 | 电视大学～职工业余进修提供了良好条件

#### 2. 表示原因、目的。可加‘了、着’。‘为了…’、‘为着…’可在主语前，有停顿。

##### a) 为+名。

大家都～为这件事高兴 | ～人类的和平进步作贡献

##### b) 为+动/小句。

～避免差错，最好再检查一遍 | ～了职工能安心工作，机关办起了托儿所 | ～了培育下一代，我愿意终身从事教育工作 | ～着适应生产力的发展，企业的经营管理方法需要相应地改革

##### c) 为+动/形+起见。 用在主语前，有停顿。‘为’不能加‘了、着’。‘为’后不能用名词。

～慎重起见，再让技术员来检验一下 | ～方便读者起见，书末还附了一个年代表

##### d) 为…而…。 ‘为’不能加‘了、着’。

～开设新课程而积极备课 | ～人民而死，虽死犹荣 | ～开发新的油田而努力

##### e) 为了…而…。 前后用意义相反的两个动词，表示转折。‘为’后必加‘了’。

～了前进而后退，～了向正面而向侧面，～了走直路而走弯路，这是许多事物在发展过程中所不可避免的现象

#### [1. 動作の受益者を導く；…のために。]

##### a) 为+名。

人民に奉仕する | 新聞社のために原稿を書く | こちらはすべて順調ですから  
私のために心配しないでください | 主催者に私の謝意をお伝えください

b) 为+動/節。

今回の実験は、新製品開発のために新しい方法をもたらした | テレビ大学は勤労者の時間外研修に好条件を用意した

2. 原因・目的を表す。《付》了・着。‘为了…’、‘为着…’は主語の前に置き、ポーズを置ける。

a) 为+名。

みんながこの事を喜んでいる | 人類の平和と進歩のために貢献しよう

b) 为+動/節。

間違いをなくすためにもう1度検査するほうがよい | 労働者職員が腰をすえて働くよう、職場は託児所を設けた | 次の世代を育てるため、私は一生教育事業に身をささげたい | 生産力の発展に対応するため、企業の経営管理方法もそれにふさわしく改革する必要がある

c) 为+動/形+起見。 主語の前に用い、ポーズを置く。《<sup>×</sup>付》了・着。‘为’の後ろに名詞を用いてはいけない。

慎重を期するために、再度エンジニアに検査させる | 読者の便宜のために、巻末に年表を付けた

d) 为…而…。 《<sup>×</sup>付》了・着。

新しいカリキュラムのために積極的に授業準備にとりくむ | 人民のために死ぬことは名誉である | 新しい油田を開発するために努力する

e) 为了…而…。 反義の動詞を前後に用い、逆接を表す。必ず‘为’の後ろに‘了’を付ける

前進のための後退、正面に向かおうとして側面に向かう、まっすぐ行こうとして曲がる、これは多くの事物の発展過程において避けられない現象である]

(呂叔湘 1999: 551-552)

上述のように、前置詞“为”には、二つの意味項目がある。一つは、動作の受益者を示し、もう一つは、行為の原因や目的を表す。後者の意味には、さらに原因と目的に分かれている。周知のように、<原因>と<目的>は、1組の対概念である。古川(2000)は、認知言語学

の観点から、前置詞“为”に双指向性があると指摘している。つまり、原因は<始点>指向 (source-oriented) であり、目的は<終点>指向 (goal-oriented) である。また、受益の意味についても、古川 (2000) は、双指向性を用いて、解釈できると述べている。つまり、受益は<終点>指向であり、受身<sup>5</sup>は<始点>指向である。

古川 (2000) の“为”に対する解釈をまとめると、下記の図で示すことができる。

【図 18】古川 (2000) の“为”に対する解釈のまとめ



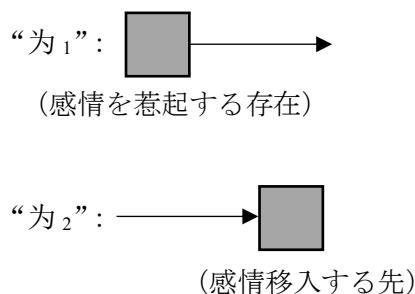
古川 (2000) を踏まえて、本研究の研究対象である感情表現における“为”的意味を下記のように規定する。

#### 【本研究で扱う“为”的意味】

- “为<sub>1</sub>”：感情を惹起する存在を導く。（起点）
- “为<sub>2</sub>”：感情移入する先を導く。（終点）

図式で示すと、下記の図 19 である。

【図 19】感情表現における“为”的イメージ図



“为<sub>1</sub>”の場合、感情を惹起する存在には、具体的にヒト・モノ・コトがある。例えば、下記の例が挙げられる。

(127) 奶奶去世了, 大家都在为她难过。(ヒト)

[祖母が亡くなり、みんなは彼女のことで悲しんでいる]】

(128) 他在为钱发愁。(モノ)

[彼はお金のことで気をもんでいる。]

(129) 毕业生在为找工作烦恼。(コト)

[卒業生は仕事探しに悩んでいる]

(作例)

一方、“为<sub>2</sub>”において、感情移入する先には、ヒトしかない。例えば、下記の例がある。

(130) 听说你找到工作了, 我真为你高兴! (ヒト)

[お仕事が見つかったんだって、こっちまで嬉しいわ!] (作例)

“为<sub>2</sub>”の場合は、“替”と置き換えることが可能である<sup>6</sup>。例えば、下記の例がある。

(130') 听说你找到工作了, 我真替你高兴!

[お仕事が見つかったんだって、こっちまで嬉しいわ!]

#### 4.1.2.2 感情述詞の特徴

木村 (2017) は、〈刺激体〉が“为”で導かれる感情述詞を「焦燥・不安」タイプと呼んでいる。その例として、“焦急”(苛立つ)、“不安”(不安である)、“难过”(つらい)、“伤心”(悲しい)の4語が挙げられている。その例文としては、“焦急”(苛立つ)を使用した下記のものが挙げられている。

(131) 她为这种情况很焦急。( (99) の再掲)

[彼女はこの状況にとても苛立っている。]

また、古川 (2003) は、〈刺激体〉が“为”で導かれる感情述詞について“高兴”(嬉しい)、“感动”(感動する)などを挙げている。その例文としては、“感动”(感動する)を使用した下記のものが挙げられている。

(132) 老韩为妻子的通情达理十分感动，说“你真是好老婆。” (古川 2003: 32)

[韓さんは妻の物わかりの良さに感動して、「あなたは本当に良い妻だ」と言った。]

しかし、木村 (2017) と古川 (2003) は、感情を惹起する存在を導く “为<sub>1</sub>” だけを扱っている。本節は、“为”を“为<sub>1</sub>”と“为<sub>2</sub>”に分けて、それぞれと共に起できる感情述詞を整理する。

まず、“为<sub>1</sub>”を用いる感情構文に当てはまる感情述詞に関して、同じように、第2章の表4に示した108語の感情述詞を内省し検討した結果、36語の感情述詞が当てはまると判断した。およそ全体の33%を占めている。その36語の感情述詞を、意味に基づいて11項目に分けて下記の表16にまとめる。

【表16】“为<sub>1</sub>”を用いる感情構文に当てはまる感情述詞

意味特徴	語彙例
「焦燥」	愁、发愁、烦、烦恼、烦躁、慌张、急躁、焦急、恼火、郁闷、着急
「不安」	担心
「愉悦」	高兴、开心、兴奋
「悲痛」	悲哀、沮丧、难过、伤心、痛苦、心痛
「自慢」	骄傲、自豪
「憤怒」	愤怒、生气
「感激」	感动、激动
「愛好」	着迷
「悔恨」	后悔、悔恨、遗憾
「驚嘆」	吃惊、惊奇、惊讶、震惊
「羞恥」	害羞

表16から見て取れるように、「焦燥」の意味を持つ感情述詞が圧倒的に多い。この事実も、木村 (2017) が〈刺激体〉が“为”で導かれる感情述詞の意味特徴を「焦燥・不安」とまとめたことの裏付けとなるであろう。

また、木村 (2017) は、“焦急”(苛立つ)をその代表例として挙げているが、コーパスの

データを観察すれば、“焦急”（苛立つ）という感情述詞よりも、“煩惱”（思い煩う）のほうが多数存在することがうかがえる。例えば、下記の例が挙げられる。

(133) 康伟男有生以来, 第一次为女孩子煩惱。 (BCC)

[康偉男さんは生まれてから初めて女の子のことで思い煩う。]

(134) 不为小事煩惱, 謹記! (BCC)

[些細なことで思い煩わないことを肝に銘じてください! ]

(135) 只要看他的眼神, 就知道他正在为爱情煩惱。 (BCC)

[彼の目つきさえ見れば、彼が恋のことで思い煩っていることがわかる。]

(133)においては、〈刺激体〉である“女孩子”（女の子）の直後に、程度副詞を挟まずに感情述詞である“煩惱”（思い煩う）が直接に来ている。これは、“对”で導かれる感情構文と大きく異なるところである。既述したように、“对”で導かれる感情構文では、基本的に程度副詞を付ける。それに対して、“为<sub>1</sub>”で導かれる感情構文では、(133)のように、基本的に程度副詞を付けない<sup>7</sup>。もし、(133)における感情述詞の直前に程度副詞“很”（とても）を付けてみると、自然度が下がる。

(133') ?康伟男有生以来, 第一次为女孩子很煩惱。

[康偉男さんは生まれてから初めて女の子のことでとても思い煩う。]

さらに、BCC コーパスを調査したところ、“为<sub>1</sub>”で導かれる感情構文の場合、感情述詞“煩惱”（思い煩う）の直前に程度副詞が付いている例が見つけられなかった。そのため、木村 (2017) と古川 (2003) がそれぞれ挙げた程度副詞付きの (131) と (132) は“为<sub>1</sub>”を用いる感情構文の典型的なパターンと言いかねるであろう。

また、(134)において、前置詞“为<sub>1</sub>”の直前に否定副詞があり、感情述詞は、“为<sub>1</sub>”に後置する。だが、“对”で導かれる感情構文では、基本的に“对”的直後に否定副詞があり、その後に感情述詞が来る。最後に、(135)においては、前置詞“为<sub>1</sub>”の直前に動作の進行を表す副詞“在”が付いている。

以上の3点の特徴に基づいて、“为<sub>1</sub>”で導かれる感情構文は、“对”で導かれる感情構文と比べると、状態性が相対的に弱く、動作性が相対的に強いと見て取れる。

多数のデータが存在する“煩惱”（思い煩う）以外に、ごく少量しか存在しない例もある。それは“害羞”（恥ずかしい）である。“为<sub>1</sub>”で導かれる感情構文に当てはまる例は、BCCコーパスにおいて1例しか見つけられなかった。その例は下記のようになる。

(136) 別为身材害羞。(BCC)

〔スタイルのことで恥ずかしがらないでください。〕

(136) はもちろん成立するが、内省により“为”を“因为”に置き換えたほうがより自然に感じられる。つまり、下記のようになる。

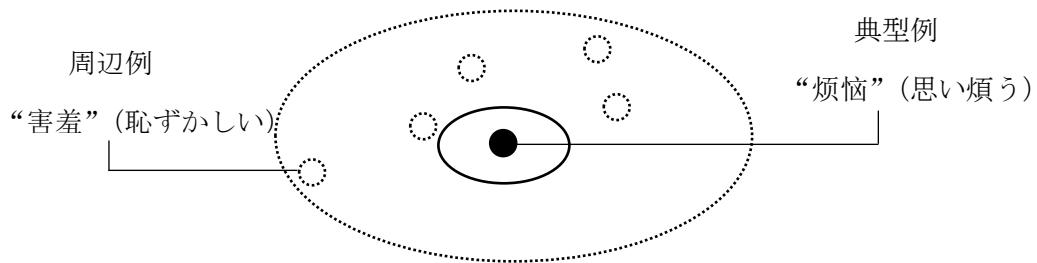
(136') 别因为身材害羞。

〔スタイルのことで恥ずかしがらないでください。〕

上記の比較から、“为”で導かれる感情構文と“因为”で導かれる感情構文の間には微妙な相違点が存在するとうかがえる。

このように、“为<sub>1</sub>”を用いる感情構文に当てはまる感情述詞の中で、“煩惱”（思い煩う）を典型例とし、“害羞”（恥ずかしい）を周辺例としておく。それを下記の図式に示す。

【図 20】“为<sub>1</sub>”を用いる感情構文に当てはまる感情述詞のカテゴリー



次に、“为<sub>2</sub>”を用いる感情構文に当てはまる感情述詞に関して、同じように、第2章の表4に示した108語の感情述詞を内省し検討した結果、18語の感情述詞が当てはまると判断した。おおよそ全体の17%を占めている。詳細は下記の表17にまとめた。

【表 17】“为<sub>2</sub>”を用いる感情構文に当てはまる感情述詞

意味特徴	語彙例
「愉悦」	高兴、开心
「悲痛」	悲哀、难过、伤心
「自慢」	骄傲、自豪
「焦躁」	愁、发愁、烦、烦恼、焦急、着急
「悔恨」	惋惜
「羞耻」	惭愧、害羞
「不安」	担心、紧张

コーパスを観察してみると、“为<sub>2</sub>”と共に起する感情述詞は、“高兴”（嬉しい）を使用した事例が最も多く、“难过”（悲しい）がその次に多いとわかる。例えば、以下の例がある。

(137) 在我要离开美国的时候，一个美国学生对我说：“我为你高兴，你马上可以回到自由的中国去了。”(BCC)

[アメリカを離れようとした時に、あるアメリカ人の学生は、「私はあなたのために嬉しい、あなたがもうすぐ自由な中国に戻れるから。」と私に言った。]

(138) 你应该尽一切力量争取今年考上初中。不然，全家人也都会为你难过。(BCC)

[あなたは今年中学校に受かるようにベストを尽くすべきだ。そうでなければ、家族全員もあなたのために悲しむ]】

(137) と (138) は、“为<sub>1</sub>”が用いられた (133) と同様に〈刺激体〉と感情述詞の間に程度副詞が挟まれていない。もし程度副詞を付けるとすれば、感情述詞の直前ではなく、“为<sub>2</sub>”の直前に付けなければならない。例えば、以下の例がある。

(139) 隆基，你长大了！我真的很为你高兴！(BCC)

[隆基、大きくなったね！私は本当にあなたのために嬉しい！]

もし、(139) における“很”（とても）を感情述詞の直前に移動させると、容認し難い文となる。つまり、“我真的很为你很高兴”は非文である。そこで、“为<sub>2</sub>”を用いる感情構文は、

程度副詞の置く場所という点で、“为<sub>1</sub>”を用いる感情構文と異なることが見て取れる。

また、“高兴”(嬉しい) や “难过”(悲しい) などの感情述詞が “为” を用いる感情構文に当てはまる際に、もし〈刺激体〉がヒトである場合、感情移入する先の意味を表す “为<sub>2</sub>” を取ることが躊躇なく判断できる。一方で、“担心”(心配する) の場合、どちらを選択するかについては困難である。例えば、下記の例を見てみよう。

(140) 您怎么啦？您看起来心事重重的。我很为你担心！ (BCC)

[あなたはどうされましたか？あなたは、心配事があるように見えますが、私は、とてもあなたのことを心配しています！]

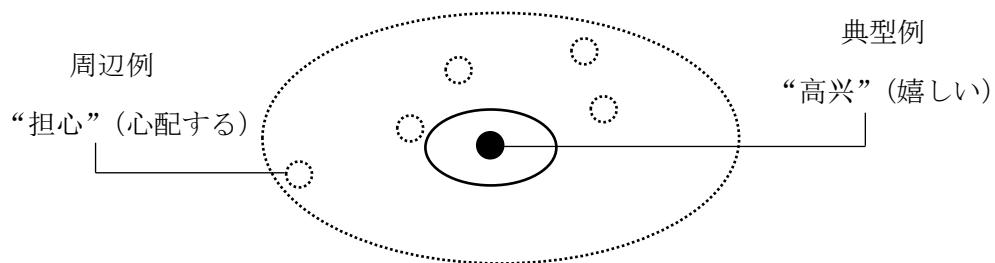
(140) の文脈では、ここでの “为” が、感情移入する先の意味を取るように感じられる。この場合、“为” を “替” に置き換えるも成立する。つまり、“我很替你担心” という文は、不自然に感じられない。ところが、コーパスの中にも下記のような例も存在する。

(141) “那么，生活必很像个样子了。老实说，远远的想象着，我们为你很担心。” (BCC)

[「それなら、きっとそこそこ良い暮らしをしているよね。実は、私たちは、遠く離れたところで想像していて、あなたのことをとても心配している。」]

(141) における “为” を “替” に置き換えると、明らかに容認度の低い文となる。つまり、“我们替你很担心” は非文に近い。そのため、ここでの “为” は感情を惹起する存在の意味である。もし、単なる “我为你担心” という文の場合、“为<sub>1</sub>” か “为<sub>2</sub>” かを判断するのは難しい。このように、“为<sub>2</sub>” と共に起する感情述詞のカテゴリーを下記に示す。

【図 21】“为<sub>2</sub>”を用いる感情構文に当てはまる感情述詞のカテゴリー



#### 4.1.2.3 副詞の生起位置

まず、感情を惹起する存在を表す“为<sub>1</sub>”が用いられる感情構文である。先述したように、感情述詞が裸の形を取り、程度副詞が付かないのは、一般的である。例えば、“烦恼”（思い煩う）が使用された（133）を（142）として再掲する。

（142）康伟男有生以来，第一次为女孩子烦恼。（（133）の再掲）

[康偉男さんは生まれてから初めて女の子のことで思い煩う。]

上記の（142）からわかるように、“烦恼”（思い煩う）が裸の形式を取っており、その直前には程度副詞が来ていない。これは“对”が用いられる感情構文と正反対である。先述したように、“对”が用いられる感情構文の場合、感情述詞の直前に程度副詞を取るのが一般的である。例えば、“失望”（がっかりする）が使用された（116）を（143）として再掲する。

（143）我对他很失望。（（116）の再掲）

[私は彼にとてもがっかりしている。]

（142）と（143）の比較からわかるように、前置詞で導かれる感情構文の中で、感情述詞の直前に程度副詞が付くか否かについては、前置詞によって異なる。

とはいっても、“为<sub>1</sub>”が用いられる感情構文においては、必ずしも感情述詞の直前に程度副詞を取れないとは限らない。例えば、古川（2003）と木村（2017）がそれぞれ以下の例を挙げている。

（144）她为这种情况很焦急。（（99）の再掲）

[彼女はこの状況にとても苛立っている。]

（145）老韩为妻子的通情达理十分感动，说“你真是好老婆。”（（132）の再掲）

[韓さんは妻の物わかりの良さに感動して、「あなたは本当に良い妻だ」と言った。]

上記の2例における“为”が感情を惹起する存在を表す“为<sub>1</sub>”であり、感情述詞の直前

にそれぞれ“很”(とても)と“十分”(たいへん)という程度副詞を取っている。それ以外に、コーパスにおいて、以下の例も見つけられた。

(146) 小姨为这事很痛苦。 (BCC)

[嫁の妹はこの事でとても苦しんでいる。]

(147) 最近他情绪很低落，原因是幼儿园的伙伴说他‘说话不算数’，不愿意跟他玩……

我为这事很着急。 (BCC)

[最近彼は落ち込んでいる。なぜなら、幼稚園の仲間たちは、彼は言ったことを守

らないと言っていて、彼と一緒に遊ぶのを嫌がっているからだ… (母親である)

私はこの事でとても心を碎いている。 ]

上記の2例は、いずれも感情述詞の直前に程度副詞“很”(とても)が来ている。しかし、このような事例は、わずかしか見つけられなかった。その一方、程度副詞が前置詞の直前に来ている事例は複数見つけられた。例えば、以下の例が存在する。

(148) 鲁迅先生很为这一重大收获高兴，在他的书信集中，我们可以看到，他当时写信给远在苏联的朋友说：我们有《子夜》，他们写不出。 (BCC)

[魯迅先生はとてもこの大きな成果を喜んでいた。彼の手紙集からわかるように、当時彼が遠く離れたソ連にいた友達に書いた手紙の中に、「私たちには『子夜』があり、彼らは書けないとあった。】

(149) 我很为这事烦恼，希望能得到帮助。 (BCC)

[私はとてもこの事で悩んでいて、助けがほしいと思っている。]

(148) と (149) は、程度副詞“很”(とても)が感情述詞の直前ではなく、前置詞“为”(の)の直前に来ている。このパターンも多くないが、感情述詞の直前に来ているパターンよりも多く見られる。この点では、“对”が用いられる感情構文と異なる。既述したように、“对”的場合、程度副詞を前置詞の直前に置くことができない。下記の例を見られたい。

(150) \*我很对他失望。 ( (116') の再掲)

[私はとても彼にがっかりしている。]

このように、“为<sub>1</sub>”が用いられる感情構文の場合、程度副詞の生起位置は、前置詞の直前と感情述詞の直前どちらも可能であるが、通常状態としては、程度副詞が出現しないということである。一方、“对”が用いられる感情構文の場合、程度副詞の生起位置は、前置詞の直前が不可能であり、感情述詞の直前が可能である。さらに、程度副詞が感情述詞の直前に生起するのは慣例である。

また、否定副詞の場合、(134) で示したように、前置詞の直前に来ている。それを (151) として再掲する。

(151) 不为小事烦恼, 謹記! ( (134) の再掲)

[些細なことで思い煩わないことを肝に銘じてください!]

(151) からわかるように、“为<sub>1</sub>”の直前に意志性を持つ否定副詞“不”が来ている。これは、(120) で示した“对”が用いられる感情構文の場合と異なっている。“对”が用いられる感情構文の場合、基本的には否定副詞が感情述詞の直前に来ている。ここで、(120) を (152) として再掲する。

(152) 常柴厂的产品在国内是第一流的, 但沈铁平对此并不满足。 ( (120) の再掲)

[常柴工場の製品は国内で一流だが、沈鉄平さんはこれに決して満足しない]

もし、(151) を (152) のように、否定副詞“不”を感情述詞の直前に移動させると、許容できかねる文となる。

(151') \*为小事不烦恼, 謹記!

[些細なことで思い煩わないことを肝に銘じてください!]

(151') が成立しないという事実から、“对”が用いられる感情構文と比べると、“为<sub>1</sub>”が用いられる感情構文のほうは、前置詞フレーズと述語の一体性が強く、その間に他の成分が入りにくいとかがえる。感情述詞の直前に程度副詞を取る例が少数であることもそれを裏付けることができる。

もちろん、主観的意志を否定する“不”だけではなく、客観的事実を否定する“没(有)”

が“为<sub>1</sub>”を用いる感情構文と共に起するパターンも見られる。例えば、下記の例がある。

(153) 小说家琼瑶女士，在台北《联合报》上发表一文，说她从没有为著作权烦恼过。(BCC)

[小説家瓊瑤先生が台北の『聯合紙』に載せた記事には、これまで著作権のこと  
悩んだことがないと書いてある。]

(153) では、否定副詞“没有”が“为<sub>1</sub>”の直前に来ており、感情述詞の直後に経験を表すアスペクト助詞“过”が来ている。周知のように、初級段階における中国語教育では、経験を否定する際に、基本的には否定副詞を動詞の前に置くべきだと教えている。例えば、このような例が挙げられる。“我没有吃过北京烤鸭”(私は北京ダックを食べたことがない)では、否定副詞“没有”が動詞“吃”(食べる)の前に来ている。一方、(153)のような“为<sub>1</sub>”が用いられる感情構文では、“没有”を述語の直前に置くことができない。つまり、下記の例は成立し難い。

(153') \*小说家琼瑶女士，在台北《联合报》上发表一文，说她为著作权从没有烦恼过。

[小説家瓊瑤先生が台北の『聯合紙』に載せた記事には、これまで著作権のこと  
で悩んだことがないと書いてある。]

このように、“为<sub>1</sub>”が用いられる感情構文の場合、主観的意志を否定する否定副詞“不”であれ、客観的事実を否定する“没(有)”であれ、感情述詞の直前に置くことができず、前置詞の直前に置くことしかできない。一方、程度副詞の場合は、感情述詞の直前と前置詞の直前に両方置くことができるが、前置詞の直前に置くほうが自然に感じられる。

以上の考察により、“为<sub>1</sub>”を用いる感情構文における程度副詞と否定副詞の生起位置を下記の表 18 にまとめられる。

【表 18】“为<sub>1</sub>”を用いる感情構文における程度副詞と否定副詞の生起位置

種類 位置	感情述詞の直前	前置詞“为 <sub>1</sub> ”の直前
程度副詞	可(稀)	可
否定副詞	不可	可

次に、感情移入する先を表す“为<sub>2</sub>”が用いられる感情構文である。副詞の生起位置は、“为<sub>1</sub>”の場合と少し異なるところが見られる。既述したように、“为<sub>1</sub>”の場合、程度副詞を感情述詞の直前に取るパターンがわずかながらも存在する。その一方、“为<sub>2</sub>”の場合は、程度副詞を感情述詞の直前に取る事例を見つけられなかつた。その代わりに、前置詞の直前に来ている事例は数多く見つけられた。ここで、もし、程度副詞が前置詞の直前に来ている事例における程度副詞を、感情述詞の直前に移動させると、容認し難い文となる。例えば、以下の1組の例を見られたい。

(154) a. 隆基，你长大了！我真的很为你高兴！ ( (139) の再掲)

[隆基、大きくなったね！私は本当にあなたのために嬉しい！]

b. \*隆基，你长大了！我真的为你很高兴！

[隆基、大きくなったね！私は本当にあなたのために嬉しい！]

(154 b) は、明らかに中国語として容認することが困難だと感じられる。この点については“为<sub>1</sub>”の場合と異なる。“为<sub>1</sub>”の場合は、程度副詞が感情述詞の直前に来ている事例が少ないながらも存在するということである。それに対して、“为<sub>2</sub>”の場合は、程度副詞を〈刺激体〉と感情述詞の間に挟むことが許容し難い。

また、否定副詞の場合、“为<sub>1</sub>”を用いる感情構文と同じく前置詞の直前にしか置けない。例えば、以下の例が挙げられる。

(155) a. 好不容易爸爸回来了，不仅不为她高兴，反摇头连连叹息，说什么“这种书竟然脱销这样子搞下去怎么得了”？ (CCL)

[お父さんはやっと帰ってきて、彼女のために喜ばず、却ってしきりに首を横に振ってため息をついていて、「この本が品切れたなんて大変なことになるじゃない？」と言った。]

b. \*好不容易爸爸回来了，不仅为她不高兴，反摇头连连叹息，说什么“这种书竟然脱销这样子搞下去怎么得了”？

[お父さんはやっと帰ってきて、彼女のために喜ばず、却ってしきりに首を横に振ってため息をついていて、「この本が品切れたなんて大変なことになるじゃない？」と言った。]

(155a) と (155b) の比較からわかるように、“为<sub>2</sub>”を用いる感情構文の場合、否定副詞は感情述詞の直前に置くことができない。

このように、“为<sub>2</sub>”を用いる感情構文の場合、程度副詞と否定副詞は、両方とも感情述詞の直前に生起することができない。その生起位置は、前置詞“为<sub>2</sub>”の直前にしかできない。それを下記の表 19 にまとめられる。

【表 19】“为<sub>2</sub>”を用いる感情構文における程度副詞と否定副詞の生起位置

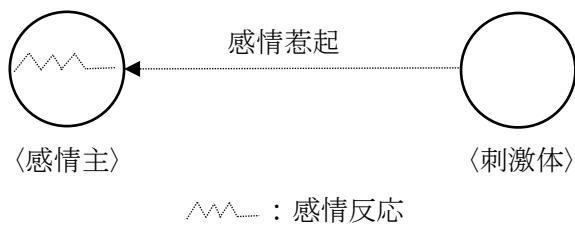
種類	位置	感情述詞の直前	前置詞“为 <sub>2</sub> ”の直前
程度副詞		不可	可
否定副詞		不可	可

#### 4.1.2.4 構文的意味

“为”を用いる感情構文は、〈感情主〉が主語の位置に立っており、〈刺激体〉が“为”で導かれる構文である。既述したように、本研究で扱う“为”は、感情を惹起する存在を導く“为<sub>1</sub>”と感情移入する先を導く“为<sub>2</sub>”に分かれている。ここでの「感情を惹起する存在」と「感情移入する先」は、両方とも〈刺激体〉であるが、〈感情主〉への働きかけが異なる。「感情を惹起する存在」の場合は比較的強い。

このように、“为<sub>1</sub>”を用いる感情構文の構文的意味は、〈感情主〉が、〈刺激体〉の存在のために、感情反応を示すことである。図式で示すと、下記のようになる。

【図 22】“为<sub>1</sub>”を用いる感情構文の構文的意味の図式化

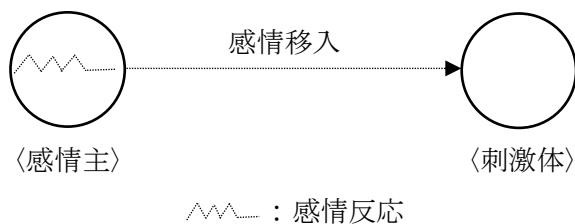


一方、「感情移入する先」の場合、〈刺激体〉から〈感情主〉への働きかけは、比較的弱い。言い換えれば、〈感情主〉から〈刺激体〉への感情移入は、いくぶん能動的に行われるとい

うことである。これは、感情を惹起する存在を導く“为<sub>1</sub>”と異なっている。“为<sub>1</sub>”の場合、〈感情主〉の感情表出は、〈刺激体〉の働きかけにより、いくぶん受動的に行われる。

そのため、“为<sub>2</sub>”を用いる感情構文の構文的意味は、〈感情主〉が〈刺激体〉へ感情移入し、感情反応を示すことである。図式で示すと、下記のようになる。

【図 23】“为<sub>2</sub>”を用いる感情構文の構文的意味の図式化



#### 4.1.3 “被”を用いる感情構文

##### 4.1.3.1 “被”の意味

“被”には、前置詞や助動詞の用法がある。前置詞としての“被”的意味について、《现代汉语八百词》は、以下のように述べている。

用于被动句，引进动作的施动者。前面的主语是动作的受动者。动词后面多有表示完成或结果的词语，或者动词本身包含此类成分。

芦花～微风吹起 | 我～一阵雷声惊醒 | 歌本儿～人借走了 | 小张～大家批评了一顿 | 我刚出门又～他叫了回来 | 夜空～五彩缤纷的焰火照得光彩夺目

a) ‘被…’后用单个动词，限于少数双音节，‘被’前要有助动词或表时间的词语。

这句话可能～人误解 | 你的建议已经～领导采纳 | 这一点必将～历史证明 | 清王朝于一九一一年～孙中山领导的辛亥革命推翻

b) 动词后还可以带宾语，但限于以下几种：

宾语是主语的一部分或属于主语。

小鸡～黄鼠狼叼去了一只 | 我～他吃了一个‘车’，这盘棋就输了

宾语是主语受动作支配而达到的结果。

他～大家选为小组长 | 这些民间小调～我们改编成了一套器乐组曲

主語指處所。

树梢斜～阳涂上一层金色 | 窗台上～工人们刷上了绿漆

动词和宾语组成固定的动宾短语。

这话～你打了折扣了吧？ | 他～歹徒下了毒手，不幸牺牲了

c) 被…所+动。用了‘所’，动词不能再带其他成分。双音节动词前‘所’可省。

～歌声〔所〕吸引 | ～好奇心〔所〕驱使

单音节动词前‘所’字不能省，并有较浓的文言色彩。

～风雪所阻 | ～酷热所苦

[受身文に用い、動作主の主体を導く。前にある主語は、動作の対象である。多くの場合、動詞のあとに完成あるいは結果を表す語句をともなうか、または動詞自身がその要素を含む。]

アシの穂が風にそよぐ | 私は雷の音で目をさました | 歌の本は誰かに借りていかれ  
た | 張さんはみんなにひどく批判された | 私は外へ出たところをまた彼に呼び戻され  
た | 夜空は色とりどりのきらびやかな花火で目もくらみそうなほど輝いている

a) ‘被…’の後ろの動詞が単独で用いられるのは、いくつかの2音節の動詞に限る。

このとき‘被’の前に助動詞か時間を表す語句が必要である。

この言葉は人に誤解されるかもしれない | 君の提案はすでに上層部に採用された |  
この点は、必ず歴史によって証明されるだろう | 清朝は1911年に孫中山の指導する  
辛亥革命により打倒された

b) 次の場合に限って動詞のあとにさらに客語をともなえる。

客語が主語の一部分か、主語に所属するものである。

ヒヨコが1羽イタチにさらわれた | 彼に‘车’をとられてしまった。この将棋は負  
けた

客語が、動作によって主語の到達した結果である。

彼はみんなからグループのリーダーに選ばれた | これらの民謡は、私たちによつ  
て器楽組曲に編曲された

主語が場所を指す。

夕日でこずえが金色に染まった | 窓の台は労働者たちによってペンキで緑色に塗  
られた

動詞と客語が熟語的な動客句になっている。

この話は、君はありのままに伝えていいでしよう | 彼は凶悪犯の手にかかり、不幸にも死亡した

c) 被…所+動。‘所’を用いると動詞は他の要素をともなえない。動詞が2音節のとき‘所’は省略可。

歌声に引きつけられる | 好奇心につき動かされる

動詞が単音節のときは‘所’を省略できない。この場合、文語的色彩が濃い。

風雪にはばまれる | 酷暑に苦しめられる]

(呂叔湘 1999: 67-68)

上述により、“被”は、中国語の受身のヴォイスを表すのに用いられるマーカーの一つである。典型的な例としては、下記の文が挙げられる。日本語訳が添えられている。

(156) 小王被汽车撞伤了。

[王さんは車にはねられてけがをした。] (三宅 2009: 33)

(156) では、述語動詞は、“撞”(はねる)という動作であり、その動作の受動者(patient)“小王”(王さん)が主語の位置に立っており、動作主(agent)“汽车”(車)が受身を表すマーカーである前置詞の“被”的直後に置かれている。さらに、付加成分として、述語動詞の後に、“伤”(けがする)という結果補語と助詞“了”が付いている。

一方で、感情表現をめぐる“被”構文は、下記のような例が挙げられる。

(157) “我被他的话感动了。”( (101) の再掲)

[私は彼の言葉に感動させられた。]

(157) では、述語動詞は、“感动”(感動させる)という動作であり、その動作の受動者(patient)“我”(私)が主語の位置に立っており、動作主(agent)“他的话”(彼の言葉)が、受身を表すマーカーである前置詞の“被”的直後に置かれている。さらに、述語動詞の後に“了”が付いている。本研究の用語を使えば、上述の受動者(patient)のことを〈感情主〉と言い、動作主(agent)のことを〈刺激体〉と称することができる。また、本研究で扱う“被”的意味を下記のように規定する。

### 【本研究で扱う“被”的意味】

“被”：人をある感情状態にさせる存在を導く。

図式で示すと、下記の図 24 である。

【図 24】感情表現における“被”的イメージ図



#### 4.1.3.2 感情述詞の特徴

第 2 章の表 4 に示した 108 語の感情述詞を内省し検討した結果、11 語の感情述詞が“被”を用いる感情構文に当たるとして判断した。およそ全体の 10% を占めている。詳細は下記の表 20 にまとめた。

【表 20】“被”を用いる感情構文に当たる感情述詞

意味特徴	語彙例
「感激」	感动
「嫌惡」	恶心
「憤怒」	气
「驚嘆」	惊、吓、震撼、震惊
「焦燥」	愁、烦、急
「愉悦」	乐

表 20 から見て取れるように、“被”を用いる感情構文に当たる感情述詞は、〈刺激体〉主導の SVO 型感情構文に当たる感情述詞とほぼ一致している。そのため、両者の感情述詞のカテゴリーにおいては、典型例と周辺例も一致すると想定できよう。

〈刺激体〉主導の SVO 型感情構文に当たる感情述詞のカテゴリーにおいては、“感动”(感動させる) が典型例である。ここで、(70) を (158) として再掲する。

(158) 悅瑩, 你感动我了。 ( (70) の再掲)

[悦瑩さん、あなたは私を感動させた。]

先述したように、“感动”(感動させる)には、必要とする付加成分が最も少ない。つまり、文末に助詞“了”さえあれば独立文として成立する。それと同様に、“感动”(感動させる)を“被”が用いられる感情構文に当てはめる際に、助詞“了”さえ付いていれば成立する。例えば、下記の例が挙げられる。

(159) 诸葛亮终于被刘备的诚意感动了, 就在自己的草屋里接待刘备。 (CCL)

[诸葛亮はとうとう劉備の誠意に感動させられて、自分の草屋で劉備を接待した。]

(159) では、〈感情主〉である“诸葛亮”(诸葛亮)が主語の位置に来ており、〈刺激体〉である“刘备的诚意”(劉備の誠意)が前置詞“被”で導かれており、〈刺激体〉の直後に感情述詞である“感动”(感動させる)が来ている。意味上は、これらの要素が備わっていれば、受身の感情事態を表すのには十分であるように感じられるが、実際には、感情述詞の直後に助詞“了”を伴うことが必要である。この“了”的機能としては、感情行為を感情状態へ変化させることである。

“感动”(感動させる)の場合は、その語自体の性質により、“了”を伴うことだけで、感情行為を感情状態へ変化させることができるが、それ以外のほとんどの感情述詞の場合は、助詞“了”だけではなく、補語をも伴う必要がある。例えば、以下の例が挙げられる。

(160) “少废话, 我只是被吓到了!” 赵审琦大口大口地灌着茶。 (BCC)

[「下らん話はよせ！私はただ剣さんに驚かされただけだ！」趙審琦さんはがぶがぶとお茶を飲んでいた。]

(161) 全班刚才都被班主任吓死了！ 突然站在窗戶口！ (BCC)

[さっきクラス全員はみんな担任の先生に死ぬほど驚かされた！ 突然窓辺に立つなんて！]

(160) と (161) では、両方とも感情述詞の直後には助詞“了”が直接に来ておらず、その間にそれぞれ結果補語“到”と程度補語“死”を挟んでいる。もし、これらの補語を除くと、

明らかに容認し難い文となる。

(160') \* “少废话，我只是被剣吓了！” 赵审琦大口大口地灌着茶。(BCC)

[「下らん話はよせ！私はただ剣さんに驚かされただけだ！」趙審琦さんはがぶがぶとお茶を飲んでいた。]

(161') \*全班刚才都被班主任吓了！ 突然站在窗戶口！(BCC)

[さっきクラス全員はみんな担任の先生に死ぬほど驚かされた！ 突然窓辺に立つなんて！]

上記の“吓”(驚かす)といった感情述詞に補語が必要であることは、〈刺激体〉主導の SVO 型感情構文においても同様である。ここで、(59) を (162) として再掲する。

(162) 海藻因为惊吓而尖叫一声：“啊！”然后说：“大半夜的，你怎么招呼不打就冲进来了？你吓死我了，我一个人在家耶！” ( (59) の再掲)

[海藻さんは驚いて「ああ！」と叫んだ。それから、「真夜中なのに、あなたはなんで声を掛けずに飛び込んできたの？あなたのせいで、私はびっくりしたよ、私一人で家にいるんだから！」と言った。]

(162) においては、感情述詞の直後に程度補語“死”が付いており、さらに、文末に助詞“了”が来ている。ここでも、程度補語“死”を除くと、不自然に感じられる。

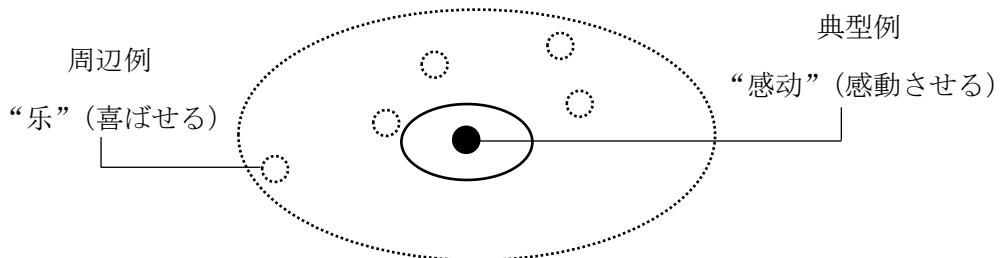
また、先述したように、〈刺激体〉主導の SVO 型感情構文に当てはまる感情述詞においては、“乐”(喜ばせる)は周辺例である。なぜなら、“吓”(驚かす)といった類の感情述詞と比べると、動詞的性質が相対的に弱いからである。周知のように、受身を表す“被”構文に入る述語は、強い動詞的性質を持つ語彙が一般的である。そこで、“被”を用いる感情構文に当てはまる感情述詞のカテゴリーにおいても、“乐”(喜ばせる)を周辺例とする。それを使用した事例は、BCC コーパスにおいて、下記の 1 例しか見つけられなかった。

(163) 我要被评论乐死了。(BCC)

[私はコメントが楽しくて死にそうだ。]

このように、“被”を用いる感情構文に当てはまる感情述詞のカテゴリーを、下記の図で示すことができる。

【図 25】“被”を用いる感情構文に当てはまる感情述詞のカテゴリー



#### 4.1.3.3 付加成分の種類

前述のように、“被”を用いる感情構文は、最もシンプルな形で成立せずに、付加成分を伴うことが必要である。4.1.3.2 節で触れたように、助詞“了”や“到”のような結果補語や“死”のような程度補語が付加成分として文中に入る場合は、数多く見られる。実際にはコーパスを観察してみると、それ以外の付加成分も存在するとわかる。例えば、感情述詞の後に助詞“得”を介して様態補語<sup>8</sup>が付く事例も見られる。

(164) 法国巴黎歌剧院舞蹈学校校长被表演感动得流下了眼泪。 (CCL)

[フランスのパリ歌劇院舞踊学校校長は、パフォーマンスに感動させられて涙を流した。]

(164) では、“感动”(感動させる)の後に助詞“得”を介して“流下了眼泪”(涙を流した)という様態補語が来ている。ここでの様態補語は、目に見えない内在的な感情を目に見える外在的なものへと変換させる機能を果たしている。つまり、“流下了眼泪”(涙を流した)は“感动”(感動)という感情の外在的な表れである。

このパターンは、その他の多くの感情述詞においても見られる。例えば、“气”(怒らせる)を使用した事例と“吓”(驚かす)を使用した事例がある。

(165) 族长涨红着脸, 被他气得说不出话来。 (CCL)

[族長は顔を真っ赤にしており、彼に腹を立てて言葉が出てこなかった。]

(166) 她的脸已被烧得面目全非, 当她出现在记者面前时, 记者几乎被这张脸吓得惊叫失声。 (CCL)

[彼女が見分けが付かないほどやけどをした顔で、記者の前に現れた時に、記者はその顔に驚かされて思わずギヤーと声を上げてしまった。]

(165) では、様態補語が“说不出话来”(言葉が出てこない)であり、それは“气”(怒り)という感情を外在化させたものである。同様に、(166) では、“惊叫失声”(思わずギヤーと声を上げる)という様態補語は、“吓”(驚き)という感情の外在的な表れである。

ところで、周知のように、助詞“得”的後には、様態補語を伴うほかに、程度補語を伴うことも可能である。例えば、よく挙げられるのは、“很”、“要命”、“要死”、“不行”などがある。ところが、“被”を用いる感情構文においては、助詞“得”を介して程度補語を伴う事例は見つけ難い。とはいっても、そのような事例は全く存在しないわけではない。例えば、次のような例が見つけられた。

(167) 今晚真是被气得要死! (BCC)

[今夜は本当に死ぬほど腹を立てた!]

(168) 我第一次见到这么可怕的场面, 简直被吓得半死。 (BCC)

[私は初めてこんなに恐ろしい光景を見たので、死にかけるほどびっくりした。]

(167) では、感情述詞“气”(怒らせる)の後に助詞“得”を介して、程度補語“要死”が来ている。また、この文においては、〈感情主〉と〈刺激体〉が言語化されておらず、「怒り」という感情の程度に焦点化されている。

同じように、(168)においても、感情述詞“吓”(驚かす)の後に「得+程度補語」の形式を取っている。ここでの程度補語“半死”は、上に挙げたような主流の程度補語ではないが、“吓”(驚かす)と共に起る事例がよくある。また、この文でも、“被”的直後に〈刺激体〉が言語化されておらず、「驚き」という感情の程度に焦点が当てられている。

上記の2例から見て取れるように、“被”を用いる感情構文においては、感情述詞の直後に「得+程度補語」の形式を取る場合、〈刺激体〉が言語化されないことが一般的である。

また、もし、〈刺激体〉を背景化させる必要がある場合、次章で考察する SV 型感情構文を用いる事例が多くある。すなわち、(167) と (168) における“被”を除いた構文である。下記の文を見られたい。

(167') 今晚真是气得要死!

[今夜は本当に死ぬほど腹を立てた！]

(168') 我第一次见到这么可怕的场面，简直吓得半死。

[私は初めてこんなに恐ろしい光景を見たので、死にかけるほどびっくりした。]

実際にコーパスを調べたところ、感情述詞の後に「得+程度補語」の形式を取る構文は、SV 型のほうが圧倒的に多かった。例えば、下記の 2 例を見てみよう。

(169) 司马光接到回信，气得要命。(CCL)

[司馬光さんは返信を受け取って、死ぬほど腹を立てた。]

(170) 他不知是怎么回事，以为姐姐病了，吓得不行。(CCL)

[彼は、何があったのかを知らず、お姉さんが病気になったと思っていて、とても驚いた。]

このように、“被”を用いる感情構文では、感情述詞の直後に“得”を介して補語が来る場合、その補語には、様態補語と程度補語を両方とも用いることが可能であるが、様態補語のほうが多数を占めている。

これまで述べてきた付加成分は、感情述詞の後に位置しているものだったが、実際には、感情述詞の前に置かれるものも存在する。

(171) 在徐州第三中学高三级五班，说起金正洪，同学们都被他的事迹所感动。(CCL)

[徐州第 3 中学校 3 年 5 組では、金正洪さんについて話すと、クラス全員は彼の立派な行為に感動させられる]。

(172) 为了欣赏和描述长江之夜，他彻夜不眠，他的心灵，再一次地被长江所震撼。(CCL)

[長江の夜を楽しんだり、描写したりしようとすると、彼は、一晩中寝られずに、再度長江に感動させられた]。

上記の2例では、感情述詞の後に付加成分が何も来ておらず、その直前に助詞“所”だけが来ている。周知のように、この“所”を用いた形は、古代中国語からの名残で、文語的な色彩が極めて濃い。ここで、もし、助詞“所”を取り除くと、成立しにくくなる。

もっとも、助詞“所”と共に起せる感情述詞が限られている。例えば、(165)と(166)を“所”が用いられる形にすると、容認し難い。

(173) \*族长涨红着脸，被他所气。（(165)による改編）

〔族長は顔を真っ赤にしており、彼に腹を立てた。〕

(174) \*她的脸已被烧得面目全非，当她出现在记者面前时，记者几乎被这张脸所吓。

（(166)による改編）

〔彼女が見分けが付かないほどやけをした顔で、記者の前に現れた時に、記者はその顔に驚かされた。〕

(173) と (173) からわかるように、感情述詞“气”（怒らせる）や“吓”（驚かす）は単独で助詞“所”と共に起し難い。とはいっても、もし、感情述詞の後に結果補語も同時に伴う場合には、成立する可能性がある。例えば、下記のような例が見つけられた。

(175) Google 没有被目前的状况所吓倒。（CCL）

〔Google は目の前の状況に驚かされなかった。〕

(175)においては、感情述詞“吓”（驚かす）の直前に助詞“所”が来ており、その直後に結果補語“倒”（倒れる）が来ている。さらに、コーパスを調べた結果、このような形式を持つ構文は、否定文に用いられる例が多かった。

ここで、興味深いことに、“吓”（驚かす）の直後に来ている結果補語は、“倒”（倒れる）以外のものを見つけられなかった。先述したように、助詞“所”を伴わない場合、結果補語“到”が付く事例はよく見られる。しかし、助詞“所”を伴う場合は、“到”を結果補語として付けると、不自然に感じられる。下記の例を見られたい。

(176) ?Google 没有被目前的状况所吓到。（(175)による改編）

〔Google は目の前の状況に驚かされなかった。〕

以上をまとめると、“被”を用いる感情構文における付加成分は、文中の位置から見れば、3パターンに分けられる。それを下記の表 21 にまとめる。

【表 21】“被”を用いる感情構文における付加成分の種類および事例

位置	種類	事例
感情述詞の直後	助詞	感动了
	程度補語+助詞	气死了
	結果補語+助詞	吓到了
	“得”+様態補語	气得说不出话来
	“得”+程度補語	吓得要命
感情述詞の直前	助詞	所感动
感情述詞の前後	助詞+感情述詞+結果補語	所吓倒

#### 4.1.3.4 構文的意味

“被”を用いる感情構文は、〈感情主〉が主語の位置に立っており、〈刺激体〉が“被”で導かれる構文である。先述したように、この構文に当てはまる感情述詞は、〈刺激体〉主導の SVO 型構文に用いられる感情述詞とほぼ一致している。そのため、このような感情述詞は、形容詞的性質が弱く、典型的な二項動詞の性質が強いと見て取れる。これにより、この構文においては、〈刺激体〉が〈感情主〉に与える影響が相対的に強いと想定できよう。

ここでは、“为<sub>1</sub>”を用いる感情構文と比較しながら、見たほうが良いと考える。前述したように、“为<sub>1</sub>”を用いる感情構文の構文的意味は、〈感情主〉が、〈刺激体〉の存在のために、感情反応を示すことである。そのため、“为<sub>1</sub>”を用いる感情構文にもいくぶん受動的な色彩があると考えられる。例えば、ここで典型例の (133) を (177) として再掲する。

(177) 康伟男有生以来，第一次为女孩子烦恼。（(133) の再掲）

[康偉男さんは生まれてから初めて女の子のことで思い煩う。]

(177) では、〈感情主〉である“康伟男”は、主体的に“烦恼”（思い煩う）という感情を示したわけではなく、“女孩子”（女の子）がトリガー（trigger）となり、その感情が受動的

に引き起こされたと言えよう。しかし、ここでの“煩惱”（思い煩う）という受動的な感情は、意味的に述べたものであり、形式的に述べたものではない。

一方、“被”を用いる感情構文は、受身のマーカー“被”が用いられているため、意味的にも形式的にも受動的な感情を表している。例えば、“煩惱”（思い煩う）と似たような意味を持つ“煩”（いらいらさせる）が用いられた例文が挙げられる。

(178) 我真羨幕你那一对小女儿, 我被男孩子烦得要死! (BCC)

[私は本当にあなたのまだ幼い双子の娘さんが羨ましい。私は男の子に煩わされ  
て死にそうだ!]

(178) では、“男孩子”（男の子）が〈感情主〉としての“我”（私）の感情を引き起こしたトリガーだけでなく、動作主としても捉えられる。なぜなら、この文は、“把”構文と置き換えることが可能である。下記の文を見られたい。

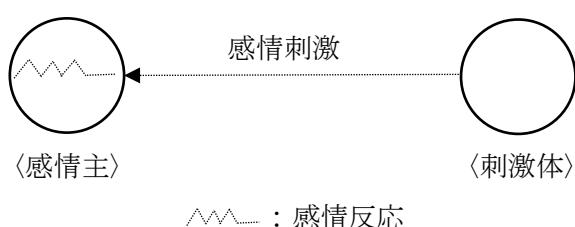
(178') 男孩子把我烦得要死! ( (178) による改編)

[男の子は私を死ぬほど煩わしている!]

それに対して、(177) は“把”構文と置き換えることができない。そのため、(177) と比べると、(178) のほうは、受動的な感情の色彩が一層濃いと考えられる。

上記の比較を通じて、“被”を用いる感情構文の構文的意味を次のように規定できよう。〈感情主〉は〈刺激体〉から感情的刺激を受け、受動的に感情反応することである。それを図式で示すと、下記のようになる。

【図 26】“被”を用いる感情構文の構文的意味の図式化



## 4.2 〈刺激体〉 主導の SPOV 型構文について

本節では、〈刺激体〉が主語の位置に立ち、〈感情主〉が前置詞で導かれる感情構文を考察する。以下、前置詞“让”、“把”、“给”で導かれる感情構文を中心に見ていく。

### 4.2.1 “让”を用いる感情構文

#### 4.2.1.1 “让”の意味

“让”には、動詞と前置詞の用法がある。前置詞としての“让”は、基本的には“被”と同じ意味で受身のマーカーとして使われている。しかし、本節で考察するのは、使役の意味を表す“让”である。《現代汉语八百词》は、使役の意味で使われる“让”を動詞として、扱っており、下記のように述べている。

**致使；容许，听任。必带兼语。**

谁～你把材料送来的？ | 来晚了，～您久等了 | 别～集体受损失 | ～我仔细想一想 | ～他闹去，看他能闹成什么样 | 如果～事情这么发展下去，会出大问题的  
[…させる、許容する、勝手にさせる：必ず兼語をともなう。]

誰が君に材料を届けろと言った | 遅くなりまして、たいへんお待たせしました | 集団に損害を与えてはならない | とくと考えさせてくれ | 好きなようにさせておけ、何ができるか見せてもらおうじゃない | もしもこの調子で進んでいたら大問題を引き起こすだろう]

(吕叔湘 1999: 461-462)

一方、使役の意味を表す“让”は前置詞だと主張する先行研究もある。例えば、朱徳熙(1982)などが挙げられる。下記の2文を用いて説明している。

(179) 主席让大家安静一下。(朱徳熙 1982: 179)

[主席はみんなに静かにしろと言った。]

(180) 你让我再想想。(同上)

[私にもう少し考えさせてくれ。]

朱徳熙 (1982) によれば、以上の 2 文において “让” の目的語が動作主であり、文の主語が「使役」、「許可」、「委任」の主体であり、ここでの “让” は動詞ではなく、前置詞として扱われており、実質的な意味を持っていない。

本研究は、朱徳熙 (1982) の前置詞説を採用する。本節で考察する感情構文における “让” も、文法化の度合いが高く、動詞としての実質的な意味が失われている。例えば、下記の例を見てみよう。

(181) 这两个消息都让人高兴。 (BCC)

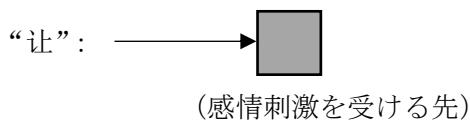
[この二つのニュースはともに喜ばしい。]

(181) において “让” の目的語が動作主ではなく、〈感情主〉であり、文の主語が嬉しいという感情を引き起こす 〈刺激体〉である。ここでの “让” の役割は、〈感情主〉を導くことに過ぎず、実質的な意味が含まれていない。そのため、本研究では、“让” の意味を下記のように規定する。

#### 【本研究で扱う “让” の意味】

“让”：感情刺激が与えられる先を導く。

#### 【図 27】感情表現における “让” のイメージ図



#### 4.2.1.2 感情述詞の特徴

これまで考察してきた前置詞を用いる感情構文と比べると、“让” を用いる感情構文に当てはまる感情述詞は、大量に見られる。同じように、第 2 章の表 4 に示した 108 語の感情述詞を、内省し検討した結果、96 語の感情述詞が “让” を用いる感情構文に当てはまると判断した。それは、およそ全体の 89% を占めている。詳細は下記の表 22 にまとめる。

【表 22】“让”を用いる感情構文に当てはまる感情述詞

意味特徴	語彙例
「感激」	感动、感慨、激动
「敬慕」	崇拜、崇敬、佩服、羨慕、尊敬、尊重
「失望」	灰心、绝望、失望
「憐憫」	可怜、同情、心疼
「嫌惡」	恶心、反感、恨、嫉妒、讨厌、嫌弃
「愉悦」	高兴、欢乐、开心、快乐、乐、痛快、兴奋、幸福
「愛好」	爱、爱戴、爱惜、热爱、疼爱、喜欢、着迷
「不安」	不安、担心、紧张
「畏怖」	害怕、恐惧、怕
「悲痛」	悲哀、沮丧、难过、伤心、痛苦、委屈、心痛
「懷古」	怀念、留恋、思念、想念
「満足」	满意、满足、欣慰
「驚嘆」	吃惊、惊、惊奇、惊讶、吓、震撼、震惊
「安堵」	放心
「焦燥」	愁、发愁、烦、烦恼、烦躁、慌张、急、急躁、焦急、恼火、郁闷、着急
「悔恨」	甘心、后悔、悔恨、惋惜、无奈、遗憾
「憤怒」	愤怒、气、生气
「羞恥」	惭愧、尴尬、害羞、难堪
「自慢」	骄傲、自豪、自满
「寂寞」	孤独、寂寞、空虚
「茫然」	茫然

表 22 から見て取れるように、2 音節の感情述詞が圧倒的に多く、おおよそ 9 割を占めている。それに対して、单音節の感情述詞はおおよそ 1 割しか占めていない。また、2 音節の場合は、基本的に裸の形で成立し得るが、单音節の場合は、裸の形で成立するのが極めて困難である。例えば、下記の例を比較してみよう。

(182) 您来信中对我的慰问让我感动。(BCC)

[あなたから届いたお見舞いの手紙は私を感動させた。]

(183) 草原游牧民族的幸福生活让人羡慕。(BCC)

[草原の遊牧民族の幸せな生活は人を羨しくさせる。]

(184) “啊！你让我烦透了。” (BCC)

[「あ！あなたは私をとてもうんざりさせている。」]

(185) 做的梦让人气得发抖。(BCC)

[見た夢は私を震えるほど腹立たせている。]

(182) と (183) では、感情述詞は、2 音節の“感动”（感動する）と“羨慕”（羨ましい）であり、その前後に付帯成分が何も付いていない。一方、(184) と (185) では、感情述詞は、单音節の“烦”（うんざりする）と“气”（腹立つ）であり、それらの直後にさらに付帯成分が付いている。すなわち、(184) において程度補語の“透”と文末助詞“了”が来ており、(185) において“得”を介して程度補語の“发抖”（震える）が来ている。もし、この 2 文における感情述詞に付いている付帯成分を取り除くと、極めて容認し難い文となる。下記の文を見られたい。

(184') \*“啊！你让我烦。” ( (184) による改編)

[「あ！あなたは私をうんざりさせている。」]

(185') \*做的梦让人气。( (185) による改編)

[見た夢は私を腹立たせている。]

上記の 2 文は、中国語として許容するのが困難であるが、もし、その单音節の感情述詞を類似の意味を持つ 2 音節の感情述詞に置き換えると、容認し得るようになる。例えば、下記のような修正ができる。

(184'') “啊！你让我烦躁。” ( (184) による改編)

[「あ！あなたは私をうんざりさせている。」]

(185'') 做的梦让人生气。( (185) による改編)

[見た夢は私を腹立たせている。]

音節の観点からの考察を通じて、使役の意味を表す“让”が用いられる感情構文において共起し得る感情述詞は、大まかに言えば、2音節のほうがより典型的だとわかる。さらに、2音節の中で、使用頻度的には、“感动”（感動する）という感情述詞が最も高いとコーパスからわかる。そこで、“感动”（感動する）を“让”が用いられる感情構文に当てはまる感情述詞の典型例とする。

ここで注意すべきなのは、鄧守信（1984）で述べられている使役構文に用いられない感情述詞“喜欢”（好きだ）は、場合によって使役構文と共に起き得ることである。例えば、下記の例が挙げられる。

(185) 现代社会的都市，人多已经不再是优势，相反，清静的新潟倒更让人喜欢。（BCC）

[现代社会の都市において人が多いことはもうメリットではない。その逆に、静かな新潟のほうが人を好きにさせる。]

もちろん、“感动”（感動する）という受動的な感情体験と比べると、能動的な感情体験としての“喜欢”（好きだ）は使役構文との相性がそれほど良くないが、双方の関係は決して相互に排他的ではない。

また、鄧守信（1984）は、SVO型構文に当てはまる“怕”（怖がる）という単音節の動詞が“被动状态”（受動的状態）であるため、使役構文と共に起し得ると主張している。しかし、SVO型構文を使役構文に置き換える際には、同時に単音節の動詞である“怕”（怖がる）を、類似の意味を持つ2音節の“害怕”（怖がる）に置き換えている。

(186) a. 他很**怕**明天的考试。

[彼は明日の試験をとても怖がっている。]

b. 明天的考试叫他很**害怕**。

[明日の試験は彼をとても怖がらせている。]

（鄧守信 1984: 178）

もし、(186a)における“怕”（怖がる）をそのまま使役構文に当てはめてみると、自然な中国語として容認し難い<sup>9</sup>。下記の例(186c)を見られたい。このことも、前述した“让”を用いる感情構文に当てはまる感情述詞のカテゴリーにおいて、単音節の感情述詞は典型的ではないということを間接的に裏付けることができる。

(186) ?c. 明天的考试叫他很怕。( (186b) による改編)

[明日の試験は彼をとても怖がらせている。]

また、单音節の感情述詞において、“爱”（爱する）が“怕”（怖がる）などの感情述詞と比べて、能動的な感情の色彩が相対的に濃いため、使役構文との相性が悪いと推定できよう。

実際、コーパスを調べたところ、下記の1例しか見つけられなかった。

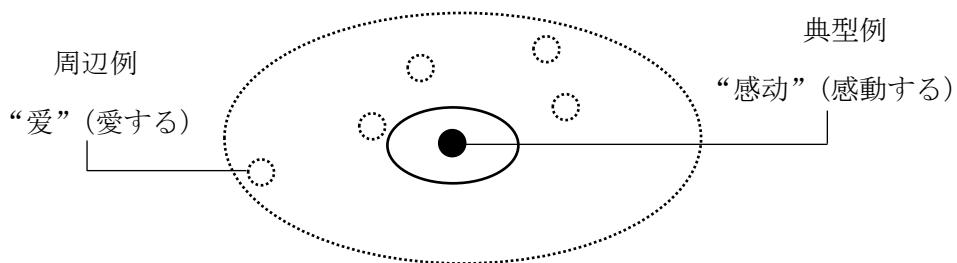
(187) 1岁不到5个月的小P姐，接过爸爸捡起来的布娃娃，咬着字说“谢谢”，着实让人爱得慌。(BCC)

[1歳5ヶ月になつてない娘っ子が父親が拾ってくれたぬいぐるみを受け取って  
たゞたゞしく「ありがとう」と言つてゐたことは、本当に愛しく思はせる。]

(187) では、感情述詞“爱”（爱する）の後に“得”を介して程度補語の“慌”（堪らない）が来ている。既述したように、程度補語を取り除くと、成立しなくなる。ここで、その感情述詞を“让”を用いる感情構文に当てはまる感情述詞の周辺例とする。

このように、“让”を用いる感情構文に当てはまる感情述詞のカテゴリーを、下記の図で示すことができる。

【図 28】“让”を用いる感情構文に当てはまる感情述詞のカテゴリー



#### 4.2.1.3 副詞の生起位置

既に述べたように、2音節の感情述詞が“让”を用いる感情構文に当てはまる際に、裸の形でも文を成立させることができる。例えば、(182)を(188)として再掲する。

(188) 您来信中对我的慰问让我感动。（(182) の再掲）

[あなたから届いたお見舞いの手紙は私を感動させた。]

しかし、コーパスを観察してみると、程度副詞が付く実例も多数見られる。例えば、下記の例を見てみよう。

(189) 他说：“日本人主要通过媒体了解中国，但只要跟中国人有面对面交流的日本人都会发现，中国并非像日媒所说的那样，都会喜欢中国。中国留学生举办这个活动让我很感动，希望今后更多日本年轻人一起来参加，这必将有助于增进中日交流和相互了解。”(BCC)

[彼は、「日本人は、主にメディアを通して中国を知るが、中国人と面と向かって交流したことのある日本人は、中国は日本のメディアが報道したような感じではないことに気づいてくれるし、中国を好きになってくれる。中国人留学生が行なったこのイベントは私をとても感動させた。今後もっとたくさんの日本人の若者と一緒に参加してほしい。これはきっと中日交流と相互理解を深めることができるだろう。」]

(190) 花店老板的实在，很让我感动，就跟他聊起养花的事，我们也就有了共同的话题。

(BCC)

[花屋さんの店主の誠実さは、とても私を感動させたので、彼と花作りの話をしたら、共通の話題ができた。]

上記の2例は両方とも「私を感動させる」という意味を表すが、程度副詞“很”(とても)の位置は異なる。(189)においては、“很”(とても)が感情述詞“感动”(感動する)の直前に来ている。一方、(190)においては、“很”(とても)が前置詞“让”(を)の直前に来ている。この2種類の分布位置はどちらも自然であるが、BCC コーパスにおける“多領域”(多領域)という項目で“让我很感动”と“很让我感动”を検索フレーズに、それぞれ調査したところ、前者には244個の事例があり、後者には47個の事例があった。使用度数から見れば、前者は、圧倒的優勢を占めている。

しかし、もしここで、客観性を持つ程度副詞“很”(とても)を、主観性が高い程度副詞“太”(あまりにも)に置き換えると、状況が変わる。同じく“让我感动”を例とし、検索

してみると、“让我太感动”は、26個の事例が現れており、“太让我感动”は、74個の事例が現れた。前者と比べて、後者は約3倍である。下記の2例を比較してみよう。

(191) 小伙伴让我太感动了。(BCC)

[仲間は私をあまりにも感動させた。]

(192) 小伙伴太让我感动了。(BCC)

[仲間はあまりにも私を感動させた。]

上記の2例はほぼ同じ意味を表すが、母語話者である筆者の語感によれば、(192)のほうがより自然に感じられる。これは、(192)のような程度副詞“太”(あまりにも)が“让”的直前に来る事例が大多数を占めるという事実と一致している。

程度副詞“很”(とても)と“太”(あまりにも)の文中における位置の傾向から、程度副詞の主観性が高ければ高いほど、“让”的直前に置かれやすいと想定できよう。この仮説を裏付けるために、ここで、“太”(あまりにも)よりも主観性が高い程度副詞“真”(本当に)の場合を見てみよう。興味深いことに、コーパスの中で、“让”的直前に置かれるパターンとしての“真让我感动”は41例を見つけたのに対し、感情述詞の直前に置かれるパターンとしての“让我真感动”は1例も見つけられなかった。下記の例を見られたい。

(193) 这首歌真让我感动! (BCC)

[この歌は本当に私を感動させた!]

もし、上記の例における“真”(本当に)を、感情述詞“感动”(感動する)の直前に移動させると、明らかに不自然な文となる。

(193') ?这首歌让我真感动! ( (193) による改編)

[この歌は私を本当に感動させた!]

このように、“让”を用いる感情構文において、程度副詞の文中における位置の傾向は、それ自体が客観性を持つか、あるいは、主観性を持つかによって異なる。つまり、客観性を持つ“很”(とても)などは、感情述詞の直前に置かれる傾向があり、主観性を持つ“太”

(あまりにも) や “真” (本当に) などは “让” の直前に置かれる傾向がある。

とはいっても、もし、“让” の直後に来ている〈感情主〉が一人称の “我” (私) ではなくて、普通名詞である “人” (人) の場合、客觀性を持つ “很” (とても) でも、“让” の直前に置かれる傾向が見られる。コーパスの中で、“很让人感动” には、147 例があったのに対して、“让人很感动” には、37 例があった。それぞれ 1 例を以下に列挙する。

(194) 这些话很让人感动。 (BCC)

[これらの話はとても人 (私) を感動させた。]

(195) 这份心意让人很感动。 (BCC)

[この気持ちちは人 (私) をとても感動させた。]

上記の 2 例における〈感情主〉は、両方とも “人” (人) であるが、意味的には話し手のことを指示する。これは、3 章で述べた〈刺激体〉主導の SVO 型感情構文において、“人” (人) が〈感情主〉に用いられる場合と同じ用法である。ここで、(65) を (196) として、再掲する。

(196) 外面的大风吓死人了。 (BCC)

[外の強風に死ぬほど驚いた。]

(196) と同様に、(194) と (195) における “人” (人) は、本来なら人を指す総称として、用いられるが、ここでは、話し手を指向する。つまり、この 3 例における “人” (人) を、一人称の “我” (私) に置き換えるても、意味はほぼ変わらない。ただ、“人” (人) を用いることによって、一般性が付与され、一つのかたまりとして使用されることは多く見られる。

また、古川 (2003) はこのような安定した使役態の 4 音節構造から、2 音節の派生形容詞を産出することができると述べている。さらに、具体例も多数挙げられている。一つを例示すると、“叫人生气” (人の腹を立てさせる) から “气人” (腹立たしい) という派生形容詞が生まれたという例がある。そこで、(194) における “让人感动” (人を感動させる) も “感人” (感動的だ) という形容詞へ派生できると想定できよう。

このように、程度副詞の文中の位置の傾向は、それ自体の性質だけではなく、〈感情主〉も関係している。総称としての “人” (人) を〈感情主〉に当てはめる場合、程度副詞は “让”

の直前に置かれる傾向がある。

上述から、“让”を用いる感情構文において、程度副詞の文中における位置は、複雑だと推測し得る。実は程度副詞だけではなく、否定副詞の文中における位置も複雑な振る舞いが見られる。例えば、“不”を用いた実例は以下の通りである。

(197) 社交家祖母的话, 一字一板没有什么让人不高兴的。 (BCC)

[社交家の祖母なら、歯切れがよくて、人を不愉快にさせることはない。]

(198) 连久病的舍音也抱上了娃娃, 怎不让人高兴呢! (BCC)

[長患いをしていた舍音さんでさえも子供を産んだ。どうして喜ばずにいられようか?]

(197) では、否定副詞“不”が感情述詞“高兴”(嬉しい)の直前に来ており、感情述詞を直接に否定している。つまり、〈感情主〉を喜しくないという感情状態にさせることを表し、使役行為自体を否定するわけではない。

一方で、(198) では、否定副詞“不”が“让”的直前に来ており、感情述詞を直接に否定せず、〈感情主〉を喜ばせるという事態を否定している。つまり、〈感情主〉を喜ばせないという意味を表す。(197) と比べて、(198) のほうが強い動作性を持つ。典型的な使役構文においては、否定副詞“不”は基本的に(198) のように使役態のマーカーの直前に置かれる。例えば、下記の例を見られたい。

(199) 领导怕我的身体吃不消, 不让我去。 (BCC)

[上司は私の体が耐えられないと心配していて、私を行かせてくれない。]

(199) では、述語が典型的な動作動詞“去”(行く)であり、否定副詞“不”が述語の直前ではなく、“让”的直前に来ている。この場合は、(197) のように“不”を述語の直前に置くことができない。つまり、下記の文は非文である。

(199') \*领导怕我的身体吃不消, 让我不去。 (BCC)

[上司は私の体が耐えられないと心配していて、私を行かせてくれない。]

このように、“去”（行く）のような動作動詞の場合は、“不”を“让”の直前にしか置けないのに対して、“高兴”（嬉しい）のよう感情述詞の場合は、“不”を“让”の直前にも感情述詞の直前にも置くことができる。

もっとも、感情述詞の場合は、否定副詞“不”を感情述詞の直前に置く事例が多数である。例えば、BCC コーパスにおいては、“让人不高兴”は 21 例が見つかったが、“不让人高兴”は 5 例しか見つけられなかった。

“不”以外に、事実を否定する“没”が用いられた実例も見られる。例えば、下記の例が挙げられる。

(200) 她做事向来稳妥, 这次也没让我失望。 (BCC)

[彼女はいつも仕事を着実にこなし、今回も私を失望させなかつた]。

(200) では、“没”が“让”の直前に来ており、「私を失望させる」という事態を全体的に否定している。この場合は、感情述詞の直前に置くことができない。つまり、感情述詞だけを否定することができない。そのため、下記の例文は非文である。

(200') \*她做事向来稳妥, 这次也让我没失望。 (BCC)

[彼女はいつも仕事を着実にこなし、今回も私を失望させなかつた]。

以上のような考察の結果により、“让”を用いる感情構文の場合は、程度副詞と否定副詞の生起可能位置を、下記の表 23 にまとめられる。

【表 23】“让”を用いる感情構文における程度副詞と否定副詞の生起位置

種類	位置	感情述詞の直前	前置詞“让”的直前
程度 副詞	“很”	可	可
	“太”	可	可（多）
	“真”	不可	可
否定 副詞	“不”	可	可（稀）
	“没”	不可	可

#### 4.2.1.4 構文的意味

“让”を用いる感情構文は、これまで述べてきた前置詞を用いる構文と異なっており、〈刺激体〉が主語の位置に立つ構文である。これは、一見先述した〈刺激体〉主導の SVO 型感情構文と類似しているように見えるが、感情述詞自体の他動性の程度は異なる。例えば、この 2 種類の構文とも共起できる“感动”（感動する）という感情述詞が用いられた例文を比較してみよう。

(201) 悅瑩，你感动我了。（(70) の再掲）

[悦瑩さん、あなたは私を感動させた。]

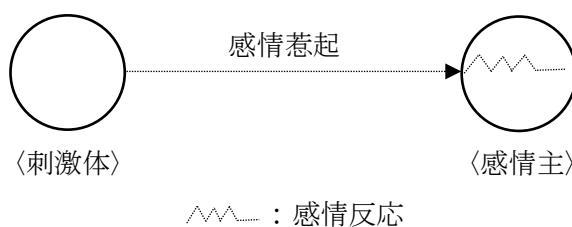
(202) 悅瑩，你让我好感动。（(201) による改編）

[悦瑩さん、あなたは私をとても感動させている。]

上記 2 例は、いずれにしても〈刺激体〉が〈感情主〉に刺激を与え、〈感情主〉が「感動」という感情を放出するということを表す。しかし、感情述詞“感动”（感動する）には差異が見られる。前者は、高い他動性を持つ“感动”（感動する）であり、後者は、極めて弱い他動性を持つ“感动”（感動する）である。そのため、前者は、〈感情主〉が〈刺激体〉から刺激を受ける動的な過程が連想されやすく、それに対して、後者は、〈感情主〉が〈刺激体〉から刺激を受けた後に呈した静的な状態が連想されやすい。また、形式的には、前者は程度副詞を伴うことができず、後者は程度副詞を伴うことができる。

〈刺激体〉主導の SVO 型感情構文との比較から、“让”を用いる感情構文の構文的意味を次のように規定する。つまり、〈刺激体〉が〈感情主〉をある感情状態に惹起させるということである。図式で示すと、下記の図 29 である。

【図 29】“让”を用いる感情構文の構文的意味の図式化



## 4.2.2 “把”を用いる感情構文

### 4.2.2.1 “把”の意味

周知のように、“把”は中国語教育において重要な位置を占めている。“把”には、量詞や前置詞の用法がある。前置詞としての“把”的意味について、《现代汉语八百词》は、以下のように述べている。

跟名词组合，用在动词前。‘把’后的名词多半是后边动词的宾语，由‘把’字提到动词前。

#### 1. 表示处置。名词是后面及物动词的受动者。

～信交了 | ～技术学到手 | ～衣服整理整理 | ～房间收拾一下

‘把’字后边可以是动词短语或小句，但较少。

～提高教学质量当作首要工作来抓 | 他～创作更多、更好的作品当作自己后半生的主要目标 | 大婶～春生是怎么走的详细说了一遍

#### 2. 表示致使。后面的动词多为动结式。

～嗓子喊哑了 | ～鞋都走破了 | ～问题搞清楚 | 谁～这块毛巾弄脏的？

动词或形容词后面常常用‘得’字引进情态补语。

～礼堂挤得水泄不通 | ～这马累得浑身大汗 | ～我冻得直哆嗦 | ～个小王听得入迷了 | ～小宇高兴得手舞足蹈起来

#### 3. 表示动作的处所或范围。

～东城西城都跑遍了 | ～个北京城走了一多半 | 你～里里外外再检查一遍

#### 4. 表示发生不如意的事情，后面的名词指当事者。

偏偏～老李给病了 | 真没想到，～个大嫂死了

#### 5. 拿；对。

他能～你怎么样？ | 我～他没办法

[‘把+名’の形で、動詞の前に置く。名詞の大多数は、あとにくる動詞の客語であり、‘把’によって動詞の前に移されたもの。]

##### 1. 处置を表す。名詞は後ろにある他動詞の（動作の）対象。

手紙を渡した | 技術をものにした | 服を整理する | 部屋をかたづける

‘把’の後ろに動詞句あるいは節がきてもよいが、比較的少ない。

教育の質を高めることを重要な仕事としてしっかり取り組む | 彼はさらに多くの  
そしてすばらしい作品をつくる事を自分の後半生の主要な目的としている。 | 春  
生がどうして出て行ったのか、おばさんは詳しく話した

2. ある結果を招くことを表す。動詞の多くは動結形。

叫んで声をからしてしまった | 靴をすっかりはきつぶした | 問題をはっきりさ  
せる | 誰がこのタオルをよごしたんだ

動詞や形容詞の後ろに‘得’を用いて程度補語を付け加えることがよくある。

講堂はぎゅうぎゅう詰めだった | この馬はへばって全身汗びっしょりだ | 私は  
寒さにぶるぶる震えた | 王くんはすっかり聞きほれてしまった | 宇ちゃんを踊  
りあがらせんばかりに喜ばせた

3. 動作の行われる場所や範囲を表す。

東城も西城もくまなく回った | 北京市内はだいたい歩き回った | 中も外ももう1  
度点検したまえ

4. 好ましくない事態が発生したことを表す。後ろにくる名詞はその当事者を指す。

あいにく李さんは病気になってしまった | 姉さんが亡くなるなんて、まったく思  
いもよらなかつた。

5. …を、…に対して。

彼が君をどうこうできるわけないだろう | 彼にはお手上げだ】

(呂叔湘 1999: 53-54)

以上の記述から、呂叔湘 (1999) は、“把”の意味を 5 項目に分けているとわかる。初級  
中国語文法においては、基本的には項目 1 の「処置を表す」が扱われているが、既に例示し  
たように、本節で考察する“把”的意味は、項目 2 の「ある結果を招くことを表す」に近い。  
ここで、(103) を (203) として再掲する。

(203) 一句话把妈妈激动得直掉眼泪。((103) の再掲)

[その一言は涙がポロポロと落ちるほど母を感激させた。]

(203) では、主語の位置に立つ“一句话”(一言) が〈刺激体〉であり、“把”で導かれて  
いる“妈妈”(母) が〈感情主〉であり、〈感情主〉の後に「感情述詞“激动”(感激する)

＋“得”＋様態補語“直掉眼泪”（涙がポロポロと落ちる）」という構造を取っている。この文における“把”的意味は、上述した使役マーカーの“让”と類似している。なぜなら、(203)における“把”を“让”に置き換えるても、構文の意味がほぼ変わらない。下記の例を見られたい。

(203') 一句话**让**妈妈激动得直掉眼泪。（(203)による改編）

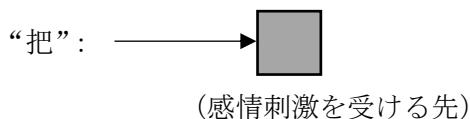
[その一言は涙がポロポロと落ちるほど母を感激させた。]

以上のことにより、本研究では、“把”的意味を下記のように規定する。

### 【本研究で扱う“把”的意味】

“把”：感情刺激が与えられる先を導く。

### 【図30】感情表現における“把”的イメージ図



上記の規定では、“把”的意味を“让”と同じようにしているが、構文的制約には相違が観察される。例えば、“把”を用いる感情構文である(203)における「感情述詞＋“得”＋様態補語」という構造を「程度副詞＋感情述詞」に置換できない。一方で、“让”を用いる感情構文である(203')はそのような置換が可能である。下記の1組の例を見られたい。

(203'') a. \*一句话**把**妈妈很激动。（(203)による改編）

[その一言は母をとても感激させている。]

b. 一句话**让**妈妈很激动。（(203')による改編）

[その一言は母をとても感激させている。]

また、下記の1組の例からも、両者の構文的制約の違いが見られる。

(204) a. “什么宝贝呀，看把你高兴的！” (BCC)

[「どんな宝物なのよ、あなたをこんなに喜ばせたなんて！」]

b. \* “什么宝贝呀，看让你高兴的！” ( (204a) による改編)

[「何の宝物なのよ、あなたをこんなに喜ばせたなんて！」]

(204a) は、口語でよく使われる構文であり、その特徴としては、文頭に動詞“看”(見る)が付いており、文末に助詞“的”が付いている<sup>10</sup>。この場合は、前置詞“把”を“让”に置き換えることができない。このように、本節で扱う前置詞“把”は、“让”と同じように使役機能を持つが、構文的制約において相違点が見られる。

#### 4.2.2.2 感情述詞の特徴

第2章の表4に示した108語の感情述詞を内省し検討した結果、40語の感情述詞が“把”を用いる感情構文に当たるとして判断した。約全体の37%を占めている。詳細は、下記の表24にまとめる。

【表24】“把”を用いる感情構文に当たる感情述詞

意味特徴	語彙例
「驚嘆」	惊、惊讶、吓、震撼、震惊
「憤怒」	气
「焦燥」	愁、烦、烦躁、慌张、急、郁闷、着急
「感激」	感动、激动
「愉悦」	高兴、开心、乐、兴奋、幸福
「嫌惡」	恶心、嫌弃
「悲痛」	难过、伤心、痛苦、委屈、心痛
「不安」	担心、紧张
「敬慕」	羡慕
「憐憫」	心疼
「満足」	满意、满足

「失望」	失望
「悔恨」	后悔
「羞恥」	尴尬、害羞
「自慢」	骄傲
「恐怖」	害怕、怕

表 24 から見て取れるように、“把”を用いる感情構文に当てはまる感情述詞の一部は、〈刺激体〉主導の SVO 型感情構文に用いられる感情述詞と一致している。例えば、一つを挙げると、“吓”(驚かす) という感情述詞は、両構文とともに共起できる。ここで、(65) を (205) として再掲する。

(205) 外面的大风吓死人了。((65) の再掲)

[外の強風に死ぬほど驚いた。]

(205') 外面的大风把人吓死了。((205) による改編)

[外の強風は人を死ぬほど驚かせた。]

上記の 2 例の比較からわかるように、SVO 型構文としての (205) は “把” 構文で置換し得る。このような動作性の強い感情述詞は、“把” 構文との相性が最も良いと考えられる。一方、一見 “把” 構文と相容れない状態性の強い感情述詞も表 24 に入っている。例えば、既に列举した “高兴”(嬉しい) を用いた (204a) が挙げられる。ここで、それを (206) として再掲する。

(206) “什么宝贝呀，看把你高兴的！” ((204a) の再掲)

[「何の宝物なのよ、あなたをこんなに喜ばせたなんて！」]

(206) のような文は、特殊な構文としてよく取り上げられる。例えば、张云峰 (2004)、张凤龙 (2008)、陈颖 (2018) などの先行研究では、それを “看把你……的” や “看把……” や “看把+P+A/V+的” などの構文形式として抽象化している。その構文に用いられる述語の特徴に関して、张云峰 (2004) は下記のように分類している。

- 1 表示高兴、喜悦: 喜、喜欢、开心、喜悦、快乐、快活、美
  - 2 表示满意、舒适: 得意、得劲、舒坦、舒服、清闲、悠闲、闲
  - 3 表示难受、悲伤: 难过、伤心、难受、疼、痛、疼痛、心疼
  - 4 表示苦闷、厌烦: 烦、愁、愁闷、忧愁、腻味、腻烦、烦躁、心烦、烦恼、烦闷
  - 5 表示害羞、懊悔: 腼腆、难为情、懊悔、后悔、遗憾
  - 6 表示疲乏、劳累: 累、乏、疲乏、疲倦、懒、懒惰
  - 7 表示骄傲、自满: 狂、狂妄、傲、骄傲、逞能
  - 8 表示焦急: 急、着急、焦急、心焦
- (张云峰 2004: 78)

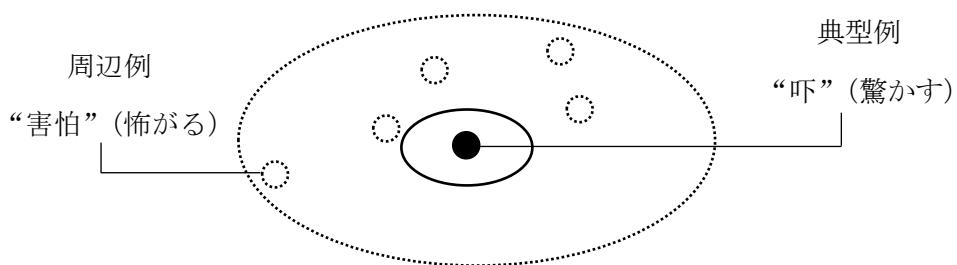
上記の語彙例から、感情を表すものが大多数を占めることは一目瞭然である。「疲労」を表す意味項目 6 以外のものは、全部本節で考察する感情述詞である表 24 に含まれている。また、“吓”(驚かす)類と“高兴”(嬉しい)類以外に、“害怕”(怖がる)類も、表 24 に入っている。他動性の観点から見れば、“害怕”(怖がる)の他動性の強さは、“吓”(驚かす)と“高兴”(嬉しい)の間に位置する。“害怕”(怖がる)のような感情述詞は、“把”構文との相性がそれほど良くない。コーパスにおいては、それを用いた例が見つけられなかった。下記の例は、“微博”(ウェイボー)で見つけたものである。

(207) 不就开个电瓶车, 看**把你给害怕的!** (微博)

[電動バイクに乗っただけじゃない? こんなにビビるなんて!]

このように、“把”を用いる感情構文に当てはまる感情述詞のカテゴリーを、下記の図で示す。つまり、“吓”(驚かす)を典型例とし、“害怕”(怖がる)を周辺例とするものである。

【図 31】“把”を用いる感情構文に当てはまる感情述詞のカテゴリー



#### 4.2.2.3 付加成分の種類

“把”を用いる感情構文における感情述詞は、“被”を用いる感情構文と同様に、裸の形だけで文を完成させることができず、付加成分を必要とする。まず、最もシンプルな形式は感情述詞の直後に助詞が付くものである。例えば、下記の例が挙げられる。

(208) 歌词真的把我感动了。(BCC)

[歌詞は本当に私を感動させた。]

(208) では、感情述詞“感动”(感動する)の直後に文末助詞“了”が来ているだけで、文を完成させている。この場合は、前述した“被”を用いる感情構文と置換し得る。下記の例を見られたい。

(208') 我真的被歌词感动了。( (208) による改編)

[私は本当に歌詞に感動させられた。]

上記の2文の比較を通じて、それらが対称関係を成していることは一目瞭然である。つまり、下記に示されているような関係である。

(208) 歌词真的把我感动了。(BCC)

(208') 我真的被歌词感动了。( (208) による改編)

また、“了”以外に、前述でも少し触れたように、“的”でも文を完成させることができる。例えば、同じ感情述詞“感动”(感動する)を用いた下記の例が挙げられる。

(209) 祝福各位健康，平安，最好也能够幸福。这是明显的政治语言，看把你感动的。(BCC)

[皆さんのご健康とご無事をお祈り致します。幸せになっていただければと思います。これは明らかに定型的な表現であり、あなたを感動させたなんて。]

(209) では、感情動詞“感动”（感動する）の直後に助詞“的”を付けることで、文を完成させている。多くの先行研究ではこの“的”は“得”から来ているとされている<sup>11</sup>。つまり、この構文における“V的”は、“V得C”の省略形式である。それは、一理あると思える。なぜなら、コーパスには、“V得”という形で終わる実例もあるからである。例えば、下記の例が挙げられる。

(210) “嘻嘻，看把你吓得。我也不是来问罪的…我回去写文章了。” (BCC)

[「ヒヒッ、あなたをこんなに驚かせるなんて。私は罪を問い合わせに来たわけじゃないし…私は戻って書き物をするわ。」]

だが、(210) のような“得”を用いて文を完成させる例はごく稀であるため、本節では、助詞“的”だけを扱う<sup>12</sup>。また、ここでの“的”的原型は“得”かどうかについては、考察しない。

さらに、この構文について、もう一つ注目すべきなのは、文頭に来ている“看”（見る）である。陈颖（2018）は、それを“看把+P+A/V+的”構文における必須要素の一つであり、発話の現場性を提示するマーカーだとしている。“看”（見る）の機能については、本研究も同意するが、それを構文の必須要素の一つだとする主張にはまだ議論する必要がある。なぜなら、“看”（見る）が存在しない場合も見られるからである。例えば、下記の例がある。

(211) 这点儿事把你烦的。 (BCC)

[こんなことで、あなたを煩わすなんて。]

(211) では、“看”（見る）は存在せず、「〈刺激体〉+“把”+〈感情主〉+感情述詞+“的”」という構造となっている。そのため、“看”（見る）は、文を完成させることができるかどうには影響を与えない。

また、“了”を用いる構文と比べると、“的”を用いる構文は、“被”構文と置換することができない。下記の例を見られたい。

(211') \*你被这点儿事烦的。 ( (211) による改編)

[あなたはこれぐらいのことに煩わされるなんて。]

上記の助詞“了”／“的”だけを付けるタイプ以外に、「程度補語／結果補語＋助詞“了”」というタイプも見られる。例えば、下記の例が挙げられる。

(212) “这小畜牲把我气死了。” (BCC)

[「この畜生めは私を死ぬほど怒らせた。」]

(213) 这张照片真心把我吓到了。(BCC)

[この写真は私を本当に驚かせた。]

(212) においては、感情述詞の直後に前述した主觀性の強い程度補語“死”と助詞“了”を取っている。(213) においては、“到”という結果補語と助詞“了”との組み合わせが文末に来ている。この 2 タイプは、“被”を用いる感情構文の場合と重なっている。もちろん、上記の 2 文は“被”でも表現し得る。

また、“被”を用いる感情構文の場合と同様に、「“得”＋様態補語」と「“得”＋程度補語」が文末に来るタイプも見られる。下記の例を見られたい。

(214) 前几天，有位从北京来的「全国作家协会」的党委书记，我同他谈，把我气得讲不出话来。 (BCC)

[この間、北京からきた「全国作家協会」の党書記がいて、私は彼と話したが、(彼)は私を言葉も出ないほど怒らせた。]

(215) “你知不知道，你把我吓得半死，以为你又怎么了。” (BCC)

[「あなた知っているかい？あなたは私を死にかけるほど驚かせた。あなたにまた何かあったかと思ったよ。」]

(214) においては、感情述詞“气”(怒らせる)の直後に、“得”を介して様態補語である“讲不出话来”(言葉が出てこない)が来ている。その様態補語は、内在している感情を、外在化させるという役割を果たしている。

(215) においては、感情述詞“吓”(驚かす)の直後に、“得”と程度補語の“半死”(死にかける)が来ている。ここで一つ興味深いことに、その程度補語“半死”(死にかける)を单音節の“死”(死ぬ)に置き換えることができない。上述したように、程度補語である“死”(死ぬ)は、基本的には助詞“了”とともに用いられることが多い。

また、(214) と (215) は、両方とも “被” を用いる感情構文と置き換えることができる。このように、助詞 “的” を文末に取るパターンを除いて、“把” を用いる感情構文における付加成分は “被” を用いる感情構文と重なっていることがわかる。

以上をまとめると、“把” を用いる感情構文における付加成分は、基本的には感情述詞の直後に置かれており、5種類に分けることができる。それを下記の表 25 にまとめる。

【表 25】“把” を用いる感情構文における付加成分の種類および事例

位置	種類	事例
感情述詞の直後	助詞	感动了/的
	程度補語+助詞	气死了
	結果補語+助詞	吓到了
	“得” + 様態補語	气得讲不出话来
	“得” + 程度補語	吓得半死

#### 4.2.2.4 構文的意味

“把” を用いる感情構文は、〈刺激体〉が主語の位置に立っており、〈感情主〉が “把” で導かれる構文である。この構文は、前述した “让” を用いる感情構文と同様に、使役構文に属するが、感情述詞の現れ方において両構文には相違点がある。例えば、既に列挙した 1 組の例を見てみよう。

(216) a. \*一句话**把**妈妈很激动。

[その一言は母をとても感激させている。]

b. 一句话**让**妈妈很激动。((203')) の再掲

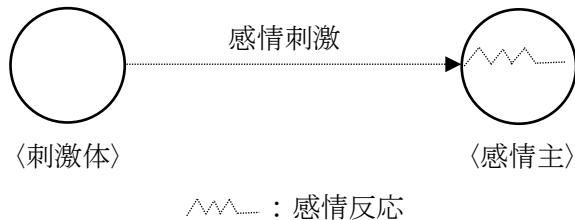
[その一言は母をとても感激させている。]

上記の 2 例から見て取れるように、“把” を用いる感情構文の場合は、感情述詞が形容詞的な用法として現れることができず、“让” を用いる感情構文の場合は、感情述詞が形容詞的な用法として現れることがある。“把” を用いる感情構文における感情述詞の後には、常に広い意味での「結果」を表すマーカーが求められる。しかし、「過程」を経ずに、「結果」

に至ることはできない。そのため、“把”を用いる感情構文に関して、〈刺激体〉が〈感情主〉に刺激を与える動的な過程は連想されやすい。この点においては、〈刺激体〉主導の SVO 型感情構文と類似していると言えよう。

上記のことにより、“把”を用いる感情構文の構文的意味を次のように規定する。つまり、〈刺激体〉が〈感情主〉に刺激を与え、さらに、〈感情主〉を何らかの感情状態に置かせることである。図式で示すと、下記の図 32 である。

【図 32】“把”を用いる感情構文の構文的意味の図式化



ここで、興味深いことに、この構文において感情述詞の直後に助詞“的”を取る場合は、上記の構文的意味以外に、話し手の主観的評価も内包されている。一方、それ以外の場合、基本的には感情事態の客観的描写である。例えば、下記の 1 組の例を比較してみよう。

(217) a. 一句话把妈妈激动得直掉眼泪。((103) の再掲)

[その一言は母をとても感激させている。]

b. 一句话把妈妈激动的。((103) による改編)

[その一言は母をこんなに感激させるなんて。]

(217a) は客観的な事態を述べているだけであり、話し手の主観的な態度を感じられない。それに対して、(217b) は、会話で使用される口語的な表現であり、形式だけで見て取れないその深層に話し手の主観的な態度が潜んでいる。具体的には、話し手がその同じ時空にいる〈感情主〉による感情行為に対して、“激动”(感激する) という感情と定める主観的な評価である。さらに、その感情の程度は、話し手の予想よりも高いという意外性も含まれている。また、この場合は、前置詞の“把”を“給”で置き換えることができる。次節で、“給”を用いる感情構文について考察する。

### 4.2.3 “给”を用いる感情構文

#### 4.2.3.1 “给”の意味

“给”には、動詞や前置詞や助詞の用法がある。《现代汉语八百词》では、前置詞としての“给”は、6個の意味項目が記されている。例えば、「物や伝達を受け取る者を導く」や「動作の受益者を導く」や「受身を表す」などが挙げられている。しかし、本節で考察するのは、使役の意味を表す“给”である。《现代汉语八百词》は、使役の意味で使われる“给”を動詞扱いしており、下記のように述べている。

容许；致使。用法与‘叫、让’相近。

城里城外跑了三天，～我累得够呛 | ～他多休息几天 | 你那本书～看不～看 | 酒可是不～喝 | 看着小鸟儿，别～飞了

〔許す、…させる：用法は‘叫・让’に近い。〕

町の内外を3日間駆け回って、へとへとにくたびれてしまった | 彼を何日か余計に休ませる | 君のその本、見せてくれる | 酒は飲ませない | 小鳥を見張つていろよ。飛んでいかないようにな！]

(呂叔湘 1999: 225-226)

ここでの“给”的意味は、前述の“让”と“把”と類似しているため、本研究では、使役の意味を表す“给”も前置詞として扱うことにする。例えば、下記の例が挙げられる。

(218) 大早晨的简直给姐感动坏了！(BCC)

〔朝早くに私をとても感動させた。〕

(219) 刚才，不知道为什么让我们全下车了！这给我气的！（(104)の再掲）

〔さっき、なぜか知らないけど、全員バスから降ろされた！めっちゃ腹立つ！〕

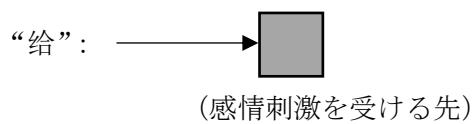
上記の2例は、紛れもなく両方とも使役の意味を表す。つまり、“给”的直後に来ている“姐”(姉)と“我”(私)は〈感情主〉の役割を果たしている。また、感情述詞に付随している成分から見れば、“把”を用いる感情構文との間には大きな差がないと想定できよう。

したがって、本研究で扱う“给”的意味を“把”と同様と規定する。

### 【本研究で扱う“給”的意味】

“給”：感情刺激が与えられる先を導く。

### 【図 33】感情表現における“給”的イメージ図



#### 4.2.3.2 感情述詞の特徴

既に述べたように、“給”を用いる感情構文は、“把”を用いる感情構文と意味的・統語的振る舞いが類似している。そのため、“把”を用いる感情構文と共に起できる感情述詞も、“給”を用いる感情構文にも使用し得ると推測できよう。実際それを検討した結果、両構文とそれぞれ共起できる感情述詞が一致すると判断した。その感情述詞を下記の表 26 に再掲する。

【表 26】“給”を用いる感情構文に当てはまる感情述詞

意味特徴	語彙例
「驚嘆」	惊、惊讶、吓、震撼、震惊
「憤怒」	气
「焦燥」	愁、烦、烦躁、慌张、急、郁闷、着急
「感激」	感动、激动
「愉悦」	高兴、开心、乐、兴奋、幸福
「嫌惡」	恶心、嫌弃
「悲痛」	难过、伤心、痛苦、委屈、心痛
「不安」	担心、紧张
「敬慕」	羨慕
「憐憫」	心疼
「満足」	满意、满足
「失望」	失望

「悔恨」	后悔
「羞恥」	尴尬、害羞
「自慢」	骄傲
「恐怖」	害怕、怕

もっとも、上記の表 26 に入っている感情述詞は、あくまでも理論上では“給”を用いる感情構文と共に起できるものである。なぜなら、コーパスには、この構文に相当する事例が極めて少なかったからである。なぜ使用例が少ないかと言えば、次の 2 点が考えられる。一つは、“給”は、中国語の標準語において、使役の意味として用いられることがあまりないということである。コーパスを調べたところ、“給”が感情表現に用いられる際に、使役よりも受身の意味として使用されることは圧倒的に多かった。例えば、下記の例が挙げられる。

(220) 要是这种吓人的话也能把我吓倒，那么我早在半个月之前，就给人吓死了。(BCC)

[もし、こんな怖い話で私を驚かすことができたら、半月前に私は人に驚かされてとっくに死んでたよ。]

上記の例では、文脈展開から見れば、ここでの“給”は使役の意味ではなく、受身の意味を表す。そこで、ここでは、“給”を受身の典型的なマーカー“被”で置き換えて意味が変わらない。下記の例を見られたい。

(220') 要是这种吓人的话也能把我吓倒，那么我早在半个月之前，就被人吓死了。(BCC)

[もし、こんな怖い話で私を驚かすことができたら、半月前に私は人に驚かされてとっくに死んでたよ。]

使役としての“給”的使用例が少ない原因について、もう一つ考えられるのは、“把”で代替できることである。例えば、既に列挙した (218) と (219) における“給”は“把”で置き換えられる。下記の例を見られたい。

(218') 大早晨的简直把姐感动坏了！（(218) による改編）

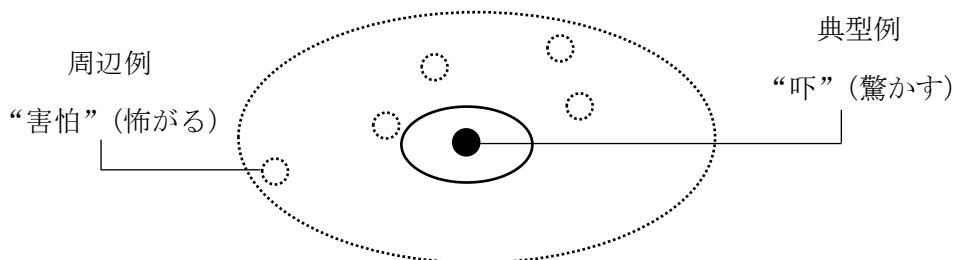
[朝早くに私をとても感動させた。]

(219') 刚才，不知道为什么让我们全下车了！这把我气的！（(219) による改編）

[さっき、なぜか知らないけど、全員バスから降ろされた！めっちゃ腹立つ！]

また、この構文に用いられる感情述詞の典型例と周辺例については、実例が少ないため、それらを特定するのが困難だと言えよう。しかし、既に考察した“把”を用いる感情構文とほぼ同様な意味的・統語的振る舞いをするため、感情述詞の典型例と周辺例も同様ではないかと想定できよう。そのため、“给”を用いる感情構文に当てはまる感情述詞のカテゴリーを下記のように規定する。

【図 33】“给”を用いる感情構文に当てはまる感情述詞のカテゴリー



#### 4.2.3.3 付加成分の種類

“把”を用いる感情構文と同様に、“给”を用いる感情構文でも、感情述詞には付加成分が必要である。まず、最もシンプルな付加成分としての文末助詞が見られる。例えば、下記の例が挙げられる。

(221) 刚在腾讯看了一个故事，给我感动了！ (BCC)

[さっき騰訊で一つの物語を見た。それは私を感動させた！]

(222) 不就是帮你剥了个茶叶蛋嘛，看给你感动的。（微博）

[あなたに茶葉の煮卵の殻を剥いてあげただけじゃない？あなたをこんなに感動させたなんて。]

(221) では、文末に助詞“了”を伴うことによって文を完成させており、「見た物語が私を

感動させた」という事実を比較的客観的に描写している。一方、(222) では、文末に“的”が来ることによって文を完成させただけではなく、話し手の主観的な態度も表されている。つまり、話し手の予想では、相手がそこまで感動しないということであったが、実際には、相手が話し手の予想を超えて感動したということである。また、この 2 文は、両方とも“把”構文と置換し得る。

助詞“了”或いは“的”を付ける以外に、「程度補語／様態補語 + “了”」構造を伴う事例も見られる。例えば、下記の例が挙げられる。

(222) 赵雅妮今天可给我气死了，明侦 5 出来了都不和我分享。(微博)

[趙雅妮さんは今日本本当に私を死ぬほど腹立たせた。『明侦 5』が出たのに、私にシェアしないなんて。]

(223) 第一次收情书的时候，班里同学起哄，给我吓哭了。(微博)

[初めてラブレターをもらった時に、クラスメートが私をからかい、驚かせて泣かせた。]

(222) では、感情述詞“气”(怒らせる)の後に、よく使用される程度補語“死”(死ぬ)と文末助詞“了”との組み合わせが来ており、〈感情主〉である“我”(私)の怒りという感情が相当高い程度に達していることを表している。一方、(223) では、様態補語“哭”(泣く)が感情述詞“吓”(驚かせる)と文末助詞“了”との間に挟まれており、〈感情主〉である“我”(私)が泣くという具体的な行為を通じて、驚きの感情を表している。この 2 文も、両方とも“把”構文と置換し得る。

また、助詞“得”を介して様態補語と程度補語が来るパターンも見られる。例えば、下記の例が見られる。

(224) 这内容太精彩了，大半夜给我吓得精神抖擞。(微博)

[この内容は素晴らしいすぎて、夜中に私をゾクゾクするほど震わせた。]

(225) 不喜欢万圣节，仅有的几次鬼屋经历都给我吓得半死。(微博)

[ハロウィンが好きではない。なぜなら、何回かのお化け屋敷の経験がもうすでに私を死にかけるほど驚かせているからである。]

(224) では、感情述詞“吓”（驚かせる）の後に“得”を介して“精神抖擞”（ゾクゾクする）という様態補語が来ており、〈感情主〉である“我”（私）が驚かされて、ゾクゾクする様態を表している。一方、(225) では、助詞“得”の後に“半死”（死にかける）という程度補語を取っており、〈感情主〉である“我”（私）の驚きという感情が高い程度に達していることを表している。この2文も、両方とも“把”構文と置換し得る。

上記の具体例の分析から、“给”を用いる感情構文において、感情述詞に付く付加成分の種類は“把”を用いる感情構文と同様だということがわかる。それを下記の表にまとめる。

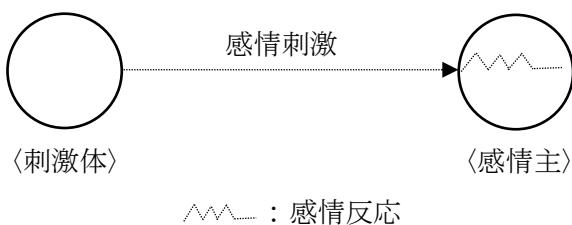
【表 27】“给”を用いる感情構文における付加成分の種類および事例

位置	種類	事例
感情述詞の直後	助詞	感动了/的
	程度補語+助詞	气死了
	結果補語+助詞	吓哭了
	“得”+様態補語	吓得精神抖擞
	“得”+程度補語	吓得半死

#### 4.2.3.4 構文的意味

“给”を用いる感情構文は、〈刺激体〉が主語の位置に立っており、〈感情主〉が“给”で導かれる構文である。既述したように、感情表現において、使役を表す“给”は“让”より“把”に近い。この点では、《现代汉语八百词》における‘叫・让’に近いという説明と異なる。そのため、構文的意味を“把”構文と同様に、〈刺激体〉が〈感情主〉に刺激を与え、さらに、〈感情主〉を何らかの感情状態に置かせると規定する。下記の図34のようである。

【図 34】“给”を用いる感情構文の構文的意味の図式化



### 4.3 第4章のまとめ

第4章では、SPOV型感情構文について考察を行った。SVO型感情構文と同様に、SPOV型感情構文も〈感情主〉主導タイプと〈刺激体〉主導タイプとの2タイプに分けるべきだと結論付けた。また、この2タイプについて、それぞれ三つの前置詞に絞って考察を行った。具体的には、〈感情主〉主導タイプは、“对”・“为”・“被”であり、〈刺激体〉主導タイプは、“让”・“把”・“给”である。それぞれの典型例と構文的意味を下記のようにまとめる。

#### I 〈感情主〉主導のSPOV型感情構文

对: 我对你很失望。

構文的意味: 〈感情主〉が〈刺激体〉に向き合い、感情反応を示す。

为<sub>1</sub>: 我在为<sub>1</sub>钱烦恼。

構文的意味: 〈感情主〉が〈刺激体〉の存在のために、感情反応を示す。

为<sub>2</sub>: 我真为<sub>2</sub>你高兴。

構文的意味: 〈感情主〉が〈刺激体〉へ感情移入し、感情反応を示す。

被: 我被你感动了。

構文的意味: 〈感情主〉が〈刺激体〉から感情的刺激を受け、受動的に感情反応する。

#### II 〈刺激体〉主導のSPOV型感情構文

让: 你让我很感动。

構文的意味: 〈刺激体〉が〈感情主〉をある感情状態に惹起させる。

把: 你把我感动了。/这把我感动的。

構文的意味: 〈刺激体〉が〈感情主〉に刺激を与え、さらに、〈感情主〉を何らかの感情状態に置かせる。

给: 你给我感动了。/这给我感动的。

構文的意味: 〈刺激体〉が〈感情主〉に刺激を与え、さらに、〈感情主〉を何らかの感情状態に置かせる。

また、教育への応用の可能性を想定する趣旨とする研究であるため、第2章で収集した感情述詞をSPOV型感情構文に当てはめることができるか否かについてのマッチングテストを行った。その結果、上記の構文Iでは、“对”構文は、76語が得られており、およそ本

研究が扱う感情述詞の 70% を占めている。“为<sub>1</sub>”構文は、36 語が得られており、約 33% を占めている。“为<sub>2</sub>”構文は、18 語が得られており、約 17% を占めている。“被”構文は、11 語が得られており、約 10% を占めている。一方、構文Ⅱでは、“让”構文は、96 語が得られており、約 89% を占めている。“把”構文と“给”構文は、両方とも 40 語が得られており、約 37% を占めている。

その上、“对”構文・“为”構文・“让”構文における副詞の生起位置を考察した。その結果、“对”構文の場合は、基本的には感情述詞の直前に生起するということがわかった。“为”構文の場合は、“为<sub>1</sub>”であれ、“为<sub>2</sub>”であれ、基本的には前置詞の直前に生起するということがわかった。“让”構文の場合は、程度副詞や否定副詞の種類によって生起位置にばらつきが見られるということがわかった。

また、“被”構文・“把”構文・“给”構文における感情述詞に付随する成分について考察を行った。その結果、“被”構文の場合は、感情述詞の直後・直前・前後という三つの位置に立つく付加成分があるということがわかった。その一方、“把”構文と“给”構文の場合は、感情述詞の直後に立つ付加成分しかないということがわかった。

---

<sup>1</sup> 第4章の内容は、第十回現代中国語文法国際シンポジウムで口頭発表した「“(S)+介詞+O+情谓名詞”構式研究」に相応の修正をし、加筆したものである。

<sup>2</sup> 使役マーカーとしての“让”的品詞については、動詞と前置詞との2通りの説がある。本研究では、使役感情構文における“让”的文法化の度合いが高く、動詞としての実質的意味が漂白されたため、前置詞とする。また、使役感情構文に用いられる使役マーカーは、“让”以外に、“叫”、“令”、“使”などのマーカーもある。感情表現においては、“让”が文語体と口語体にも用いられており、使用頻度が比較的高いため、本研究では、使役マーカーを“让”だけに限定する。

<sup>3</sup> 『現代汉语八百词』は、主に虚詞（機能語）を対象に、それぞれの語について意味・用法ごとに詳細な説明を加えたものである。初版は 1980 に出版されているが、本研究で引用するのは、1999 年に出版された増訂版である。また、引用箇所の日本語訳は、牛島、菱沼（2003）が監訳した『中国語文法用例辞典』（『現代汉语八百词增订本』日本語版）から引用する。

<sup>4</sup> ここでは、一つ目の事態の主語も脱落できる。つまり、“对他我很失望”という文も普通に成立する。

<sup>5</sup> 受身の意味を表す場合は、声調が2声（wéi）となるため、現在の辞書において別項目として分類されているが、古川（2000）は、それを声調が4声（wèi）の前置詞と同じカテゴリに入れている。本研究では、受身の意味としての“为”を扱わないこととする。その理由は二つある。一つは、受身の意味としての“为”が文言であり、使用頻度が高くないからである。もう一つは、4.2.3 節で述べる典型的な受身のマーカー“被”と重複するから

---

である。

- <sup>6</sup> “替”を用いる感情表現については、伊藤 (2012) 参照。
- <sup>7</sup> “为”の直後に“此”(これ)が来ている場合は程度副詞が付いても自然な中国語として成立する。例えば、“我为此很苦恼”(私はこれにとても悩む)は、違和感が感じられない文である。ところが、この場合は、“为此”が接続詞の色彩を帶びている。これについては、邢福义、姚双云 (2007) 参照。また、“为此”を文頭に置いても成立する事実もその裏付けとなる。そのため、“此”が〈刺激体〉に充当する場合を本研究の対象外とする。
- <sup>8</sup> 様態補語とは、述語が表す動作や状態の様態を述語の後ろから補足して説明する成分である。中国語の場合は、“状态补语”と呼ばれている。
- <sup>9</sup> 单音節の“怕”と2音節の“害怕”的用法については微妙な相違が見られる。それぞれの使用環境を考察するのも興味深いと思量する。それを今後の課題とする。
- <sup>10</sup> この構文の場合は、感情述詞の直前に助詞“给”が用いられることも観察される。例えば、“见到爸妈，把我给高兴的啊！”(BCC) という表現が存在する。
- <sup>11</sup> 陈颖 (2018) 参照。
- <sup>12</sup> 史形嵐 (2001) は、“V的”に言及せず、“V得”だけを扱っている。例えば、“把他给气得”(彼の怒りようといったら) という文が挙げられている。

## 第5章 SV型感情構文について

第5章では、形式的に最もシンプルなSV型感情構文について考察する。木村(2017)はこの構文を、〈刺激体〉が文の中に取り込められないタイプとしている。また、この構文に当てはまる感情述詞について、“高兴”(嬉しい)、“痛快”(胸がすく)、“愉快”(楽しい)、“轻松”(気持ちが軽やかである)、“烦躁”(煩わしい)、“忧闷”(心配で気がふさぐ)などが挙げられている。さらに、木村(2017)は、このような感情述詞を「愉悦・煩憂」タイプと呼んでいる。具体例として、“高兴”(嬉しい)を用いる文が挙げられており、日本語訳も添えられている。

(226) a. \*他很高兴这消息。

[彼がこのニュースに喜んでいる。]

b. \*他对这消息很高兴。

[彼がこのニュースに喜んでいる。]

c. 他很高兴。

[彼はとてもうれしい。]

(木村 2017: 162)

木村(2017)は、SV型感情構文に当てはまる感情述詞は、SVO型感情構文にもSPOV型感情構文にも用いることができないとしている。そのため、上記の3例の中で、(226a)と(226b)は、二つとも非文であり、(226c)しか成立しない。

ところが、第3章で指摘したように、(226a)における“这消息”(このニュース)という体言性の〈刺激体〉を“听到这消息”(このニュースを聞いた)という用言性の〈刺激体〉に置き換えると、自然な文として成立する。

また、(226b)は、指摘された通りに容認度が極めて低いが、第4章で述べたように、“为”という前置詞を用いる感情構文の場合に、“高兴”(嬉しい)は、その構文に当てはめることができある。つまり、“他为这消息高兴”という文は、成立しないとは言い難い。さらに、その〈刺激体〉である“这消息”(このニュース)を、ヒトを表す体言性の成分に置換すると、自然度が極めて高い文になる。例えば、“他为儿子高兴”という文はごく自然な中国語である。このように、“高兴”(嬉しい)という感情述詞は、SVO型とSPOV型とSV型感情構文に跨るものだと言えよう。

上述の問題以外に、主語の位置に〈感情主〉を限定するところにも検討する余地がある。なぜなら、主語の位置に〈刺激体〉も取り得るからである。例えば、下記の例が挙げられる。

(227) 这只狗狗好可怜。 (BCC)

[このワンちゃんが可哀そうだ。]

上記の例では、〈刺激体〉としての“这只狗狗”(このワンちゃん)が主語のところに来ており、〈感情主〉が言語化されていないが、〈感情主〉の感情状態が表出されている。例えば、上記の例の文頭に“我覺得”(私は思う)という思考動詞フレーズを付けられる。

(227') 我觉得这只狗狗好可怜。 ( (227) による改編)

[私はこのワンちゃんが可哀そうだと思う。]

そのため、本章では、SV型感情構文を次のように規定する。つまり、SVの語順で並び、感情主と刺激体のどちらか一方が文中に現れるものである。また、主語の位置に感情主が付くのか、刺激体が付くのかについては、感情述詞の性質によって決まる。

以下、まず、SV型感情構文を〈感情主〉主導のSV型感情構文と〈刺激体〉主導のSV型感情構文に分けて考察し、最後にこの章の考察結果を整理する。

## 5.1 〈感情主〉主導のSV型感情構文について

本節では、〈感情主〉が主語のところに立ち、〈刺激体〉が文中に現れない感情構文を考察する。以下、「感情述詞の特徴」、「程度副詞の種類」、「裸形式の成立可否」、「構文的意味」という順で見ていく。

### 5.1.1 感情述詞の特徴

上述のように、木村(2017)は、このような感情述詞を「愉悦・煩憂」タイプと呼んでいる。また、“喜欢”(好きだ)といった感情述詞をこの構文に用いることができない理由も述べている。下記の例が挙げられている。

(228) 甲: 他很喜欢。[彼はとても好きだ。]

乙: #为什么? <sup>1</sup> [なぜ?]

(木村 2017: 158)

木村 (2017) によると、上記の例では、彼が何を好んでいるかが知らされていない段階で「なぜ?」と問い合わせることは、通常の自然な対話のあり方ではない。そのため、“喜欢”(好きだ) という感情述詞が SV 型感情構文に用いられた際に、情報伝達に支障を来たし、語用論上不自然に感じられる<sup>2</sup>。

そこで、本節では、以上の手法を援用して第 2 章の表 4 に示した 108 語の感情述詞に対してテストを行う。検討した結果、64 語の感情述詞が〈感情主〉主導の SV 型感情構文に用いられると判断した。それは、およそ全体の 59% を占めている。詳細は、下記の表 28 にまとめる。

【表 28】〈感情主〉主導の SV 型感情構文に当てはまる感情述詞

意味特徴	語彙例
「愉悦」	高兴、光荣、欢乐、开心、快乐、荣幸、痛快、兴奋、幸福
「感激」	感动、感慨、激动
「悲痛」	悲哀、沮丧、难过、伤心、痛苦、委屈、心痛
「焦躁」	愁、烦、烦恼、烦躁、慌张、急、急躁、焦急、恼火、郁闷、着急
「满足」	满足、欣慰
「悔恨」	甘心、后悔、悔恨、惋惜、无奈、遗憾
「寂寞」	孤独、寂寞、空虚
「失望」	灰心、绝望、失望
「羞恥」	抱歉、惭愧、尴尬、害羞、难堪
「憤怒」	愤怒、气、生气
「驚嘆」	吃惊、惊奇、惊讶、震撼、震惊
「自慢」	骄傲、自豪、自满
「茫然」	茫然
「不安」	不安、担心、紧张

コーパスを調べたところ、木村 (2017) が主張しているように、「愉悦・煩憂」感情述詞が大多数であることがわかった。しかし、その中で、木村 (2017) で列挙されている“高兴”(嬉しい) よりも“开心”(嬉しい) という感情述詞が圧倒的優勢を占めている<sup>3</sup>。例えば、下記の例が挙げられる。

(229) 我很开心, 因为你懂我。(BCC)

[私はとても嬉しい。なぜなら、あなたが私をわかるからだ。]

(229) では、〈感情主〉“我”(私) の後ろに程度副詞“很”(とても) と感情述詞“开心”(嬉しい) の組み合わせを取っている。これだけで意味的に充足しており、談話上自立しているが、後の文脈で嬉しい理由も述べられている。つまり、本研究でいう〈刺激体〉が感情構文の中に取り込まれていないが、文脈に依存している。

また、この例を用いて、下記のように「なぜ？」と問い合わせる会話を作り得る。

(229') 甲：我很开心。[私はとても嬉しい。]

乙：为什么？ [なぜ？]

甲：因为你懂我。[あなたが私をわかるからだ] ( (229) による改編)

一方、もし、上記の (229') における“高兴”(嬉しい) を“喜欢”(好きだ) に置換すると、談話上不自然に感じられる。下記の例を見られたい。

(229'') 甲：我很喜欢。[私はとても好きだ。]

乙：#为什么？ [なぜ？]

甲：因为你懂我。[あなたが私をわかるからだ] ( (229') による改編)

しかし、もし、“喜欢”(好きだ) の後に“你”(あなた) を付け加えれば、自然になる。

(229''') 甲：我很喜欢你。[私はあなたがとても好きだ。]

乙：为什么？ [なぜ？]

甲：因为你懂我。[あなたが私をわかるからだ] ( (229'') による改編)

上記の比較を通じて、木村（2017）の〈感情主〉主導の SV 型感情構文と共に起できる感情述詞なのか否かを判断する方法が有効であることも確認できる。

また、木村（2017）は、この構文に用いられる感情述詞は紛れもなく形容詞であると主張している。二つの根拠が述べられている。まず、一つ目に、このタイプの感情述詞は、(230) のように、“很+～”の形で動作の様態を表す修飾語としても頻繁に用いられ、その点において多くの形容詞の機能と一致するという。

(230) 他很高兴地答应了。

[彼は喜んで承諾した。]（木村 2017: 162）

二つ目に、重ね型という形態論的な有標化の成否に関しても、このタイプの感情述詞は、形容詞一般の特徴と一致するという。例えば、次のような例が挙げられている。“高高兴兴(de)”、“痛痛快快(de)”、“愉愉快快 (de)”、“烦烦躁躁(de)”、“忧忧闷闷(de)”などの重ね型が成立する。しかし、〈感情主〉主導の SV 型感情構文と共に起できる感情述詞は、全部重ね型にできるとは限らない。例えば、表 28 に入っている“生气”（怒る），“吃惊”（驚く）などは、“生生气气(de)”、“吃吃惊惊(de)”のように重ね型を形成し得ない。そのため、〈感情主〉主導の SV 型感情構文に用いられる感情述詞は決して全部形容詞だとは言い切れない。上述の“生气”（怒る），“吃惊”（驚く）は、形容詞なのか動詞なのかを判断するのが極めて困難だと言っても過言ではない。下記の例文を見てみよう。

(231) 老潭很生气，因为大刘什么也不肯说。 (BCC)

[潭さんはとても怒っている。なぜなら、劉さんは何も言いたがらないからである。]

(232) 她很吃惊，因为和记忆中相比，这房子实际上如此之小。 (BCC)

[彼女はとても驚いている。なぜなら、記憶の中のと比べると、この家は実際にこんなに小さいからである。]

上記の 2 例では、下線を引いている部分に対して、両方とも「なぜ？」と問い合わせることが可能である。そのため、“生气”（怒る）と“吃惊”（驚く）も“开心”（嬉しい）のように〈感情主〉主導の SV 型感情構文と共に起できる感情述詞に属する。しかし、言うまでもなく、前者の 2 語は典型的な形容詞だと言い難い。

さらに、動詞寄りの感情述詞“担心”(心配する)がこの構文に用いられた例も見られる。例えば、下記の例が挙げられる。

(233) 卢闰英道：“十郎，你的聪明才智，我是十分钦佩的，但是我总还有点担心，因为  
你走的都是冒险取巧之道。(BCC)

〔盧閔英さんは「十郎さん、あなたの才能には、私は大変感服した。しかし、私は  
やはり少し心配している。なぜなら、あなたが歩んでいるのは、冒険してうまく  
立ち回るような道だからである。」と言った。〕

上記の例の下線部に対して、下記のように「なぜ？」と問い合わせることもできる。

(233') 甲：我有点担心。〔私は少し心配している。〕

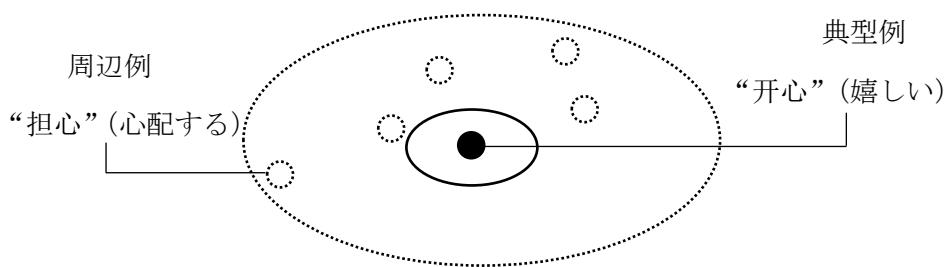
乙：为什么？〔なぜ？〕

甲：因为你走的都是冒险取巧之道。〔あなたが歩んでいるのは、冒険してうまく  
立ち回るような道だからだ。〕（(233)による改編）

もっとも、第3章で述べたように、“担心”(心配する)は、“喜欢”(好きだ)と同様に、  
後ろに対象を取ることもできる。つまり、(233')における“我有点担心”(私は少し心配し  
ている)を“我有点担心你”(私はあなたを少し心配している)に置き換えるても成立する。  
そこで、“担心”(心配する)は、この構文に用いられる感情述詞の典型例とは言えない。

このように、〈感情主〉主導のSV型感情構文に当てはまる感情述詞のカテゴリーを下記  
のように規定する。

【図35】〈感情主〉主導のSV型感情構文に当てはまる感情述詞のカテゴリー



### 5.1.2 程度副詞の種類

既に列举した事例からわかるように、感情述詞の前に程度副詞が付くのは一般的である。例えば、下記の例を見てみよう。

(234) 教授很开心，说自己开始学中文是 1979 年，那时美国学中文的人很少。(BCC)

[教授はとても嬉しがっていて、自分が中国語を勉強し始めたのが 1979 年で、その時にアメリカで中国語を勉強する人が少なかったと言った。]

上記の例では、感情述詞“开心”(嬉しい)の直前に程度副詞“很”(とても)が来ており、客観的に〈感情主〉の感情を描写している。ここでの“很”は、一般の形容詞の直前に付くものと同様に、あまり実質的な意味を持たず、文法的な役割を果たすだけである。とはいえ、それを取り除くと、不自然に感じられる。下記の例を見られたい。

(234') ?教授开心，说自己开始学中文是 1979 年，那时美国学中文的人很少。

( (234) による改編)

[教授は嬉しがっていて、自分が中国語を勉強し始めたのが 1979 年で、その時にアメリカで中国語を勉強する人が少なかったと言った。]

客観性が高い程度副詞“很”(とても)以外に、主観性が高い程度副詞“好”(とても)を用いた事例も多数見られる。例えば、下記の例が挙げられる。

(235) “回家的感觉真的太好了。我好开心。” (BCC)

[「家に帰った感じは本当に良すぎる。私はとても嬉しい。」]

(235) では、“我好开心”(私はとても嬉しい)という感情表現は、実際の発話の中に取り込まれており、〈感情主〉の感情を直接に表出するものである。また、“好”(とても)の意味合いに話し手の感嘆の気持ちが込められており、さらに、ここでは話し手が〈感情主〉と被るため、〈感情主〉による嬉しいという感情は、客観的によりも主観的に表出されている。ここでは、“很”(とても)と置き換え難い。

(235') ? “回家的感觉真的太好了。我很开心。” ( (235) による改編)

[「家に帰った感じは本当に良すぎる。私はとても嬉しい。」]

ここで注意すべきは、感情表出構文に用いられる程度副詞は、主観性が高い程度副詞“好”（とても）だけではなく、客観性が高い“很”（とても）もあり得るという点である。下記の例を見られたい。

(236) “我很开心，能够完成挑战。” 21 岁的薛峰来自北京工业大学，是工商管理系的大一学生。 (BCC)

[「私はとても嬉しい。なぜなら、この挑戦をクリアできたからだ」と北京工業大学経営学学科から来た 21 岁の一年生の薛峰さんは言った。]

(236) では、“我很开心”（私はとても嬉しい）という感情表現も、発話に用いられており、感情を直接的に表出するものである。ただし、(235) と比べると、(236) は、インタビューを受けるという改まった場面における発話である。この場合は、主観性が高い程度副詞“好”（とても）を使用するというより、客観性が高い程度副詞“很”（とても）を使用するほうが相応しい。ここで、もし“好”（とても）を使用すると、語用論上不自然に感じられる。

(236') # “我好开心，能够完成挑战。” 21 岁的薛峰来自北京工业大学，是工商管理系的大一学生。 ( (236) による改編)

[「私はとても嬉しい。なぜなら、この挑戦をクリアできたからだ」と北京工業大学経営学学科から来た 21 岁の一年生の薛峰さんは言った。]

その上、(236) の“我很开心”（私はとても嬉しい）と“能够完成挑战”（この挑戦をクリアできた）との二つの文を一つの SVO 型構文に合成し得る<sup>4</sup>。下記のようになる。

(236'') “我很开心能够完成挑战。” 21 岁的薛峰来自北京工业大学，是工商管理系的大一学生。 ( (236) による改編)

[「私はこの挑戦をクリアできてとても嬉しい。」と北京工業大学経営学学科から来た 21 岁の一年生の薛峰さんは言った。]

一方、(236') の場合は、二つの文を一つの文に合成すると、文法上不自然に感じられる。

(236'')？“我好开心能够完成挑战。” 21 岁的薛峰来自北京工业大学，是工商管理系的大一学生。（(236') による改編）

[「私はとても嬉しい。なぜなら、この挑戦をクリアできたからだ」と北京工業大学経営学学科から来た 21 歳の一年生の薛峰さんは言った。]

実は、(236'') のような構文は、中国語の時間順序原則 (The principle of temporal sequence、以下、PTS と称する) に反している。PTS というのは、戴浩一 (1988) が提唱した用語であり、下記のように規定されている。

两个句法单位的相对次序决定于它们所表示的概念领域里的状态的时间顺序。

[二つの統語的単位の相対的な順序は、それらが示す概念領域における状態の時間的順序によって決まる。] (戴浩一 1985, 黄河訳 1988: 10)<sup>5</sup>

上記の定義は、言い換えれば、出来事が生起する順序と言語表現の配列が同じになるということである。しかしながら、(236'') における “我很开心能够完成挑战”（私はこの挑戦をクリアできてとても嬉しい）は、結果としての感情状態が前に配置されており、原因としての〈刺激体〉が後に配置されている。このような配列で形成された感情表現は、自然的な表出ではなく、聞き手にある印象を与えるために、意図的な表出である。そこで、この場合は、話し手が内省によって自分の感情状態を客観視しようとするため、“好”（とても）よりも、“很”（とても）のほうが相応しいと考えられる。

上記の考察からも、第 3 章で触れた “我很高兴认识你”（私はあなたと知り合えてとても嬉しいです）という文において、程度副詞 “很”（とても）が使用される理由がわかる。

また、もう一つ注意すべきは、程度副詞 “好”（とても）を使用する場合、必ずしも感情表出文とは限らないという点である。例えば、下記の例を見てみよう。

(237) 这个孩子花 6 元钱 “献爱心” 抽奖，结果中了一台洗衣机，妈妈好开心。 (BCC)

[この子が 6 元を使って募金くじを引いて、洗濯機が当たって、お母さんはとても嬉しがっている]。

(237) では、感情述詞の直前に“好”(とても)が使用されているが、〈感情主〉の直接的な感情表出ではなく、観察者による主観的な感情描写である。つまり、この例における“好”(とても)は感情描写文<sup>6</sup>に観察者の主観的な評価を付け加える役割を果たしている。そのため、程度副詞“好”(とても)の主観性は、文の主語の位置に立つ〈感情主〉によるものではなく、隠れている観察者によるものと言えよう。

以上、程度副詞“很”(とても)と程度副詞“好”(とても)が〈感情主〉主導のSV型感情構文に用いられた場合を述べてきた。この2種類の程度副詞以外にも、よく挙げられる“真”(本当に)や“太”(あまりにも)などが見られる。下記にそれぞれ1例を挙げる。

(238) 一觉睡到下午三点才醒, 真开心。(BCC)

[一眠りしたら午後3時まで寝てしまい、本当に嬉しい]

(239) “在这里过春节是一次绝妙的旅游经历, 太开心了。”(BCC)

[「ここで春節を過ごすのは絶妙の旅行経験だ。嬉しそう。」]

上記の2例では、“好”(とても)を用いた文と同様に、話し手の感嘆の気持ちが込められている。ただし、使用度数から見れば、“好”(とても)のほうが圧倒的多数を占めている。BCC コーパスにおける“多領域”(多領域)という項目で“好开心”、“真开心”、“太开心”を検索フレーズに、それぞれ調査したところ、19904個、3574個、3079個というデータが得られた。このデータから見れば、“好”(とても)の出現度数は、おおよそ“真”(本当に)や“太”(あまりにも)の5、6倍に及んでいる。そのため、本節で“真”(本当に)や“太”(あまりにも)を扱わないことにする。

このように、〈感情主〉主導のSV型感情構文に用いられる程度副詞は、大まかに“很”(とても)と“好”(とても)という2種類に分けられる。それぞれの特徴を下記の表29にまとめる。

【表29】〈感情主〉主導のSV型感情構文に用いられる程度副詞およびその特徴

種類	特徴
很(开心)	改まった場面；意図的表出；客観的描写
好(开心)	くだけた場面；自然的表出；主観的描写

### 5.1.3 裸形式の成立可否

上述のように、感情述詞の直前に程度副詞が付くのは一般的である。つまり、感情述詞は、裸の形で用いられることが困難だということである。例えば、王安 (2013) は、日本語との対照の観点から、下記のような日中感情形容詞の違いを指摘している。

(240) 「嬉しい！」 (王安 2013: 190)

(241) 「\*高兴！」 (同上)

王安 (2013) によると、日本語の場合は (240) のように、「嬉しい」などの感情形容詞はそのままの形で瞬間的な感情の表出を捉え得るのに対し、(241) の中国語はそのような用法が存在しないという。しかし、言語事実には例外がある。例えば、嫌なことをされた際に、中国語は日本語のように裸の形でも用いることができる。

(242) 「腹立つ！」

(243) “生气！”

もちろん、一般的には、自然反射的に感情を表出する際に、程度副詞を伴う“好生气！”のほうが中国語らしい表現であるが、近年、スマートフォンの普及について、SNS は、身近なものとなり、コミュニケーション手段の一つとなってきた。そこにおける感情表現を観察してみると、感情述詞が裸の形で用いられることがしばしば見られる。例えば、下記のような例が挙げられる。

(244) 昨天，你和小把戏吃大螃蟹，我只能在家吃咸泡饭，生气！ (BCC)

[昨日、あなたは子供と大きい蟹を食べて、私は家でお茶漬けしか食べられなくて、  
腹立つ！]

上記の例は、書き手が自分の愚痴をありのまま SNS に投稿した内容である。それは口頭で発した言葉ではないが、文末における“生气！”（腹立つ！）という感情表現は、〈感情主〉による自然的な感情表出の一つの形式だと言えよう。

また、王安 (2013) が挙げた“高兴”(嬉しい) も裸の形で用いられた例が存在する。下記の例を見られたい。

(245) 忙了一个礼拜，事情都安排妥当了，高兴！(BCC)

[一週間バタバタして、やる事が全部済んだので、嬉しい！]

それ以外にも、日常会話でよく使用される“开心”(嬉しい)、“感动”(感動する)、“难过”(悲しい)、“伤心”(悲しい)、“失望”(がっかりする) なども、このような用法を持ち得る。実は、以上に述べた感情述詞が裸の形で使用されることとは、近年新しく生まれた用法だと言い難い。なぜなら、中国語では、裸の形で現れる語でも、感嘆文を形成し得るからである。例えば、杜道流 (2003) は、300 万字近くの文学作品を調査したところ、253 例を得ている。品詞ごとのデータは、下記のようになっている。

【表 30】杜道流 (2003) による 1 語感嘆文のデータ

形容詞	名詞	動詞	副詞
217 例	16 例	11 例	9 例

(杜道流 2003: 88)

上記の統計からわかるように、1 語感嘆文<sup>7</sup>を形成し得る品詞において、形容詞が圧倒的な割合を占めている。また、SV 型感情構文に用いられる感情述詞は基本的には形容詞的な性質が強いため、1 語感嘆文の形で現れるのも不思議なことではない。とはいえ、このような用法は、口頭表現まで浸透しているとは言い難く、あくまでも SNS という環境に限って出現するのである<sup>8</sup>。

以上の考察から見て取れるように、SNS における言語表現は、口語体と文語体を中心とする伝統的な文体と異なり、独特な特徴を持っている。裏返せば、文体が表現形式に影響を与えるということを示している。この現象も、張伯江 (2007: 4) が主張している“任何一种语体因素的介入，都会带来语言特征的相应变化”(どんな文体要素の介入でも、言語表現の特徴にそれに相応する変化をもたらす) ということを裏付けることができる。

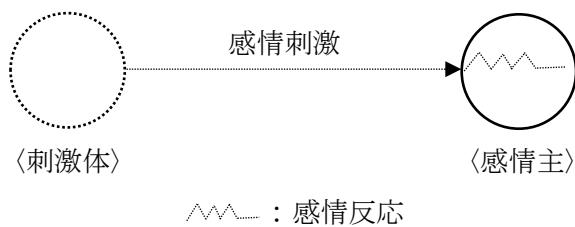
このように、〈感情主〉主導の SV 型感情構文に用いられる感情述詞は、裸の形で現れることが可能であるが、厳しい制限が課せられている。

#### 5.1.4 構文的意味

〈感情主〉主導の SV 型感情構文は、その名の通り、SV の語順で並び、〈感情主〉が主語の位置に立つ構文である。これまで述べてきた構文と異なり、この構文には、〈刺激体〉が取り込まれていない。その〈刺激体〉は、文脈の中に隠されている。言うまでもなく、ここでの文脈は、広い意味での文脈であり、すなわち、〈感情主〉が置かれている背景である。例えば、友達にプレゼントを渡された際、〈感情主〉が“好开心”（嬉しい）と発した場合、友達が〈感情主〉にプレゼントを渡すという行為も一種の文脈であり、〈刺激体〉の役割を果たしている。

このように、この構文においては、〈刺激体〉が文脈に隠されていながらも、〈感情主〉に感情刺激を与えていた。そこで、この構文の構文的意味を次のように規定できる。つまり、〈感情主〉が文脈に隠れている〈刺激体〉から刺激を受けて、直接的に感情反応を示すことである。図式で示すと、下記の図 36 のようである。

【図 36】〈感情主〉主導の SV 型感情構文の構文的意味の図式化<sup>9</sup>



#### 5.2 〈刺激体〉主導の SV 型感情構文について

これまで〈感情主〉主導の SV 型感情構文を考察してきた。本節では、〈刺激体〉主導の SV 型感情構文を考察する。すなわち、〈刺激体〉が主語のところに立ち、〈感情主〉が文中に現れない感情構文を考察する。以下、上節と同様に「感情述詞の特徴」、「程度副詞の種類」、「裸形式の成立可否」、「構文的意味」という順で見ていく。

##### 5.2.1 感情述詞の特徴

〈刺激体〉主導の SV 型感情構文に用いられる感情述詞は、古川 (2003) が指摘している派生形容詞 “V 人” 型や “可 V” 型などが見られる。例えば、怖いという意味を表す “怕人” と “可怕” が挙げられる。それ以外にも、“讨厌” (嫌だ)、“恶心” (気持ち悪い) のような他構文に跨るものも見られる。

もっとも、本研究で扱う感情述詞において、この構文に用いられるものが極めて少ない。第 2 章の表 4 に示した 108 語の感情述詞を検討した結果、10 語の感情述詞しか 〈刺激体〉主導の SV 型感情構文に用いられないと判断した。それは約全体の 9% を占めている。詳細は、下記の表 31 にまとめる。

【表 31】〈刺激体〉主導の SV 型感情構文に当てはまる感情述詞

意味特徴	語彙例
「恐怖」	可怕
「憐憫」	可怜
「嫌惡」	恶心、可惡、讨厌
「悔恨」	可惜、无奈、遗憾
「焦躁」	煩
「驚嘆」	震撼

上記の表 31 では、“可 V” 型の感情述詞は 4 語ある。その中で、“可怕” (恐ろしい) は、最もよく使用される。例えば、下記の例が挙げられる。

(246) 布达拉宫再不维修, 后果很可怕。(BCC)

[ポタラ宮をそろそろ補修しないと、結果はとても恐ろしい] ]

(246) において、主語の位置に 〈刺激体〉 としての “后果” (結果) が来ており、感情述詞 “可怕” (恐ろしい) がその 〈刺激体〉 の性状を規定している。日本語学における寺村 (1982) の用語を借りて言えば、それを「感情的品定めの表現」と呼んでも良いであろう。つまり、その品定めは、誰にとってもそうだという意味に解釈される傾向が強い。

また、“可怕” (恐ろしい) のような “可 V” 型の感情述詞は、基本的にはこの構文に専ら用いられるものである。例えば、“让” を用いる感情構文と共に起し難い。

(246') \*布达拉宫再不维修, 后果让人可怕。((246) による改編)<sup>10</sup>

[\*ボタラ宮をそろそろ補修しないと、結果は人を恐ろしくさせる]】

しかし、上記の表 31 に入っている感情述詞の中で、“让”を用いる感情構文と共に得るものも存在する。例えば、“讨厌”（嫌だ），“恶心”（気持ち悪い）がある。下記の例を見られたい。

(247) “这家伙真讨厌！”(BCC)

[「こいつは本当に嫌だ！」]

(247') “这家伙真让人讨厌！”((247) による改編)

[「こいつは本当に人を嫌にさせる！」]

(248) 那些话真恶心！(BCC)

[その話は本当に気持ち悪い！]

(248') 那些话真让人恶心！((248) による改編)

[その話は本当に人を気持ち悪くさせる！]

上記の 4 例では、全部〈刺激体〉が主語の位置に立っているが、感情述詞の意味指向を異にしている。(247) と (248) では、〈刺激体〉を指向しており、(247') と (248') では、“让”的目的語である“人”（人）を指向している。つまり、このような感情述詞は、〈刺激体〉と〈感情主〉を両方指向することができる。とは言うものの、〈刺激体〉指向に傾いている。なぜなら、このような感情述詞が〈感情主〉主導の SV 型構文に用いられ難いからである。例えば、(247) における“这家伙”（こいつ）は〈感情主〉として捉え難い。

また、〈刺激体〉主導の SV 型構文と〈感情主〉主導の SV 型構文に両方用いられるものも存在する。例えば、“烦”（いらいらする／煩わしい）や“震撼”（心を震わされる／心を震わす）などが挙げられる。

(249) 下雨天好烦啊！(BCC)

[雨天はとても煩わしいなあ！]

(250) 我好烦！(BCC)

[私はとてもいらいらする！]

(251) 这部片子最大的特点，就是两句话：形式接地气、内容很震撼。(BCC)

[この映画の最大の特徴は二つだけであり、つまり、形式は分かりやすく、内容は心を震わせる。]

(252) 我很震撼，原来那个时候的思想汇报可以如此情感真挚。(BCC)

[私は心を震わされた。なんとその時の思想状況の報告にはこれほどまでに真摯な感情が込められていることだった。]

(249) と (250) では、感情述詞“烦”(煩わしい／いらいらする)は、それぞれ〈刺激体〉としての“下雨天”(雨天)と〈感情主〉としての“我”(私)を指向している。同様に、(251) と (252) では、感情述詞“震撼”(心を震わす／心を震わされる)は、それぞれ〈刺激体〉としての“内容”(内容)と〈感情主〉としての“我”(私)を指向している。

上記の考察から見て取れるように、〈刺激体〉主導の SV 型構文に用いられる感情述詞は、大まかに三つのタイプに分かれている。

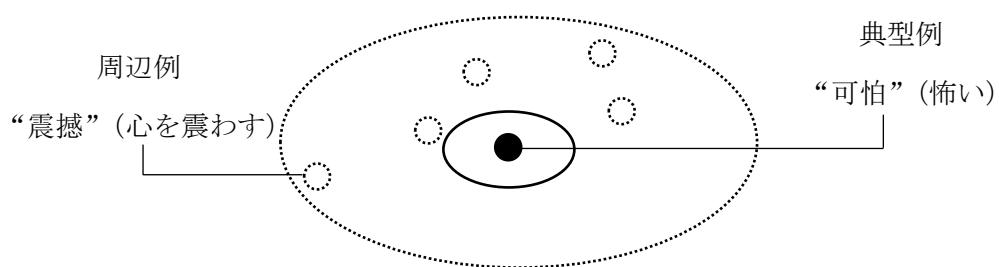
タイプ①：専ら 〈刺激体〉 指向

タイプ②：〈刺激体〉 指向に傾く

タイプ③：〈刺激体〉 と 〈感情主〉 双指向

このように、タイプ① を典型的なタイプとし、タイプ③ を周辺的なタイプとする。また、使用度数を考慮に入れて、“可怕”(恐ろしい)を典型例とし、“震撼”(心を震わす／心を震わされる)を周辺例とする。そのため、〈感情主〉主導の SV 型感情構文に当てはまる感情述詞のカテゴリーを下記の図式で示すことができる。

【図 35】〈感情主〉 主導の SV 型感情構文に当てはまる感情述詞のカテゴリー



### 5.2.2 程度副詞の種類

〈感情主〉主導の SV 型感情構文と同様に、この構文に用いられる感情述詞もその直前に程度副詞を伴うのが一般的である。例えば、上に列挙した (246) を (253) として再掲する。

(253) 布达拉宮再不维修, 后果很可怕。((246) の再掲)

[ポタラ宮をそろそろ補修しないと、結果はとても恐ろしい]

もし、上記の例における程度副詞を取り除くと、明らかに不自然に感じられる。

(253') ?布达拉宮再不维修, 后果可怕。((253) による改編)

[ポタラ宮をそろそろ補修しないと、結果は恐ろしい]

また、上述のように、“很”(とても)が客観性の高い程度副詞であるため、(253) のような条件文に正しく合うと考えられる。なぜなら、条件文には客観性が求められるからである。もし、ここで、主観性の高い程度副詞“好”(とても)に置き換えると、紛れもなく不自然な文となる。下記の例を見られたい。

(253'') ?布达拉宮再不维修, 后果好可怕。((253) による改編)

[ポタラ宮をそろそろ補修しないと、結果は恐ろしい]

そのため、程度副詞“好”(とても)は、(253) のような客観性が求められる文には用いられ難いということがわかる。また、“可怕”(恐ろしい)のような感情述詞が本来〈刺激体〉の属性を規定するものであり、誰にとってもそうだという意味合いが濃いため、余計に“好”(とても)が (253) のような文と共に起する難しさを増している。

上記の考察から、“可怕”(恐ろしい)のような感情述詞とは、客観性を持つ程度副詞“很”(とても)のほうが共起しやすいと思えるが、BCC コーパスを調査したところ、主観性が高い“好”(とても)を用いる例が“很”(とても)より多く現れた。具体的には、“好可怕”(とても恐ろしい)の出現度数が 4977 個であり、“很可怕”(とても恐ろしい)の出現度数が 3515 個である。

また、“好可怕”(とても恐ろしい)は、自然的な感情表出に使用されるのが一般的である。例えば、下記の例が挙げられる。

(254) 忽然又天搖地動，感觉比昨天晚上还要强烈，打扫房间的饭店女工吓得脸色惨白，  
连声说：“好可怕！好可怕！”(BCC)

[突然また天地が揺れ始め、昨日の夜よりも強くて、部屋を清掃する女性従業員は  
顔面が蒼白になるほどびっくりして、「怖い！怖い！」と続けさまに言った。]

上記の例では、“好可怕”(とても恐ろしい)は、地震の揺れを感じて、話し手が反射的に  
発した言葉であり、自然的表出のタイプに属する。この場合、“很”(とても)と共に起し難い。

(254')\*忽然又天搖地動，感觉比昨天晚上还要强烈，打扫房间的饭店女工吓得脸色惨白，  
连声说：“很可怕！很可怕！”(BCC)

[突然また天地が揺れ始め、昨日の夜よりも強くて、部屋を清掃する女性従業員は  
顔面が蒼白になるほどびっくりして、「怖い！怖い！」と続けさまに言った。]

このように、自然的表出のタイプの場合、“很”(とても)が用いられ難いことはわかる。  
ここで、一つ注意すべきは、(254)における“好可怕”(とても恐ろしい)は、〈感情主〉による  
感情表出である前に、〈感情主〉が〈刺激体〉に対する主観的評価だということである。  
そのため、この構文は、〈感情主〉主導の SV 型感情構文のように、直接的な感情表現では  
なく、感情を引き起こす〈刺激体〉に対する評価を経ての間接的な感情表現だと言えよう。  
また、評価には、客観的なものと主観的なものがある。“很”(とても)は、客観的な評価に  
相当し、感情描写を示す。一方で、“好”(とても)は、主観的な評価に相当し、感情表出を  
示す。それぞれを下記の表 32 にまとめる。

【表 32】〈刺激体〉主導の SV 型感情構文に用いられる程度副詞およびその特徴

種類	特徴
很 (可怕)	客観的評価 (感情描写)
好 (可怕)	主観的評価 (感情表出)

### 5.2.3 裸形式の成立可否

上述したように、〈感情主〉主導の SV 型感情構文の場合には、特殊な文体でない限り、大半の感情述詞は、裸の形で成り立ち難く、厳しい制限が課せられている。それに対して、〈刺激体〉主導の SV 型感情構文の場合には、それほど厳しい制限がかかっていない。なぜなら、具体事例には多様な背景が存在するからである。例えば、“讨厌”（嫌だ）や“恶心”（気持ち悪い）を用いた例が挙げられる。

(254) 他在前面走，我在后边跟，跟到铁丝网那儿，他站住，非常不友好地说：“你跟着我干什么？讨厌！”他竟然敢说我讨厌！(BCC)

[彼が前を歩いていて、私が後ろを追いかけていて、鉄の柵のところまで着くと、彼は立ち留まって、「俺についてきて何をするんだ？嫌だよ！」と非常に気難しげに言った。彼はなんと私に嫌だと言えるんだ！]

(255) “你少往自己脸上贴金，恶心！”(BCC)

[「自分をよく見せることはやめてくれ！気持ち悪っ！」]

(254) では、感情述詞“讨厌”（嫌だ）の前後に付帯成分が付いておらず、単独で出現しており、これも1語感嘆文と言える。また、後ろの文脈からわかるように、ここでの“讨厌”（嫌だ）の直前には〈刺激体〉である“你”（あなた）が隠されている。“你”（あなた）のことを「人を嫌な気持ちにさせる」ものと品定めすることにより、話し手の「嫌い」という感情を間接的に表出する。この場合、話し手は〈感情主〉と重なる。

(255) では、(254) と同様に、感情述詞“恶心”（気持ち悪い）も裸の形で1語感嘆文を成している。その前の文脈を通じて、感情述詞の直前に立つ主語が“你”（あなた）だということはわかる。すなわち、聞き手のことである。聞き手のことを「人を気持ち悪くさせる」ものと品定めすることにより、話し手の「むかむかする」という感情を間接的に表出する。

上記の2例においては、両方とも1語感嘆文が発話に現れており、不自然に感じることなくごく普通の中国語である。これは、“开心”（嬉しい）を用いる1語感嘆文と異なる点と言えよう。

もっとも、〈刺激体〉主導の SV 型感情構文に用いられる感情述詞は、全部自然に単独で出現し得るとは限らない。例えば、典型例の“可怕”（恐ろしい）を用いた例がある。

(256) 她轻叹：“谁不想小说里的浪漫呢？只是浪漫不起，没有时间，没有精神，也没有充足的金钱。”“讲得太现实了，可怕。”他说。(BCC)

[彼女は「誰だって小説の中のロマンチックなことをしたいでしょう。ただできない。なぜなら、時間がなく、元気がなく、十分なお金もないからよ」と軽く嘆いた。「話していることは現実的過ぎて、恐ろしい」と彼は言った。]

上記の(256)では、感情述詞“可怕”(恐ろしい)は、上述した“讨厌”(嫌だ)と“恶心”(気持ち悪い)と同様に、単独で発話に用いられているが、自然さも同程度だと言えない。(256)の場合、主觀性の高い程度副詞“好”(とても)や“真”(本当に)を付け加えたほうがより自然に感じられる。下記の文を見られたい。

(256') 她轻叹：“谁不想小说里的浪漫呢？只是浪漫不起，没有时间，没有精神，也没有充足的金钱。”“讲得太现实了，好/真可怕。”他说。(BCC)

[彼女は「誰だって小説の中のロマンチックなことをしたいでしょう。ただできない。なぜなら、時間がなく、元気がなく、十分なお金もないからよ」と軽く嘆いた。「話していることは現実的過ぎて、とても／本当に恐ろしい」と彼は言った。]

また、“可怕”(恐ろしい)と同様に“可 V”型に属する“可恶”(憎い)という感情述詞は、裸の形で発話に用いられる際には、ごく自然に感じられる。例えば、下記の例がある。

(257) 她喊道：“你骗我，可恶！”她开始搥打他。(BCC)

[彼女は、「あなたは私を騙してたのね。憎い！」と叫んで、彼を叩き始めた。]

以上の考察から、〈刺激体〉主導の SV 型感情構文に用いられる感情述詞において、一部発話の中にも裸の形で出現し得るとわかる。その代表的例として、“讨厌”(嫌だ)や“恶心”(気持ち悪い)や“可恶”(憎い)などが挙げられる。ところが、考察事例が少ないため、本研究では、裸の形で現れ得る感情述詞の特徴を得難く、今後の課題とするほかはないが、〈感情主〉主導の SV 型感情構文に用いられる感情述詞との差異がうかがえると言える。

#### 5.2.4 構文的意味

〈刺激体〉主導の SV 型感情構文は、その名の通り、SV の語順で並び、〈刺激体〉が主語の位置に立つ構文である。この構文には〈感情主〉が取り込めない。形式的には、一般的な属性規定文と何ら変わらない。例えば、下記の 1 組の例を比較してみよう。

(257) a. 今晚的月亮很圓。 (BCC)

[今夜の月は丸い。]

b. 今晚的台风很可怕。 (BCC)

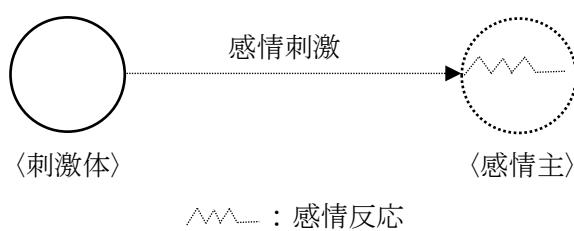
[今夜の台風は怖い。]

上記の 2 例は、両方とも「S+很+V」の形式を取っており、ぞれぞれ今夜の月と台風の属性を規定している。属性規定であるため、誰にとってもそうだということを含意するのが両文の共通点である。

しかし、(257b) には、“怕”(恐れる) という話し手の感情が含意されている。それに対し、(257a) には、話し手の感情が特に含まれていない。そのため、〈刺激体〉主導の SV 型感情構文の機能としては、〈刺激体〉の属性規定だけではなく、話し手の感情を表現することもある。この構文の場合、話し手は、常に〈感情主〉と重なる。

このように、この構文においては、〈感情主〉が話し手として背後に隠れていながらも、〈刺激体〉から刺激を受けて、〈刺激体〉に対して感情的品定めを行う。そこで、この構文の構文的意味を次のように規定できる。つまり、背後に隠れている〈感情主〉が〈刺激体〉を感情的品定めすることにより、間接的に感情反応を示すことである。図式で示すと、下記の図 36 のようである。

【図 36】〈刺激体〉主導の SV 型感情構文の構文的意味の図式化



### 5.3 第5章のまとめ

第5章では、SV型感情構文について考察を行った。〈感情主〉を主語の位置に限定して論じられてきた従来の研究に対して、本章は、SV型感情構文を下記の2タイプに分けるべきだと結論付けた。

#### I 〈感情主〉主導のSV型感情構文

我 (S) 很/好开心 (V)

機能：主語 述語

意味：感情主 感情述詞

構文的意味：〈感情主〉が文脈に隠れている〈刺激体〉から刺激を受けて、直接的に感情反応を示す。

#### II 〈刺激体〉主導のSV型感情構文

地震 (S) 很/好可怕 (V)

機能：主語 述語

意味：刺激体 感情述詞

構文的意味：背後に隠れている〈感情主〉が〈刺激体〉を感情的品定めすることにより、間接的に感情反応を示す。

また、教育への応用の可能性をも想定することを趣旨とする研究であるため、第2章で収集した感情述詞をSV型感情構文に用い得るか否かについてのマッチングテストを行った。その結果、上記の構文Iに当てはまる感情述詞は、64語が得られており、おおよそ本研究が扱う感情述詞の59%を占めている。その一方、構文IIに当てはまる感情述詞は、9語が得られており、おおよそ8%を占めている。用い得る感情述詞の数には、大きな差異が見られる。

そのほかにも、感情述詞の直前に来る程度副詞も考察した。大まかに分類すれば、“很”(とても)類と“好”(とても)類がある。両構文の間には異なる様相を呈していることがわかった。構文Iの場合は、相対的に複雑な様相を呈しており、“很”(とても)類には、①改まった場面；②意図的表出；③客観的描写という特徴があり、“好”(とても)類には、①くだけた場面；②自然的表出；③主観的描写という特徴がある。一方で、構文IIの場合は、

相対的に単純な様相を呈しており、“很”（とても）類には、客観的評価（感情描写）という特徴があり、“好”（とても）類には、主観的評価（感情表出）という特徴がある。

その上、感情述詞が裸の形で用い得るか否かについても考察を行った。従来の裸の形で成立しないという主張と異なり、成り立ち得る場合も見られるという結論を得た。とりわけ、〈刺激体〉主導の SV 型感情構文に用いられる“讨厌”（嫌だ）や“恶心”（気持ち悪い）や“可恶”（憎い）などの感情述詞が挙げられる。

---

<sup>1</sup> 「#」は語用論上不適切であることを示す。

<sup>2</sup> 文脈があれば、感情述詞“喜欢”も SV 型構文に用いられる。例えば、好きなものを見た際、“好喜欢啊！”と自然に感情を発することができる。

<sup>3</sup> 多くの研究では、日本語の「嬉しい」が中国語の“高兴”に対応するとしているが、日常生活において、“开心”的ほうがよく使用される。もちろん、“高兴”と“开心”的には、微妙な相違が見られる。これについては今後の課題としたい。

<sup>4</sup> ここでは、インタビューというフォーマルな場面のため、“我很开心能够完成挑战”よりも“我很高兴能够完成挑战”的ほうがより適切である。BCC コーパスを利用し、“很开心能够”と“很高兴能够”を検索フレーズに、調べたところ、前者は 113 個であり、後者は 21 個だという結果であった。このことから、“高兴”的な使用場面は、“开心”よりフォーマルだと言って良いであろう。

<sup>5</sup> 原文は、Temporal Sequence and Chinese Word Order という題目であり、*Typological Studies in Language*, Volume 6, 1985 に掲載されている。

<sup>6</sup> 感情描写文は、第 3 章で言及した感情の述べ立て文に相当する。

<sup>7</sup> 1 語感嘆文は中国語で“独词感叹句”と呼ばれている。これについて杜道流 (2003) 参照。

<sup>8</sup> “生气！”、“开心！”といった 1 語感嘆文は、ここ最近、若い女性を中心に口頭にも使用されることが観察できる。

<sup>9</sup> 点線の円は、言語化されず、文脈に隠れていることを示す。以下も同様である。

<sup>10</sup> BCC コーパスには“让人可怕”が 32 個存在するが、本研究は、それが誤用だという立場を取る。

## 第6章 在日中国語教育に向けて

第6章では、日本人中国語学習者が産出した誤用例の分析を通して、これまで得た結論をどのように中国語教育に生かせるのかを考察する。言うまでもなく、誤用分析に関する先行研究は数え切れないほど存在する。しかしながら、中国語の感情表現に焦点を当てた誤用分析に関する先行研究は、管見の限りあまり行われていない。そういった中で、張恒悦 (2019) が挙げられる。張恒悦 (2019) は、日本人母語話者が産出した誤用例を通して、中国語の感情動詞と“了”の共起関係について論述している。下記のような誤用例が挙げられている。

(258) \*看到那些高楼时，我吃惊了。（それらのビルを見た時、驚いた。）

→看到那些高楼时，我很吃惊。（張恒悦 2019: 81）

(259) \*爬上长城，我感动了。（万里の長城にのぼって、感動した。）

→爬上长城，我很感动。（同上）

(260) \*这本书 300 页！我读完了，非常累了。（この本は 300 頁！私は読み終えたが、非常に疲れた。）

→这本书 300 页！我读完了，非常累。（同上）

張恒悦 (2019) によると、特殊な文脈がない限り、以上の3例の場合は、心情変化というプロセスが後景化され、変化後の心理状態を表現するのに重きが置かれるため、「很+感情動詞」が用いられるのが一般的であるという。

上記の誤用例は、教育現場でよく見られる誤用パターンの一つだと言えよう。それ以外に誤用パターンも多様である。例えば、本研究のきっかけとなった誤用例が挙げられる。ここで、(1) を (261) として再掲する。

(261) “\*我很感动他的话。”（(1) の再掲）

〔私は彼の言葉に感動した。〕

(261) は、“感动”（感動する）という感情述詞を SVO 型構文に当てはめた誤用例である。自然な中国語に訂正すると、受身文にするのが一般的である。下記の文を見られたい。

(261') “我被他的话感动了。” ( (261) による改編)

[「私は彼の言葉に感動した。」]

訂正後の (261') を見れば、(261) は、感情述詞と構文とのマッチングの誤用だとわかる。そのため、感情述詞を使用する際には、学習者にとって、どのような構文を選ぶのかが難点の一つだと想定できよう。

以下、まず、中間言語<sup>1</sup>コーパスを利用し、日本語母語話者による誤用例を収集し、考察する。次に、大学で中国語を専攻する高学年の学生を対象に、実施したアンケート調査の結果を考察する。最後に、中国語教育への提言を行う。

## 6.1 中間言語コーパスから見る感情表現の難点

この節では、第 1 章で言及した HSK 動的作文コーパスを利用し、日本語母語話者が産出した誤用のパターンを整理し、その原因を分析する。

### 6.1.1 誤用のパターン

HSK 動的作文コーパスを調査したところ、日本語母語話者が産出した感情表現に関する誤用には、大まかに分ければ、6 通りのパターンが存在する。上述したような構文の混用や“了”の過剰使用以外に、程度副詞の欠落・程度副詞の位置の誤用・程度副詞の種類の誤用・感情述詞使用の誤用も観察される。以下、各類ごとに誤用例を挙げながら、訂正を行う。<sup>2</sup>

**第 1 類は、構文の混用**である。これは、感情述詞をそれにそぐわない構文に当てはめる誤用である。例えば、下記の誤用例が挙げられる。

(262) \*我很感动他的主张。 ( (2) の再掲)

[私は彼の主張に感動した。]

(263) \*当然家属也很难过杀病人或伤人。 (HSK 動的作文コーパス)

[当然家族も患者を殺すことや人を傷つけることを悲しんでいる。]

(262) は、感情述詞 “感动” (感動する) を 〈感情主〉 主導の SVO 型構文に当てはめた誤

用例である。第3章で述べたように、“感动”（感動する）が〈感情主〉主導のSVO型構文に用いられる際には、後ろの〈刺激体〉が節でなければならない。例えば、(58)に示した例を(264)として再掲する。

(264) 1995年,泰安市授予我荣誉市民称号,我很感动他们能够原谅我。( (58) の再掲)

[1995年に泰安市名誉市民称号を授与された。私は、彼らが私を許してくださいましたことに感動した]

ところが、(262)における〈刺激体〉は体言性の成分であるため、“感动”（感動する）が〈感情主〉主導のSVO型構文に用いることはできない。そのため、誤用だと判断できる。また、(264)のような例はごく稀であるため、教育の観点から考えると、感情述詞“感动”（感動する）が〈感情主〉主導のSVO型構文とは基本的には共起しないと教授するのが賢明だと考えられる。主語の位置に〈感情主〉が立ち、尚且つ〈刺激体〉を伴う場合、“感动”（感動する）は、よく“被”を用いる感情構文に使用される。よって、上記の(262)を“我被他的主张感动了”に訂正すべきだと考えられる。

(263) は、(262)と同様に、感情述詞“难过”（悲しい）を〈感情主〉主導のSVO型構文に当てはめた誤用例である。第3章で示した〈感情主〉主導のSVO型感情構文に当てはまる感情述詞の表8において、“难过”（悲しい）が見つからなかったため、〈感情主〉主導SVO型構文とは共起し難いと判断できる。感情述詞“难过”（悲しい）は主語の位置に〈感情主〉が立ち、且つ〈刺激体〉を伴うという環境に置かれた場合、基本的には第4章で述べた“为”を用いる感情構文に使用される。よって、(263)を次のように訂正すべきである。すなわち、“当然家属也很为杀病人或伤人难过”である。

第2類は、“了”の過剰使用である。これは、不必要なところに“了”が付けられる誤用である。例えば、下記の誤用例が挙げられる。

(265) \*看他们的样子我非常感动了。(HSK動的作文コーパス)

[彼らの様子を見て、私は非常に感動した。]

(266) \*我看到这个题目后，很失望了。(HSK動的作文コーパス)

[私はこの題目を見た後、とても失望した。]

上記の2例は、張恒悦(2019)が言及した誤用パターンである。つまり、感情述詞の後に“了”を余分に付ける誤用である。修正方法としては、言うまでもなく、“了”を取り除くことである。つまり、(265)と(266)における「程度副詞+感情述詞+了」の構造を「程度副詞+感情述詞」の構造に訂正すべきである。すなわち、それぞれ“看着他们的样子我非常感动”と“我看到这个题目后，很失望”という文に訂正すべきである。

第3類は、程度副詞の欠落である。これは、必要なところに程度副詞が付けられない誤用である。例えば、下記の誤用例が挙げられる。

(267) \*我吃惊，马上否定刚才说的话。(HSK動的作文コーパス)

[私はびっくりして、すぐにさっき話したことを否定した。]

(268) \*对嫌烟者的我来说，这件事让我高兴。(HSK動的作文コーパス)

[嫌煙者の私にとって、このことは喜ばしい。]

(267)における“我吃惊”という文は、第5章で述べた〈感情主〉主導のSV型感情構文に属する。この文の後に続く文脈を見てわかるように、これは客観的な感情描写文である。この場合、客観性が高い程度副詞“很”(とても)を付けるのは一般的である。よって、(267)を“我很吃惊，马上否定了刚才说的话”に訂正すべきである。

(268)における“这件事让我高兴”という文は、第4章で述べた“让”を用いる感情構文に属する。この場合、既述したように、コーパスには程度副詞が付かない例は存在するが、程度副詞が付くほうが圧倒的優勢を占めている。また、〈感情主〉が一般性を持つ“人”(人)ではなく、“我”(私)であるため、程度副詞が感情述詞の直前に置かれるのは一般的である。よって、この誤用例を“对讨厌烟的我来说，这件事让我很高兴”に訂正すべきである。

第4類は、程度副詞の位置の誤用である。これは、程度副詞が不適なところに置かれる誤用である。例えば、下記の誤用例が挙げられる。

(269) \*妈妈说：“你好像在中国生活了四年，精神上成长了。妈妈为你很高兴。”

(HSK動的作文コーパス)

[お母さんは、「あなたは中国で四年間生活していて、精神的に成長したみたいね。お母さんはとても嬉しいよ」と言った。]

(269) における“妈妈为你很高兴”という文は、第4章で述べた“为”を用いる感情構文に属する。既述したように、感情移入を表す“为”的場合は、程度副詞を感情述詞の直前ではなく、前置詞“为”的直前に置かなければならない。よって、この誤用例における“很”を“高兴”的直前から“为”的直前に移動させるべきである。つまり、“妈妈很为你高兴”という文に訂正すべきである。

第5類は、程度副詞の種類の誤用である。これは、文脈にそぐわない程度副詞が使用される誤用である。例えば、下記の誤用例が挙げられる。

(270) \*比如说、试卷上的事件的结果是让我真失望的。(HSK 動的作文コーパス)

[例えば、試験の問題用紙における事件の結果は私を本当に失望させている。]

(271) \*我想对他们来说，这种情况是太难受的。(HSK 動的作文コーパス)

[私は彼らにとって、このような状況は辛すぎると思う。]

(270) は、第4章で述べた“让”を用いる感情構文に属する。さらに、“是……的”構文も同時に現れている。ここでの“是……的”構文は、話し手の見解や態度を断定的に言い表す機能を果たしている。また、何かを断定する際に、主觀性の高い程度副詞が用いられるのは困難だと考えられる。そのため、(270) における“真”(本当に)の使用は適切だと言え難い。この場合、主觀性の高い“真”(本当に)を客觀性の高い“很”(とても)に置き換えるのが適切である。つまり、上記の誤用例を“比如说，试卷上的事件的结果是让我很失望的”という文に訂正すべきである。

(271) も同様に、感情述詞が“是……的”構文に取り込まれているため、主觀性の高い“太”(あまりにも)は不適切だと考えられる。よって、客觀性の高い“很”(とても)を用いて置き換えなければならない。つまり、(271) を“我想对他们来说，这种情况是很难受的”という文に訂正すべきである。

第6類は、感情述詞使用の誤用である。これは、感情述詞自体が間違って使用される誤用である。例えば、下記の誤用例が挙げられる。

(272) \*所以饥饿也很害怕可是农药的食品也害怕。(HSK 動的作文コーパス)

[だから飢餓も怖い。しかし、農薬を使う食品も怖い。]

(273) \*我非常打动了。(HSK 動的作文コーパス)

[私は非常に感動した。]

(272) は、第 5 章で述べた 〈刺激体〉 主導の SV 型感情構文に属する。しかし、“害怕”(怖い) という感情述詞はこの構文と共に起できない。つまり、“害怕”(怖い) の場合には、〈刺激体〉を主語の位置に立てる事はできない。そこで、この文における“害怕”(怖い)を“可怕”(恐ろしい) という感情述詞に置き換える事はならない。つまり、上記の誤用例を “所以饥饿也很可怕, 可是使用农药的食品也很可怕” という文に訂正すべきである。

(273) は、第 5 章で述べた 〈感情主〉 主導の SV 型感情構文に属する。一方、この文に用いられている“打动”(感動させる) は、基本的には 〈刺激体〉 主導の SVO 型感情構文或いは“被”を用いる感情構文に使用されるものであり、〈感情主〉 主導の SV 型感情構文に使用されるものではない。ここで、“打动”(感動させる) の類義語である“感动”(感動する)を用いるべきである。つまり、(273) を “我非常感动” という文に訂正すべきである。

以上、中間言語コーパスから見る感情表現の誤用パターンを、具体例を挙げながら考察してきた。その考察を下記の表に整理する。

【表 33】中間言語コーパスから見る感情表現の誤用パターンおよびその事例

誤用のパターン	内容	事例
第 1 類	構文の混用	*我很感动他的主张。
第 2 類	“了”の過剰使用	*我看到这个题目后, 很失望了。
第 3 類	程度副詞の欠落	*我吃惊。
第 4 類	程度副詞の位置の誤用	*妈妈为你很高兴。
第 5 類	程度副詞の種類の誤用	*结果是让我真失望的。
第 6 類	感情述詞使用の誤用	*饥饿很害怕。

### 6.1.2 誤用の原因分析

第 1 類の構文の混用について、母語の転移 (language transfer) が原因の一つとして考えられる。Richards と Sampson (1974) は、母語からの転移だけが目標言語習得に際しての原因にはなり得ないが、主要な要因の一つであることを認めている。そのため、日本人中国語学習者が “我很感动他的主张” のような誤用を産出したのは、日本語の感情表現の構文的特徴

から影響を受けているのではないかと想定できよう。寺村 (1982) によると、日本語の感情表現は動詞表現と形容詞表現に分かれている。そのうち、動詞表現は、さらに一時的な気の動きと能動的な感情の動きに分かれている。それぞれに対応する構文形式は、(物音ニ) オドロクと (～ヲ) カナシムが挙げられている。この 2 種類の構文形式から、日本語の感情表現において、受身的な表現は主流ではないと判断できる。よって、受身を表す“被”構文で感動という感情を表現する発想がなかったのではないかと推測できる。

第 2 類の“了”の過剰使用について、その誤用の原因は、容易に推定できる。張恒悦 (2019) が言及したように、日本語母語話者は過去の助動詞「た」 = “了” という感覚から、感情動詞に“了”を付けた形の表現を産出しやすい傾向にある。言うまでもなく、この誤用も母語からの転移によるものである。

第 3 類の程度副詞の欠落について、感情述詞の品詞の曖昧さが原因の一つとして考えられる。既述したように、大部分の感情述詞は動詞と形容詞の性質を両方兼ねている。初級段階では、学習者は形容詞の前に“很”(とても)を付けるという規則を教えられると思うが、“吃惊”(驚く)といった感情述詞の場合、日本語母語話者は日本語の「驚く」の品詞からそれを動詞だと判断する可能性があり得ると考えられる。そのため、“我吃惊”のような誤用が生じたのである。

第 4 類の程度副詞の位置の誤用について、言語内干渉 (Intralingual interference) が原因の一つとして考えられる。言語内干渉とは、学習者の母語の影響ではなく、すでに学んだ目標言語の知識が原因となって生み出されるエラーのことである。つまり、言語学習者はその学習が新しい段階に進んだとき、すでに習得された目標言語の規則に基づいて誤った仮説を立ててしまうのである<sup>3</sup>。“妈妈为你很高兴”という誤用は、形容詞の前に“很”(とても)を付けるという規則の過剰な一般化に起因していると想定できよう。

第 5 類の程度副詞の種類の誤用について、客観性の高い程度副詞と主観性の高い程度副詞の使用制限が難しいというのが一因だと考えられる。例えば、“真”のような主観性の高い程度副詞が“是……的”構文に用いられ難いという使用制限は、学習者が意識しにくいと推測できる。そのため、“结果是让我真失望的”のような誤用が生じたのである。

第 6 類の感情述詞使用の誤用について、類義語の使い分け自体が難しいという原因が考えられる。例えば、“害怕”と“可怕”、“感动”と“打动”といった類義語は、学習者にとって、使い分けが難しいと考えられる。特に、“害怕”と“可怕”的場合、日本語に訳すと、「怖い」という一つの語で両方の意味を指すことができる。このようなことも学習者を混乱

させる要因の一つだと言えよう。そのため、“饥饿很害怕”を産出した学習者は、「怖い」＝“害怕”という訳し方をしているのではないか。

以上、中間言語コーパスから収集した誤用の原因を分析した。母語の転移だけではなく、言語内干渉も誤用の大きな要因だとわかった。

## 6.2 日本人中国語学習者による習得状況の調査

上節では、中間言語コーパスから日本語を母語とする学習者が産出した誤用例を収集し、その誤用パターンを整理・分析した。本節では、日本語母語話者の中国語学習者を対象に、実施したアンケート調査によって得られたデータを集計・分析する。

### 6.2.1 調査概要

本調査は次のような内容で実施した。実際の調査票は付録 2 を見られたい。

#### 6.2.1.1 被験者

被験者の概要は、表 34 に示した通りである。

本調査は、大阪大学で実施、実施時期は 2019 年 7 月である。なお、被験者に 1・2 年生を含めなかったのは、低学年の学生にとって感情表現はまだ困難だと想定したためである。

【表 34】被験者の概要<sup>4</sup>

背景	大学 1 年次にゼロから中国語の学習を始めた
	中華圏に留学したことがない
人数	大阪大学中国語専攻 3 年生 24 人
	同 4 年生 18 人

#### 6.2.1.2 質問文

質問文は全部で 14 文であり、そのうち、感情表現に関するものは 12 文である。なお、12

文は、以下2の4問の第1類と3の8問の第2類とに区分した。

まず、第1類について、回答は次のような指示に答える形で行った（番号は調査の際の質問文の番号である）。

2. 以下の日本語を中国訳に訳してください。

- A. 私は彼女の勇気に感動した。
- B. 私は自分に失望した。
- C. 彼女は自分を誇りに思っている。
- D. 彼は留学に行かなかったことを後悔している。

上記の第1類の質問の目的は、学習者の感情描写文の習得状況を調査することである。

次に、第2類について、回答は次のような指示に答える形で行った（番号は調査の際の質問文の番号である）。

3. 以下のような状況に置かれた場合、心の中に起こった感情を、あなたは中国語でどのように言いますか？

- A. 友達からプレゼントをもらった時
- B. 授業中に隣の席の人が急に「キャー！」と叫んだ時
- C. 5万円分の宝くじを買ったのに、300円しか当たらなかった時
- D. 家族が連絡なく、家に帰ってこない時
- E. 久しぶりに会った友人と昔話をしている時
- F. 地震・津波被害のビデオ映像を見ている時
- G. 試合に1点差で負けた時
- H. 先輩と服がかぶったと気づいた時

上記の第2類の質問の目的は、学習者の感情表出文の習得状況を調査することである。

### 6.2.2 結果と分析

以下、上記のアンケート調査によって得られたデータを集計し、その結果を分析する。

#### 6.2.2.1 第1類の質問文について

まず、第1類の質問文の調査結果を掲げる。なお、回答文の後の数字は、回答者の人数を

意味する。

【表 35】第 1 類の質問 A の調査結果

A. 私は彼女の勇気に感動した。		
①我感动了她的勇气 12	⑨我很感动她的勇气 1	⑯我对她的勇敢感动了 1
②我感动她的勇气 3	⑩我感动了她有胆子 1	⑰我感动她的勇氣 1
③她的勇气让我感动 3	⑪我对她的勇气很感动 1	⑲我对她的勇气感到了 1
④我激动了她的勇气 2	⑫我感 她的勇气 1	⑳我感动她勇气 1
⑤她的勇气让我感动了 2	⑬我被他的勇气感动了 1	㉑她的勇气让我很感动 1
⑥我感动她的勇敢 2	⑭我跟她的勇气感动了 1	㉒我感动了她的勇气 1
⑦我被她的勇气感动了 1	⑮我感动她有勇气 1	㉓我 她的勇气 1
⑧我对她的勇气感动了 1	⑯我感动了她的 1	㉔我觉得感动对她的勇气 1

上記の調査結果からわかるように、① の “我感动了她的勇气” の回答は、最も多く、12 人であり、全体の 25% を占めている。これは、日本語の「〈感情主〉 ハ 〈刺激体〉 ニ 感情述詞」構文を中国語の「〈感情主〉 + 感情述詞 + 〈刺激体〉」に置き換え、「タ」を“了”に置き換えた誤用である。また、構文の要素だけを考えると、〈感情主〉 主導の SVO 型感情構文に置き換えた誤用について、① のパターンだけではなく、②、④、⑥、⑨、⑩、⑫、⑯、⑰、⑲、⑳、㉑、㉒、㉓ のパターンもそうである。それを全部合わせると、28 人に上り、全体の約 67% を占める。

一方、〈感情主〉 主導の SPOV 型感情構文を使用したのは、⑦、⑧、⑪、⑬、⑭、⑯、⑰ である。全部で 7 人であり、全体の約 17% を占めている。また、使用した前置詞は、“被”と“对”と“跟”がある。これは、日本語原文の「ニ」の訳語だと想定できよう。しかし、“被”を使用したのは、⑦ と ⑬ しかなく、全体の約 5% を占める。このことから、学習者には、日本語の「〈感情主〉 ハ 〈刺激体〉 ニ 感情述詞」という感情構文を訳す際、その「ニ」の訳し方が困難だと推定できる。

また、回答パターンから、〈感情主〉 主導の感情構文だけではなく、〈刺激体〉 主導の感情構文も見られる。つまり、“让”を用いる感情構文である③、⑤、㉑ である。このパターンは、全部で 6 人であり、全体の約 14% を占めている。この訳し方は、学習者による直訳を回避するストラテジーだと言えよう。

以上の考察により、日本語の「〈感情主〉 ハ 〈刺激体〉 ニ 感情述詞」という構文を中国語に訳す際、学習者は、中国語の「〈感情主〉 + 感情述詞 + 〈刺激体〉」という構文に当てはめ

る傾向があるとわかった。

【表 36】第 1 類の質問 B の調査結果

B. 私は自分に失望した。		
①我失望自己 10	⑧我对自己感到失望 1	⑯我自己失望我 1
②我对自己失望了 5	⑨我对自己有失望 1	⑰我自己失望了 1
③我失望了自己 7	⑩我跟自己失望了 1	⑱我自己很失望了 1
④我失望我自己 2	⑪我失了对自己的希望 1	⑲我失望对自己 1
⑤我对自己失望 2	⑫我 我 1	⑳我失去自信了 1
⑥我没有自信了 2	⑬我 1	
⑦我对自己很失望 2	⑭我失望了 1	

上記の日本語原文は、質問 A と同様な構文形式を取っているものである。その調査結果を見ると、やはり中国語の「〈感情主〉 + 感情述詞 + 〈刺激体〉」という構文を用いて訳したパターンは、最も多く、①、③、④、⑯ を合わせて全部で 20 人であり、全体の約 48% を占めている。

一方、前置詞を用いる構文に訳したパターンは、②、⑤、⑦、⑧、⑨、⑩、⑯、⑰、⑲ であり、全部で 14 人であり、全体の約 33% を占めている。そのうち、⑩ を除いて、他は全部“对”という前置詞が使用されている。しかし、それらは全部自然な中国語訳と言えない。⑤ のような程度副詞の欠落や ⑯ のような“了”の過剰使用や ⑲ のような語順の誤りが見られる。

もちろん、この質問に関しても、学習者によるストラテジーが見られる。例えば、⑭ のような〈刺激体〉を訳さないパターンや ⑳ のような意訳するパターンがある。

このように、質問 A と同様に、日本語の「〈感情主〉 ハ 〈刺激体〉 ニ 感情述詞」という構文を中国語に訳す際、学習者は、中国語の「〈感情主〉 + 感情述詞 + 〈刺激体〉」という構文に当てはめる傾向がある。ところが、質問 A と比べると、前置詞を用いる構文に訳される割合は、質問 B のほうが高いと観察できる。この比較から、「感動」と「失望」の感情を表現する際、日本語の場合は同じ構文形式を使用するが、学習者がこの 2 種類の感情に対する認識が異なるということも推測できよう。同時に、質問 A と質問 B について、日本語の場合は、同じ構文形式を用いるのに対して、中国語の場合は、異なる構文形式を用いるという差異は、学習者にとって習得上の難点の一つと言っても過言ではないであろう。

【表 37】第 1 類の質問 C の調査結果

C. 彼女は自分を誇りに思っている。		
①她 7	⑨她自己夸她 1	⑯她以自己为自豪 1
②空欄 5	⑩她 jiāoào 她自己 1	⑯她对自己有自豪 1
③她有自信 4	⑪她对自己自豪 1	⑯她对自己有自信 1
④她想 3	⑫她对自己有 1	⑯她 jiāoào 自己 1
⑤她对自己感到自豪 2	⑬她骄傲自己 1	⑯她觉得很自豪 1
⑥她对自己有自豪感 2	⑭她有自豪她自己 1	⑯她勇敢做自己 1
⑦她有自豪感 2	⑮她很骄傲 1	⑯他觉得自己 1
⑧她夸大自己 1	⑯她感到骄傲 1	⑯她有 1

上記の回答からわかるように、空欄および未完成の文が多数見られる。そのように回答した人は、全部で 18 人であり、全体の約 43% を占めている。その理由として考えられるのは、「誇る」という中国語訳の困難さである。例えば、⑨ のように日本語の漢字をそのまま簡体字に置き換えたりする人もいれば、⑯ のようにあまり関係ない訳語を使用したりする人もいる。

また、「誇る」という中国語訳がわかつても、どのような構文を使用するのかは、学習者にとって困難だと推測できる。その理由は、前置詞“为”を使用する回答が一つもなかったからである。最も多く使用される前置詞は“对”である。例えば、⑤、⑥ などに示した回答が挙げられる。その他にも、SVO 型構文を用いて回答した人もいる。例えば、⑩、⑬ などである。

このように、“骄傲/自豪”を使用する際は、前置詞“为”で〈刺激体〉を導くという規則が被験者にとってまだ意識しにくいものだと言えよう。

【表 38】第 1 類の質問 D の調査結果

D. 彼は留学に行かなかったことを後悔している。		
①他后悔没去留学 12	⑩他没去留学，很后悔 1	⑯她后悔她没去留学 1
②他后悔不去留学 2	⑪因为不去留学，他后悔 1	⑯他很后悔不去留学 1
③他后悔没留学 2	⑫他后悔他决定没有去留学 1	⑯他对不去留学后悔 1
④他后悔不去留学 2	⑬他后悔他没去过留学 1	⑯他对没去留学后悔 1
⑤他后悔他没去留学 2	⑭他后悔了他不去留学 1	⑯他后悔没留学了事 1
⑥他后悔他没有去留学 2	⑮他后悔自己不去留学 1	⑯他为不去留学后悔 1
⑦他后悔他不去留学 2	⑯他 1	⑯没去了留学，我很后悔 1
⑧他很后悔没去留学 1	⑰彼后悔没留学 1	
⑨彼后悔没去留学 1	⑱他很后悔他没去留学 1	

これまでの 3 問と異なり、質問 D は、相応しい訳をしている人が比較的多数見られる。例えば、回答人数が最も多いパターンである ① の“他后悔没去留学”は、自然な中国語として認められる。さらに、構文的に見ると、SVO 型を用いて回答した人は、前 3 問よりも多く観察され、全部で 35 人であり、全体の約 83% を占めている。これは、日本語原文の「ヲ」に起因しているのではないかと考えられる。言うまでもなく、「ヲ」を用いる構文が他動詞構文であるため、中国語に訳す際、基本的には SVO 型構文で置き換えるのである。これは、日本語からの正の転移だと言えよう。

とはいものの、前置詞を用いて訳した人も見られる。例えば、“对”を用いた ㉑ と ㉒ の回答パターンもあり、“为”を用いた ㉔ もある。これは、既習の言語規則を一般化して生じた言語内の誤りだと言えよう。例えば、質問 B である「私は自分に失望した」の訳としての“我对你很失望”が既習項目だとして、“后悔”が“失望”と同様に感情語彙の範疇に入るため、前置詞“对”を用いる構文が“后悔”にも適用するのではないかと類推した可能性が考えられる。

このように、質問 D の中国語訳のような「〈感情主〉 + 感情述詞 + 〈刺激体〉」の構文は、日本語の「〈感情主〉 ハ 〈刺激体〉 ヲ 感情述詞」という構文と対応する際に、学習者にとって習得しやすいと判断できる。

以上の 4 問の調査結果の分析を次の 2 点にまとめることができる。

I 日本語の「〈感情主〉 ハ 〈刺激体〉 ニ 感情述詞」構文を中国語に訳す際は、対応する構文形式が複雑であるため、学習者にとって訳しにくいということである。

II 日本語の「〈感情主〉 ハ 〈刺激体〉 ヲ 感情述詞」構文を中国語に訳す際には、もし、中国語の「〈感情主〉 + 感情述詞 + 〈刺激体〉」構文に対応する場合に、日本語からの正の転移が働くため、訳しやすいということである。

### 6.2.2.2 第 2 類の質問文について

以上、主に書き言葉に用いられる感情描写文に関する調査結果を分析してきた。ここからは、主に話し言葉に用いられる感情表出文の調査結果を掲げ、分析を行う。ここで注意すべきは、下記の各場面における感情表出について、母語話者でも人によって異なるため、正解はないが、学習者による回答が自然か否かが判断できるということである。

【表 39】第 2 類の質問 A の調査結果

A. 友達からプレゼントをもらった時		
①很高兴 7	⑨太谢谢你 1	⑯挺开心 1
②我很好 6	⑩我特别高兴！谢谢 1	⑯谢谢你！我很好 1
③谢谢 5	⑪太谢谢你了 1	⑯很喜欢，谢谢 1
④谢谢你 5	⑫非常高兴，谢谢朋友 1	⑯很开心，谢谢！ 1
⑤好开心 1	⑬你给我礼物，很高兴 1	⑯谢谢，很开心！ 1
⑥很开心 2	⑭高兴到家了 1	⑯感谢你 1
⑦高兴 1	⑮太感谢你 1	
⑧开心 1	⑯谢谢你，很高兴！ 1	

この結果を見ると、“高兴”という感情述詞を使用する回答は最も多いとわかる。例えば、①、②、⑦、⑩、⑫、⑬、⑭、⑮、⑯ が挙げられる。それを合わせると、全部で 20 人であり、全体の約 48% を占めている。そのうち、“谢谢”を含む表現と合わせて使用した回答も見られる。例えば、⑩、⑫、⑯、⑯ が挙げられる。こういった回答は、日本語からの影響を受けて訳したものだと推測できる。なぜなら、友達からプレゼントをもらった時の反応として、日本語は、一般的に「ありがとう」や「嬉しい」といった表現を使用するからである。

さらに、程度副詞に注目すると、その大半は“很”を使用している。例えば、① と ② の回答パターンには“很”が入っている。ところが、第 5 章で述べたように、その場で自然に感情を表現する際に、“很”を用いずに、“好”を用いるのは一般的である。例えば、⑤ の回答である“好开心”的ようである。

とはいっても、このシチュエーションの場合、母語話者は、基本的には“好开心”を使用しない。もちろん、“好开心”や“开心”などを使用する女子がいることも観察される。大半の母語話者は、このシチュエーションに置かれた場合、③ の“谢谢”と ④ の“谢谢你”という表現だけを使用する。実は、この問題は、学習者が直面する一番難しい問題だと想定できる。つまり、どのような場面でどのような感情表現を使用するかという問題である。これについて、既に構文論レベルを超えて、語用論レベルの問題となるため、ここでは深い考察をしないことにしておき、今後の課題とする。

以上の考察により、次の 2 点が明らかになった。1 点目は、学習者が感情表出が必要な場面に置かれた際に、日本語思考でそのまま直訳する傾向が強いということである。2 点目は、“高兴”のような感情述詞の前に程度副詞を付けるという規則は把握しているが、各程度副詞の使用環境はまだ把握できておらず、“很”的過剰使用が見られるということである。

【表 40】第 2 類の質問 B の調査結果

B. 授業中に隣の席の人が急に「キャー！」と叫んだ時		
①怎么了？ 7	⑩我吓了一跳 1	⑯我吃了一惊 1
②吓死我了 4	⑪惊讶，你干什么？ 1	⑰怎么？很可怕 1
③吓了我一跳 3	⑫吃惊 1	⑯我很担心 1
④什么？ 3	⑬你怎么了 1	⑰惊叹 1
⑤很惊讶 2	⑭他 / 她怎么了？ 1	⑯你怎么办 1
⑥吓了我一跳，我吃惊了 2	⑮吓死我了，怎么了呢？ 1	⑰什么事儿 1
⑦吓死了，干什么！ 1	⑯我很惊讶 1	⑰你怎么样？ 1
⑧吓了一跳 1	⑰吓到了 1	⑯惊 1
⑨怎么了？我吃了一惊 1	⑱怎么了？很惊讶 1	⑰空欄 1

この場面では、日本語の「どうしたの」に相当する“怎么了”と回答した人が最も多く、7人であり、全体の約17%を占めている。ところが、この回答は感情表現とは言い難い。その次に多いのは、②の“吓死我了”と③の“吓了我一跳”である。これは、この場面に相応しい感情表現である。ただし、⑤の“很惊讶”や⑫の“吃惊”のような回答も見られる。このような表現は、「驚き」という感情を表現し得るが、瞬間的な感情反応に用いられることが困難である。

このように、“吓死我了”や“吓了我一跳”のような決まった表現は、習得上の困難点とは言えないが、“吃惊”のような類似表現との相違点を把握できていない学習者も見られる。

【表 41】第 2 類の質問 C の調査結果

C. 5 万円分の宝くじを買ったのに、300 円しか当たらなかった時		
①空欄 6	⑪想哭 1	⑯太过了，算了 1
②后悔 3	⑫糟糕 1	⑰气死我了 1
③哎呀 3	⑬很可惜 1	⑯倒悔 1
④很失望 2	⑭死了 1	⑰很倒霉 1
⑤真倒霉 2	⑮为什么？我买了那大量 1	⑯真的吗 1
⑥可真倒霉 2	⑯我很丧沮，真倒霉 1	⑰心酸 1
⑦我很后悔 1	⑰我很遗憾 1	⑯只三百快啊！ 1
⑧太可惜了 1	⑱倒霉啊 1	⑯我绝对不！ 1
⑨很遗憾 1	⑲好难过 1	⑯哈哈大笑 1
⑩气哼哼 1	⑳嘈，心里很委屈 1	⑯太没意思了 1

この調査質問について、回答パターンにはばらつきが見られる。例えば、②の「後悔」や④「失望」や⑤、⑥の「不幸」などの感情反応が挙げられる。しかし、既に指摘した

ように程度副詞の欠落や不適当な程度副詞の使用などの不自然な表現が多数見られる。例えば、“很”を使用した回答者は、全部で9人であり、全体の約21%を占めている。もちろん、この場面に相応しい感情表現を回答している人も見られる。例えば、⑤のような程度副詞“真”を用いるパターンや⑧のような程度副詞“太”を用いるパターンや⑫のような程度補語“死”を用いるパターンなどが挙げられる。

ここで、一つ興味深いことは、“倒霉”の前に程度副詞“真”を使用した回答者が多いということである。この現象について、回答者が“倒霉”を一つのかたまりとして捉えた可能性が考えられる。そのため、回答者は意図的に“很”を使用せず、“真”を使用したとは限らない。

このように、この調査質問に対する回答からも、学習者が程度副詞“很”的使用に依存していることが判断できる。

【表42】第2類の質問Dの調査結果

D. 家族が連絡なく、家に帰ってこない時		
①担心 6	⑨好担心 1	⑯不安 1
②我很担心 5	⑩很担心, 还好吧? 1	⑯很怕 1
③空欄 5	⑪有没有问题? 1	⑯寂漠 1
④很担心 5	⑫他还没回家 1	⑯我很不安 1
⑤很不安 2	⑬他们怎么了? 很担心 1	⑯到底怎么回事? 1
⑥我很胆心 2	⑭有点担心 1	⑯(妈妈) 爸爸在哪儿做什么? 1
⑦他怎么了? 我很担心 1	⑮他怎么了? 1	⑯我胆着心 1
⑧我担心他们 1	⑯他们没事吧? 1	

この調査質問に対する回答は、上述の質問Cと比べて、相対的に単一であり、“担心”という感情表現に集中している。その中で、裸の形としての“担心”で回答した人は、最も多く、6人であり、全体の約14%を占めている。これについて、学習者が“担心”を日本語の「心配する」と同様に動詞だと捉え、程度副詞を付けなかった可能性があると考えられる。また、“担心”に続いて2番目に多いのは“我很担心”であり、全部で5人であり、全体の約12%を占めている。しかし、この2パターンの回答は、両方ともこの場面に相応しくないものである。少ないながらも、実は⑨の“好担心”や⑭の“有点担心”のような相応しい回答も見られる。

上記の考察から、日本語に訳すと動詞になる感情述詞に遭遇した際、学習者は程度副詞を

付ける派と付けない派に分かれているということがわかった。

【表 43】第 2 類の質問 E の調査結果

E. 久しぶりに会った友人と昔話をしている時		
①空欄 15	⑨真的怀念 1	⑯开心 1
②怀念 2	⑩我觉得怀念 1	⑯悦乐 1
③很怀念 2	⑪很快乐 1	⑯好想那段时光啊 1
④很怀念的 2	⑫很快心 1	⑯我很开心 1
⑤好怀念 2	⑬开心呢 1	⑯好久没见，我们想一起回高中时代 1
⑥很怀念啊 1	⑭回忆 1	⑯很高兴 1
⑦好怀念，高兴 1	⑮太开心了 1	⑯我很 1
⑧真怀念 1	⑯说得很开心 1	⑯我 1

上記の調査結果からわかるように、空欄の回答は、これまでの調査質問と比べて、異常に多く、15 人であり、全体の約 36% に上っている。この事実から、“怀念”は、多くの回答者にとって想起しにくい感情述詞だったと推測できる。しかし、“怀念”に相当する日本語の「懐かしい」は、日常の会話で頻繁に用いられる常用語である。一方、《新汉语水平考試大纲》において、“怀念”は 5 級語彙の範疇に入っている。この対比からわかるように、日中両言語において、同じ感情概念に対応する感情語彙が常用か否かは認識が異なっている。

もちろん、“怀念”を用いて回答した人も存在するが、これまでの回答パターンと同様に、程度副詞の欠落や程度副詞“很”への依存などの誤用が見られる。例えば、② の“怀念”や③ の“很怀念”や④ の“很怀念的”などが挙げられる。ここで特に注意しておきたいのは④ の回答である。この回答では、“很”が付いているだけではなく、文末に“的”も付いている。これは、程度副詞“挺”が用いられる場合に、文末に“的”を付ける規則と混乱しているのではないかと推測できる。

このように、この質問の回答パターンから、これまでの程度副詞にまつわる誤用が生じるだけではなく、感情述詞の想起も、一部の回答者にとって困難だということが分かった。

【表 44】第 2 類の質問 F の調査結果

F. 地震・津波被害のビデオ映像を見ている時		
①空欄 7	⑯很恐怕 1	⑯看不下去 1
②很害怕 3	⑯害怕了 1	⑯悲伤 天哪 我的天 1
③恐怕 3	⑯我可怕 1	⑯我希望他们没事 / 真的假的？ 1
④很厉害 2	⑯我很可怕 1	⑯哎呀 1

⑤很心痛 2	⑯厉害害怕看不下去 1	㉕糟糕 1
⑥好可怕 2	⑰悲哀 1	㉖我很怕, 糟糕 1
⑦害怕 2	⑯太过分了 1	㉗我有恐怖的感情 1
⑧好怕啊 1	⑯不好 1	㉘我不想看 1
⑨很遗憾 1	⑯担心 1	
⑩我很害怕 1	㉖好害怕! 绝了 1	

この質問でも、空欄の回答が最も多く、7人であり、全体の約17%を占めている。また、他の回答を観察してみると、程度副詞の問題よりも感情述詞自体の使用問題が際立って見える。つまり、“害怕”と“恐怕”と“可怕”という三つの感情述詞の使い分けができるといいう問題である。例えば、⑬の“我可怕”と⑭の“我很可怕”は、既に指摘したように、“害怕”との混用による誤用である。また、⑬の“恐怕”は、字義通りの解釈による誤用だと考えられる。実は、“恐怕”は、既に字義通りの意味が薄れしており、「恐らく」という推測の意味として用いられるようになっている。

以上の考察から、日本語の「怖い」に相当する“害怕”と“可怕”は学習者にとって混乱しやすいということが再確認された。

【表45】第2類の質問Gの調査結果

G. 試合に1点差で負けた時		
①空欄 10	⑨真的可惜 1	㉗哎呀, 我要好好练习 1
②很可惜 5	⑩我很可惜 1	㉘很可惜啊 1
③太可惜了 4	⑪遗憾 1	㉙没办法 没事没事 1
④真可惜 2	⑫悲伤 1	㉚哎呀 1
⑤很后悔 2	⑬后悔 1	㉛不好 1
⑥悔 2	⑭好可惜啊 1	㉜不甘心 1
⑦我很丧沮 1	㉖下次我绝对输 1	㉝糟糕 1
⑧我很遗憾 1	㉖悲伤了 1	

この質問に対しても、空欄の回答者は、最も多く、10人であり、全体の約24%を占めている。理由として考えられるのは、この場面で発する「悔しい」という中国語の表現が想起しにくいということである。なぜなら、それに相当する“不甘心”という表現は、難易度が高いからである。《新汉语水平考试大纲》の場合、“甘心”は、最上級の6級の語彙リストに載っている。また、⑥の“悔”は、日本語の「悔しい」をそのまま使用したと考えられる。

一方、“不甘心”的代わりに、“可惜”を使用した回答者が多数見られた。例えば、②の

“很可惜”や③の“太可惜了”や④の“真可惜”などが挙げられる。それを合わせると、全部で15人であり、全体の約36%を占めている。“可惜”は《新汉语水平考试大纲》において、4級の語彙に属するため、学習者にとって想起しやすかったのではないかと推測できる。しかし、明らかな誤用回答が観察される。例えば、⑩の“我很可惜”が挙げられる。これは、“可怕”と同様に、〈感情主〉を主語に立てた誤用である。

上記の考察から、学習者が難易度の高い単語を想起できなかった場合、他の代替できる単語を使用するということがわかった。もちろん、これまで共通する程度副詞にまつわる問題は依然として観察される。

【表46】第2類の質問Hの調査結果

H. 先輩と服がかぶったと気づいた時		
①空欄 11	⑩有点 gāngà 1	⑯不好意思 1
②很尴尬 2	⑪尴尬 1	⑰哎呀 1
③太 gāngà 2	⑫很害羞 1	⑲对不起 1
④糟糕 2	⑬讨厌 1	⑳你穿得衣服很好 1
⑤很后悔 2	⑭太巧了，我的天 1	㉑衣服穿撞了 1
⑥害羞 2	⑮愉快 1	㉒丢脸 1
⑦好 gāngà 1	⑯哈哈大笑 1	㉓太巧了 1
⑧我好尴尬 1	⑰哎呀！不行 1	㉔我很丑 1
⑨我很尴尬 1	⑱没有办法 1	㉕我先买的 1

上記の調査結果を見ると、この質問についても、空欄の回答人数は、1位を占めていて、全部で11人であり、全体の約26%を占めている。その理由は、上述の質問Gと同様に、「気まずい」に相当する中国語の表現が難易度が高かったからだと推測できる。同じように、《新汉语水平考试大纲》を調べてみると、“尴尬”も最上級の6級の語彙リストに入っているとわかった。もちろん、“尴尬”を含んだ回答も観察される。例えば、②の“很尴尬”や③の“太 gāngà”など挙げられる。それを合わせると、全部で9人であり、全体の約21%を占めている。しかし、“好尴尬”のような感情表出文の回答はやはり少ない方だった。

また、ここで注意しておきたいのは⑥の“害羞”や⑫の“很害羞”という回答である。これは、日本語の「恥ずかしい」からの直訳だと推測できる。しかし、中国語の“害羞”的意味範囲は日本語の「恥ずかしい」ほど広くない。“害羞”は「照れる」という意味として用いられることが一般的である。よって、「気まずい」という場面に相応しくないのである。

以上の考察から、「気まずい」という中国語の表現は学習者にとっても想起しにくいもの

だとわかった。また、「恥ずかしい」 = “害羞” という認識が強いと想定できよう。

以上の 8 問の調査結果の分析を次の 2 点にまとめることができる。

- I 日本語の 1 語感情表出文の影響を受け、中国語も同様な構文を使用するという母語の干渉が見られる。一方、程度副詞“很”への過度な依存という言語内干渉も見られる。
- II 日本語の常用感情述詞に対応する中国語が難易度の高い語彙リストに分類される場合は、学習者にとって想起しにくいということが観察される。

### 6.3 在日中国語の感情表現教育に向けての提言

本節では、以上述べた中間言語コーパスから見る感情表現の難点およびアンケート調査の結果分析を踏まえて、在日中国語の感情表現教育に向けて、以下の三つの提言を行う。

#### 6.3.1 感情述詞と感情構文とを結合させた教授法

中間言語コーパスから見る誤用にしても、アンケート調査における第 1 類の質問文の調査結果にても、構文の混用による誤用が際立って見えると言っても過言ではない。これは本研究の出発点となっている。例えば、第 1 章で例示した“感动”（感動する）という感情述詞の誤用が挙げられる。この感情述詞は、日中両言語においては字形が類似し、基本義も一致する漢語であるため、学習者にとって馴染みのある語であるが、実際の使用時に誤用が多数生じると観察される。それは、この語に関して日中両言語の構文的な振る舞いが異なることに起因している。

よって、教育現場では、語彙を提示するだけではなく、その語彙の用いられる構文形式も同時に提示する必要があると考える。言い換えれば、感情述詞と感情構文とを結合させて、教授しなければならない。とりわけ、“感动”（感動する）のような感情述詞が日中両言語において、構文的な振る舞いに大きな差異が存在するため、重点的に教授すべきだと考える。

そこで、第 3 章から第 5 章までの考察結果に基づき、本研究で扱った 108 語の感情述詞の構文的な振る舞いを整理し、使用例を挙げながら、一覧表を作成することを試みた（付録 3 参照）。

### 6.3.2 感情描写文と感情表出文とに分けた教授法

アンケート調査における第2類の質問文の調査結果から見て取れるように、感情描写文と感情表出文との相違点に関して、学習者が明瞭に把握しているとは言い難い。特に、日常で頻繁に使用される感情表出文について、多くの誤用が観察される。それは大まかに2種類の誤用パターンに大別できる。すなわち、日本語の1語表出文からの影響による誤用と程度副詞“很”への過度な依存による誤用である。

そのため、中国語の感情表出文を教授する際は、まず、学習者に日本語との相違点を明示し、感情述詞を単独で使用しないということを認識させるべきであり、次に、“很”を代表とする客観性の高い程度副詞と“好”を代表とする主観性の高い程度副詞との相違点および具体的な用いられ方を明示すべきである。つまり、感情描写文の場合は、“很”が用いられることが一般的であり、感情表出文の場合は、“好”が用いられることが一般的であるということを学習者に提示するということである。

### 6.3.3 日本語の感情表現の特性を踏まえた教授法

既に示したように、アンケート調査における第2類の後半の質問文については、前半の質問文と比べて、未回答者が相対的に高い割合で出ている。これは、それらの質問文を回答するのに用いられる感情述詞が難易度の高い語彙に属することに起因している。ところが、それらの感情述詞を日本語に訳すと、日常でよく耳にするものとなる。例えば、「懐かしい」や「悔しい」や「気まずい」などが挙げられる。もし、このような語彙に相当する中国語を教育現場で学習者に先に教授しておくと、学習者の中国語の感情表現を豊かにすることができると考える。

ここで注意しておきたいのは、日本語ではよく使用される感情述詞は必ずしも中国語でもよく使用されるとは限らないということである。例えば、日本語の場合、送別会の場面では「寂しい」という言葉が頻繁に見られる。それをそのまま“寂寞”と訳しがちであるが、実際は、“寂寞”という言葉は中国語では滅多に用いられない。この場面では、敢えて中国語で表現すると、「悲しい」に相当する“难过”的な方が相応しいのではないかと考える。

よって、中国語の感情表現を教授する前に、まず日本人がよく発する感情表現を観察すべきである。その特性を踏まえて中国語の感情表現を教授した方がより効果的だと考える。

## 6.4 第6章のまとめ

第6章では、第3章から第5章の考察結果を踏まえ、日本人学習者による中国語の感情表現の使用実態について、考察を行った。まず、中間言語コーパスから見る感情表現の難点について、実例に基づきながら考察を行った。その誤用パターンを6種類に整理してみた。具体的には、「構文の混用」・「“了”の過剰使用」・「程度副詞の欠落」・「程度副詞の位置の誤用」・「程度副詞の種類の誤用」・「感情述詞使用の誤用」という6パターンである。

次に、中国語専攻の高学年学生を対象に、感情表現の習得状況についてアンケート調査を行った。アンケート調査の質問文は、感情描写文と感情表出文という2面から、設計したものである。感情描写文としての第1類質問文に関する調査について、次のような2点の分析結果が得られている。

つまり、① 日本語の「〈感情主〉 ハ 〈刺激体〉 ニ 感情述詞」構文を中国語に訳す際には、対応する構文形式が複雑であるため、学習者にとって訳しにくい；② 日本語の「〈感情主〉 ハ 〈刺激体〉 ヲ 感情述詞」構文を中国語に訳す際は、もし中国語の「〈感情主〉 + 感情述詞 + 〈刺激体〉」構文に対応する場合に、日本語からの正の転移が働くため、訳しやすいという2点である。

一方、感情表出文としての第2類質問文に関する調査についても2点の分析結果が得られている。つまり、① 日本語の1語感情表出文の影響を受け、中国語も同様な構文を使用するという母語の干渉が見られる。一方、程度副詞“很”への過度の依存という言語内干渉や② 日本語の常用感情述詞に対応する中国語が難易度の高い語彙リストに分類される場合は、学習者にとって想起しにくいということが観察されるという2点である。

最後に、上記の分析結果を踏まえて、在日中国語の感情表現教育に向けて、次のように提言した。つまり、① 感情述詞と感情構文とを結合させた教授法；② 感情描写文と感情表出文とに分けた教授法；③ 日本語の感情表現の特性を踏まえた教授法という3点である。

---

<sup>1</sup> 中間言語とは、習得の段階に応じて変化していく学習者特有の言語体系である。目標言語とも母語とも異なる体系を示していることからセリンカー (L.Selinker) によって命名された。Selinker (1972)、迫田 (2002) 参照。

<sup>2</sup> HSK 動的作文コーパスでは、誤用に対する修正が既に行われているが、6.1.1節では、筆者による修正の場合もある。

---

<sup>3</sup> この定義は、戴愛玲 (2018: 21) による。

<sup>4</sup> このデータは、中華圏にルーツを持つ被験者や留学経験のある被験者を除いた後のものである。

## 第7章 おわりに

### 7.1 本研究のまとめ

現代中国語において、従来は、移動表現などという視覚で認識できる表現の研究が中心であった。それに対して、感情表現は、視覚的に捉えにくい状態を表現する。本論文で考察する意味はそこにある。

感情表現をめぐる構文は多種多様である。本研究では、教育への応用も視野に入れて、3種類の基本的な構文形式に焦点を当てて考察を行った。その3種類の構文は、それぞれ「SVO型感情構文」と「SPOV型感情構文」と「SV型感情構文」である。さらに、学習者の中国語の感情表現の使用実態を把握するため、アンケート調査も行った。各章で得られた考察結果は、以下のようにまとめることができる。

第3章では、SVO型感情構文について考察を行った。まず、〈感情主〉を主語の位置に限定して論じられてきた従来の研究に対して、SVO型感情構文を次の2タイプに区分すべきだと指摘した。すなわち、〈感情主〉主導のSVO型感情構文と〈刺激体〉主導のSVO型感情構文である。その上で、感情述詞に関して、前者の場合は、“喜欢”（好きだ）を典型例とし、“高兴”（嬉しい）を周辺例とした48語が得られており、本研究が扱う感情述詞の約44%を占めている。一方、後者の場合は、“感动”（感動させる）を典型例とし、“乐”（喜ばせる）を周辺例とした12語が得られており、約11%を占めている。

さらに、〈刺激体〉に関して、〈感情主〉主導の場合は、感情述詞によって用い得る〈刺激体〉の性質が異なり、多様性を呈しているのに対して、〈刺激体〉主導の場合は、〈刺激体〉の性質が一般的に体言性の成分であり、感情述詞によって変化したりせずに、单一性を示している。ところが、〈刺激体〉主導の場合の内部構造は、前者よりも複雑であり、補語や語氣助詞といった付加成分が必要である。また、〈刺激体〉主導の場合、“人”（人）を中心とした普通名詞が話し手指向的なものとして、〈感情主〉に相当するという興味深い現象を指摘した。

最後に、両者の構文的意味を次のように捉えるべきだと結論付けた。すなわち、〈感情主〉主導のSVO型感情構文は、〈感情主〉が〈刺激体〉に向かって、能動的に感情を放出するということであり、〈刺激体〉主導のSVO型感情は、〈感情主〉が〈刺激体〉から感情的刺激を受け、受動的に感情反応するということである。

第4章では、SPOV型感情構文について考察を行った。SVO型感情構文と同様に、SPOV型感情構文も〈感情主〉主導のタイプと〈刺激体〉主導のタイプとの2タイプに分けるべきだと指摘した。さらに、この2タイプについて、それぞれ三つの前置詞に絞って考察を行った。具体的には、〈感情主〉主導のタイプは、“对”・“为”・“被”であり、〈刺激体〉主導のタイプは、“让”・“把”・“给”である。

また、感情述詞に関して、〈感情主〉主導の“对”構文は、“失望”（がっかりする）を典型例とし、“难过”（悲しい）を周辺例とした76語が得られており、全体の約70%を占めている。次に、“为”構文を2通りのタイプに分けるべきだと指摘した。すなわち、感情を惹起する存在を導く“为<sub>1</sub>”構文と感情移入する先を導く“为<sub>2</sub>”構文である。“为<sub>1</sub>”構文の場合には、“烦恼”（思い煩う）を典型例とし、“害羞”（恥ずかしい）を周辺例とした36語が得られており、全体の約33%を占めている。それに対して、“为<sub>2</sub>”構文の場合には、“高兴”（嬉しい）を典型例とし、“担心”（心配する）を周辺例とした18語が得られており、全体の約17%を占めている。また、“被”構文は、“感动”（感動させる）を典型例とし、“乐”（喜ばせる）を周辺例とした11語が得られており、約10%を占めている。

一方、〈刺激体〉主導の“让”構文は、“感动”（感動する）を典型例とし、“爱”（愛する）を周辺例とした96語が得られており、約89%を占めている。また、“把”構文と“给”構文は、両方とも“吓”（驚かす）を典型例とし、“害怕”（怖がる）を周辺例とした40語が得られており、約37%を占めている。

次に、〈感情主〉主導の“对”構文・“为”構文と〈刺激体〉主導の“让”構文における副詞の生起位置を考察した。その結果、“对”構文の場合は、基本的には感情述詞の直前に生起する。“为”構文の場合は、“为<sub>1</sub>”であれ、“为<sub>2</sub>”であれ、基本的には前置詞の直前に生起する。“让”構文の場合は、程度副詞や否定副詞の種類によって生起位置にばらつきが見られるということを明らかにした。

さらに、〈感情主〉主導の“被”構文と〈刺激体〉主導の“把”構文・“给”構文における感情述詞に付随する成分について考察を行った。その結果、“被”構文の場合は、感情述詞の直後・直前・前後という三つの位置に立つ付加成分が存在する。一方、“给”構文と“让”構文の場合は、感情述詞の直後に立つ付加成分しかないということを確認した。

最後に、各構文の構文的意味を次のように捉えるべきだと結論付けた。すなわち、〈感情主〉主導のSPOV型感情構文においては、“对”構文は、〈感情主〉が〈刺激体〉に向き合い、感情反応を示すということである。“为<sub>1</sub>”構文は、〈感情主〉が〈刺激体〉の存在のために、

感情反応を示すということである。“为<sub>2</sub>”構文は、〈感情主〉が〈刺激体〉へ感情移入し、感情反応を示すということである。“被”構文は、〈感情主〉が〈刺激体〉から感情的刺激を受け、受動的に感情反応するということである。

一方、〈刺激体〉主導のSPOV型感情構文においては、“让”構文は、〈刺激体〉が〈感情主〉をある感情状態に惹起させるということである。“把”構文と“给”構文は、両方とも〈刺激体〉が〈感情主〉に刺激を与え、さらに、〈感情主〉を何らかの感情状態に置かせるということである。

第5章では、SV型感情構文について考察を行った。前述の2種類の感情構文と同様に、従来の研究とは異なり、〈感情主〉主導のSV型感情構文と〈刺激体〉主導のSV型感情構文という2タイプに区分すべきだと指摘した。その上で、感情述詞について、前者は、“开心”（嬉しい）を典型例とし、“担心”（心配する）を周辺例とした64語が得られており、全体の約59%を占めている。一方、〈刺激体〉主導のSV型感情構文は、“可怕”（怖い）を典型例とし、“震撼”（心を震わす）を周辺例とした9語が得られており、おおよそ8%を占めている。

また、感情述詞の直前に立つ程度副詞について考察を行った。大まかに分類すれば、“很”（とても）類と“好”（とても）類があるということを明らかにした。ただし、両構文の間では異なる様相を呈している。〈感情主〉主導のSV型感情構文は、相対的に複雑な様相を呈しており、“很”（とても）類の①改まった場面；②意図的表出；③客観的描写という特徴は、“好”（とても）類の①くだけた場面；②自然的表出；③主観的描写という特徴と対立的であると確認した。

一方、〈刺激体〉主導のSV型感情構文は、相対的に単純な様相を呈しており、“很”（とても）類には、客観的評価（感情描写）という特徴があり、“好”（とても）類には、主観的評価（感情表出）という特徴があると確認した。

さらに、感情述詞が裸の形で用い得るか否かについて考察を行った。従来の裸の形で成立しないという主張に対して、成り立ち得る場合も存在するということを確認した。とりわけ、〈刺激体〉主導のSV型感情構文に用いられる“讨厌”（嫌だ）や“恶心”（気持ち悪い）や“可恶”（憎い）などの感情述詞がそれである。

最後に、両者の構文的意味を次のように捉えるべきだと結論付けた。すなわち、〈感情主〉主導のSV型感情構文は、〈感情主〉が文脈に隠れている〈刺激体〉から刺激を受けて、直接的に感情反応を示すということである。〈刺激体〉主導のSV型感情構文は、背後に隠れ

ている〈感情主〉が〈刺激体〉を感情的品定めすることにより、間接的に感情反応を示すということである。

第6章では、学習者の中国語の感情表現の使用実態を、次の二つの面から考察を行った。まず、中間言語コーパスにおける実例に基づいて、日本人学習者の誤用を「構文の混用」・「“了”の過剰使用」・「程度副詞の欠落」・「程度副詞の位置の誤用」・「程度副詞の種類の誤用」・「感情述詞使用の誤用」という6パターンに整理した。

次に、アンケート調査の回答に基づいて、次の4点を明らかにした。すなわち、①日本語の「〈感情主〉ハ〈刺激体〉ニ感情述詞」構文を中国語に訳す際には、対応する構文形式が複雑であるため、学習者にとって訳しにくい；②日本語の「〈感情主〉ハ〈刺激体〉ヲ感情述詞」構文を中国語に訳す際は、もし中国語の「〈感情主〉+感情述詞+〈刺激体〉」構文に対応する場合に、日本語からの正の転移が働くため、訳しやすい；③日本語の1語感情表出文の影響を受け、中国語も同様な構文を使用するという母語の干渉があると同時に、程度副詞“很”への過度の依存という言語内干渉も見られる；④日本語の常用感情述詞に対応する中国語が難易度の高い語彙リストに分類される場合は、学習者にとって想起しにくいということが観察されるという4点である。

さらに、考察結果を踏まえて、在日中国語の感情表現教育に向けて、①感情述詞と感情構文とを結合させた教授法；②感情描写文と感情表出文とに分けた教授法；③日本語の感情表現の特性を踏まえた教授法という3点の提言を行った。

本研究は、日本人中国語学習者の視点を考慮して、現代中国語の感情表現について構文論的考察を行った。とりわけ、学習者が直面する感情述詞と構文とのマッチングや、程度副詞の生起位置や感情述詞に付随する成分などの難点に重点を置きながら考察を行った。

論者の基本的姿勢は、在日中国語教育において、中国語の感情表現の誤用例として顕現する理由を学習者の母語すなわち日本語の表現方法に存在する問題点も含めて考察するものである。換言すれば、中国語と日本語との双方を視野に入れて教育法を提示したことになる。この視点が従来の在日中国語教育に欠落していたのではないか。その意味で、本論文は、在日中国語教育に貢献し得ると思量する。感情構文の考察はその入り口になる。

また、中国語の構文研究において、無視されがちな感情構文の全体像を明らかにしたことによって、中国語の構文研究の体系化にも一石を投じることができたと言えよう。下記の表は現代中国語の感情構文に関する本研究の総括である。

【表 47】現代中国語の感情構文の総括

現代 中國 語 の 感 情 構 文	第 3 章 SVO 型	〈感情主〉 主導型	“我喜欢你”
		〈刺激体〉 主導型	“你感动了我”
第 4 章 SPOV 型		〈感情主〉 主導型	“我对你很失望” “我在为 <sub>1</sub> 钱烦恼”; “我真为 <sub>2</sub> 你高兴” “我被你感动了”
		〈刺激体〉 主導型	“你让我很感动” “你把我感动了”; “这把我感动的” “你给我感动了”; “这给我感动的”
		〈感情主〉 主導型	“我很/好开心”
	第 5 章 SV 型	〈刺激体〉 主導型	“地震很/好可怕”

## 7.2 今後の課題

本研究における今後の課題は大別して以下の 2 点である。

第 1 点は、感情述詞に関して、主に母語話者である筆者の内省によって選定したものであるため、客観性に欠ける面があることは否めない。むろん、完全な客観性を持つ判定法は存在しないが、客観性により近づける方法が存在すると考える。例えば、候補リストを作り、母語話者にアンケート調査を行うことなどが挙げられる。これについて、更なる検討が必要である。

また、本研究では、構文的な形に着目し、感情表現のカテゴライズの状況を考察した上で、各構文と共にできる感情述詞を整理したが、個々の感情述詞についての意味論的な考察には踏み込んでいない。例えば、「嬉しい」という感情を表現する際、学習者が使用しがちな“高兴”と本研究が提言した“开心”といった類義語に関する意味の類似点と相違点を明らかにすることが今後の課題である。

さらに、本研究では、語用論的な考察にあまり触れてこなかった。例えば、日本語の感覺で感じにくい感情移入を表す“为<sub>2</sub>”感情構文を、どのようなタイミングで使用するのかは、日本人学習者にとって一つの難点だと考える。そのことも含めて、中国語母語話者が如何に感情表現を使用するのかについて、談話分析などの手法を用いて詳細な分析が必要になる

であろう。

本研究では、専ら現代中国語の感情構文に焦点を当てて考察を行ってきたが、日本語の感情構文についてあまり言及しなかった。しかし、同じく漢字圏に属する中国語と日本語の間には、感情述詞の構文的振る舞いが異なる場合が見られる。例えば、失望という感情の場合、日本語は、「親に失望された」のような受身文になり得るのに対して、中国語は、“被父母失望了”のような受身文になり得ない。よって、対照言語学の観点からの両言語における感情構文研究も今後の課題としたい。

第2点は、感情表現をめぐる構文研究で提示した在日中国語教育の方法を、感情表現以外の感覚表現などに応用して具体的に考察することである。

## 参考文献

### (日本語)

- 東弘子 1999 「感情表出文」, 『自然言語処理』6巻4号, 言語処理学会, pp. 45-65
- 荒川清秀 1985 「形容詞の対照研究 日本語と中国語—中国語の感情(感覚)形容詞について」, 『日本語学』3月号, pp. 62-65
- 池上嘉彦 2006 「<主観的把握>とは何か——日本語話者における<好まれる言い回し>」, 『言語』5月号, pp. 20-27
- 伊藤加奈子 2012 「“替～”を用いる中国語の感情表現について」, 『人文科学論集. 文化コミュニケーション学科編』46, 信州大学人文学部, pp. 31-47
- 伊藤大輔 2007 「叙実述語としての中国語感情形容詞」, 『中国言語文化論叢』9, 東京外国语大学中国言語文化研究会, pp. 25-47
- 于艶麗 2008 「感情形容詞と感情動詞に関する考察」, 『立教大学日本文学』(101), 立教大学, pp. 79-88
- エルンスト・カッシーラー(篠木芳夫、高野敏行訳) 2017 『シンボル・技術・言語』東京: 法政大学出版局
- 王安 2006 「日本語の感情形容詞が持つ「表出性」とその振る舞い」, 『日本認知言語学会論文集』6, 日本認知言語学会, pp. 64-74
- 王安 2013 「主体化」, 『認知言語学 基礎から最前線へ』森雄一・高橋英光編集, 東京: くろしお出版, pp. 181-204
- 王安 2014 「認知言語学の観点から見た中国語感情形容詞の意味特徴と機能: 感情表出の場合を中心に」, 『国際学研究』3巻1号, pp. 83-90
- 大河内康憲 1997 『中国語の諸相』東京: 白帝社, pp. 149-160
- 大曾美恵子 2001 「感情を表す動詞・形容詞に関する一考察」, 『言語文化論集』22巻2号, 名古屋大学言語文化部・国際言語文化研究科, pp. 21-30
- 加藤恵梨 2009 「「こわい」と「おそろしい」の意味について」, 『名古屋大学日本語・日本文化論集』(17), 名古屋大学留学生センター, pp. 1-20
- 加藤由紀子 2001 「感情表現における動詞とその周辺」, 『岐阜大学留学生センター紀要』2001, 岐阜大学, pp. 47-59
- 木村英樹 2000 「中国語二重主語構文の意味と構造」, 『認知言語学 I : 事象構造』東京: 東京大学出版会, pp. 219-242

- 木村英樹 2017 「感情と感覚の構文論—“痛快”と“涼快”の境界—」, 『杉村博文教授退休記念中国語学論文集』 東京 : 白帝社, pp. 153-176
- 清海節子 2006 「感情表現の日英比較——〈快〉感情基礎語彙を中心に」, 『駿河台大学論叢』 (32), pp. 91-114
- 河野直也 2017 「現代中国語の感情表現のネットワーク化」, 大阪大学言語文化研究科言語学会専攻修士論文
- 迫田久美子 2002 『日本語教育に生かす第二言語習得研究』 東京 : アルク
- 史形嵐 2001 「「V 得 C」構文における“得”的文法機能」, 『中国語学』 2001 卷 248 号, 日本国中国語学会, pp. 168-181
- 清水泰行 2013 「現代語における感情形容詞のヲ格と語構成」, 『日本語文法』 13 卷 1 号, pp. 20-36
- 清水泰行 2014 「現代語における感情用言の形式と意味」, 関西学院大学博士論文
- 清水泰行 2015 「現代語の形容詞語幹型感動文の構造:——「句的体言」の構造と「小節」の構造との対立を中心として——」, 『言語研究』 148 卷, pp. 123-141
- 戴愛玲 2018 「第二言語として習得される英語冠詞の使用状況と誤用分析:日本人と中国人の実例の対照研究」, 千葉大学大学院人文公共学府研究プロジェクト報告書 (335), pp. 19-25
- チャーレズ・R. ダーウィン (長谷川眞理子訳) 1999 『人間の進化と性淘汰 I』 東京 : 文一総合出版
- 張恒悦 2019 「感情動詞と“了”的共起関係について—日本語母語話者が産出した誤用例の分析を通して—」, 『中国語教育学会第 17 回全国大会予稿集』, 中国語教育学会, pp. 81-85
- 角田太作 1991 『世界の言語と日本語』 東京 : くろしお出版
- 寺村秀夫 1982 『日本語のシンタクスと意味 I』 東京 : くろしお出版
- 中村明 1993 『感情表現辞典』 東京 : 東京堂出版
- 益岡隆志 1997 「表現の主観性」, 『視点と言語行動』 田窪行規編集, 東京 : くろしお出版, pp. 1-11
- 町田茂 1994 「感情形容詞の特質」, 『中国語学』 1994 卷 10 号, 日本国中国語学会, pp. 100-109
- 三上勝夫、段銀萍 1999 「日本語感情形容詞の構文的特徴について」, 『北海道教育大学紀要教育学科編』 49 (2), 北海道教育大学, pp. 15-22

ルソー（増田真訳）2016『言語起源論—旋律と音楽的模様について』東京：岩波書店  
呂叔湘（牛島徳次、菱沼透訳）2003『現代中国語用法辞典』東京：東方書店  
山本千波 2014「情意領域を主眼とした第二言語習得における教授法について」, 『筑波大学留学生センター日本語教育論集』29巻, pp. 233-244  
楊華 2014「中日両言語における感情形容詞の規定用法について—“愉快”“高兴”“悲伤”  
「楽しい」「うれしい」「悲しい」を例として—」, 『コミュニカーレ』3号, pp. 123-144  
吉田光浩 1995「感情形容詞構文小考」, 『大妻国文』(26), 大妻女子大学, pp. 101-115

#### （中国語）

陈昌来 2003《现代汉语语义平面问题研究》, 上海: 学林出版社  
陈颖 2018 由转喻而来的即时性主观评议构式“看把 P+A/V 的”, 《解放军外国语学院学报》第 41 卷第 2 期, pp. 46-54  
陈振宇、姜毅宁 2019 反预期与事实性——以“合理性”语句为例, 《中国语文》第 3 期, pp. 296-310  
崔希亮 1995 “把”字句的若干句法语义问题, 《世界汉语教学》第 3 期, pp. 12-21  
崔希亮 2009 说“开心”与“关心”, 《中国语文》第 5 期, pp. 410-418  
戴浩一（黄河译）1988 时间顺序和汉语的语序, 《国外语言学》第 1 期, pp. 10-20  
邓川林 2012 “让/叫”的主观性用法及扩展机制, 《语言教学与研究》第 1 期, pp. 60-67  
邓守信 1984《汉语及物性关系的语意研究》, 台北: 台湾学生书局  
丁薇 2012 谓语中心为心理动词的“把”字句, 《汉语学报》第 1 期, pp. 65-71  
董超凤 1996 谈“好”作程度副词, 《语文月刊》, pp. 6-7  
杜道流 2003 现代汉语中的独词感叹句考察, 《语言文字应用》第 4 期, pp. 80-88  
丰竞 2003 现代汉语心理动词的语义分析, 《淮北煤炭师范学院学报》第 24 卷第 1 期, pp. 106-110  
古川裕 2000 有关“为”类词的认知解释, 《语法研究和探索》(十), 北京: 商务印书馆, pp. 31-48  
古川裕 2003 现代汉语感受谓语句的句法特点——“叫/让/使/令”字句和“为”字句之间的语态变换, 《语言教学与研究》第 2 期, pp. 28-37  
古川裕 2005 现代汉语的“中动语态句式”——语态变换的句法实现和词法实现, 《汉语学报》第 2 期, pp. 22-32

- 郭家翔 2013 “教/叫”介词化及其层次性,《语言研究》第 33 卷第 4 期, pp. 82-87
- 郭昭军 2004 现代汉语中的弱断言谓词“我想”,《语言研究》第 24 卷第 2 期, pp. 43-47
- 胡裕树、范晓 1995 《动词研究》, 郑州: 河南大学出版社
- 黄金金、李天贤、杨艳琴 2013 情感类心理动词的再分类及其语义分析,《现代语文(语言研究版)》第 2 期, pp. 40-41
- 黄思思、詹卫东 2018 面向情感分析的构式主观态度义初探,《外语教学》第 39 卷第 6 期, pp. 27-33
- 黄勇 2019 现代汉语 SVO 型情感构式研究,《中国语文学研究》第 8 卷, pp. 132-146
- 及轶嵘 2000 “想死我了”和“想死你了”,《天津师大学报》第 2 期, pp. 78-80
- 孔子学院总部 2009 《新汉语水平考试大纲》, 北京: 商务印书馆
- 孔兰若 2014 现代汉语情感形容词带宾语现象考察, 华东师范大学硕士论文
- 李金凤 2017 “让”字句情感倾向及其情感构式的构成,《现代语文(语言研究版)》第 10 期, pp. 81-84
- 李晋霞 2005 “好”的语法化与主观性,《世界汉语教学》第 1 期, pp. 44-49
- 李琳莹 1999 介词“对”的意义和用法考察,《天津师大学报》第 4 期, pp. 71-75
- 李双剑、陈振宇 2018 否定词在“对”字句否定式中浮动的制约因素,《语言教学与研究》第 2 期, pp. 91-103
- 李炜 2004 加强处置/被动语势的助词“给”,《语言教学与研究》第 1 期, pp. 55-61
- 李文静 2014 使役介词“给”的产生,《语文学刊》第 16 期, pp. 31-32
- 李熙宗 2005 关于语体的定义问题,《复旦学报(社会科学版)》第 3 期, pp. 176-196
- 李宗江 2007 几个含“死”义动词的虚化轨迹,《古汉语研究》第 1 期, pp. 39-45
- 廖田凌霜 2016 “快乐”与“开心”的多角度辨析,《华中师范大学研究生学报》第 23 卷第 1 期, pp. 108-113
- 刘世铸 2009 基于语料库的情感评价意义构型研究,《外语教学》第 30 卷第 2 期, pp. 22-25
- 卢莹 2002 情感形容词研究, 天津师范大学硕士论文
- 鲁川 2003 语言的主观信息和汉语的情态标记,《语法研究和探索》(十二), 北京: 商务印书馆, PP. 317-330
- 吕叔湘主编 1999 《现代汉语八百词》(增订本), 北京: 商务印书馆
- 孟琮等 1999 《汉语动词用法词典》, 北京: 商务印书馆
- 木村英树 2005 北京话“给”字句扩展为被动句的语义动因,《汉语学报》第 2 期, pp. 14-21

- 潘震 2014 情感构式研究,《外语研究》第 4 期, pp. 18-23
- 潘震 2014 情感致使构式的认知转喻特质,《外语教学》第 2 期, pp. 6-9
- 潘震 2015 情感表量构式的认知研究,《现代外语》第 6 期, pp. 762-769
- 祁庆倩 2015 现代汉语心理动词对句型的选择,《语文学刊》第 18 期, pp. 15-17
- 饶春 2014 再议“给”的语法化过程,《现代语文(语言研究版)》第 5 期, pp. 78-82
- 沈家煊 2001 语言的“主观性”和“主观化”,《外语教学与研究》第 33 卷第 4 期, pp. 268-275
- 沈家煊 2002 如何处置“处置式”?——论把字句的主观性,《中国语文》第 5 期, pp. 387-399
- 沈家煊 2006 “糅合”和“截搭”,《世界汉语教学》第 4 期, pp. 5-12
- 施春宏 2015 边缘“把”字句的语义理解和句法构造,《语言教学与研究》第 6 期, pp. 53-66
- 宋成方 2012 汉语情感动词的语法和语义特征,《外语研究》第 4 期, pp. 10-18
- 宋成方 2014 现代汉语情感词语表达系统研究,《现代语文(语言研究版)》第 8 期, pp. 8-13
- 宋成方 2015 《评价理论视角下的情感意义研究》,北京:对外经济贸易大学出版社
- 孙毅 2018 现代汉语情感动词事件致使—完成结构论薮,《西北师大学报(社会科学版)》第 55 卷第 4 期, pp. 33-41
- 唐贤清、陈丽 2011 “死”作程度补语的历时发展及跨语言考察,《语言研究》第 31 卷第 3 期, pp. 79-85
- 万莹 2008 析介词“对”、“对着”,《北京广播学院学报》第 2 期, pp. 48-51
- 王红斌 2001 谓宾心理动词与其后的非谓动词所表动作的语义所指,《盐城师范学院学报(人文社会科学版)》第 21 卷第 2 期, pp. 87-90
- 王忻 2016 偏误一对比一认知:语言研究范式的新尝试——以“对中国日语学习者偏误的认知语言学研究”为例,《外国语》第 39 卷第 4 期, pp. 75-83
- 温锁林 2001 《现代汉语语用平面研究》,北京:北京图书馆出版社
- 温振兴 2009 程度副词“好”及其相关句式的历史考察,《山西大学学报(哲学社会科学版)》第 32 卷第 5 期, pp. 61-65
- 吴宏 2017 日、汉语感情形容词句主观性对比研究,《解放军外国语学院学报》第 40 卷第 6 期, pp. 121-126
- 吴义诚、李艳芝 2014 语言及物性的构式研究,《外国语》第 37 卷第 3 期, pp. 41-48
- 辛斌 1997 论叙事谓词和含蓄谓词的前提意义与句法特征,《山东外语教学》第 2 期, pp. 6-10
- 邢福义、姚双云 2007 连词“为此”论说,《世界汉语教学》第 2 期, pp. 14-20
- 邢福义 1995 南味“好”字句,《华中师范大学学报(哲社版)》第 1 期, pp. 78-85

- 杨颖姣、李颖涵 2016 程度副词“很”与“好”之比较,《赤峰学院学报(汉文哲学社会科学版)》第 37 卷第 4 期, pp. 176-178
- 杨云 1999 不受程度副词“很”修饰的心理动词,《云南教育学院学报》第 15 卷第 1 期, pp. 68-71
- 伊藤大辅 2007 叙实谓词“高兴”及其虚化,《世界汉语教学》第 3 期, pp. 86-93
- 尹岗寿 2013 汉语状态心理动词的鉴别及分类,《汉语学习》第 3 期, pp. 54-59
- 袁毓林 2003 从焦点理论看句尾“的”的句法语义功能,《中国语文》第 1 期, pp. 3-16
- 岳岩 2009 “S+W+死+O”句式使动与自动语义探源,《清华大学学报(哲学社会科学版)》第 24 卷第 2 期, pp. 134-142
- 曾莉 2010 “为”的语法化考察,《广州大学学报(社会科学版)》第 9 卷第 7 期, pp. 79-82
- 张伯江 2007 语体差异和语法规律,《修辞学习》第 2 期, pp. 1-9
- 张凤龙 2008 试析“看把……”句式在口语中的运用,《海外华文教育》第 2 期, pp. 31-39
- 张京鱼 2001 汉语心理动词及其句式,《唐都学刊》第 17 卷第 1 期, pp. 112-115
- 张敏 2019 时间顺序原则与像似性的“所指困境”,《世界汉语教学》第 33 卷第 2 期, pp. 166-188
- 张旺熹 2001 “把”字句的位移图式,《语言教学与研究》第 3 期, pp. 1-10
- 张文贤、张易 2015 副词“真”的主观性及其在汉语教学中的应用,《汉语学习》第 6 期, pp. 89-96
- 张亚丽 2016 略析新词语“吓死宝宝了”,《淮南师范学院学报》第 18 卷第 4 期, pp. 118-120
- 张云峰 2004 试析“看把你……的”句式,《新疆石油教育学院学报》第 2 期, pp. 77-79
- 赵春利 2007 情感形容词与名词同现的原则,《中国语文》第 2 期, pp. 125-132
- 赵春利、石定栩 2011 状位情感形容词与述位动词结构同现的原则,《汉语学习》第 1 期, pp. 12-21
- 中国社会科学院语言研究所词典编辑室编 2005 《现代汉语词典》,北京:商务印书馆
- 周红 2010 现代汉语“给”字句研究综述,《玉林师范学院学报(哲学社会科学)》第 31 卷第 3 期, pp. 89-94
- 周芍、邵敬敏 2006 试探介词“对”的语法化过程,《语文研究》第 1 期, pp. 24-30
- 周有斌、邵敬敏 1993 汉语心理动词及其句型,《语文研究》第 8 期, pp. 32-48
- 朱德熙 1982 《语法讲义》,北京:商务印书馆
- 朱德熙 1985 《语法问答》,北京:商务印书馆

(英語)

- Corder, S. P. 1967. The significance of learner's errors. *International Review of Applied Linguistics in Language Teaching*, 5, 161-170
- Fehr, B., & Russell, J. A. 1984. Concept of emotion viewed from a prototype perspective. *Journal of Experimental Psychology: General*, 113, 464-486
- Hopper, Paul J. and Thompson, Sandra A. 1980. Transitivity in Grammar and Discourse. *Language* 56 (2), pp. 251-299
- Kövecses, Zoltan 1990. *Emotion Concepts*, New York: Springer-Verlag
- Kövecses, Zoltán 2000. *Metaphor and Emotion: Language, Culture, and Body in Human Feeling*, Cambridge: Cambridge University Press
- Lakoff, George and Zoltán Kövecses 1987. The Cognitive Model of Anger Inherent in American English, in Dorothy C. Holland, Naomi Quinn ed., *Cultural Models in Language and Thought*, Cambridge: Cambridge University Press, 195-221
- Langacker, R. W. *Concept, Image, and Symbol: The Cognitive Basis of Grammar*, Berlin: Mouton de Gruyter
- Lyons, J 1977. *Semantics*, 2 vols, Cambridge: Cambridge University Press
- Richrds, Jack C. (ed.) 1974. *Error Analysis-Perspectives on Second Language Acquisition*, London: Longman.
- Selinker, L. 1972. Interlanguage. *International Review of Applied Linguistics in Language Teaching*, 10 (3), 209-231
- Shaver, P.R., S. Wu, and J.C. Schwartz 1992. Cross-cultural similarities and differences in emotion and its representation: A prototype approach. In *Review of personality and social psychology* (Vol. 13. *Emotion*), ed. by M.S. Clark, Newbury Park, CA: Sage Publications, 175- 212

## 付録

付録1：宋成方(2015)における442個の感情動詞の候補リスト

哀怜	发急	敬佩	轻信	误会
爱	发窘	敬畏	倾慕	误解
爱戴	发怒	敬仰	倾心	误认
爱怜	发脾气	敬重	情不自禁	希望
爱恋	发起火	纠结	情愿	喜爱
爱慕	发起脾气	惧怕	庆幸	喜好
爱惜	烦劳	聚精会神	确信	喜欢
爱羨	烦扰	决意	饶恕	喜怒无常
懊恨	反对	绝望	忍耐	羨妒
懊悔	反感	开颜	忍气吞声	羨慕
懊恼	反躬自省	看不惯	忍让	羨仰
百感交集	反躬自问	看不起	认可	享受
半惊半喜	反悔	看得起	认输	想念
半信半疑	反胃	看重	容忍	向往
包涵	犯难	可怜	入迷	泄气
抱怨	放胆	恐吓	入神	心不在焉
悲愤交集	放松	宽容	若有所思	心寒
悲愤交加	放心	宽恕	丧气	心悸
悲喜交集	分神	宽慰	煞费苦心	心旷神怡
崩溃	分心	宽心	伤害	心事重重
鄙薄	纷扰	懊恨	赏识	心疼
鄙弃	奋发图强	懊悔	舍不得	心有余悸
鄙视	服从	困惑	舍得	心醉
鄙屑	服气	困扰	设想	欣慕
不服	负气	牢骚	身不由己	欣赏
不甘	甘心	乐意	神不守舍	欣慰

不寒而栗	甘愿	怜悯	神采飞扬	欣羡
不好意思	敢于	怜惜	神采奕奕	欣幸
不解	敢作敢为	怜恤	神魂颠倒	信从
不堪	感动	恋爱	生闷气	信得过
不怕	感激	恋眷	生闷气	信服
不平	感慨	恋恋不舍	生怕	信任
不忍	感情混杂	谅解	生气	兴奋
不畏	感叹	料想	生闲气	羞辱
不惜	感谢	吝啬	失魂落魄	悬心吊胆
不屑	公认	令人神往	识货	哑口无言
不愿	辜负	令人生厌	手忙脚乱	厌恶
猜疑	鼓舞	令人作呕	手舞足蹈	厌恨
恻隐	顾忌	留恋	手足无措	厌倦
诧异	顾虑	六神无主	受挫	扬眉吐气
忏悔	挂怀	麻痹	受惊	仰慕
忏恨	挂虑	埋怨	束手无策	一丝不苟
称羡	挂念	满意	思潮澎湃	依恋
吃醋	挂心	毛骨悚然	思潮起伏	遗憾
吃惊	怪罪	冒火	思慕	遗忘
痴想	关切	没精打采	思念	疑惑
憧憬	关注	没脸	思绪万千	遗忘
崇拜	过意不去	没辙	耸人听闻	疑惑
崇奉	害怕	梦寐以求	贪便宜	疑惧
崇敬	寒心	梦魇	讨厌	疑心
崇尚	恨	迷惑	疼爱	意犹未尽
宠辱不惊	恨恶	迷惑	提防	忧惧
宠信	后悔	迷住	提心吊胆	忧虑
仇恨	怀念	蔑视	体谅	忧喜参半
仇视	怀疑	抹/磨不开	体恤	有望

出气	怀疑	莫知所措	同情	冤屈
出神	欢喜	漠视	痛定思痛	冤枉
怵惧	欢悦	纳闷	痛恨	原谅
搓手顿足	恍然大悟	难割难舍	痛哭	怨恨
挫败	灰心	难忘	痛心	愿意
挫折	悔过	闹脾气	头疼	在乎
打动	悔恨	念念不忘	推崇	在意
担心	魂飞魄散	怄气	惋惜	赞佩
担忧	激愤/忿	怕惧	亡魂丧胆	赞赏
胆寒	嫉妒	拍手称快	枉费心机	赞羡
但愿	嫉妒	盼望	妄图	责怪
道歉	忌妒	彷徨	忘怀	憎恨
敌视	悸动	佩服	为难	憎嫌
惦挂	见怪	怦然心动	违心	折服
惦记	见谅	疲惫	委屈	着忙
惦念	讲究	期待	畏惮	着迷
定神	介意	期盼	畏忌	珍视
动肝火	进退维谷	期求	畏怯	珍惜
动气	惊呆	期望	畏缩不前	珍重
动情	惊动	歧视	畏葸不前	振奋
动心	惊惑	气愤	温暖	震动
堵	惊悸	器重	闻风丧胆	震撼
赌气	惊惧	牵挂	窝火	镇静
嫉妒	惊奇	瞧不起	窝气	挣扎
妒忌	惊喜交集	瞧得起	无动于衷	中意
妒羨	惊吓	怯惧	无精打采	重视
对不起	惊羡	钦敬	无愧	自责
对得起	惊讶	钦慕	无视	诅咒
多谋善断	惊异	钦佩	无所适从	尊崇

恶心	精神抖擞	钦羡	无望	尊敬
发愁	精神焕发	钦仰	无心	尊重
发呆	景仰	轻贱	无意	
发愤/奋	警备	轻蔑	侮慢（侮谩）	
发火	敬慕	轻视	侮蔑	

## 付録2：中国語の感情表現の習得状況に関するアンケート調査

### 中国語の感情表現の習得状況に関する調査のお願い

この調査は、日本の大学における中国語専攻の3・4年生を対象に、中国語の感情表現に関する習得状況を調べるためのものです。所要時間は約10分です。得られた結果については、学会等で発表されることがありますが、統計的に処理されますので記入者が特定されることはありません。また、この調査以外の目的で使われることもあります。

みなさんの回答は、所属学校での評価や成績に影響することはありませんので、できるだけ現在の状況や考えを正直に答えてください。ご協力どうかよろしくお願いします。

上記の確認事項に同意する →  (✓をつけてください)

大阪大学言語文化研究科 言語社会専攻博士後期課程3年 黄勇

#### 1. あなた自身について、何います。○をつけてください。

- A. 学年： 1. 3年 2. 4年
- B. 背景： 1. 大学1年次にゼロから中国語の学習を始めた  
2. 中華圏に留学したことがある  
3. 以上のどちらにも当てはまらない (詳細： \_\_\_\_\_)

#### 2. 以下の日本語を中国訳に訳してください。

- A. 私は彼女の勇気に感動した。

- B. 私は自分に失望した。

- C. 彼女は自分を誇りに思っている。

- D. 彼は留学に行かなかったことを後悔している。

[裏面へ続く](#)

3. 以下のような状況に置かれた場合、心の中に起きた感情を、あなたは中国語でどのように言いますか？

A. 友達からプレゼントをもらった時

---

B. 授業中に隣の席の人が急に「キャー！」と叫んだ時

---

C. 5万円分の宝くじを買ったのに、300円しか当たらなかった時

---

D. 家族が連絡なく、家に帰ってこない時

---

E. 久しぶりに会った友人と昔話をしている時

---

F. 地震・津波被害のビデオ映像を見ている時

---

G. 試合に1点差で負けた時

---

H. 先輩と服がかぶったと気づいた時

---

ご協力ありがとうございました。

付録3：本研究で扱う108語の感情述詞が用い得る構文およびその使用例

収集源	語彙	SVO型	SPOV型	SV型
一級	1.爱	我爱吃肉。	他对棒球爱得发疯。	
	2.高兴	很高兴认识你。	我真为你高兴！	我真高兴！
	3.喜欢	我喜欢猫。	她对小孩喜欢得不得了。	
二級	4.快乐			你快乐吗？
三級	5.担心	我很担心你。	别为我担心。	我好担心！
	6.放心		我对你很放心。	
	7.关心	他不会关心人。	他对同事很关心。	
	8.害怕	不要害怕失败。	你真让人害怕！	
	9.难过		我真为你难过！	我好难过！
	10.生气		你太让人生气了！	我好生气！
	11.着急		我真为你着急！	他很着急。
四級	12.抱歉	很抱歉打扰你。	我对此很抱歉。	非常抱歉！
	13.吃惊		他对此很吃惊。	他很吃惊。
	14.烦恼		不要总为小事烦恼！	她很烦恼。
	15.感动	这件事感动了我。	我被这件事感动了。	我好感动！
	16.害羞		看把你害羞的。	我好害羞！
	17.后悔	真后悔没去留学。	这件事让我很后悔。	我好后悔！
	18.激动		这太让人激动了！	我好激动！
	19.骄傲		我为你骄傲。	我好骄傲！
	20.紧张		这场比赛真让人紧张！	我好紧张！
	21.开心	很开心能获奖。	看把你开心的。	我好开心！
	22.可怜	我很可怜他。	他真让人可怜！	他真可怜！
	23.可惜			太可惜了！
	24.伤心		你真让人伤心！	我好伤心！
	25.失望		他对自己很失望。	我好失望！
	26.讨厌	我很讨厌他。	你真让人讨厌！	你真讨厌！

五級	27.同情	我很同情他。	他真让人同情！	
	28.羡慕	好羡慕你！	你真让人羡慕！	
	29.兴奋		比赛太让人兴奋了！	我好兴奋！
	30.幸福		看把你幸福的。	你真幸福！
	31.尊重	我很尊重他。	你的态度让人尊重。	
五級	32.爱惜	请爱惜身体。	他对书籍十分爱惜。	
	33.不安		他对此有点不安。	有点不安。
	34.惭愧	很惭愧没能帮上你。	这真让人惭愧！	有点惭愧。
	35.发愁		他在为工作的事发愁。	
	36.恨	我好恨你！	他的行为让人恨透了。	
	37.怀念	好怀念大学的日子！	大学的日子真让人怀念！	
	38.慌张		这个回答让我有点慌张！	有点慌张。
	39.灰心		这有点让人灰心。	有点灰心。
	40.寂寞		黑夜总让人寂寞。	有点寂寞。
	41.可怕			这很可怕。
	42.满足		他对自己的成绩很满足。	我很满足。
	43.佩服	好佩服你！	你真让人佩服！	
	44.热爱	他很热爱大自然。	她对学生无比热爱。	
	45.荣幸	我很荣幸参加这次演讲。		我很荣幸。
	46.疼爱	奶奶很疼爱自己的孙子。	她对孩子疼爱有加。	
	47.痛苦		上课真让人痛苦！	我好痛苦！
	48.痛快		结果真让人痛快！	真痛快！
	49.委屈	真是委屈你了。	这给你委屈的。	好委屈！
	50.无奈		这件事真让人无奈！	我很无奈。
	51.吓	吓死我了！	看把你吓的。	
	52.想念	他十分想念家乡。	你可真让我想念！	
	53.遗憾	很遗憾没能成功。	这真让人遗憾！	真遗憾！
	54.自豪		我为你自豪！	我好自豪！
	55.尊敬	他很尊敬老师。	他这种精神很让尊敬。	

六級	56.爱戴	人民十分爱戴周总理。	学生对他十分爱戴。	
	57.悲哀		这真让人悲哀！	我真悲哀！
	58.崇拜	好崇拜你！	他对你非常崇拜。	
	59.崇敬	人们崇敬英雄。	人们对他十分崇敬。	
	60.恶心	你恶心死我了。	你真让人恶心！	你真恶心！
	61.反感	我很反感这种行为。	这种行为真让人反感！	
	62.愤怒		这太让人愤怒了！	我好愤怒！
	63.尴尬		这太让人尴尬了！	好尴尬！
	64.甘心	他不甘心无所作为。	这个结果真让人不甘心！	好不甘心！
	65.感慨		这个故事真让人感慨！	好感慨啊！
	66.孤独		别让老人孤独。	我很孤独。
	67.关怀	我们应该关怀老人。	他对老人十分关怀。	
	68.光荣			我真光荣！
	69.欢乐		这个活动让人欢乐。	你好欢乐！
	70.悔恨	他悔恨自己太冲动。	他对此悔恨不已。	我好悔恨！
	71.急躁		雨天真让人急躁！	有点急躁。
	72.嫉妒	她在嫉妒你。	他真让人嫉妒。	
	73.焦急		这让我非常焦急。	我好焦急！
	74.惊奇		她对此十分惊奇。	她很惊奇。
	75.惊讶		他对此非常惊讶。	他很惊讶。
	76.沮丧		他对此有点沮丧。	有点沮丧。
	77.绝望		他对自己非常绝望。	我好绝望。
	78.可恶			他真可恶。
	79.空虚		游戏会让人空虚。	有点空虚。
	80.恐惧		死亡让人恐惧。	他很恐惧。
	81.留恋	我十分留恋校园生活。	那个年代真让人留恋。	
	82.茫然		我对此很茫然。	我很茫然。
	83.藐视	不要藐视自己。	你竟然对我如此藐视。	
	84.蔑视	我们不能蔑视对手。	对手对我们那么蔑视。	

筆者 內省	85.难堪		这话让我有点难堪。	有点难堪。
	86.恼火		这件事让他很恼火。	他很恼火。
	87.思念	他十分思念故乡。	你们一点也不让人思念。	
	88.惋惜	我很惋惜他英年早逝。	他的去世真让人惋惜！	好惋惜啊！
	89.嫌	她嫌厕所脏。		
	90.心疼	我真心疼你。	你真让人心疼！	
	91.欣慰		这一点真让人欣慰！	我很欣慰。
	92.着迷		这本书真让人着迷！	
	93.震撼	这一举动震撼了全世界。	我被这部作品震撼到了。	好震撼！
	94.震惊	这真的震惊到我了！	我被这个消息震惊到了。	我很震惊。
	95.着想		我们应该为他人着想。	
	96.自满		他对自己的成绩很自满。	有点自满。
	97.烦	好烦你啊！	我快被你烦死了！	我好烦！
	98.烦躁		噪音真让人烦躁！	好烦躁啊！
	99.惊	这张图片惊到我了！	这张图片把我惊到了！	
	100.满意	他很满意现在的生活。	他对现在的生活很满意。	
	101.气	你气死我了！	你把我气死了！	气死了！
	102.愁	你真是愁死我了！	你真是把我愁死了！	愁死了！
	103.急	你可急死我了！	你可把人急死了！	急死了！
	104.乐	你乐死我了！	我快被你乐死了！	
	105.怕	好怕明天的考试！	看把你怕的。	
	106.嫌弃	我好嫌弃你啊！	我被他嫌弃了。	
	107.心痛		这件事真让人心痛！	我好心痛！
	108.郁闷		这真让人郁闷！	真郁闷！